

令和 7 年度社会的養護自立支援実態把握事業

神奈川県 施設や里親家庭で暮らしたことがある方の
生活やサポートに関する調査

〔報告書〕

令和 8 年 3 月 31 日

神奈川県 福祉子どもみらい局 子どもみらい部 子ども家庭課

報告書発行に寄せて

人生の「はじまり」の部分に関わる社会的養護は、子ども・若者が社会的養護を離れた後にどのように生活しているのか、また保護やケアの経験をどのように評価しているのかを知ることができる、貴重な営みです。

2016年の児童福祉法改正、2017年の「新しい社会的養育ビジョン」によって、社会的養護を離れた若者の実態把握の必要性が示され、2020年度には国による初めての実態把握調査が行われました(三菱UFJリサーチ&コンサルティング, 2021)。続く2022年の児童福祉法改正では、施設入所等の措置を解除された若者の実情を把握し、その自立のために必要な援助を行うことが都道府県の業務とされ、2024年4月に施行されています。

本報告は、この「社会的養護自立支援実態把握事業」として、神奈川県で初めて実施された調査の結果を示すものです。神奈川県の調査では、いくつかの先駆的な方法が導入されました。特に注目されるのは、調査協力者の設定方法です。本調査では、社会的養護を経験し、2025年度末に17歳・19歳・21歳・23歳・25歳・27歳を迎える方と、その元の支援者の方に回答を依頼しました。今後も同様に、これらの年齢を迎える方に調査を依頼する計画であり、協力者には27歳になるまで2年ごとに調査票が届くことになります。この方法により、社会的養護の評価や生活状況を継続的に把握することが可能となり、ライフステージごとに求められる支援の検討につながると考えています。

さらに、調査協力者に社会的養護を利用中の「17歳」の方を加えたことも、新たな取り組みであったと考えています。ケアの中にある段階から継続的に協力いただくことで、調査にとどまらず、社会的養護を離れた後のサポートにもつながり続ける可能性があります。

結果については以降で述べますが、調査方法として残された課題として、里親家庭での生活を経験した方へのアプローチ方法が挙げられます。前述の国による調査でも同様の傾向が見られますが、里親家庭で生活された方への調査票の配布が困難であり、生活状況を把握できる割合が低くなっています。また、さまざまな事情により回答が困難な若者への支援をどのように行うかについても、今後の検討が求められています。

最後になりましたが、今回の調査に回答して下さった若者の皆さんに、深い感謝と敬意を表します。皆さんのこれまでの経験や現在の考え、県へのメッセージは、いずれもとても大切なもので、神奈川県の社会的養護をより良いものにしていくために不可欠なものです。日々の生活の中で回答に取り組んで下さったことに、改めて御礼申し上げます。今回の調査に協力いただいた方のうち、17歳・19歳・21歳・23歳・25歳の方には、2027年度に再度アンケートをお願いする予定です。2年後の生活の様子やお考えをお知らせいただけることを楽しみにしています。(連絡先が変更となる場合には、施設職員や里親、あすなろサポートステーションへご連絡いただけますと幸いです。)

また、ご多忙の中、さまざまな調査が寄せられる中で、若者への調査票配布および回答にご協力いただいた社会的養護の実践現場の皆様にも、深く感謝申し上げます。本調査で寄せられた「声」を糧に、子ども・若者とともに歩み、その人生を支える社会的養護を目指していけたらと考えています。

本調査は、社会的養護での生活を経験された 2 名の方を含む神奈川県社会的養護自立支援協議会において検討・実施されました。今回の調査に寄せられた多様な「声」や今後への提案が、神奈川県の制度や実践に活かされていくことを期待します。

神奈川県社会的養護自立支援協議会を代表して

武蔵野大学人間科学部社会福祉学科

准教授 永野 咲

I. 目次

I. 目次.....	1
調査結果の見方	6
II. 調査概要(全体)	8
調査目的.....	8
調査期間.....	8
調査項目.....	8
調査方法.....	8
(1)本人調査	8
(2)施設等調査.....	8
(3)インタビュー調査	8
調査の範囲.....	9
(1) 地域的範囲.....	9
(2) 属性的範囲と対象者数.....	9
調査の倫理的配慮	9
III. 本人調査.....	10
調査概要.....	10
実施期間	10
対象者.....	10
(1) 地域的範囲 県所管域	10
(2) 属性的範囲	10
回答者.....	10
調査手法	11
回収状況	11
1. 回答者の基本属性	12
現在の住まいの状況.....	12
問 1(問 1) 性別.....	13
問 2(問 2) 年齢.....	15
問 3(問 3) 現在住んでいる場所.....	17
問 4-1(問 4) これまでに生活したことのある施設・里親家庭等.....	19
問 4-2 これまでに生活したことのある施設・里親家庭等の所管自治体.....	20

問 5(問 5) 生活していた施設・里親家庭等.....	21
2. 回答者の退所時の状況	22
問 6(問 6) 施設・里親家庭等で過ごした期間	22
問 7-1,2 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所した年・月.....	25
問 8 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所したタイミング	27
問 9-1(問 7-1) 施設・里親家庭等を退所した直後の進路.....	29
問 9-2(問 7-2) 施設・里親家庭等を退所した直後の働き方	30
問 9-3(問 7-3)施設・里親家庭等を退所した直後の進学・通学先.....	31
問 10(問 8) 施設・里親家庭等を退所した直後の住まい.....	32
3. 回答者の就学・就労状況.....	34
問 11-1(問 9-1) 現在の通学状況.....	34
問 11-2(問 9-2) 現在通っている学校の種類.....	36
問 11-3(問 9-3) 最後に通った学校	37
問 11-4(問 9-4) 最後に通った学校の卒業状況.....	38
最終学歴【学歴・卒業有無】	40
問 12-1(問 10-1) 現在の就労状況	42
問 12-2(問 10-2) 勤務先の数.....	43
問 12-3(問 10-3) 現在の働き方.....	44
問 12-4(問 10-4) 仕事を探すための活動の状況.....	46
問 13(問 11)転職経験.....	47
4. 回答者の生活の状況	49
問 14(問 12) 月々の収入と支出のバランス	49
問 15(問 13) 現在の家計の状況	51
問 16-1(問 14)現在の住まい	53
問 16-2 現在、一緒に暮らしている人	56
問 16-3 一緒に暮らしている子どもの年齢.....	58
5. 回答者の健康、健康保険や年金の状況.....	59
問 17(問 15) 最近 1 か月間の心や体の健康状態.....	59
問 18(問 16) 病院やクリニックにかかる場合の支払い方法.....	61
問 19(問 17) 自身の年金加入状況	62
問 20(問 18) 免許証等所持状況.....	64
6. 施設・里親家庭等を退所する前後から現在のサポートの状況.....	66
問 21-1(問 19-1) 施設・里親家庭等を退所する前後での不安.....	66

問 21-2(問 19-2) 施設・里親家庭を退所する前後での不安(記述式).....	69
問 22(問 20) 退所に向けた施設・里親家庭等からのサポート.....	74
問 23(問 21) 施設・里親家庭等との連絡頻度.....	77
問 24(問 22) 施設・里親家庭等との連絡機会.....	79
問 25-1 施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方.....	81
問 25-2 施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方・やりとりの方法.....	83
問 26(問 23) 施設・里親家庭等やあすなろ、行政からの退所後のサポート.....	85
7. 施設・里親家庭等での生活から現在までの対応・サポートに対する評価.....	86
問 27-1~8(問 24-1~7) 施設・里親家庭等での生活から現在までを振り返っての評価	86
問 27-9(問 24-9) 評価の理由・特に伝えたいこと.....	90
問 28(問 25) 施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まり等とのつながり.....	93
8. 回答者の現在の暮らしの満足度、困りごと・相談相手.....	95
問 29(問 26) 現在の住まいの状況別 現在の暮らしの満足度.....	95
問 30-1(問 27-1) 現在の暮らしのなかで、困っていることや心配なこと.....	96
問 30-2(問 27-2) 困っていることや不安の内容.....	98
問 31(問 28) 困ったことがあったときに相談できる相手.....	101
問 32(問 29) 気持ちが安らぐ場所や趣味、活動.....	103
問 33(問 30) 最後に伝えたいこと・メッセージ.....	105
IV. 施設調査.....	107
調査概要.....	107
実施期間.....	107
対象者.....	107
(1) 地域的範囲 県所管域.....	107
(2) 属性的範囲.....	107
回答者.....	107
調査手法.....	108
回収状況.....	108
1. 対象者の措置状況.....	109
現在の状況(措置中・措置延長中・児童自立援助事業利用中・措置解除後).....	109
2. 対象者への調査案内の状況.....	111
問 1-1 調査依頼文の発送状況.....	111
問 1-2 調査依頼文を発送していない・発送できない理由.....	114

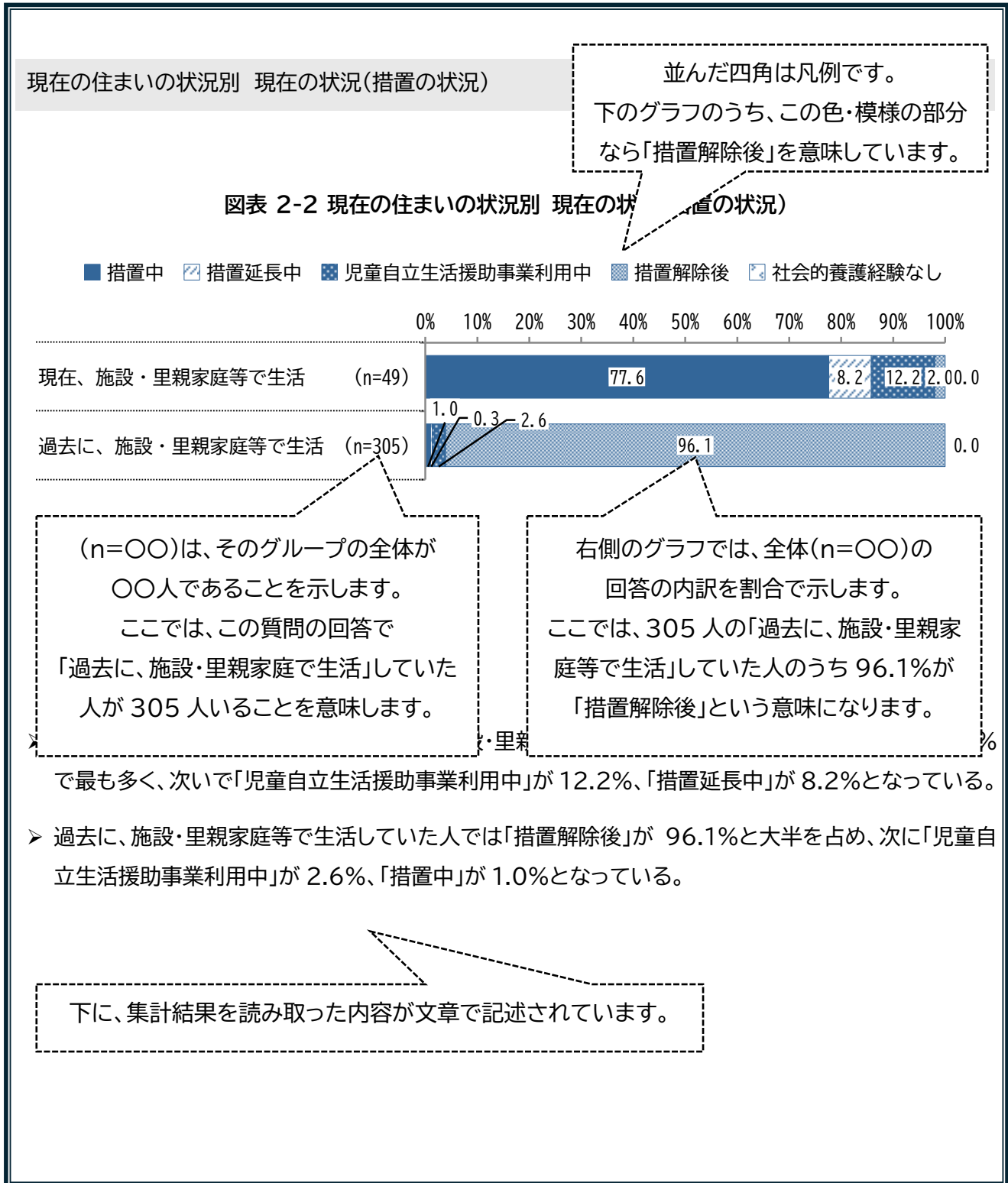
3. 対象者の基本属性.....	117
問 2 対象者の性別.....	117
問 3 令和 8 年 3 月 31 日時点の年齢.....	118
問 4 現在住んでいる場所.....	119
問 5 貴施設(里親等含む)の属性.....	121
問 6 貴施設の入所年数・里親等委託期間(措置中の場合:令和 7 年 11 月 1 日現在).....	123
問 7 措置の理由.....	125
問 8 被虐待経験.....	127
4. 措置解除時の状況.....	129
問 9 措置解除年 問 10 措置解除月.....	129
問 11 措置解除時期.....	131
問 12 措置解除時の施設・里親家庭との関係性.....	133
問 13 措置解除直後の進路.....	134
問 14 措置解除直後の進路(就労・進学).....	135
問 15 措置解除直後の住まい.....	137
問 16 施設等が措置解除時に心配していた困難.....	139
5. 措置解除者との交流状況.....	140
問 17 施設等との直接の交流・間接的な状況確認.....	140
6. 対象者の就学・就労状況.....	147
問 18 最終学歴(学校の種類・卒業等の有無).....	147
問 19 就労状況(就労の有無・雇用形態・求職活動).....	151
7. 対象者の生活の状況.....	155
問 20 現在の住まい(現在の住まい・同居者・子どもの年齢).....	155
8. 対象者の健康、健康保険や年金の状況.....	160
問 21 健康状態.....	160
問 22 保険証の所持状況.....	162
問 23 年金加入状況.....	164
問 24 免許証等所持状況.....	166
9. 現在心配される困難とアフターケア・サービスの状況.....	167
問 25 現在心配される困難.....	167
問 26 アフターケア・サービスの状況.....	170
V. インタビュー調査.....	180
調査概要.....	180

実施期間	180
調査項目	180
対象者.....	180
回答者の属性	180
調査手法	181
1. 分析結果【現在の生活について】.....	182
①住まい.....	182
②家計の収支	182
③仕事・学校.....	183
④健康.....	184
⑤施設とのつながり	185
⑥困っていること	185
⑦受けているサポート.....	186
⑧サポートしてほしいこと.....	186
2. 分析結果【社会的養護の経験の振り返り】.....	188
①今の自分の役に立っていること・ポジティブな経験.....	188
②今の自分から見てもっと経験しておきたかったこと・ネガティブな経験	188
3. 分析結果【関係機関へのメッセージ】.....	190
4. 全体考察.....	191
付録 本人調査・施設調査の比較.....	192
1. 退所時の不安・心配ごとの比較	192
退所時の不安・心配ごと〈施設調査:問 16-1〉×〈本人調査:問 21-1(問 19-1)〉.....	192
2. 現在の心配ごとの比較	196
現在の心配ごと〈施設調査:問 25-1〉×〈本人調査:問 30-1(問 27-1)〉.....	196

調査結果の見方

本報告書における調査結果の示し方と読み取り方は、以下の通り。

例)



I. 調査概要(全体)

II. 調査概要(全体)

調査目的

- 本調査は、里親委託、児童養護施設入所措置等を解除された者及び措置等を受けている者の生活状況を確認するとともに、施設等のケアや自立支援に対するニーズを把握し、今後の施策及び研究発表に活用するための基礎資料を得ることを目的とする。

調査期間

- 2025年11月17日～2026年2月3日

調査項目

- (1) 基本属性
- (2) 社会的養護の状況
- (3) 措置解除時の状況
- (4) 現在の生活状況
- (5) 措置解除前後のケア
- (6) 現在の生活への満足度等

調査方法

(1) 本人調査

- 郵送または電子メール送付によるオンライン自記式

(2) 施設等調査

- 電子メール送付による他記式

(3) インタビュー調査

- 本人調査においてインタビュー調査に協力可能と回答した者に対してオンラインにて面接を実施

調査の範囲

(1) 地域的範囲

- 県所管域(政令市・中核市以外の県全域)

(2) 属性的範囲と対象者数

	属性	対象者数
ア	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置中、または児童自立生活援助事業所を利用中の調査年度末に17歳になる者	48人
イ	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置中、または児童自立生活援助事業所を利用中の者のうち、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	18人
ウ	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置、または児童自立生活援助事業所を利用し、15歳になる年度以降に措置解除または利用を終了した者で、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	316人
エ	現在、神奈川県所管の社会的養護自立支援拠点事業所において支援を受けており、上記ア、イ、ウに該当しない者のうち、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	41人
合計		423人

調査の倫理的配慮

- 調査の実施に当たっては、社会的養護自立支援協議会の構成員が所属する武蔵野大学の倫理審査によって承認を得た(倫理審査番号 2025-29-01 および 2025-29-02)。

II. 本人調査

III. 本人調査

調査概要

実施期間

➤ 2025年11月17日～2025年12月25日

対象者

(1) 地域的範囲 県所管域

➤ (政令市・中核市以外の県全域)

(2) 属性的範囲

	属性	対象者数
ア	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置中、または児童自立生活援助事業所を利用中の調査年度末に17歳になる者	48人
イ	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置中、または児童自立生活援助事業所を利用中の者のうち、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	18人
ウ	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置、または児童自立生活援助事業所を利用し、15歳になる年度以降に措置解除または利用を終了した者で、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	316人
エ	現在、神奈川県所管の社会的養護自立支援拠点事業所において支援を受けており、上記ア、イ、ウに該当しない者のうち、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	41人
合計		423人

回答者

➤ 対象者本人が回答。

調査手法

- 対象者本人による自記式調査。
- 各施設・里親家庭を管轄する児童相談所に調査依頼状(郵送、手渡し用)及び依頼用文面を送付し、施設・里親家庭から対象者に本人調査への回答を依頼した。
- 対象者からの回答は、神奈川県電子申請システムで受け付けた。対象者別に「現在、施設や里親家庭等で暮らしている方へのアンケート」「過去に、施設や里親家庭等で暮らしたことがある方へのアンケート」の2画面で回収を行った。

回収状況

- 対象者数、本人調査を案内できた対象者数及び回答数は、以下のようになっている。
- 全体でみると、対象者数に対する施設等が本人調査を案内できた対象者割合は、66.0%となっている。
- 回答率は、28.4%となっている。

本人調査を案内した施設	対象者数 (A)	施設等が 本人調査を案内 できた対象者数 (B)	対象者数に対する 案内できた対象者 の割合 (B/A)
施設	332	242	72.9%
里親家庭	50	15	30.0%
社会的養護自立支援拠点事業 (あすなろサポートステーション)	41	22	53.7%
全体	423	279	66.6%

	対象者数 (A)	回答者数 (C)	対象者数に対する 回答割合 (C/A)
全体	423	120	28.4%

II. 本人調査

1. 回答者の基本属性

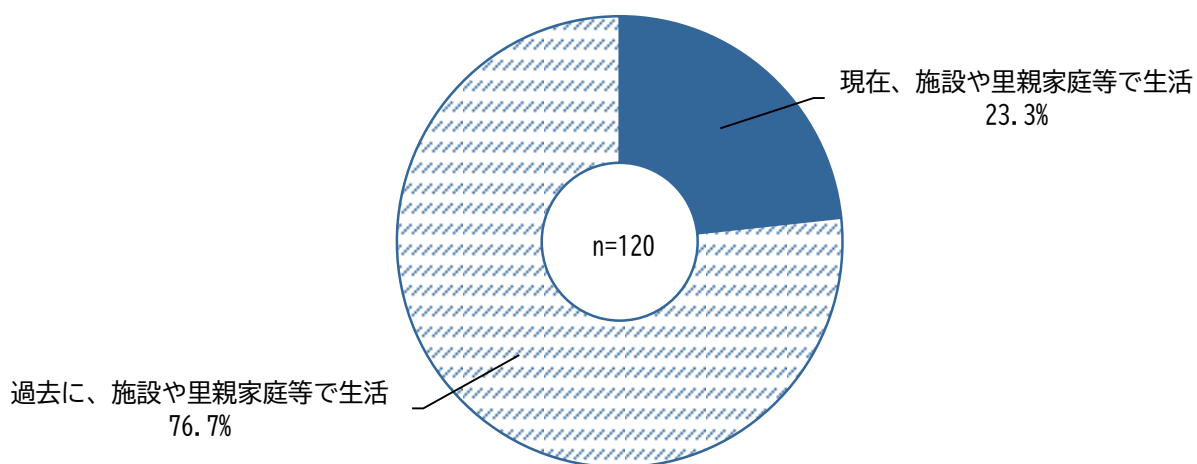
現在の住まいの状況.....

現在の住まいの状況

「過去に、施設や里親家庭等で生活していた人」が 76.7%

「現在、施設や里親家庭等で生活している人」が 23.3%

図表 1-1 現在の住まいの状況



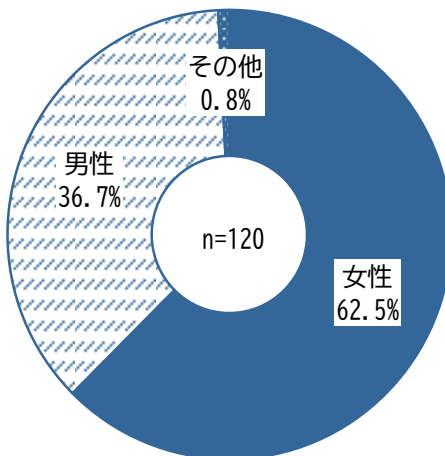
- 回答者全体では、「過去に、施設や里親家庭等で生活していた人」が 76.7%で、「現在、施設や里親家庭等で生活している人」が 23.3%となっている。

問 1(問 1) 性別.....

性別

回答者のうち「女性」が約 6 割を占める結果に

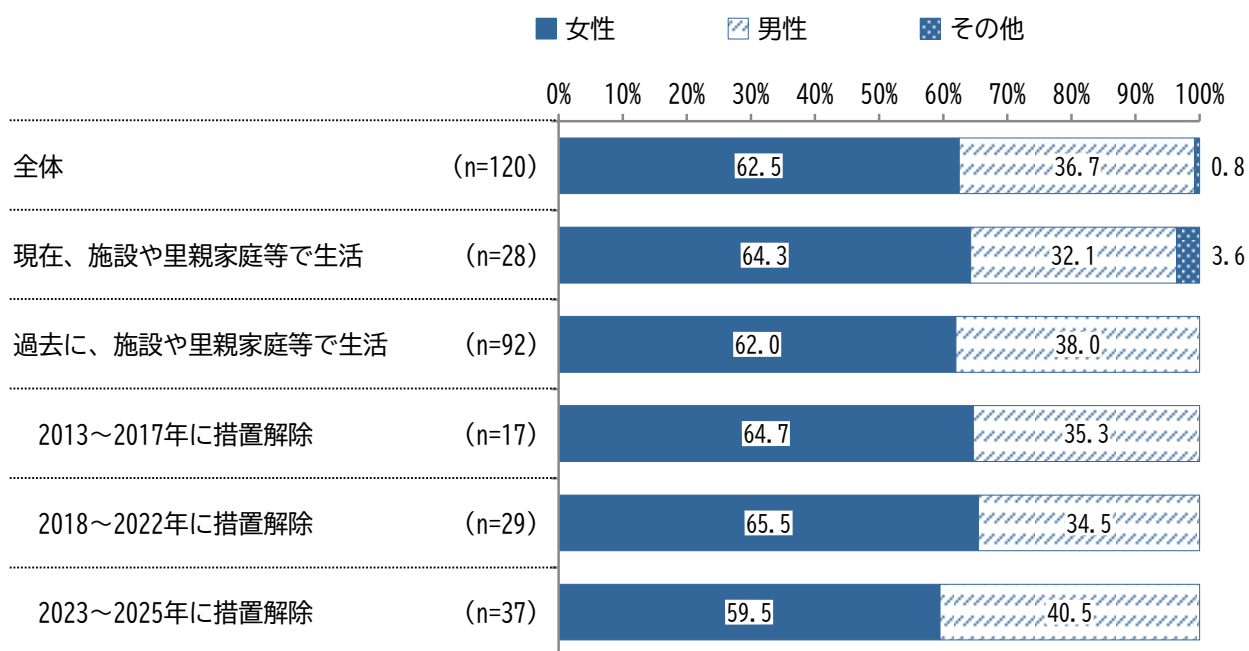
図表 1-2 性別



➤ 全体では、「女性」が 62.5%、「男性」が 36.7%となっている。

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 性別

図表 1-3 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)性別



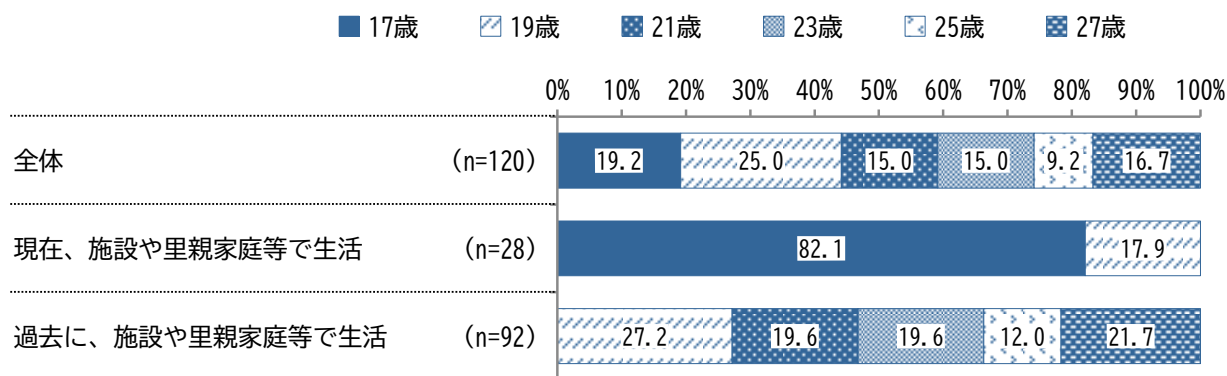
- 回答者のうち、現在、施設や里親家庭等で生活している人では「女性」が 64.3%、「男性」が 32.1%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「女性」が 62.0%、「男性」が 38.0%となっている。
- 措置解除者を措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「女性」が 64.7%、「男性」が 35.3%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「女性」が 65.5%、「男性」が 34.5%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「女性」が 59.5%、「男性」が 40.5%となっている。

問 2(問 2) 年齢

現在の住まいの状況別 年齢(令和 8 年(2026 年)3 月 31 日時点)

「19 歳」が 25.0%で最多、次いで「17 歳」が 19.2%と続く

図表 1-4 年齢(令和 8 年(2026 年)3 月 31 日時点)

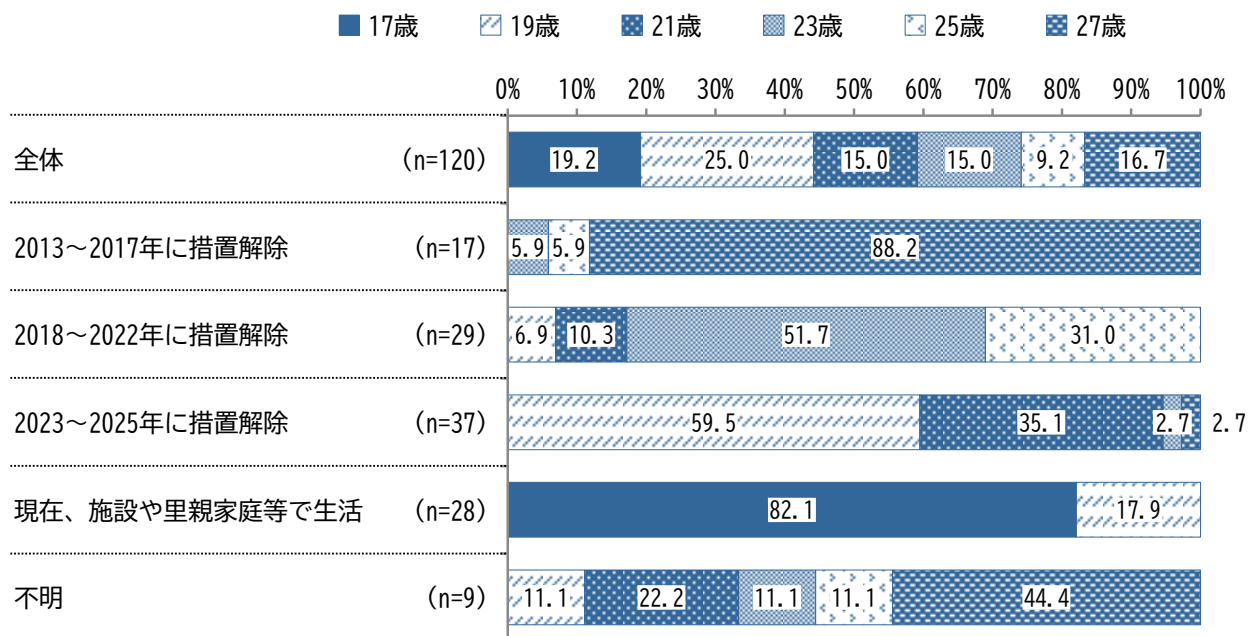


- 回答者全体では、「19 歳」が 25.0%で最も多く、次いで「17 歳」が 19.2%、「27 歳」が 16.7%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「17 歳」が 82.1%、「19 歳」が 17.9%となっており、21 歳以上の回答者はいなかった。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「19 歳」が 27.2%で最も多く、次いで「27 歳」が 21.7%、「21 歳」「23 歳」が 19.6%となっている。

II. 本人調査

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 年齢(令和8年(2026年)3月31日時点)

図表 1-5 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 年齢(令和8年(2026年)3月31日時点)



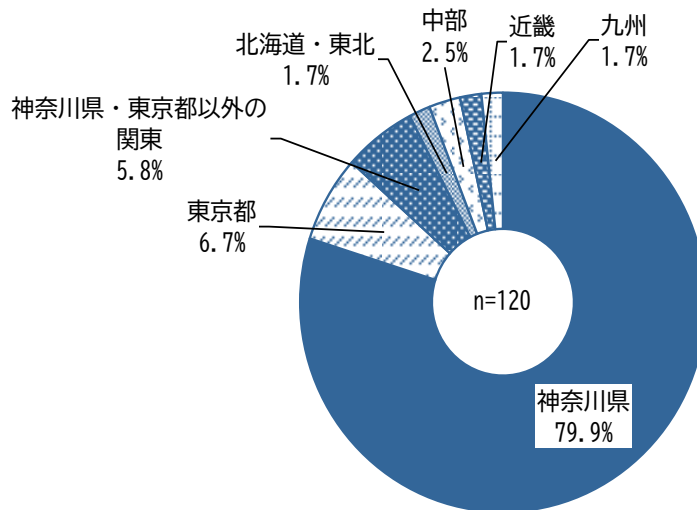
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では、「27歳」が88.2%で最も多く、次いで「23歳」が5.9%、「25歳」が5.9%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では、「23歳」が51.7%で最も多く、次いで「19歳」が31.0%、「21歳」が10.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では、「19歳」が59.5%で最も多く、次いで「21歳」が35.1%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「17歳」が82.1%、「19歳」が17.9%となっており、21歳以上の回答者はいなかった。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のうち、措置解除年が不明の人では「27歳」が44.4%で最も多く、次いで「21歳」が22.2%となっている。

問 3(問 3) 現在住んでいる場所.....

現在住んでいる地域

「神奈川県」が 80.0%で最多、次いで「東京都」が 6.7%と続く

図表 1-6 現在住んでいる地域

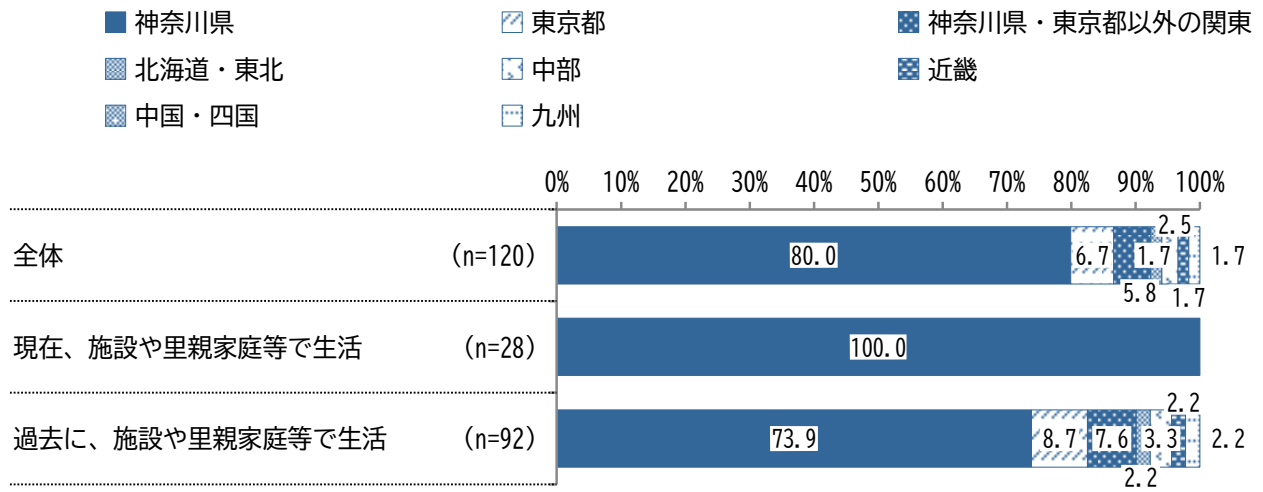


- 回答者の在住都道府県を地域別に見ると、全体では「神奈川県」が 79.9%で最も多く、次いで「東京都」が 6.7%、「神奈川県・東京都以外の関東」が 5.8%となっている。
- 四国・中国地方在住の回答者はいなかった。

II. 本人調査

現在の住まいの状況別 現在住んでいる地域

図表 1-7 現在の住まいの状況別 現在住んでいる地域



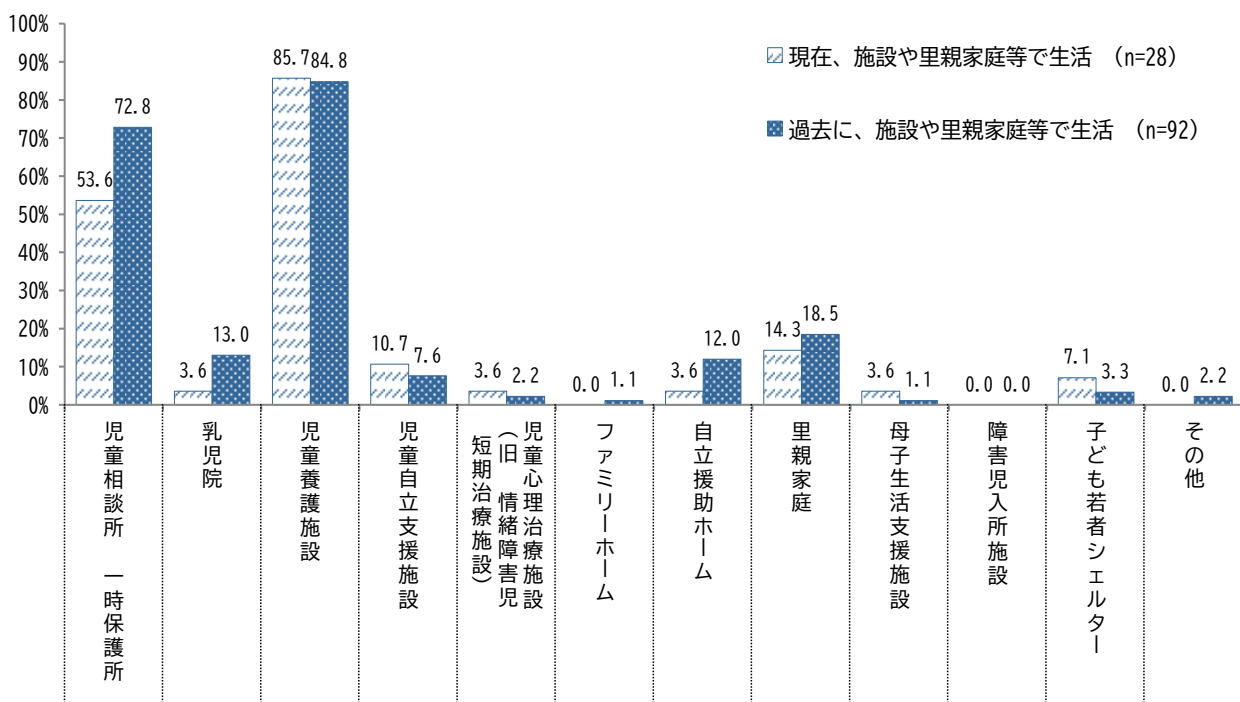
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では、「神奈川県」が 100.0%と、全員が県内の施設や里親家庭で暮らしている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「神奈川県」が 73.9%で最も多く、次いで「東京都」が 8.7%、「神奈川県・東京都以外の関東」が 7.6%となっている。

問 4-1(問 4) これまでに生活したことのある施設・里親家庭等

これまでに生活したことのある施設・里親家庭等
 【過去に施設や里親家庭等で生活していた人のみ】 複数選択可

「児童養護施設」で暮らしたことがある人は、回答者の 8 割強に

図表 1-8 これまでに生活したことのある施設・里親家庭等
 【過去に施設や里親家庭等で生活していた人のみ】 複数選択可



- 回答者のうち、現在、施設や里親家庭等で生活している人では「児童養護施設」が 85.7%で最も多く、次いで「児童相談所 一時保護所」が 53.6%、「里親家庭」が 14.3%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「児童養護施設」が 84.8%で最も多く、次いで「児童相談所 一時保護所」が 72.8%、「里親家庭」が 18.5%となっている。

II. 本人調査

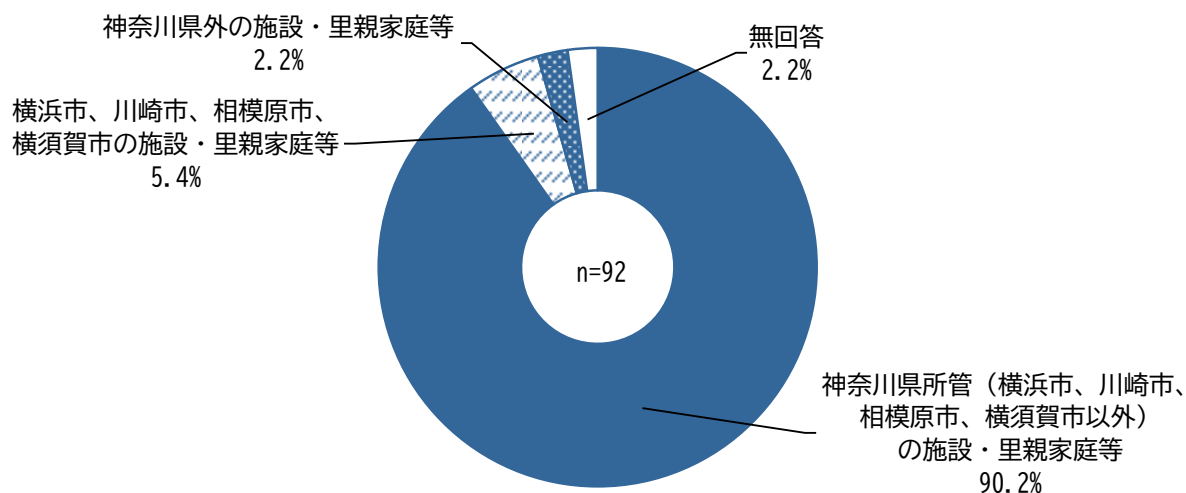
問 4-2 これまでに生活したことのある施設・里親家庭等の所管自治体 ……………

これまでに生活したことのある施設・里親家庭等の所管自治体

【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】

「横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市の施設・里親家庭等」で生活したことがある人は 5.4%

図表 1-9 これまでに生活したことのある施設・里親家庭等の所管自治体
【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】

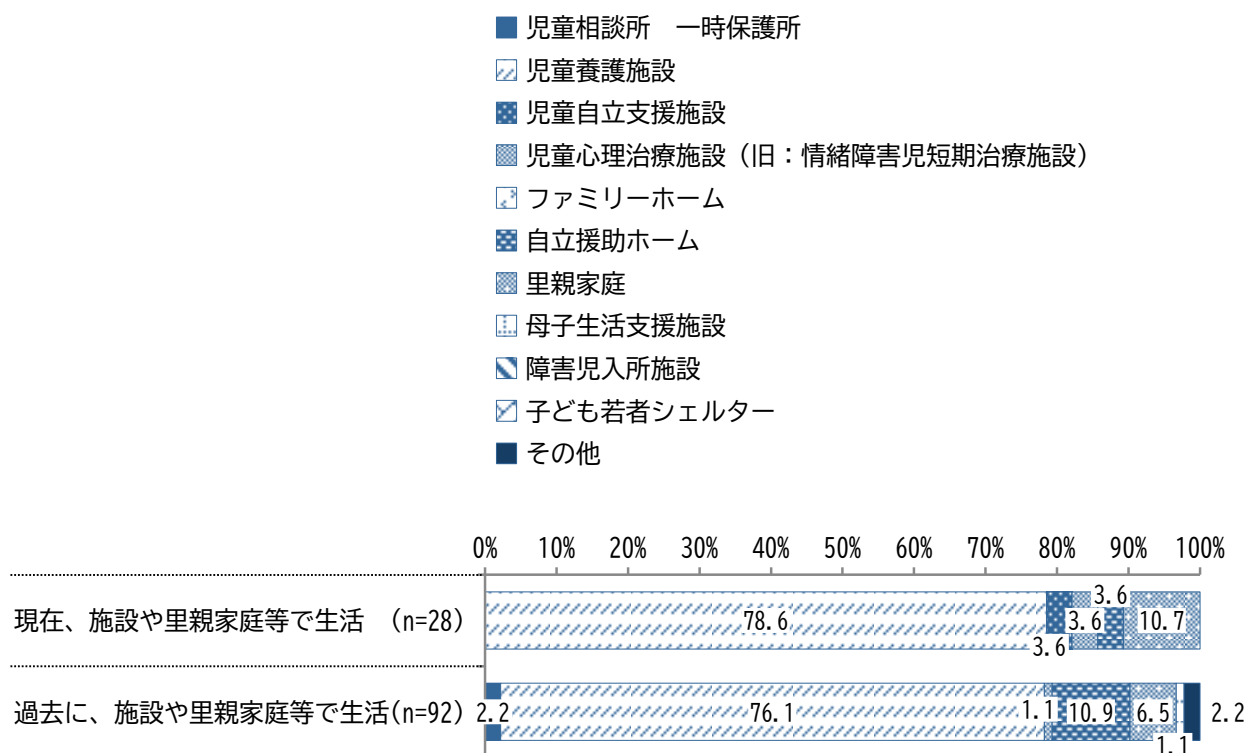


- 回答者全体では、「神奈川県所管（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市以外）の施設・里親家庭等」が 90.2%で最も多く、次いで「横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市の施設・里親家庭等」が 5.4%、「神奈川県外の施設・里親家庭等」が 2.2%となっている。
- この質問は、これまでに生活したことのある施設・里親家庭等について、1 件でも神奈川県所管（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市以外）の施設・里親家庭等があれば「神奈川県所管（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市以外）の施設・里親家庭等」を選択するよう回答者に指示する択一回答の質問であることに留意が必要である。

問 5(問 5) 生活していた施設・里親家庭等……………

最後に生活していた施設・里親家庭等
 (現在、施設・里親家庭等で生活している人:現在生活している施設)

図表 1-10 最後に生活していた施設・里親家庭等
 (現在、施設・里親家庭等で生活している人:現在生活している施設)



- 回答者のうち、現在、施設や里親家庭等で生活している人では「児童養護施設」が 78.6%で最も多く、次いで「里親家庭」が 10.7%、「児童自立支援施設」「児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設)」「自立援助ホーム」が 3.6%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「児童養護施設」が 76.1%で最も多く、次いで「自立援助ホーム」が 10.9%、「里親家庭」が 6.5%となっている。

II. 本人調査

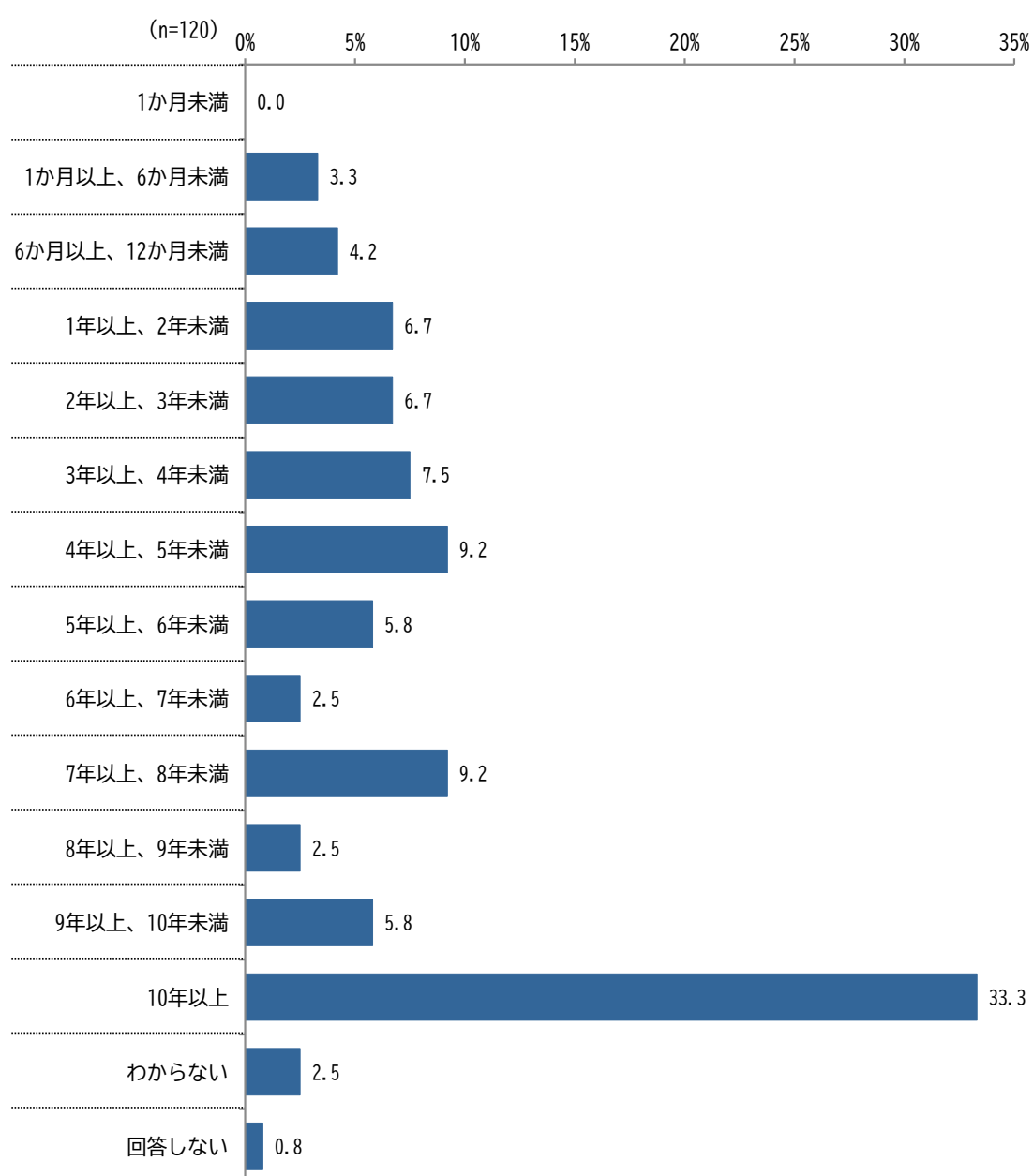
2. 回答者の退所時の状況

問 6(問 6) 施設・里親家庭等で過ごした期間

最後に生活していた施設・里親家庭等で過ごした期間
(現在施設や里親家庭等で生活している人:過ごしている期間)

「10年以上」と長期の入所・里親委託期間が 33.3%で最多

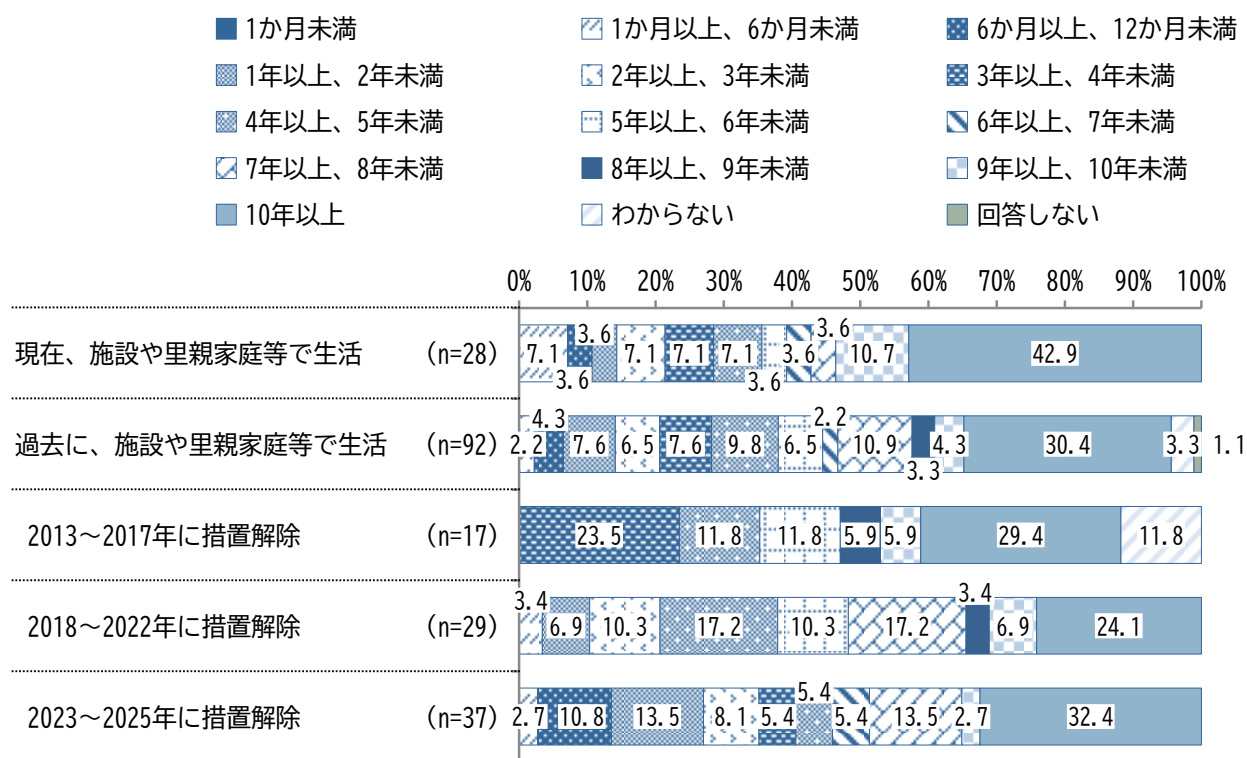
図表 1-11 最後に生活していた施設・里親家庭等で過ごした期間
(現在施設や里親家庭等で生活している人:過ごしている期間)



- 回答者全体では、「10年以上」が33.3%で最も多く、次いで「4年以上、5年未満」「7年以上、8年未満」が9.2%、「3年以上、4年未満」が7.5%となっている。

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別
 最後に生活していた施設・里親家庭等で過ごした期間
 (現在施設や里親家庭等で生活している人:過ごしている期間)

図表 1-12 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別
 最後に生活していた施設・里親家庭等で過ごした期間
 (現在施設や里親家庭等で生活している人:過ごしている期間)



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「10年以上」が42.9%で最も多く、次いで「9年以上、10年未満」が10.7%、「1か月以上、6か月未満」「2年以上、3年未満」「3年以上、4年未満」「4年以上、5年未満」が7.1%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「10年以上」が30.4%で最も多く、次いで「7年以上、8年未満」が10.9%、「4年以上、5年未満」が9.8%となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「10年以上」が29.4%で最も多く、次いで「3年以上、4年未満」が23.5%、「4年以上、5年未満」「5年以上、6年未満」が11.8%となっている。

II. 本人調査

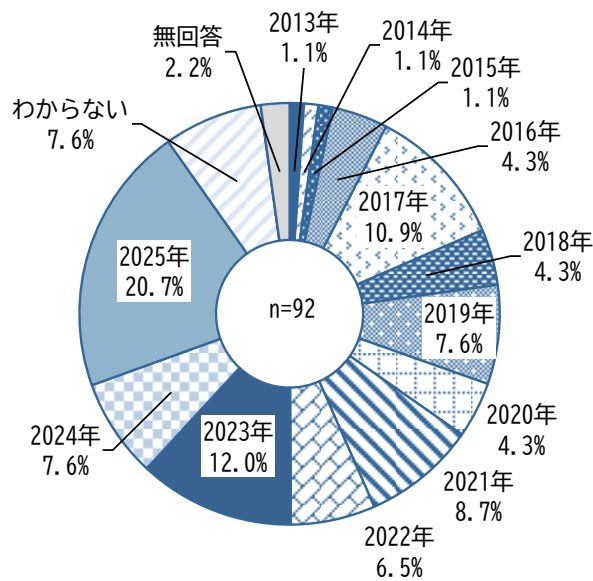
- 2018～2022年に措置解除された人では「10年以上」が24.1%で最も多く、次いで「4年以上、5年未満」「7年以上、8年未満」が17.2%、「2年以上、3年未満」「5年以上、6年未満」が10.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「10年以上」が32.4%で最も多く、次いで「1年以上、2年未満」「7年以上、8年未満」が13.5%、「6か月以上、12か月未満」が10.8%となっている。

問 7-1,2 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所した年・月 ……………

最後に生活していた施設・里親家庭等を退所した年
【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】

「西暦 2025 年」が 20.7%で最多、次いで「西暦 2023 年」が 12.0%と続く

図表 1-13 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所した年
【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】

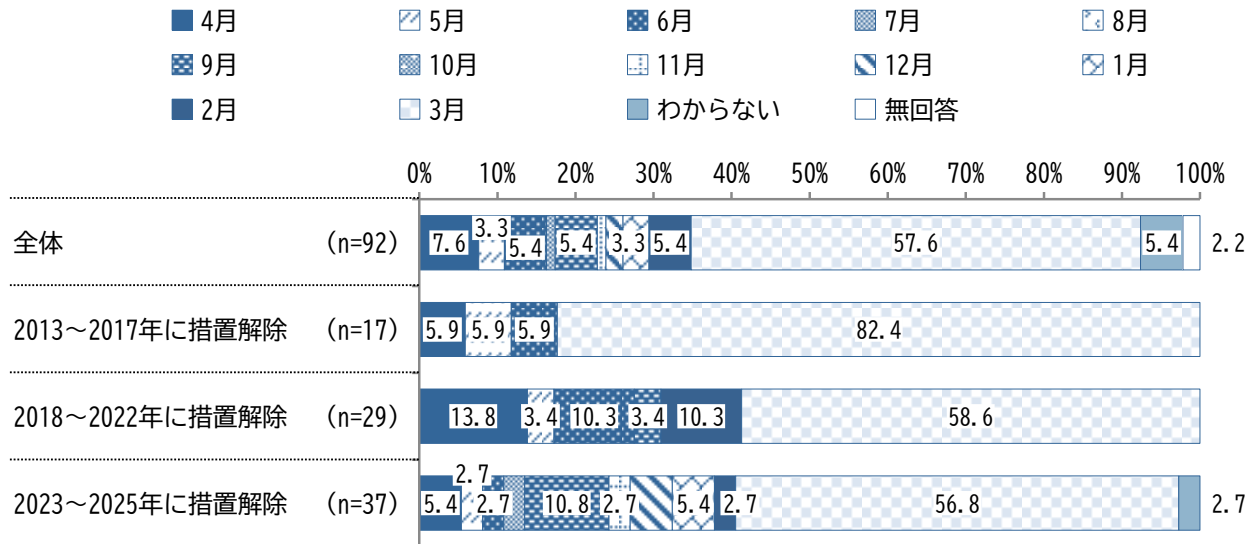


- 過去に施設や里親家庭等で生活していた人全体では、「2025 年」が 20.7%で最も多く、次いで「2023 年」が 12.0%、「2017 年」が 10.9%となっている。

II. 本人調査

最後に生活していた施設・里親家庭等を退所した月
 【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】

図表 1-14 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所した月
 【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】



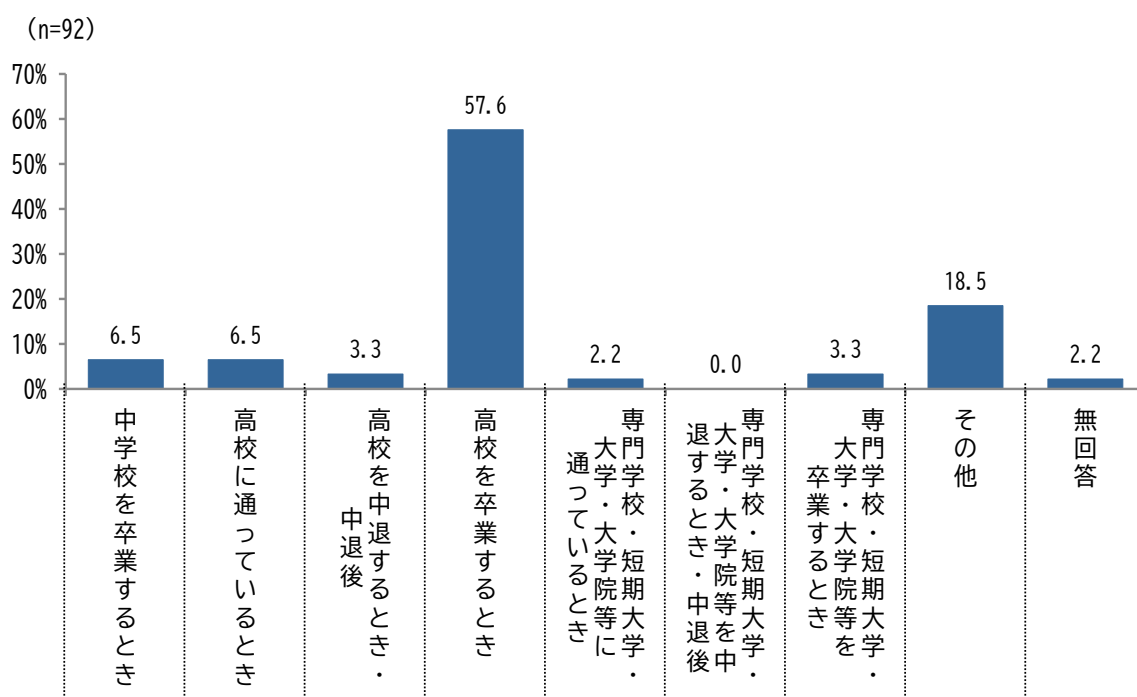
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人全体では、「3月」が57.6%で最も多く、次いで「4月」が7.6%、「6月」「9月」「2月」が5.4%となっている。
- 措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「3月」が82.4%と大多数を占め、「4月」「5月」「6月」が5.9%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「3月」が58.6%で最も多く、次いで「4月」が13.8%、「6月」「2月」が10.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「3月」が56.8%で最も多く、次いで「9月」が10.8%、「4月」「12月」「1月」が5.4%となっている。

問 8 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所したタイミング……………

最後に生活していた施設・里親家庭等を退所したタイミング
 【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】

「高校を卒業するとき」が 57.6%で最多
 次いで「中学校を卒業するとき」「高校に通っているとき」が 6.5%と続く

図表 1-15 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所したタイミング
 【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】



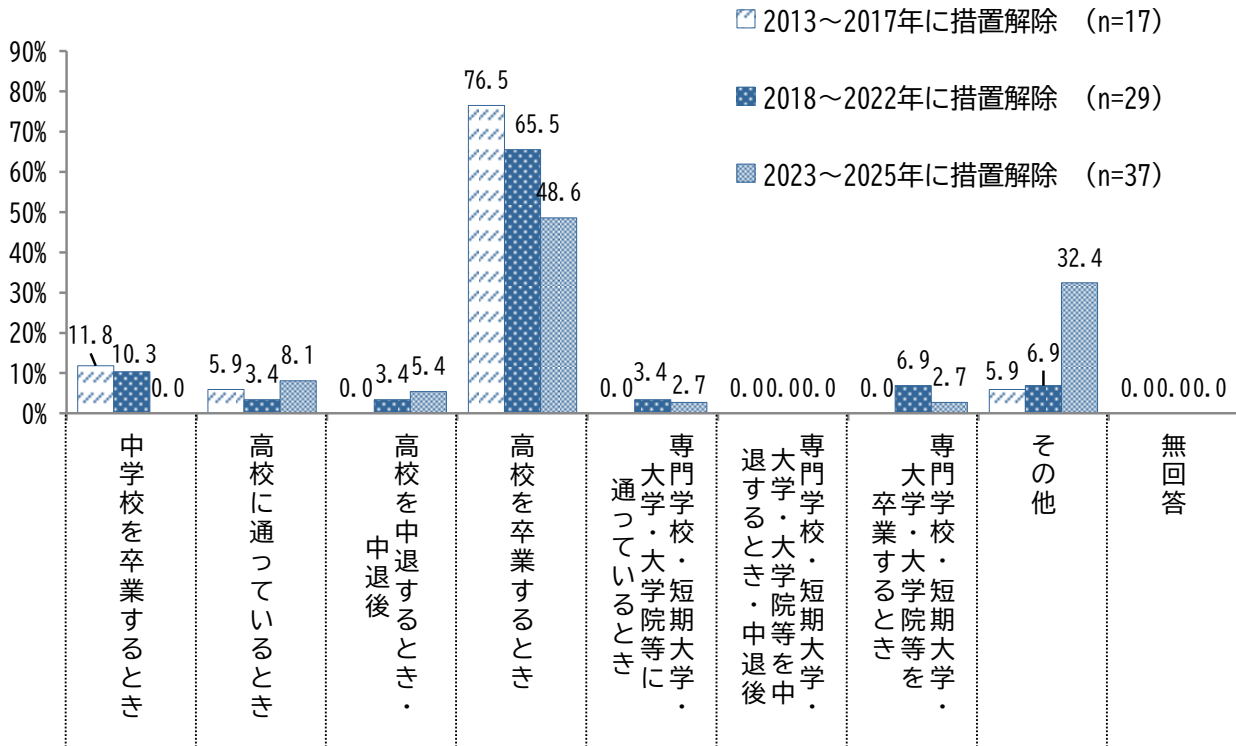
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人全体では、「高校を卒業するとき」が 57.6%で最も多く、次いで「中学校を卒業するとき」「高校に通っているとき」が 6.5%、「高校を中退するとき・中退後」「専門学校・短期大学・大学・大学院等を卒業するとき」が 3.3%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「グループホームに入所するとき」(2 件)、「就職するとき」(3 件)、「成人前後」(2 件)、「短期大学受験」「大学入学前」「就労継続支援 B 型に行ってから」「施設等の近くで一人暮らしをするとき」「自立できるようになったとき」「家庭に帰ったとき」(それぞれ 1 件)があった。

Ⅱ. 本人調査

措置解除年(3段階)別 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所したタイミング
【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】

図表 1-16 措置解除年(3段階)別 最後に生活していた施設・里親家庭等を退所したタイミング

【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】



- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「高校を卒業するとき」が76.5%、「中学校を卒業するとき」が11.8%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「高校を卒業するとき」が65.5%で最も多く、次いで「中学校を卒業するとき」が10.3%、「専門学校・短期大学・大学・大学院等を卒業するとき」が6.9%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「高校を卒業するとき」が48.6%で最も多く、次いで「高校に通っているとき」が8.1%、「高校を中退するとき・中退後」が5.4%となっている。

問 9-1(問 7-1) 施設・里親家庭等を退所した直後の進路 ……………

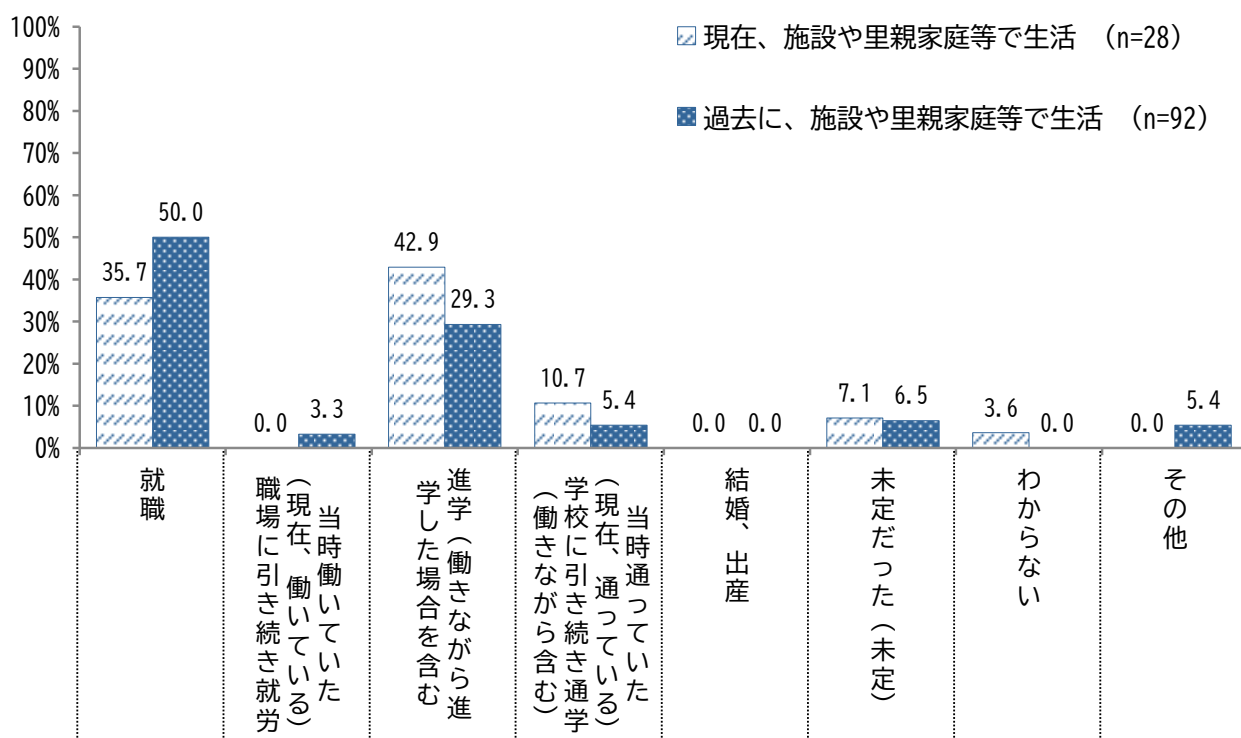
施設・里親家庭等を退所した直後の進路

(現在、施設や里親家庭で生活している人:退所した直後に希望・予定する進路)

「就職」が 46.7%で最多、次いで「進学(働きながら進学した場合を含む)」が 32.5%と続く

図表 1-17 施設・里親家庭等を退所した直後の進路

(現在、施設や里親家庭で生活している人:退所した直後に希望・予定する進路)



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人の退所した直後の希望・予定進路では「進学(働きながら進学した場合を含む)」が 42.9%で最も多く、次いで「就職」が 35.7%、「当時通っていた(現在、通っている)学校に引き続き通学(働きながら通学した場合を含む)」が 10.7%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「就職」が 50.0%で最も多く、次いで「進学(働きながら進学した場合を含む)」が 29.3%、「未定だった(未定)」が 6.5%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「自立訓練」「里親家庭に引き取られた」「一人暮らし」「転校」「自宅に戻って大学受験浪人」(それぞれ 1 件)があった。

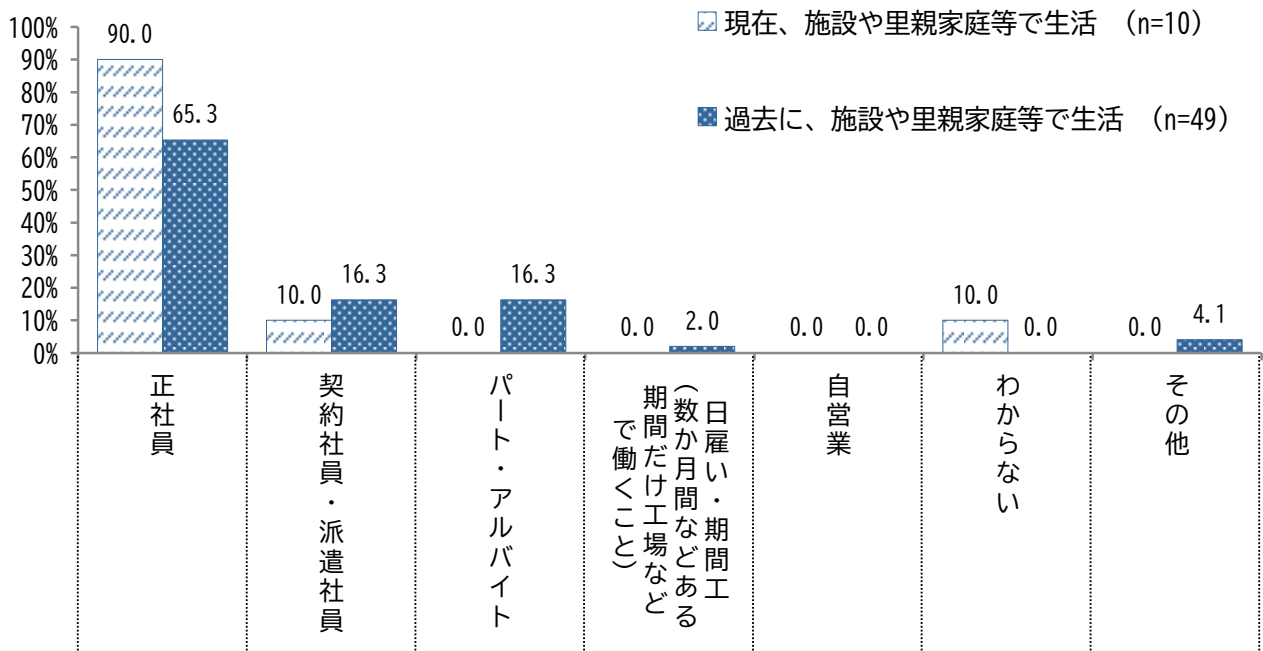
II. 本人調査

問 9-2(問 7-2) 施設・里親家庭等を退所した直後の働き方 ……………

施設・里親家庭等を退所した直後の働き方【退所後就職・引き続き就労の人のみ】
 (現在、施設や里親家庭で生活している人:希望・予定する働き方) 複数回答可

現在、施設や里親家庭で生活している人の希望・予定は「正社員」が 90.0%で最多
 過去に退所した人の退所直後の働き方は「契約社員・派遣社員」「パート・アルバイト」も少なくない

図表 1-18 施設・里親家庭等を退所した直後の働き方【退所後就職・引き続き就労の人のみ】
 (現在、施設や里親家庭で生活している人:希望・予定する働き方) 複数回答可



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人で、退所した直後に就職・引き続き就労を希望・予定している人が希望・予定する働き方は「正社員」が 90.0%、「契約社員・派遣社員」が 10.0%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人で、退所した直後に就職・引き続き就労した人の当時の働き方は「正社員」が 65.3%、「契約社員・派遣社員」「パート・アルバイト」が 16.3%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「福祉サービス事業所」が2件、「プロスポーツ選手」が1件あった。

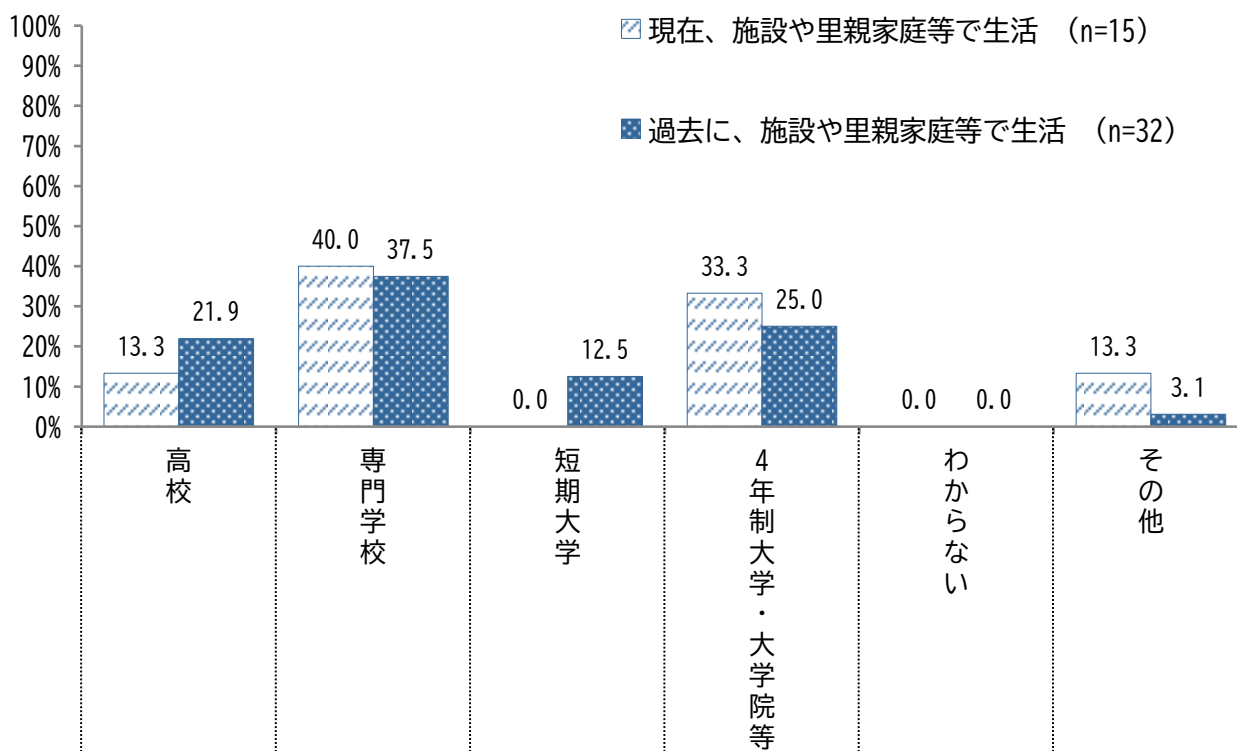
問 9-3(問 7-3)施設・里親家庭等を退所した直後の進学・通学先……………

施設・里親家庭等を退所した直後の進学・通学先【退所後進学・引き続き通学の人のみ】

(現在、施設や里親家庭で生活している人:希望・予定する進学先)

図表 1-19 施設・里親家庭等を退所した直後の進学・通学先【退所後進学・引き続き通学の方のみ】

(現在、施設や里親家庭で生活している人:希望・予定する進学先)



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人で、退所した直後に進学・引き続き進学を希望・予定している人が希望・予定する進学先は「専門学校」が 40.0%、「4 年制大学・大学院等」が 33.3%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人で、退所した直後に進学・引き続き進学した人の進学先は「専門学校」が 37.5%、「4 年制大学・大学院等」が 25.0%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、過去に、施設や里親家庭等で生活していた人で「専門学校と短大」、現在、施設や里親家庭等で生活している人で「専門または大学 まだ未定」「職業訓練校」(それぞれ 1 件)があった。

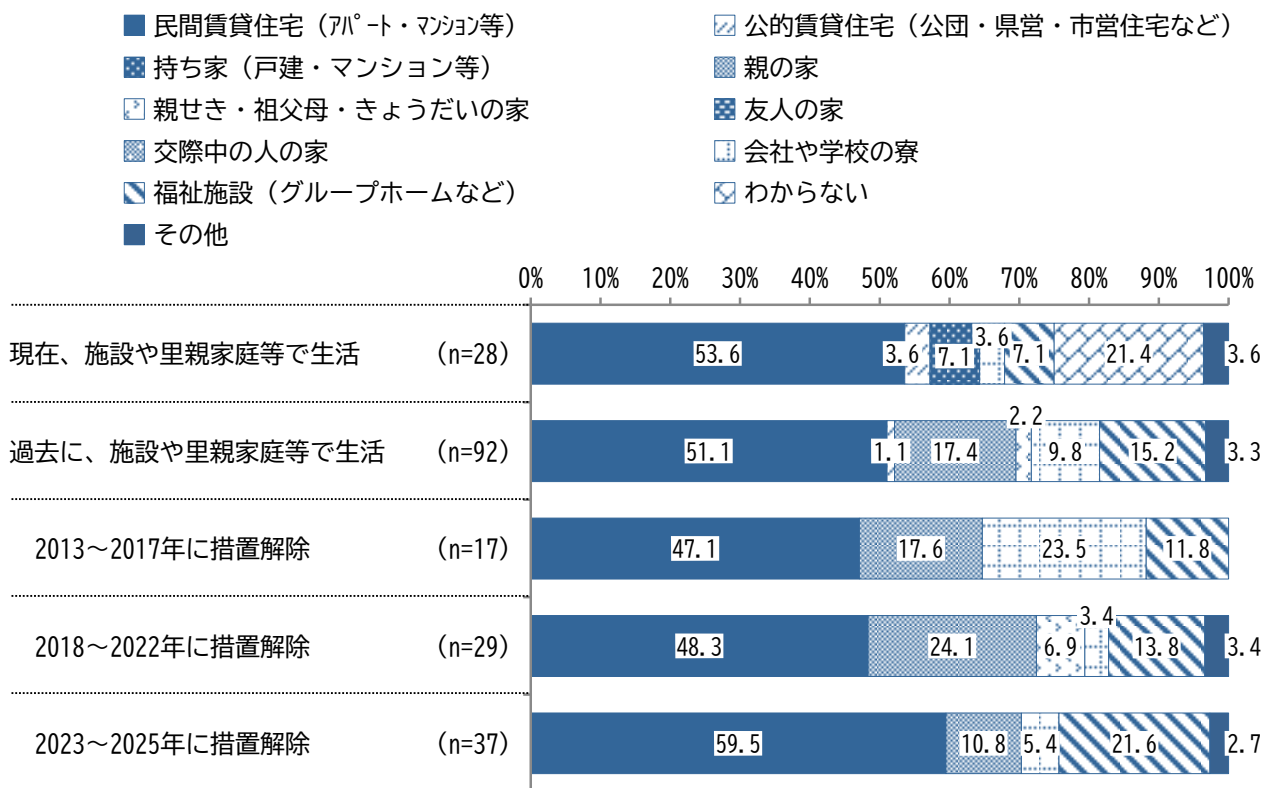
II. 本人調査

問 10(問 8) 施設・里親家庭等を退所した直後の住まい……………

施設・里親家庭等を退所した直後の住まい
 (現在、施設や里親家庭で生活している人:直後に希望・予定する住まい)

現在、施設や里親家庭で生活している人の希望・予定は「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が最多
 過去に退所した人の退所直後の住まいには「親の家」「会社や学校の寮」も

図表 1-20 施設・里親家庭等を退所した直後の住まい
 現在、施設や里親家庭で生活している人:直後に希望・予定する住まい



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人の、退所した直後に希望・予定する住まいは「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が 53.6%で最も多く、次いで「持ち家(戸建・マンション等)」「福祉施設(グループホームなど)」が 7.1%となっている。「わからない」は 21.4%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人の退所した直後の住まいは「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が 51.1%で最も多く、次いで「親の家」が 17.4%、「福祉施設(グループホームなど)」が 15.2%となっている。

- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人の退所した直後の住まいについて、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が47.1%、「会社や学校の寮」が23.5%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が48.3%で最も多く、次いで「親の家」が24.1%、「福祉施設(グループホームなど)」が13.8%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が59.5%、「福祉施設(グループホームなど)」が21.6%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「里親家庭の家」「会社でアパートを借りた」「施設所有のアパート」

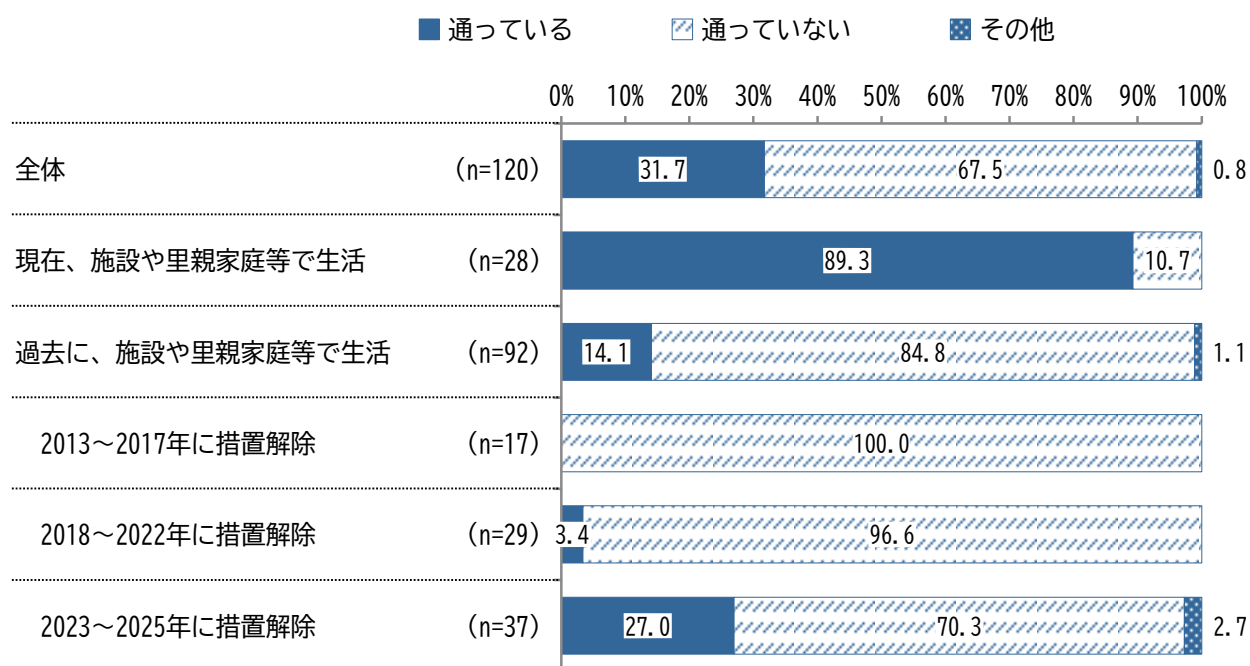
3. 回答者の就学・就労状況

問 11-1(問 9-1) 現在の通学状況……………

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 現在の通学状況

「通っていない」が 67.5%、「通っている」が 31.7%となっている。

図表 1-21 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 現在の通学状況



- 回答者全体では、「通っていない」が 67.5%、「通っている」が 31.7%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「通っている」が 89.3%、「通っていない」が 10.7%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「通っていない」が 84.8%、「通っている」が 14.1%となっている。
- 措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「通っていない」が 100.0%で、学校に通っている人はいなかった。
- 2018～2022年に措置解除された人では「通っていない」が 96.6%、「通っている」が 3.4%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「通っていない」が 70.3%、「通っている」が 27.0%となっている。

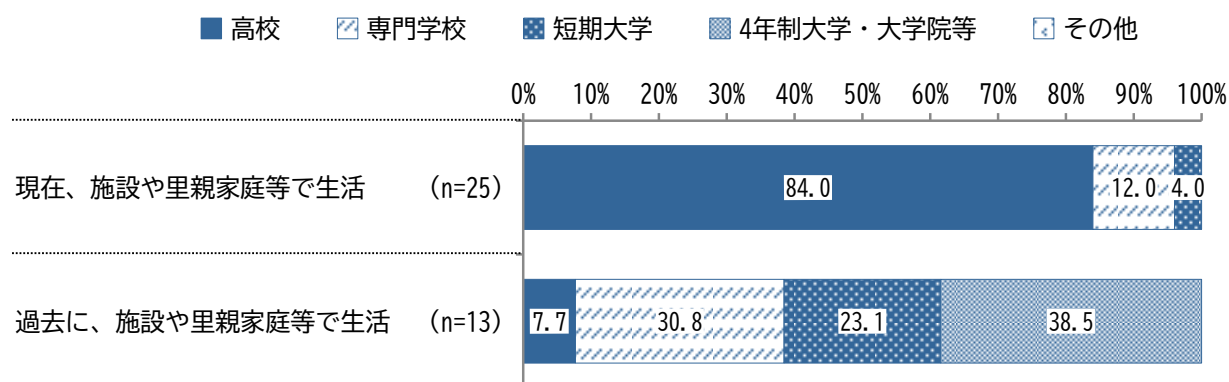
- 「その他」の具体的な記述として、「予備校」があった。

II. 本人調査

問 11-2(問 9-2) 現在通っている学校の種類……………

現在の住まいの状況別 現在通っている学校の種類【現在学校に通っている人のみ】複数回答可

図表 1-22 現在の住まいの状況別 現在通っている学校の種類
【現在学校に通っている人のみ】複数回答可



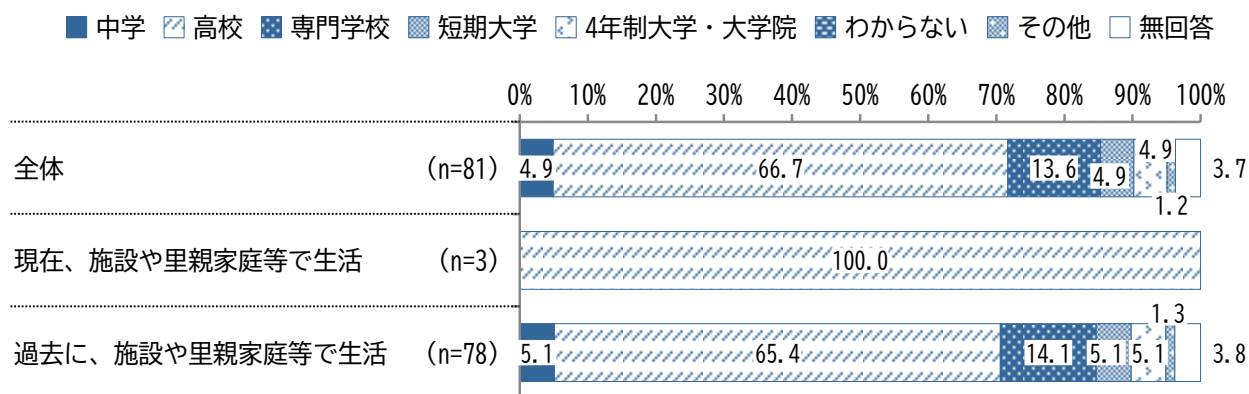
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人で、現在学校に通っている人が通っているのは「高校」が 84.0%、「専門学校」が 12.0%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人で、現在学校に通っている人が通っているのは「4年制大学・大学院等」が 38.5%、「専門学校」が 30.8%、「短期大学」が 30.8%となっている。

問 11-3(問 9-3) 最後に通った学校……………

現在の住まいの状況別 最後に通った学校【現在学校に通っていない人のみ】

「高校」が 66.7%で最多、次いで「専門学校」が 13.6%と続く

図表 1-23 現在の住まいの状況別 最後に通った学校【現在学校に通っていない人のみ】



- 回答者のうち、現在学校に通っていない人全体では、「高校」が 66.7%で最も多く、次いで「専門学校」が 13.6%、「中学」「短期大学」「4 年制大学・大学院」が 4.9%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人で、現在学校に通っていない人が最後に通った学校は「高校」が 100.0%であった。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人で、現在学校に通っていない人が最後に通った学校は「高校」が 65.4%で最も多く、次いで「専門学校」が 14.1%、「中学」「短期大学」「4 年制大学・大学院」が 5.1%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「支援学校」があった。

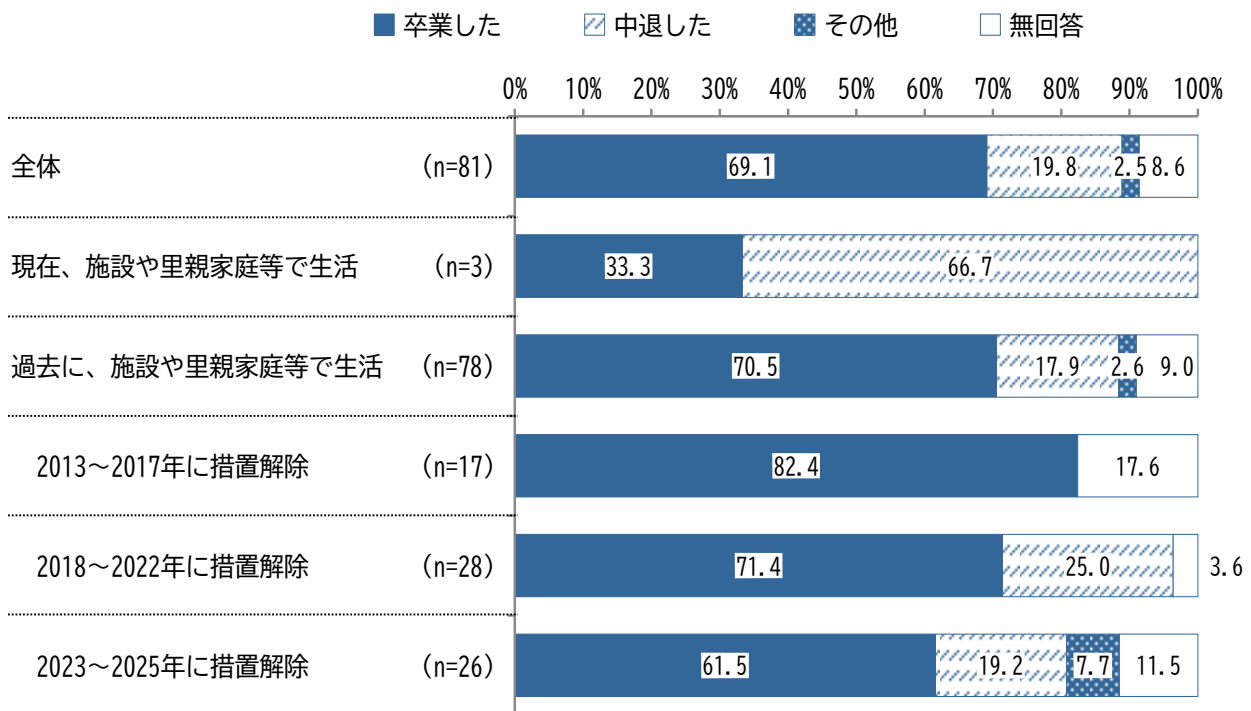
II. 本人調査

問 11-4(問 9-4) 最後に通った学校の卒業状況

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別
 最後に通った学校の卒業状況【現在学校に通っていない人のみ】

現在学校に通っていない人全体で、「卒業した」が 69.1%、「中退した」が 19.8%となっている

図表 1-24 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別
 最後に通った学校の卒業状況【現在学校に通っていない人のみ】



- 現在学校に通っていない人全体では、「卒業した」が 69.1%、「中退した」が 19.8%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人で現在学校に通っていない人では「中退した」が 66.7%、「卒業した」が 33.3%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「卒業した」が 70.5%、「中退した」が 17.9%となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「卒業した」が 82.4%で最も多くなっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「卒業した」が 71.4%、「中退した」が 25.0%となっている。

- 2023～2025 年に措置解除された人では「卒業した」が 61.5%、「中退した」が 19.2%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「高卒認定を取った」「転入をしようとしている」があった。

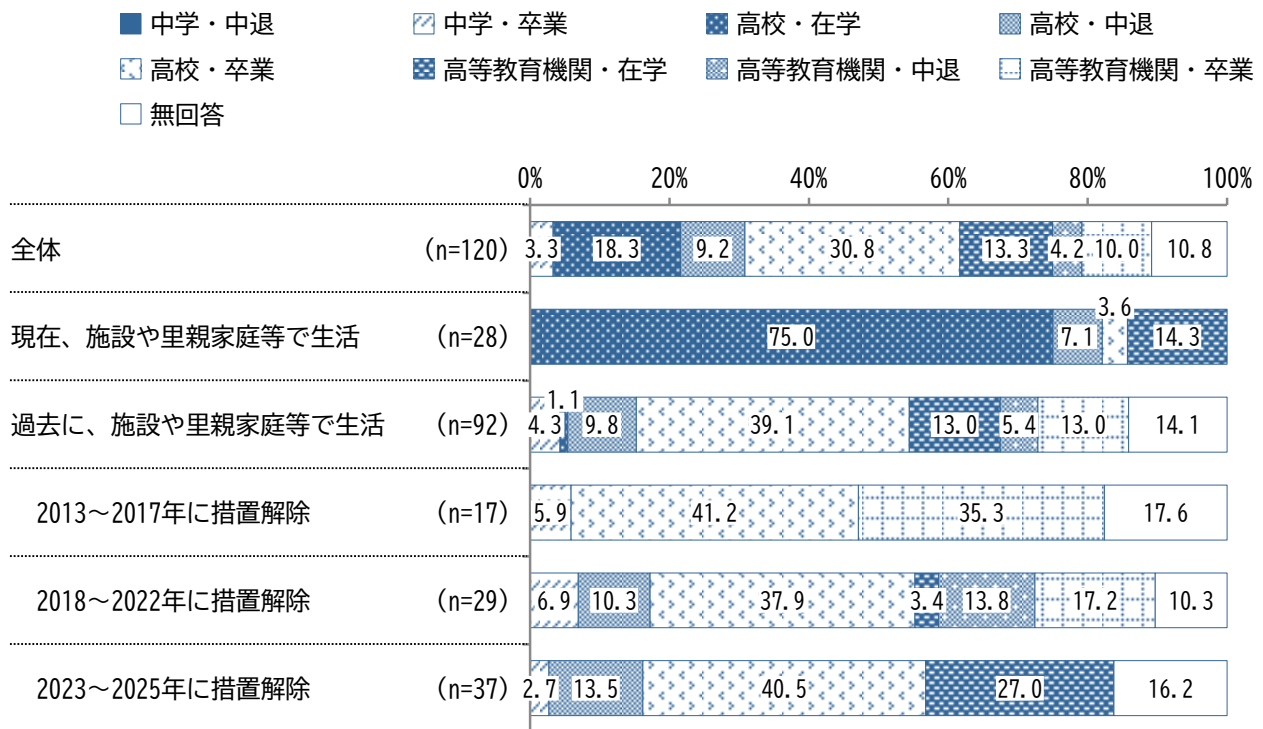
II. 本人調査

最終学歴【学歴・卒業有無】

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 最終学歴(学歴・卒業有無)

「高校・卒業」が 30.8%で最多、次いで「高校・在学」が 18.3%と続く

図表 1-25 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 最終学歴(学歴・卒業有無)



- ▶ 全体では、「高校・卒業」が 30.8%で最も多く、次いで「高校・在学」が 18.3%、「高等教育機関・在学」が 13.3%となっている。
- ▶ 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「高校・在学」が 75.0%、「高等教育機関・在学」が 14.3%となっている。
- ▶ 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「高校・卒業」が 39.1%で最も多く、次いで「高等教育機関・在学」「高等教育機関・卒業」が 13.0%、「高校・中退」が 9.8%となっている。
- ▶ 措置解除年(3段階)でみると、2013~2017年に措置解除された人では「高校・卒業」が 41.2%、「高等教育機関・卒業」が 35.3%となっている。
- ▶ 2018~2022年に措置解除された人では「高校・卒業」が 37.9%で最も多く、次いで「高等教育機関・卒業」が 17.2%、「高等教育機関・中退」が 13.8%となっている。

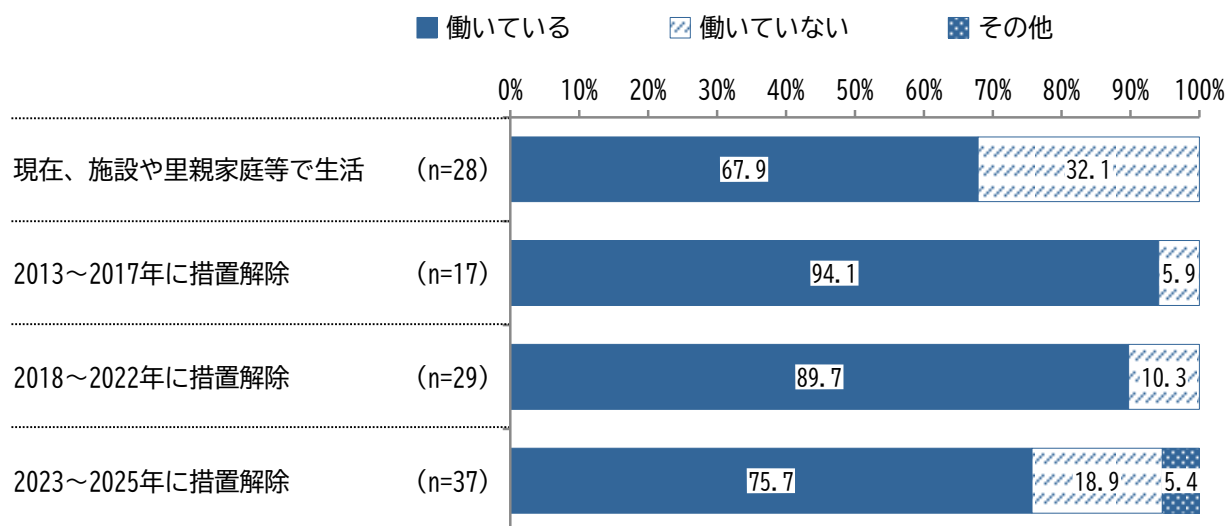
- 2023～2025 年に措置解除された人では「高校・卒業」が 40.5%、「高等教育機関・在学」が 27.0%となっている。

Ⅱ. 本人調査

問 12-1(問 10-1) 現在の就労状況

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別
現在の就労状況(パート・アルバイト・日雇いを含む)

図表 1-26 現在の住まいの状況 別 措置解除年(3段階)別
現在の就労状況(パート・アルバイト・日雇いを含む)



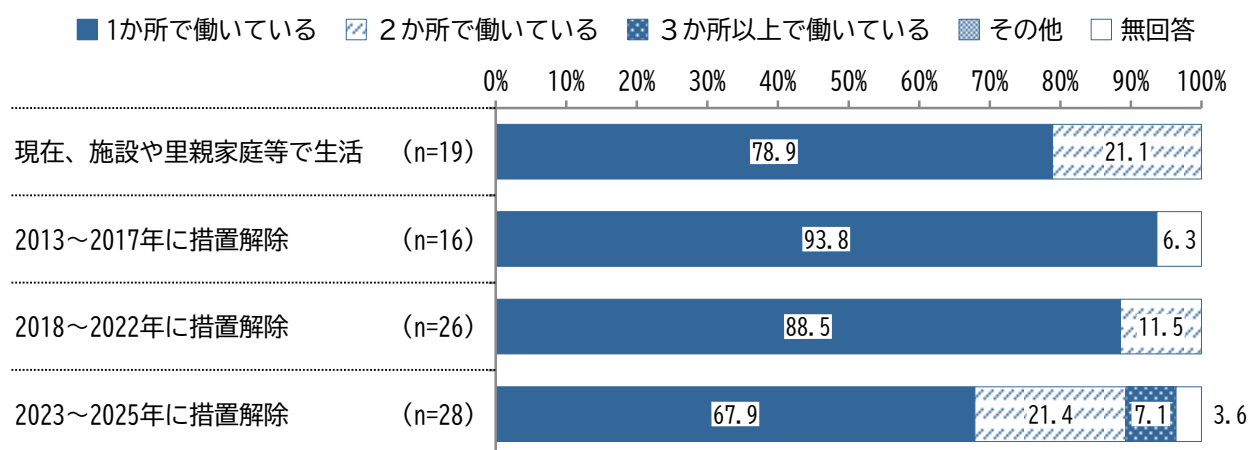
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「働いている」が 67.9%、「働いていない」が 32.1% となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「働いている」が 94.1%、「働いていない」が 5.9%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「働いている」が 89.7%、「働いていない」が 10.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「働いている」が 75.7%、「働いていない」が 18.9%となっている。
- 「その他」の具体的な記述には、「就労継続支援B型」「利用者」があった。

問 12-2(問 10-2) 勤務先の数

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 勤務先の数【現在働いている人のみ】

「1か所で働いている」が80.0%で最多、次いで「2か所で働いている」が15.8%と続く

図表 1-27 措置解除年(3段階)別 勤務先の数【現在働いている人のみ】



- 現在働いている人で、現在、施設や里親家庭等で生活している人では「1か所で働いている」が78.9%、「2か所で働いている」が21.1%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人について措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「1か所で働いている」が93.8%で最も多くなっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「1か所で働いている」が88.5%、「2か所で働いている」が11.5%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「1か所で働いている」が67.9%、「2か所で働いている」が21.4%となっている。

II. 本人調査

問 12-3(問 10-3) 現在の働き方.....

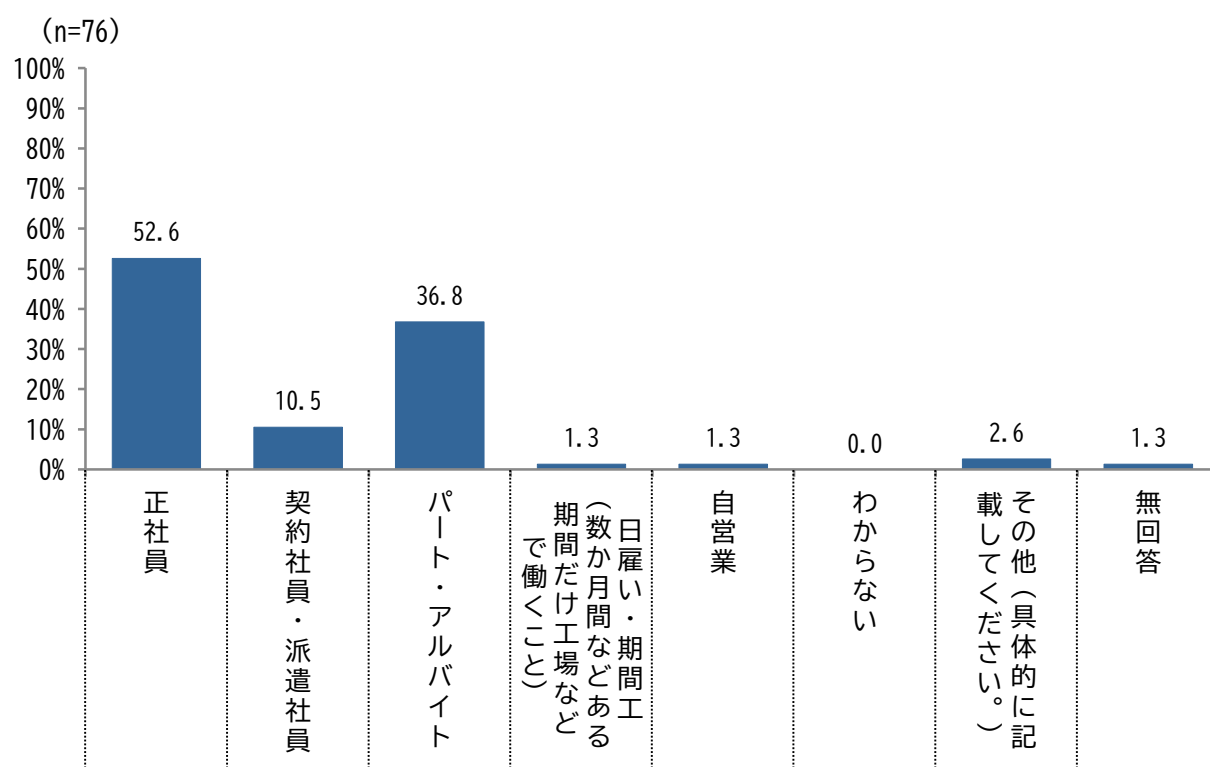
現在の働き方

【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のうち、現在働いている人全体】複数回答可

「正社員」が 52.6%で最多、次いで「パート・アルバイト」が 36.8%と続く

図表 1-28 現在の働き方

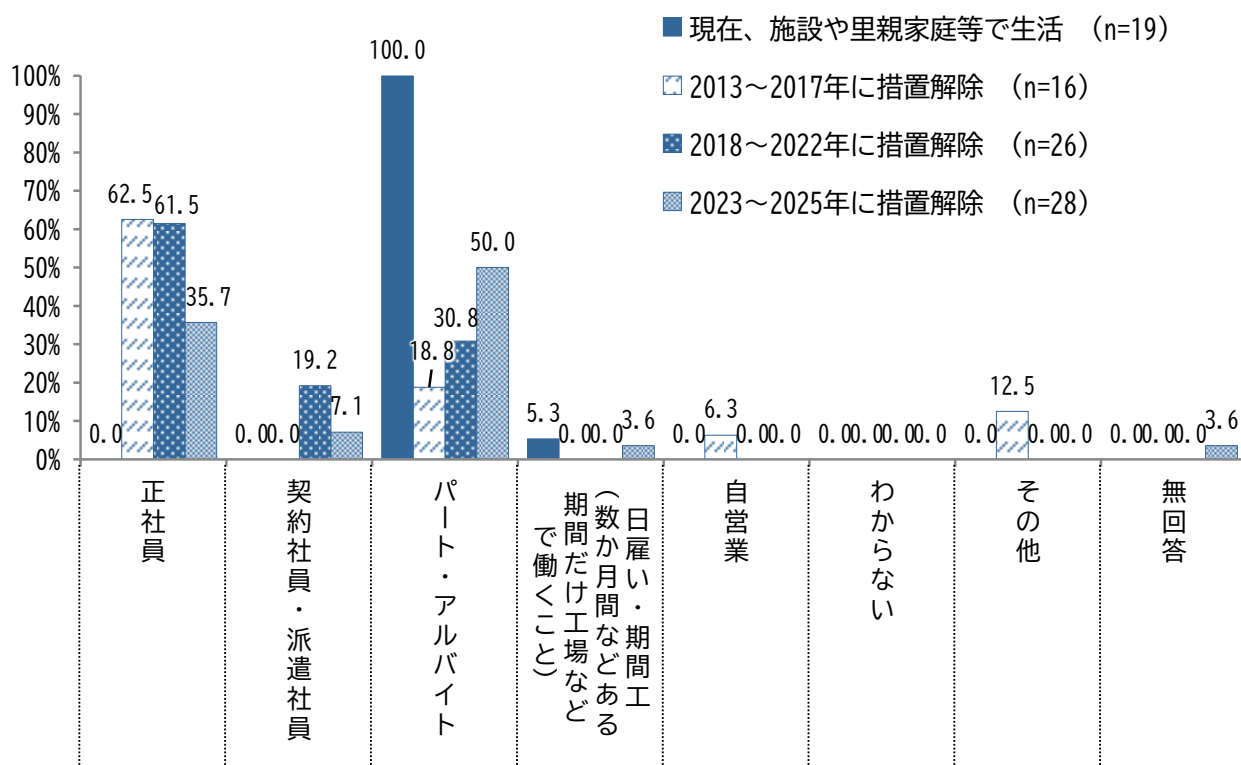
【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のうち、現在働いている人全体】複数回答可



- 過去に、施設や里親家庭で生活していた人で現在働いている人全体では、「正社員」が 52.6%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 36.8%、「契約社員・派遣社員」が 10.5%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「就労継続支援 B 型」があった。

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別
 現在の働き方【現在働いている人のみ】複数回答可

図表 1-29 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別
 現在の働き方【現在働いている人のみ】複数回答可



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人で、現在働いている人では「パート・アルバイト」をしている人が 100.0%と全員で、「日雇い・期間工(数か月間などある期間だけ工場などで働くこと)」をしている人は 5.3%(1人)となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人について措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「正社員」が 62.5%、「パート・アルバイト」が 18.8%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「正社員」が 61.5%、「パート・アルバイト」が 30.8%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「パート・アルバイト」が 50.0%、「正社員」が 35.7%となっている。

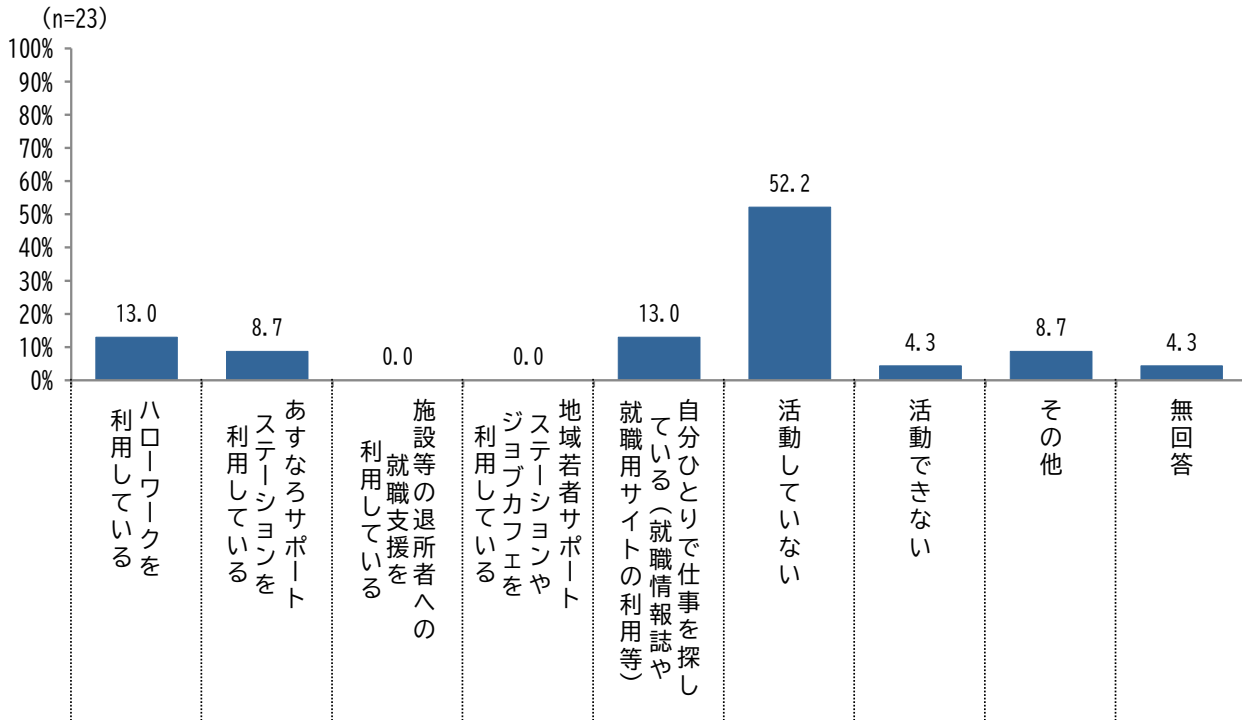
Ⅱ. 本人調査

問 12-4(問 10-4) 仕事を探すための活動の状況

仕事を探すための活動の状況【現在働いていない人のみ】複数回答可

「活動していない」が 52.2%で最多、次いで「ハローワークを利用している」「自分ひとりで仕事を探している(就職情報誌や就職用サイトの利用等)」が 13.0%と続く

図表 1-30 仕事を探すための活動の状況【現在働いていない人のみ】複数回答可



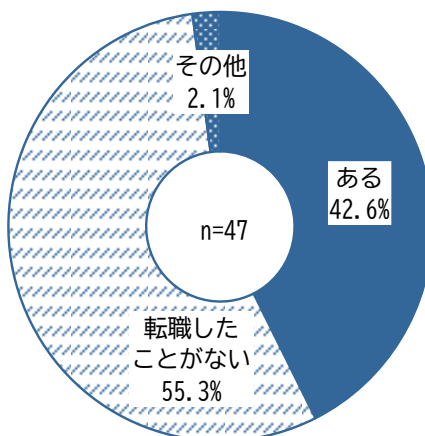
- 現在働いていない人全体では、「活動していない」が 52.2%で最も多く、次いで「ハローワークを利用している」「自分ひとりで仕事を探している(就職情報誌や就職用サイトの利用等)」が 13.0%、「あすなるサポートステーションを利用している」が 8.7%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「部活と勉学の両立」「持病が見つかったからは福祉に頼らせてもらっている」があった。

問 13(問 11) 転職経験

これまでの転職経験【正社員、契約社員・派遣社員、自営業の人のみ】

「転職したことがない」が 55.3%、「ある」が 42.6%

図表 1-31 これまでの転職経験【正社員、契約社員・派遣社員、自営業の人のみ】



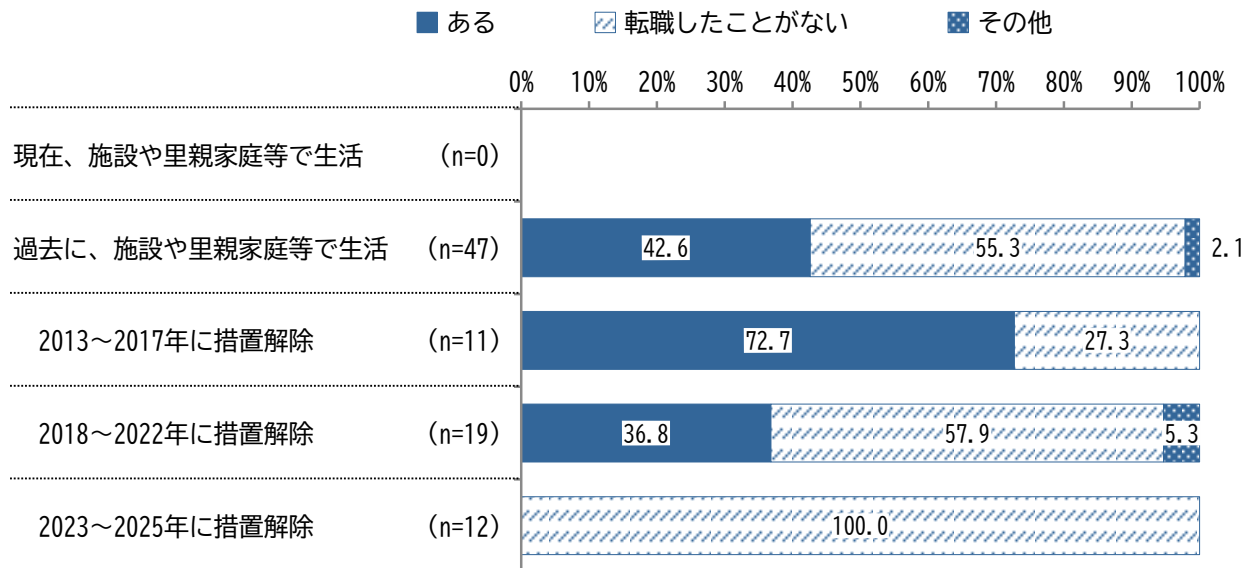
- 正社員、契約社員・派遣社員、自営業の人全体では、「転職したことがない」が 55.3%で最も多く、次いで「ある」が 42.6%となっている。

II. 本人調査

現在の住まいの状況 措置解除年(3段階)別

これまでの転職経験【正社員、契約社員・派遣社員、自営業の人のみ】

図表 1-32 現在の住まいの状況 措置解除年(3段階)別
これまでの転職経験【正社員、契約社員・派遣社員、自営業の人のみ】



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人は、正社員、契約社員・派遣社員、自営業の人がいないため、全体が0人となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「転職したことがない」が55.3%、「ある」が42.6%となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「ある」が72.7%、「転職したことがない」が27.3%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「転職したことがない」が57.9%、「ある」が36.8%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「転職したことがない」が100.0%で最も多くなっている。
- 措置解除年から時間が経過しているほど、転職経験割合が高くなっている。
- 転職したことがある人(20人)の平均転職回数は、3.35回であった。
- 「その他」の具体的な記述として、「バイトを何個かした」があった。

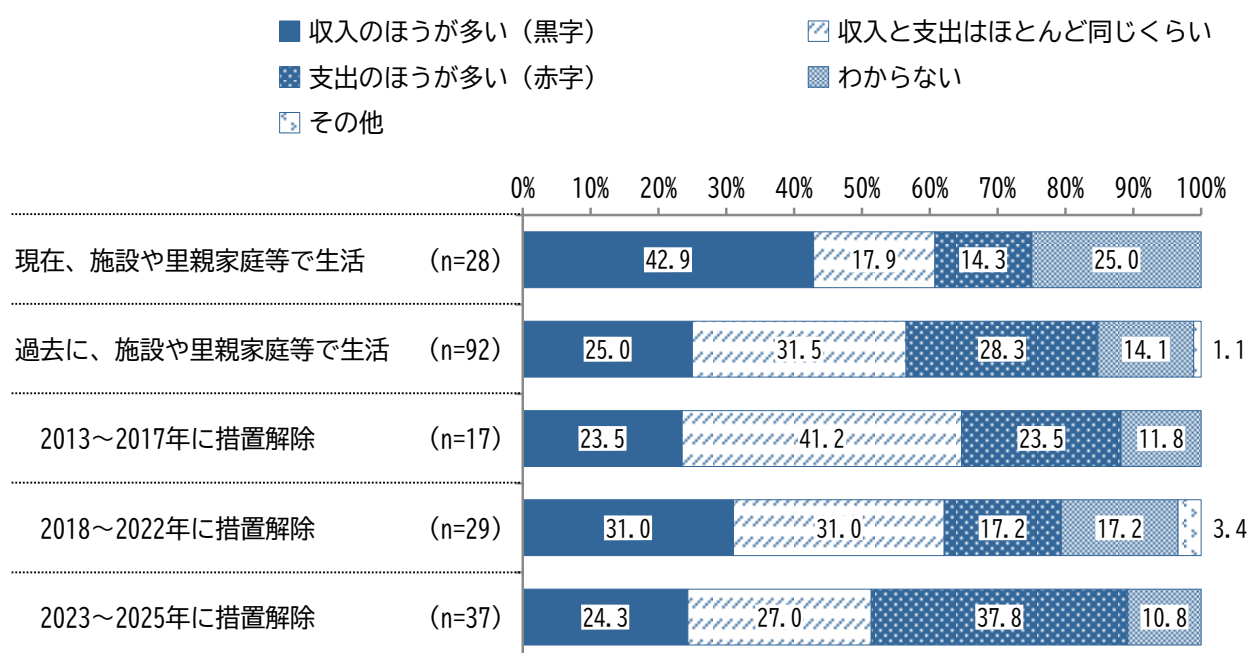
4. 回答者の生活の状況

問 14(問 12) 月々の収入と支出のバランス

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 月々の収入と支出のバランス

現在、施設や里親家庭で生活している人の42.9%が「収入の方が多い(黒字)」一方、過去に、施設や里親家庭で生活していた人では「支出の方が多い(赤字)」の人の割合が増え、特に2023～2025年に措置解除された人では37.8%が「支出の方が多い(赤字)」と回答

図表 1-33 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 月々の収入と支出のバランス



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「収入の方が多い(黒字)」が42.9%、「わからない」が25.0%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「収入と支出はほとんど同じくらい」が31.5%、「支出の方が多い(赤字)」が28.3%となっている。
- 措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「収入と支出はほとんど同じくらい」が41.2%で最も多く、「収入の方が多い(黒字)」「支出の方が多い(赤字)」が23.5%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「収入の方が多い(黒字)」「収入と支出はほとんど同じくらい」が31.0%、「支出の方が多い(赤字)」が17.2%となっている。

II. 本人調査

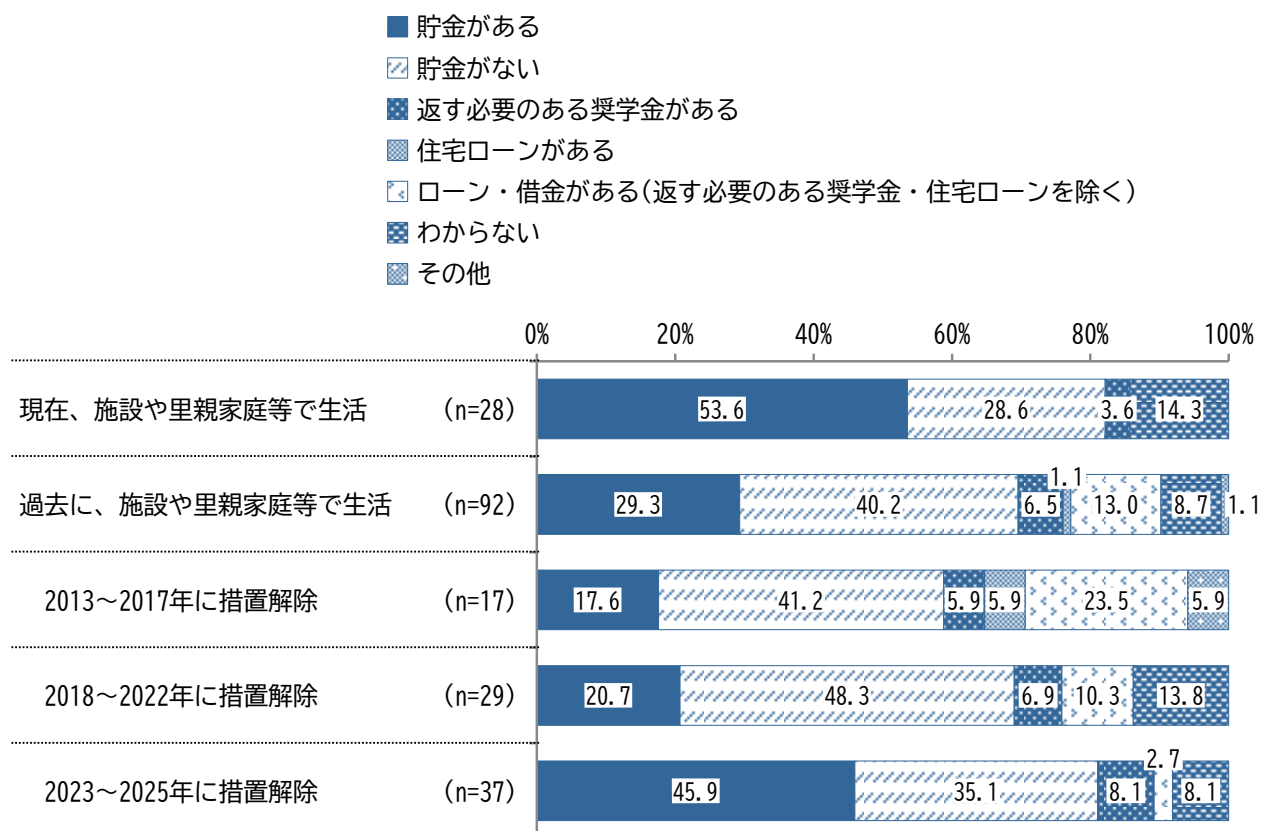
- 2023～2025 年に措置解除された人では「支出のほうが多い(赤字)」が 37.8%と最も多く、次いで「収入と支出はほとんど同じくらい」が 27.0%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「生活費は黒字だが、趣味などで支出と収入がほとんど差がない」があった。

問 15(問 13) 現在の家計の状況……………

現在の家計の状況(もっとも当てはまるもの1つ)

過去に、施設や里親家庭で生活していた人では「貯金がない」状況の人が3割以上
「ローン・借金がある(返す必要のある奨学金・住宅ローンを除く)」人も

図表 1-34 現在の家計の状況(もっとも当てはまるもの1つ)



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「貯金がある」が 53.6%、「貯金がない」が 28.6%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「貯金がない」が 40.2%で最も多く、次いで「貯金がある」が 29.3%、「ローン・借金がある(返す必要のある奨学金・住宅ローンを除く)」が 13.0%となっている。
- 措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「貯金がない」が 41.2%で最も多く、次いで「ローン・借金がある(返す必要のある奨学金・住宅ローンを除く)」が 23.5%、「貯金がある」が 17.6%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「貯金がない」が 48.3%で最も多く、次いで「貯金がある」が 20.7%、「ローン・借金がある(返す必要のある奨学金・住宅ローンを除く)」が 10.3%となっている。

II. 本人調査

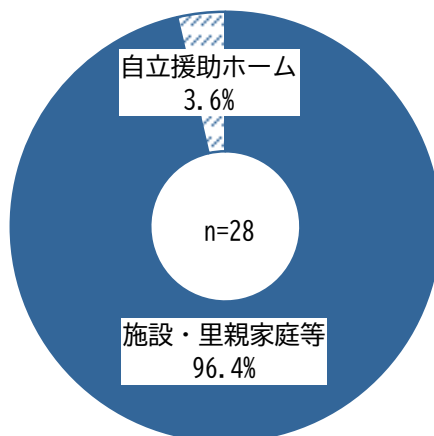
- 2023～2025 年に措置解除された人では「貯金がある」が 45.9%で最も多く、次いで「貯金がない」が 35.1%、「返す必要のある奨学金がある」が 8.1%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「貸付金がある。貯金もある。」があった。

問 16-1(問 14)現在の住まい

現在の住まい【現在、施設や里親家庭で生活している人のみ】

「施設・里親家庭等」が 96.4%で最多、「自立援助ホーム」は 3.6%

図表 1-35 現在の住まい【現在、施設や里親家庭で生活している人のみ】



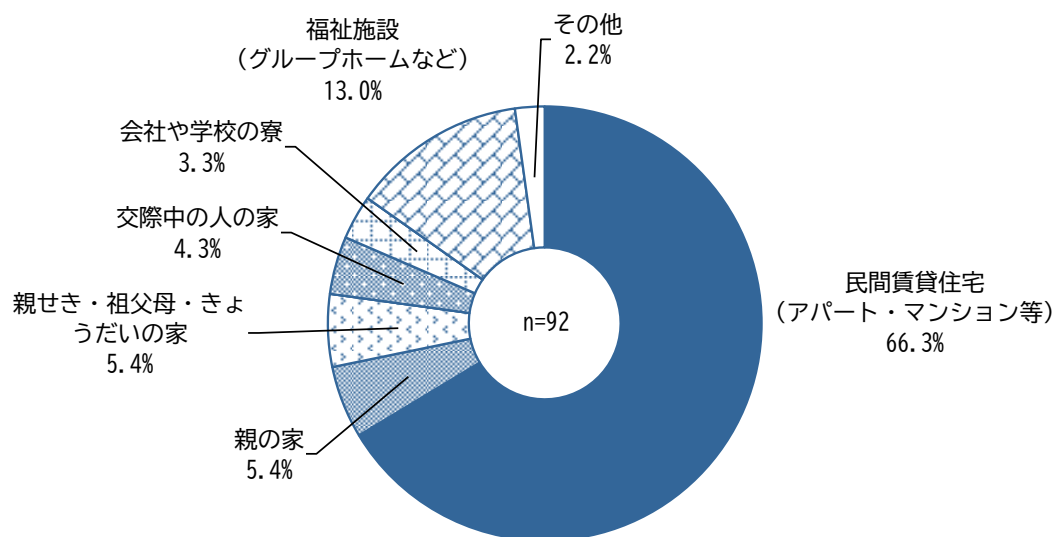
- 現在、施設や里親家庭で生活している人全体では、「施設・里親家庭等」が 96.4%で最も多く、次いで「自立援助ホーム」が 3.6%となっている。
- 「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」「公的賃貸住宅(公団・県営・市営住宅など)」「その他」の回答はなかった。

II. 本人調査

現在の住まい【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】

「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が 66.3%で最多、
次いで「福祉施設(グループホームなど)」が 13.0%

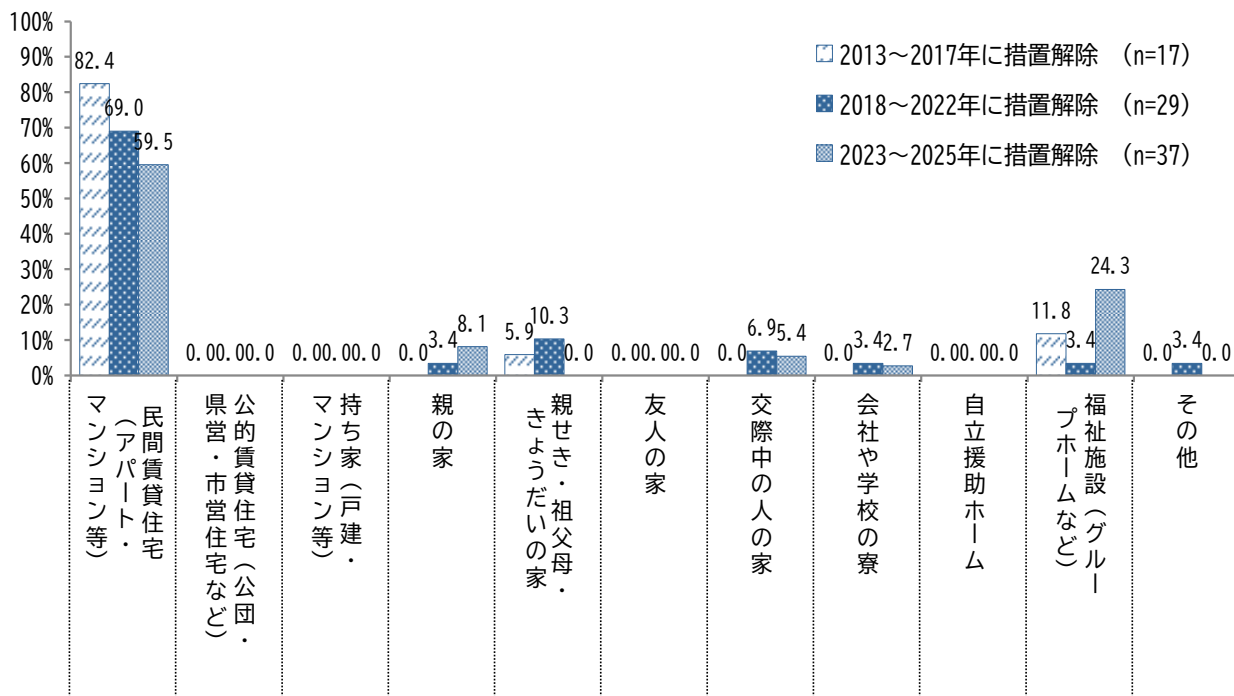
図表 1-36 現在の住まい【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】



- ▶ 全体では、「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が 66.3%で最も多く、次いで「福祉施設(グループホームなど)」が 13.0%、「親の家」「親せき・祖父母・きょうだいの家」が 5.4%となっている。

措置解除年(3段階)別 現在の住まい【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】

図表 1-37 措置解除年(3段階)別 現在の住まい【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】



- 過去に、施設や里親家庭で生活していた人について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が 82.4%、「福祉施設(グループホームなど)」が 11.8%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が 69.0%で最も多く、次いで「親せき・祖父母・きょうだいの家」が 10.3%、「交際中の人の家」が 6.9%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「民間賃貸住宅(アパート・マンション等)」が 59.5%で最も多く、次いで「福祉施設(グループホームなど)」が 24.3%、「親の家」が 8.1%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「会社でアパートを借りている」があった。

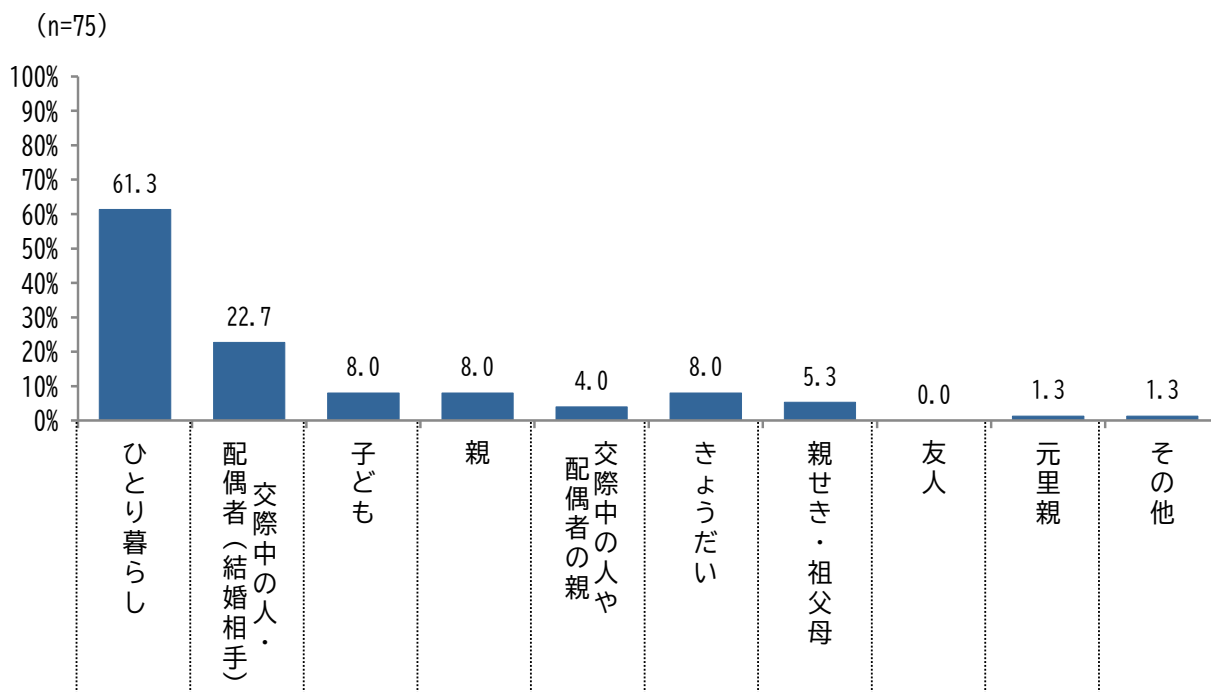
II. 本人調査

問 16-2 現在、一緒に暮らしている人……………

現在、一緒に暮らしている人【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】

「ひとり暮らし」が 61.3%で最多、次いで「交際中の人・配偶者(結婚相手)」が 22.7%と続く

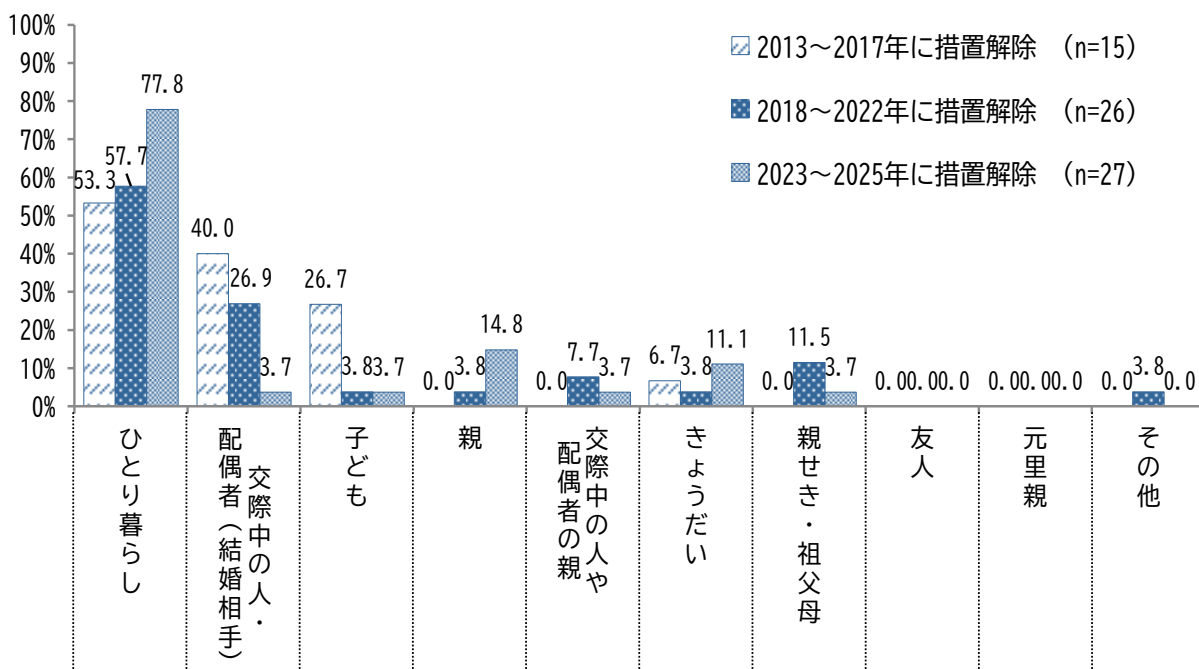
図表 1-38 現在、一緒に暮らしている人【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】



- 全体では、「ひとり暮らし」が 61.3%で最も多く、次いで「交際中の人・配偶者(結婚相手)」が 22.7%、「子ども」「親」「きょうだい」が 8.0%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「自分と猫一匹」があった。

措置解除年(3段階)別 現在、一緒に暮らしている人
【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】

図表 1-39 措置解除年(3段階)別 現在、一緒に暮らしている人
【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】



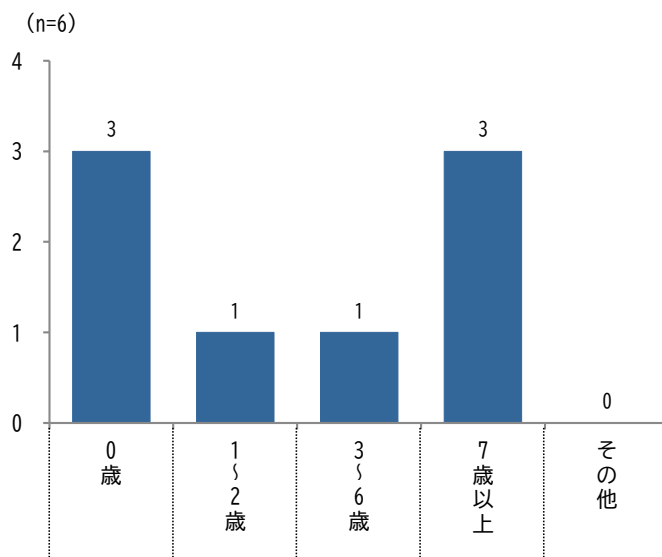
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「ひとり暮らし」が53.3%、「交際中の人・配偶者(結婚相手)」が40.0%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「ひとり暮らし」が57.7%で最も多く、次いで「交際中の人・配偶者(結婚相手)」が26.9%、「親せき・祖父母」が11.5%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「ひとり暮らし」が77.8%で最も多く、次いで「親」が14.8%、「きょうだい」が11.1%となっている。

II. 本人調査

問 16-3 一緒に暮らしている子どもの年齢

一緒に暮らしている子どもの年齢【子どもと暮らしている人のみ】複数回答可

図表 1-40 一緒に暮らしている子どもの年齢【子どもと暮らしている人のみ】複数回答可



- ▶ 子どもと一緒に暮らしている人(6人)を、一緒に暮らしている子どもの年齢で見ると、「0歳」「7歳以上」と暮らしている人は3人、「1~2歳」「3~6歳」と暮らしている人は1人ずつとなっている。

5. 回答者の健康、健康保険や年金の状況

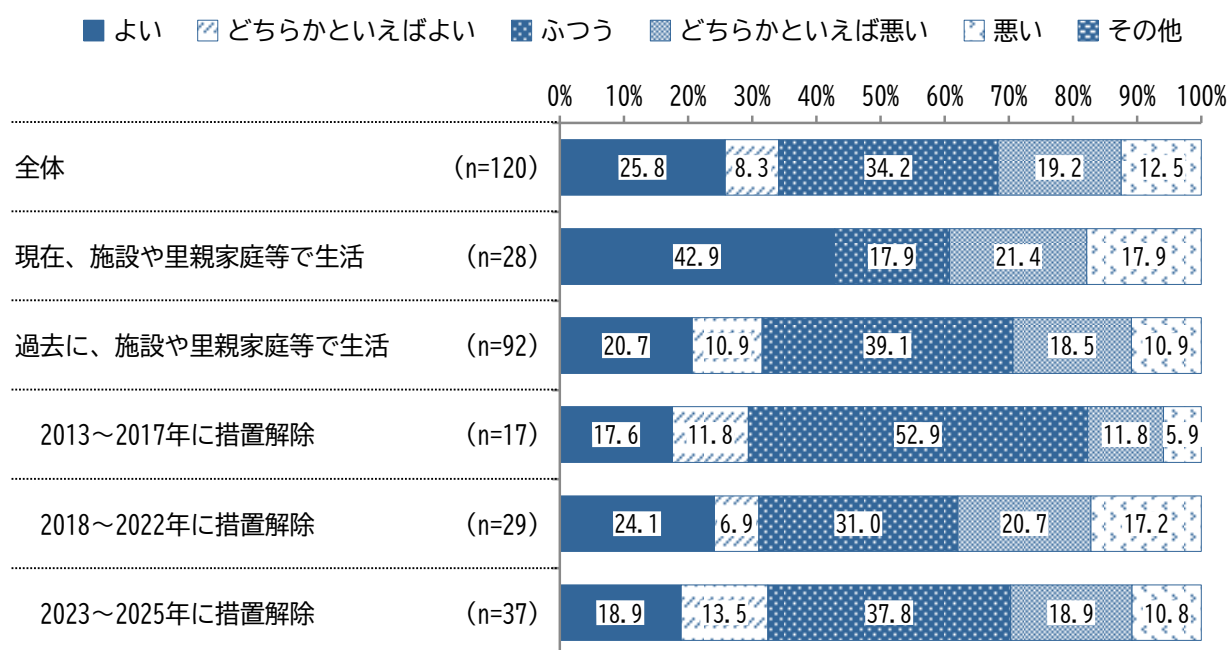
問 17(問 15) 最近 1 か月間の心や体の健康状態

現在の住まいの状況別 措置解除年(3 段階)別 最近 1 か月間の心や体の健康状態

現在、施設や里親家庭で生活している人では「よい」が 42.9%

過去に、施設や里親家庭で生活していた人では「よい」「どちらかといえばよい」を合わせて 31.6%

図表 1-41 現在の住まいの状況別 措置解除年(3 段階)別 最近 1 か月間の心や体の健康状態



- 回答者全体では、「ふつう」が 34.2%で最も多く、次いで「よい」が 25.8%、「どちらかといえば悪い」が 19.2%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「よい」が 42.9%、「どちらかといえば悪い」が 21.4%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「ふつう」が 39.1%で最も多く、次いで「よい」が 20.7%、「どちらかといえば悪い」が 18.5%となっている。
- 措置解除年(3 段階)でみると、2013～2017 年に措置解除された人では「ふつう」が 52.9%で最も多く、次いで「よい」が 17.6%、「どちらかといえばよい」「どちらかといえば悪い」が 11.8%となっている。

II. 本人調査

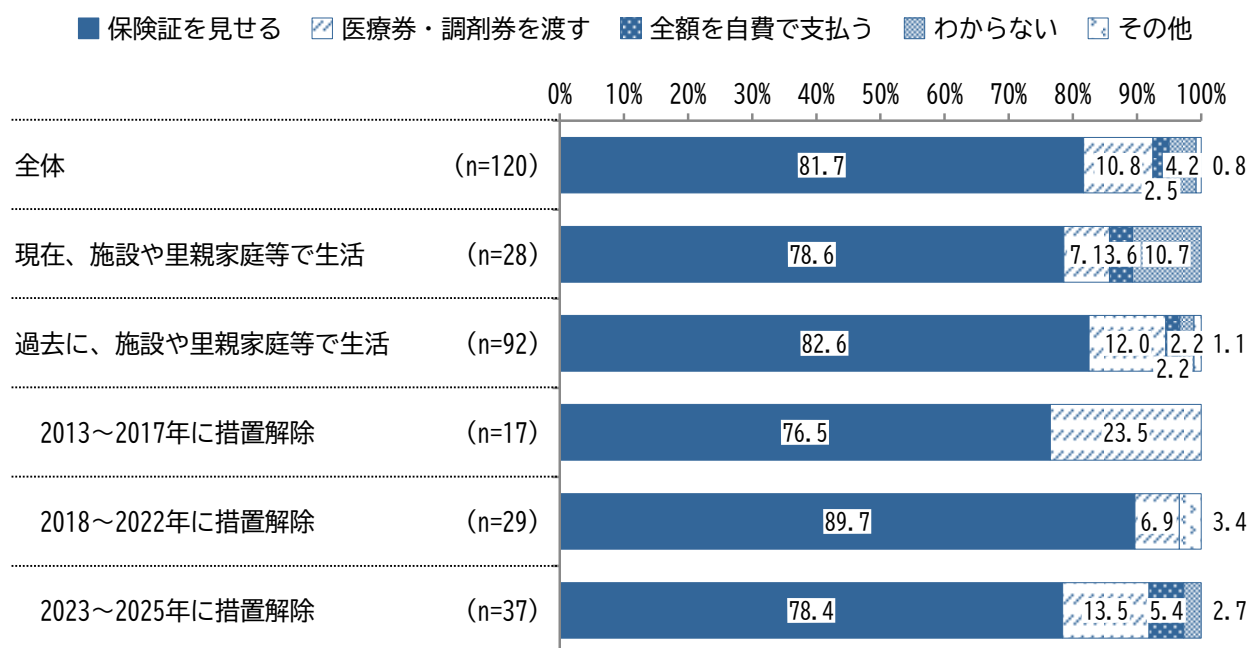
- 2018～2022年に措置解除された人では「ふつう」が31.0%で最も多く、次いで「よい」が24.1%、「どちらかといえば悪い」が20.7%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「ふつう」が37.8%で最も多く、次いで「よい」「どちらかといえば悪い」が18.9%、「どちらかといえばよい」が13.5%となっている。

問 18(問 16) 病院やクリニックにかかる場合の支払い方法……………

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 病院やクリニックにかかる場合の支払い方法

「保険証を見せる」が 81.7%で最多、次いで「医療券・調剤券を渡す」が 10.8%と続く

図表 1-42 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 病院やクリニックにかかる場合の支払い方法



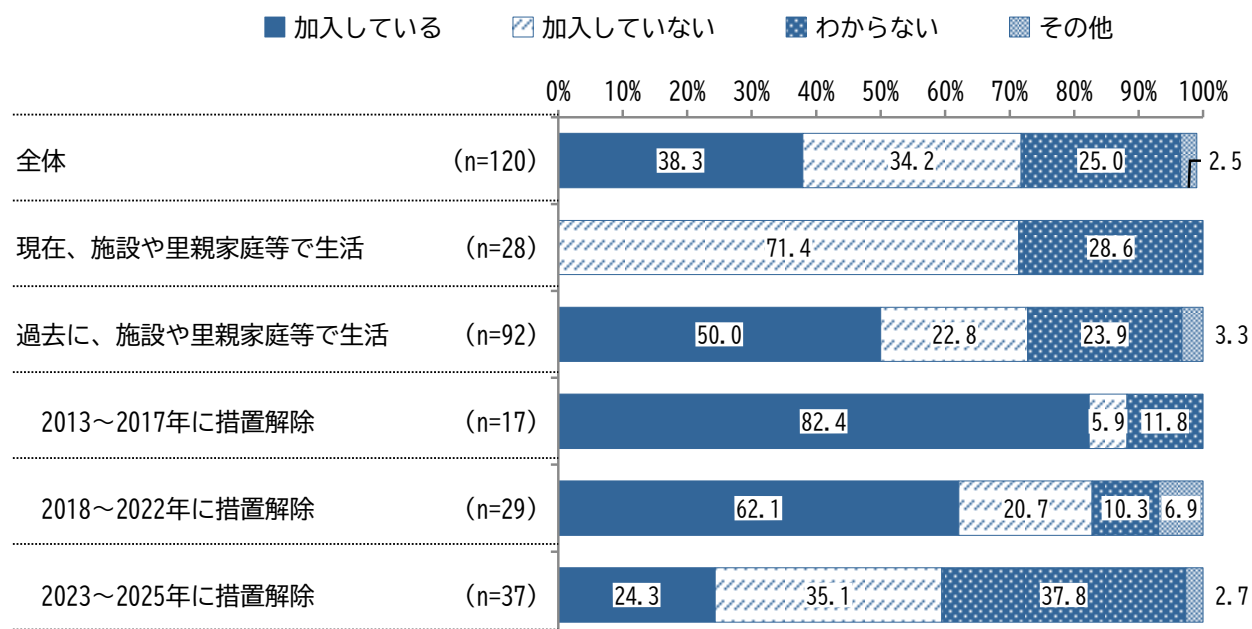
- 回答者全体では、「保険証を見せる」が 81.7%、「医療券・調剤券を渡す」が 10.8%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「保険証を見せる」が 78.6%、「医療券・調剤券を渡す」が 7.1%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「保険証を見せる」が 82.6%、「医療券・調剤券を渡す」が 12.0%となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「保険証を見せる」が 76.5%、「医療券・調剤券を渡す」が 23.5%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「保険証を見せる」が 89.7%、「医療券・調剤券を渡す」が 6.9%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「保険証を見せる」が 78.4%、「医療券・調剤券を渡す」が 13.5%となっている。

Ⅱ. 本人調査

問 19(問 17) 自身の年金加入状況

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 自身の年金加入状況

図表 1-43 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 自身の年金加入状況



- 回答者全体では、「加入している」が 38.3%、「加入していない」が 34.2%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「加入していない」が 71.4%、「わからない」が 28.6%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「加入している」が 50.0%、「加入していない」が 22.8%、「わからない」が 23.9%となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「加入している」が 82.4%、「加入していない」が 5.9%、「わからない」が 11.8%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「加入している」が 62.1%、「加入していない」が 20.7%、「わからない」が 10.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「加入していない」が 35.1%、「加入している」が 24.3%、「わからない」が 37.8%、となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「会社では入っているが、自分では入っていない」「今月加入予定」「学生のため支払いはしていないが加入はしている」があった。

- 国民年金は 20 歳到達時から加入する制度であり、回答者のうち現在、施設や里親家庭で生活している人の回答年齢(令和 8 年 3 月 31 日時点)は 17 歳と 19 歳であるため、加入年齢に達していないことに留意が必要である。

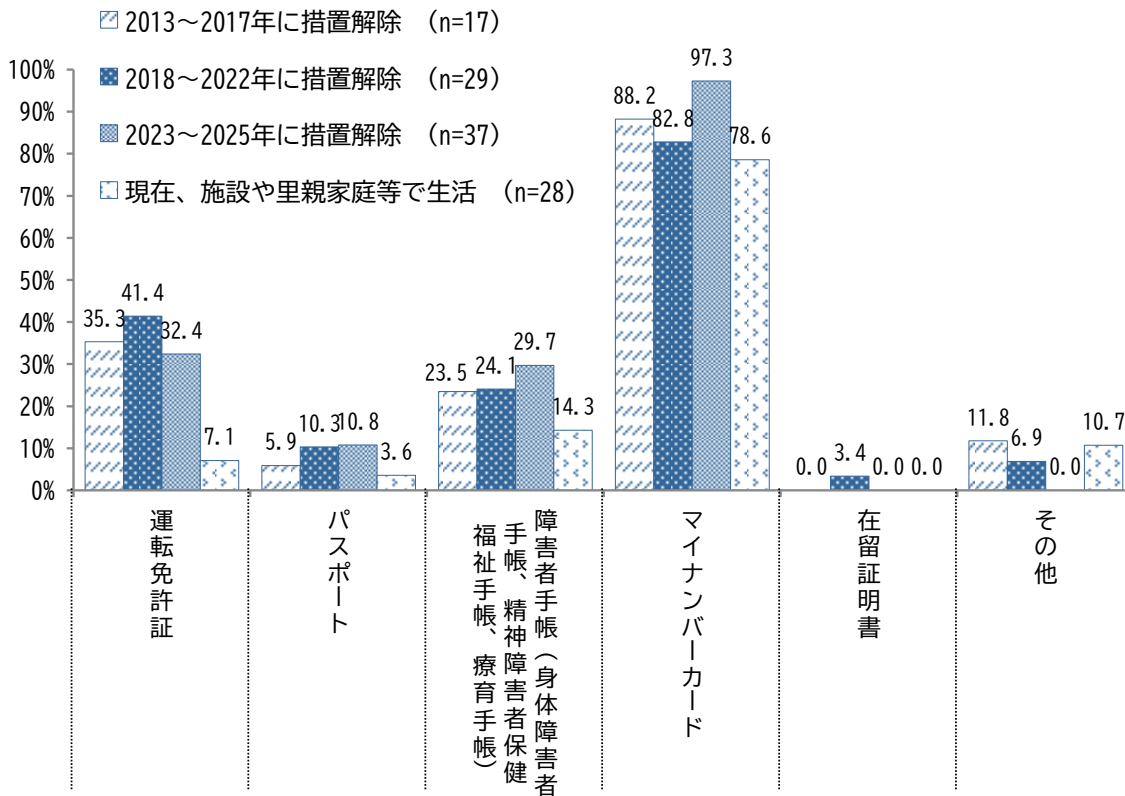
II. 本人調査

問 20(問 18) 免許証等所持状況

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 免許証等所持状況 複数選択可

「マイナンバーカード」の所持率は措置解除年にかかわらず 8 割以上
次いで所持率が高いのは「運転免許証」

図表 1-44 現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 免許証等所持状況 複数選択可



- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「マイナンバーカード」が88.2%、「運転免許証」が35.3%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「マイナンバーカード」が82.8%で最も多く、次いで「運転免許証」が41.4%、「障害者手帳(身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳)」が24.1%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「マイナンバーカード」が97.3%、「運転免許証」が32.4%、「障害者手帳(身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳)」が29.7%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「マイナンバーカード」が78.6%、「障害者手帳(身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳)」が14.3%となっている。

- 「その他」の具体的な記述として、「もっていない」(4 件)、「健康保険証」「パスポートを申請中」(それぞれ 1 件)があった。

6. 施設・里親家庭等を退所する前後から現在のサポートの状況

問 21-1(問 19-1) 施設・里親家庭等を退所する前後での不安 ……………

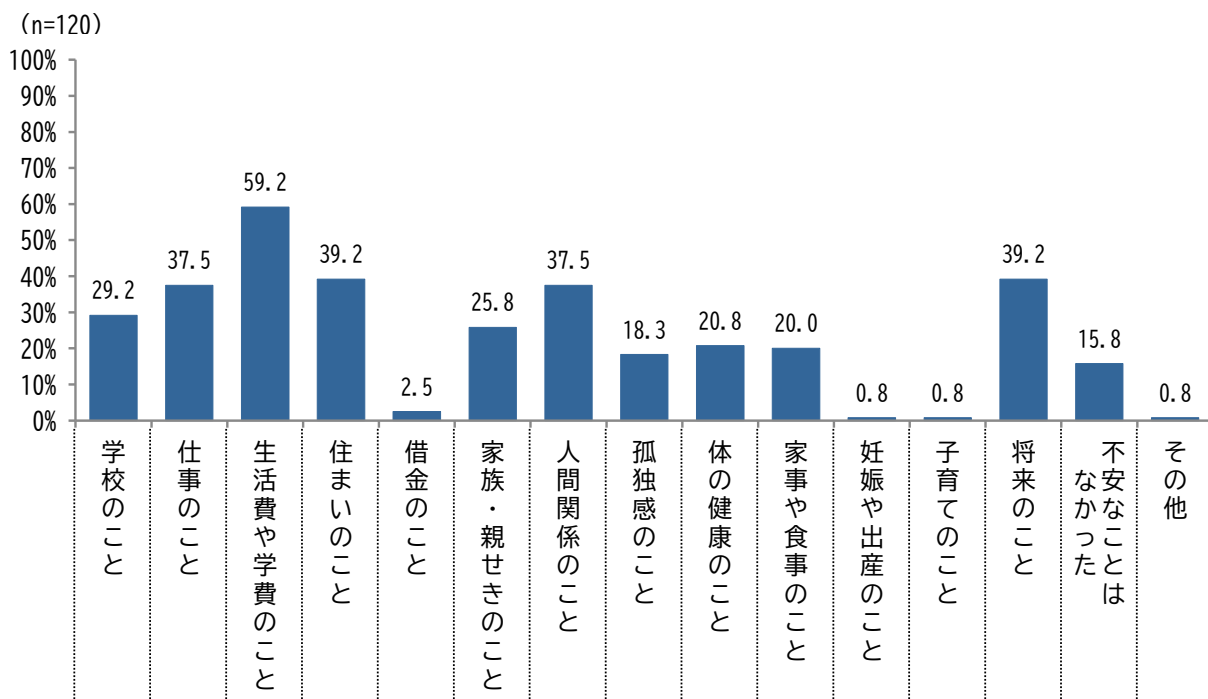
施設・里親家庭等を退所する前後で不安だったこと

(現在、施設や里親家庭等で生活している人:退所にあたって不安なこと)複数選択可

「生活費や学費のこと」が 59.2%で最多、次いで「住まいのこと」「将来のこと」が 39.2%と続く

図表 1-45 施設・里親家庭等を退所する前後で不安だったこと

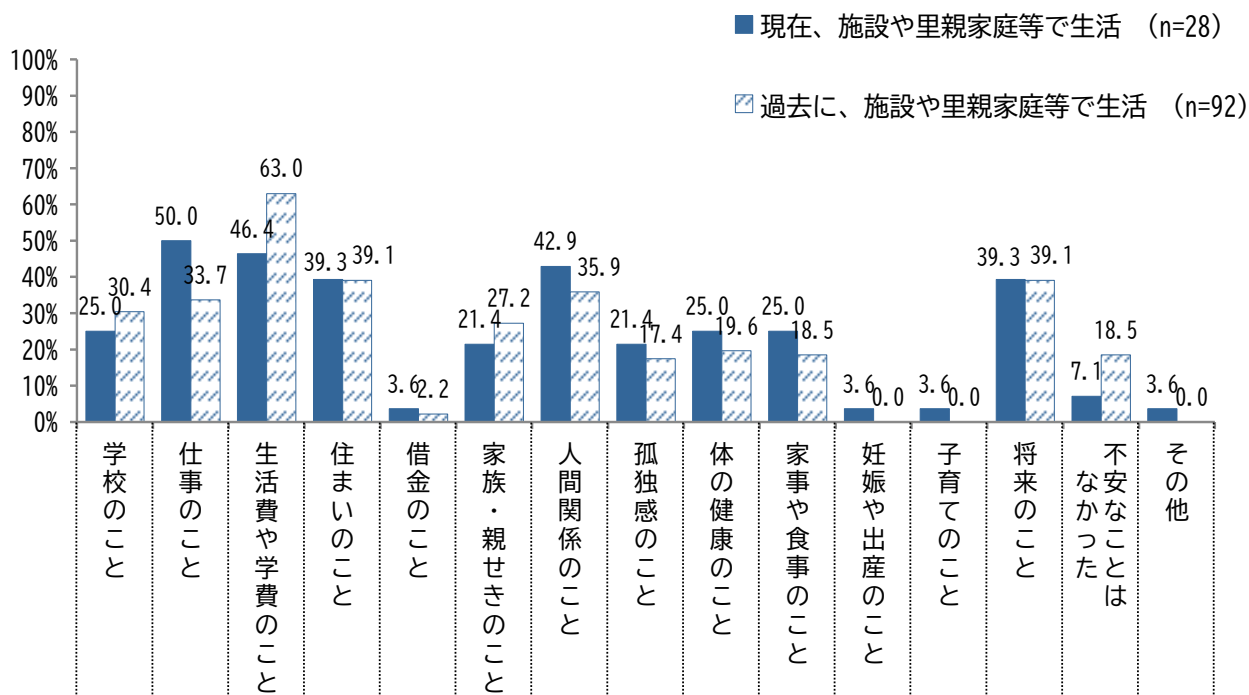
(現在、施設や里親家庭等で生活している人:退所にあたって不安なこと)複数選択可



- 回答者全体では、「生活費や学費のこと」が 59.2%で最も多く、次いで「住まいのこと」「将来のこと」が 39.2%、「仕事のこと」「人間関係のこと」が 37.5%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「退所後の生活」があった。

現在の住まいの状況別 施設・里親家庭等を退所する前後で不安だったこと
 (現在、施設や里親家庭等で生活している人:退所にあたって不安なこと)複数選択可

図表 1-46 現在の住まいの状況別 施設・里親家庭等を退所する前後で不安だったこと
 (現在、施設や里親家庭等で生活している人:退所にあたって不安なこと)複数選択可

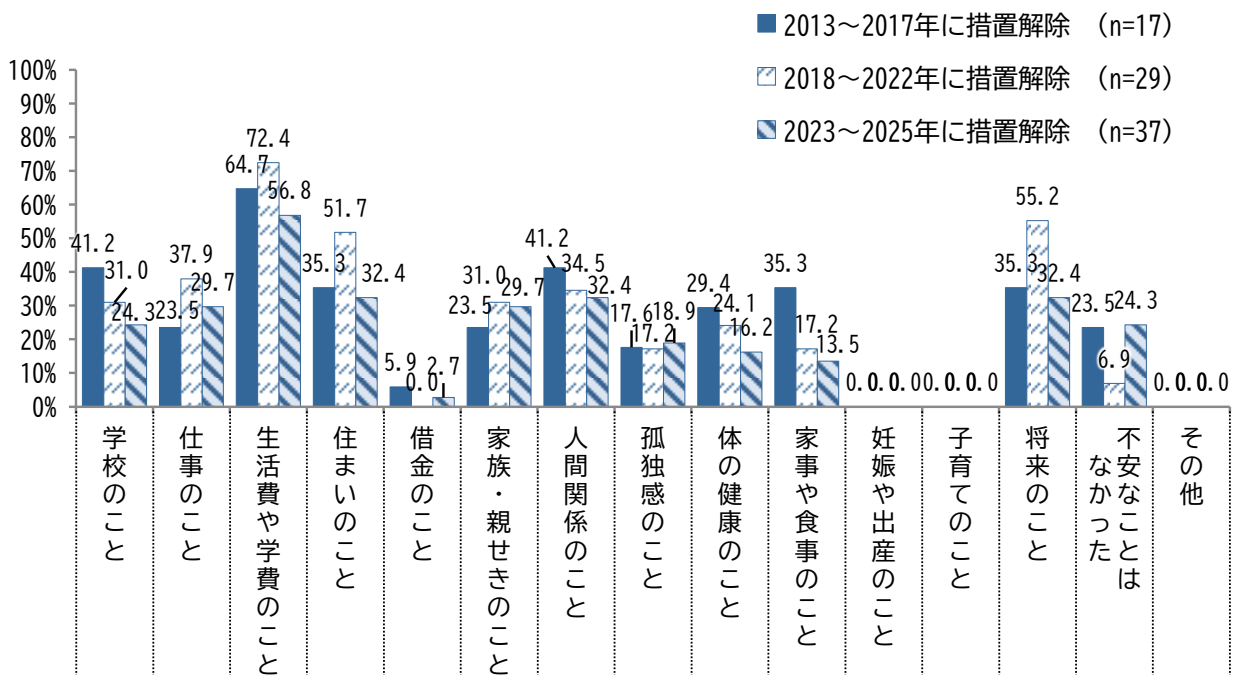


- 現在、施設や里親家庭等で生活している人が退所にあたって不安に思うことでは「仕事のこと」が50.0%で最も多く、次いで「生活費や学費のこと」が46.4%、「人間関係のこと」が42.9%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人が退所する前後で不安だったことでは「生活費や学費のこと」が63.0%で最も多く、次いで「住まいのこと」「将来のこと」が39.1%、「人間関係のこと」が35.9%となっている。

II. 本人調査

措置解除年(3段階)別 施設・里親家庭等を退所する前後で不安だったこと
 【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】複数選択可

図表 1-47 措置解除年(3段階)別 施設・里親家庭等を退所する前後で不安だったこと
 【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】複数選択可



- ▶ 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人について、措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「生活費や学費のこと」が64.7%で最も多く、次いで「学校のこと」「人間関係のこと」が41.2%、「住まいのこと」「家事や食事のこと」「将来のこと」が35.3%となっている。
- ▶ 2018～2022年に措置解除された人では「生活費や学費のこと」が72.4%で最も多く、次いで「将来のこと」が55.2%、「住まいのこと」が51.7%となっている。
- ▶ 2023～2025年に措置解除された人では「生活費や学費のこと」が56.8%で最も多く、次いで「住まいのこと」「人間関係のこと」「将来のこと」が32.4%、「仕事のこと」「家族・親せきのこと」が29.7%となっている。

問 21-2(問 19-2) 施設・里親家庭を退所する前後での不安(記述式)

施設・里親家庭等を退所する前後で不安だったことの内容(記述式)

【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人が施設・里親家庭等を退所する前後で不安に思っていた内容は以下のようになっている。

金銭面について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 貯金はあるが学費でほとんどを消費するため、経済的不安がある。 ・ バイトに週 4～5 日入っているから自炊する暇がなく外食の出費がひどいこと、体調が悪くなった時の病院代が高くて行きづらいこと。 ・ 1 人で生活していくにはどれだけのお金が必要なのか、それに加えて計画的に使えるかどうか。 ・ お金の管理に苦手意識があったから、自分で考えながらやりくりができるか不安だった。 ・ 今までわからないことがあれば施設のスタッフにすぐに聞きに行くことができる、金銭面で不安があれば相談ができる環境があったのに、一人暮らしをして施設との関わりが急に減ることで、自分で問題と向き合わなければならないという不安や、学費を本当に卒業する最後まで支払うことができるのかという不安があった。 ・ 貯金が少ない中で、どうやりくりしていけばいいか不安だった。 ・ 実際に貯金が底をついてバイト先の交通費もない状態になった。 ・ とにかくお金が一番大変だった。 ・ 自分の場合は施設を退所してから何もわからない状況で一人暮らしとなったので、月々何を支払えばいいのかや一人暮らしする上で必要な物々が分からなかったため、考えさせられた。 ・ 奨学金制度があったが専門学校に通いながら生活費を稼ぐためにはどうすればいいのか ・ 物価が上がっているの、なかなか給料が上がらない中でどうやって暮らすのか。将来的にどうなるのか。 ・ 学費と生活の両立も上手くできるのか不安だった。 ・ 退所後進学や賃貸アパートに住むのに金銭的な不安があった。 ・ バイトの収入がなくなってしまったらという不安。 ・ 生活面では、ある程度の生活費だけでやりくりできるか不安だった。 ・ お金の管理は、昔から衝動的に使う癖があったから、いざ一人暮らしとなった時に全部自分で出来るのかが不安だった。

II. 本人調査

生活(生活環境の変化等)について

- ・ 1人になるとすぐネガティブになることがあるので、1人で暮らしてからの不安も大きかった。
- ・ ちゃんと自立できるのか不安だった。
- ・ 学校を続ける上で、バイトにも手が回るか、バイトをしたら課題が出せないのではないか。
- ・ 滞納しないか、自分でお金を管理できるのか。
- ・ 自炊できるのか。
- ・ 漠然とした不安があった。
- ・ 一人でやっていけるのか不安だった。
- ・ 1人になって生活していけるのか。
- ・ 社会人としての生活や今後どうなっていくのか、想像もつかず目の前のことに不安はあった。
- ・ 後ろ盾が無く、高卒で将来が心配だった。
- ・ 一人暮らしでやっていけるか。
- ・ 公的な申請等ができるか。
- ・ もし何か分からないことや人生相談をする際、周りに相談できる人がいなかったのが悩んだ。
- ・ 何もかも不安だった。
- ・ 人と関わるのが苦手
- ・ グループホームの生活で少し不安なところはあった。

家族について

- ・ 家族との仲が曖昧で一人暮らしに反対されたまま一人暮らしを始めたので、家族とのこれからが一番不安だった。
- ・ 親との距離感は大丈夫か。
- ・ 自分以外の事では兄弟のこと。
- ・ 親と上手くいけなくなった時の、自分の生活。退職する時に他の子は一人暮らしの練習をしていたが、自分は親と暮らすからとその練習をしなかったのが、想像ができていなかった。
- ・ ずっと施設にいたが、施設の子だからといって賃貸契約を何度か断られ、親と急に暮らすことになったので不安だった。案の定、上手くいかず追い出され、19歳の頃には一人暮らしをしていた。
- ・ また親と一緒に暮らすことになり、今度は仲良く暮らしていけるのか
- ・ 親が干渉してこないか。
- ・ 親と上手く生活できるのか。
- ・ 本当は退所したくなく、親の都合で実家に戻ったため家庭環境が不安だった。
- ・ 親との関係が良好でなくその周りとの関わり合いに対して不安を抱いていた。
- ・ この先も親の問題で悩まされるのではないかと不安があった。
- ・ 親との面会について、兎相とのかかわりがなくなり、どうしたらいいか分からなかった。

健康について

- ・ 精神的にも身体的にも、健康でいられるのか。
- ・ 持病や病院の把握を全てしていけるのか。
- ・ 退所して3年後に病気が見つかり、頼れる場所がすぐに思いつかず、初めて真剣に自分のことを考えて、最悪死ぬ覚悟までした。何より愛猫の事、生きても後遺症の事すべて。

学校・職場について

- ・ 学校で上手くやれるのか、友達ができるか、辞めないか不安だった。
- ・ 高校進学で環境がガラッと変わるため不安があった。
- ・ 本当は看護師の学校に行きたかったが、学費は奨学金でどうにかなっても生活費が工面できず、諦めざるを得ないことに不安を感じていた。
- ・ 学校の勉強についていけるのか不安だった。
- ・ 入学して友達が作れるかどうか。

孤独感について

- ・ 交友関係が広いとは言えないため、毎日孤独感に耐える必要があり、それに自分の心がついてこられるか、いざという時に相談できる相手が見つかるかと言った不安
- ・ どうしようもない孤独感を抱えていた。施設とは良好な関係を築いていたが、うまくできていない自分を見せるのが恥ずかしくて、悩みを打ち明けられなかった。結局、姉にお金を借りて何とかした。
- ・ このままずっと働けないままなのか、怖い思いをして生きていけないといけないのか、どうしたら普通に生きられるのか。夜一人になった時にものすごく孤独感と不安に襲われどうしようも無い時もあり、どうしたら安心して眠れるのか。家族がもしできた時、自分も同じようにしてしまうのではないか。
- ・ 施設を出てすぐに相談できていた場所から違うところに行くので寂しさと不安があった。
- ・ 今でもとても不安が多く、頼れる人がそばにいないと寂しい時もある。

II. 本人調査

施設・里親家庭等を退所するにあたって不安なことの内容(記述式)

【現在、施設や里親家庭等で生活している人のみ】

- 現在、施設や里親家庭等で生活している人が施設・里親家庭等を退所するにあたって不安に思っている内容は以下のようになっている。

金銭面のこと

- ・ アルバイトをしながら学校に通えるか、金銭面での不安が大きい。
- ・ 金がない
- ・ 金のこと。
- ・ お金の管理を自分でちゃんとできるか。
- ・ 好きなものを買すぎてしまわないか。
- ・ 学費と生活費は特に不安。

生活のこと(生活環境の変化等)

- ・ 施設を出たあとも「ひとりじゃないよ」と言われることがあるが、施設を出たら施設にいるときよりも、ひとりでしないといけないことがたくさん増えると思う。
- ・ 頼れる人がいない。不安な時に支えてくれる人がいない。我慢したり、抱え込んでしまう。
- ・ 一人で生きられるかどうか。
- ・ 施設を出たあとも「ひとりじゃないよ」と言われることがあるが、施設を出たら施設にいるときよりも、ひとりでしないといけないことがたくさん増えると思う。
- ・ 物心ついた頃から施設にいたので、それ以外の生活を知らないためうまく生活できるかが不安。
- ・ 1人暮らしも不安。自分は、夜電気を消して寝られなかったり、恐怖症が多いので本当に不安。でもそのことを職員には伝えていないので、より怖い。
- ・ 一人暮らしでやっていけるか。

家族のこと

- ・ 親との交流のことや今は何かあったら相談できる人がすぐ近くにいるが、それがなくなってしまうことなどが心配。
- ・ 親が就職活動に横槍を入れてくること。

健康のこと

- ・ 心の不調で病院に通っていて、施設を出たときにセルフネグレクトで孤独死しそう。
- ・ ストレスが溜まって、体への負担も増えてしまう。

学校・就職のこと

- ・ 専門学校か就職かで迷っている
- ・ 就職ならどのような仕事に就くのか
- ・ 専門学校なら奨学金の返済などを考えて生活していくことが不安
- ・ ちゃんとしたところに就職できるのか。
- ・ 仕事で上手くやっていけるか、仕事先での人間関係が不安。

II. 本人調査

問 22(問 20) 退所に向けた施設・里親家庭等からのサポート

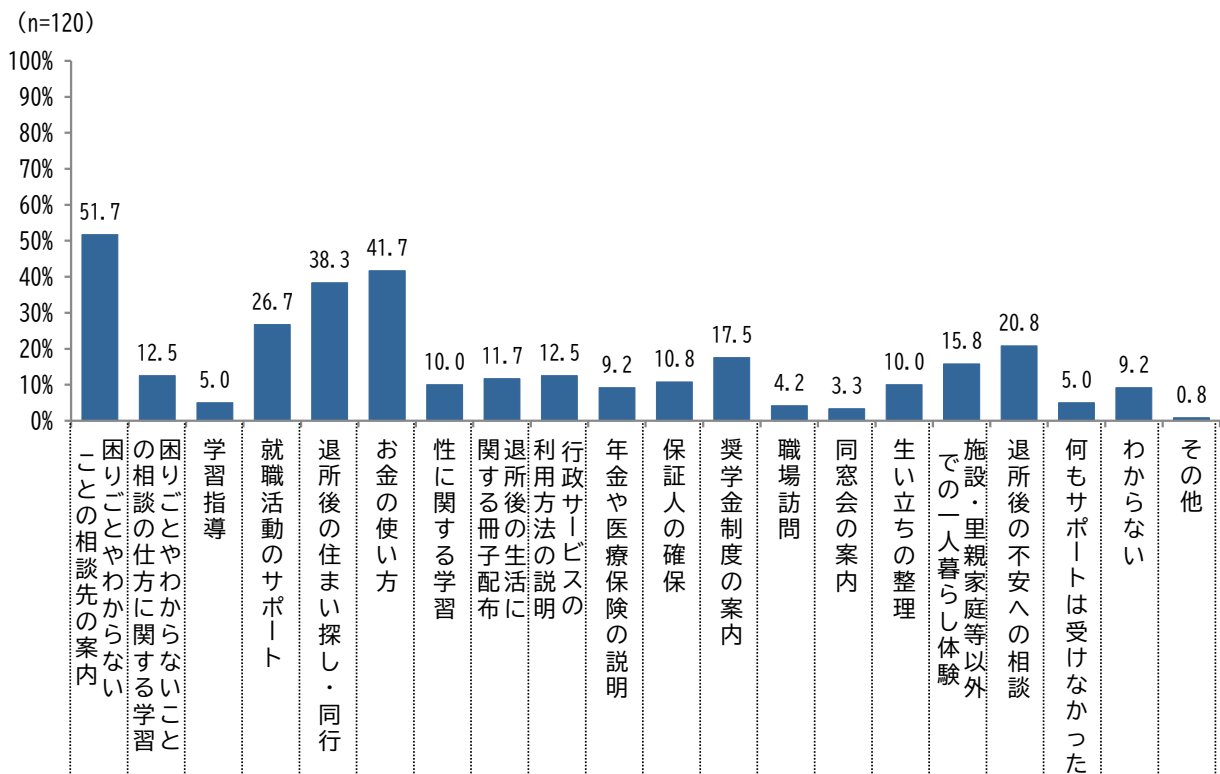
退所に向けて施設・里親家庭等から受けたサポート

(現在、施設や里親家庭等で生活している人:受けない・受けているサポート)複数選択可

「困りごとやわからないことの相談先の案内」が 51.7%で最多
次いで「お金の使い方」が 41.7%と続く

図表 1-48 退所に向けて施設・里親家庭等から受けたサポート

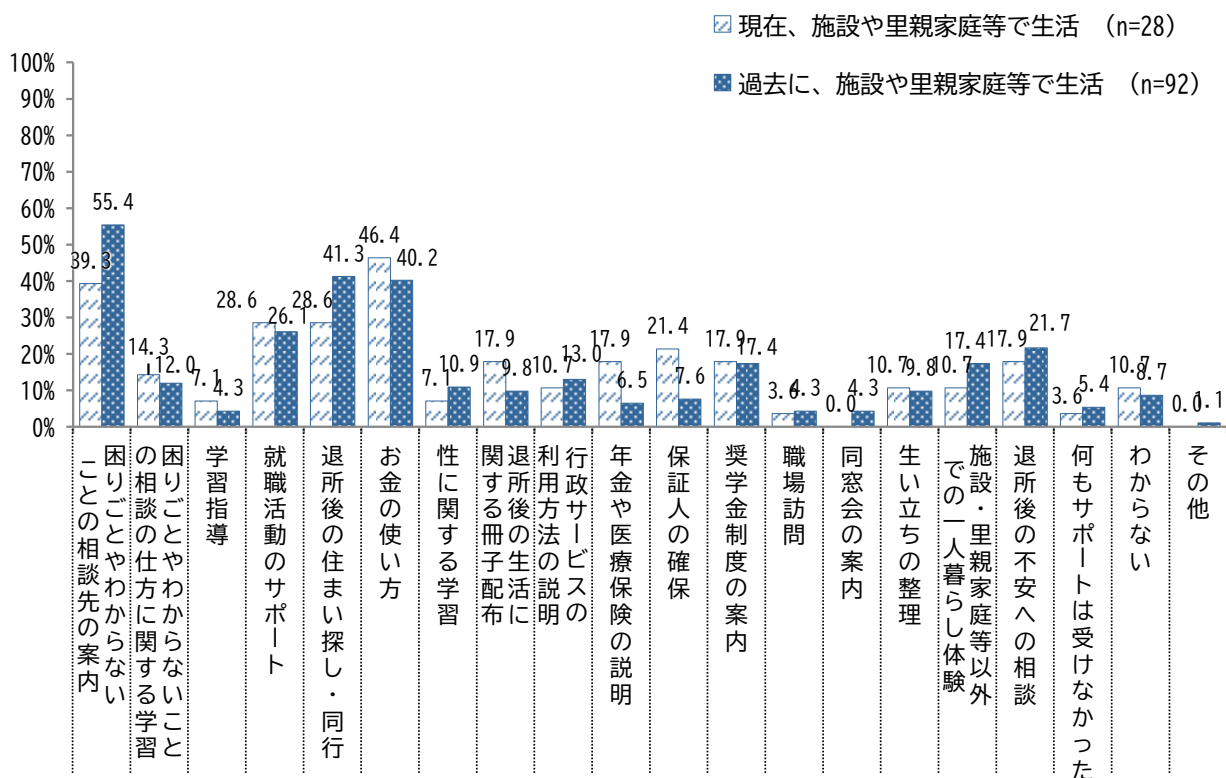
(現在、施設や里親家庭等で生活している人:受けない・受けているサポート)複数選択可



- 回答者全体では、「困りごとやわからないことの相談先の案内」が 51.7%で最も多く、次いで「お金の使い方」が 41.7%、「退所後の住まい探し・同行」が 38.3%となっている。

現在の住まいの状況別 退所に向けて施設・里親家庭等から受けたサポート
 (現在、施設や里親家庭等で生活している人:受きたい・受けているサポート)複数選択可

図表 1-49 現在の住まいの状況別 退所に向けて施設・里親家庭等から受けたサポート
 (現在、施設や里親家庭等で生活している人:受きたい・受けているサポート)複数選択可



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人が退所に向けて施設・里親家庭等から受きたい・受けているサポートでは「お金の使い方」が 46.4%で最も多く、次いで「困りごとやわからないことの相談先の案内」が 39.3%、「就職活動のサポート」「退所後の住まい探し・同行」が 28.6%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人が退所に向けて施設・里親家庭等から受けたサポートでは「困りごとやわからないことの相談先の案内」が 55.4%で最も多く、次いで「退所後の住まい探し・同行」が 41.3%、「お金の使い方」が 40.2%となっている。

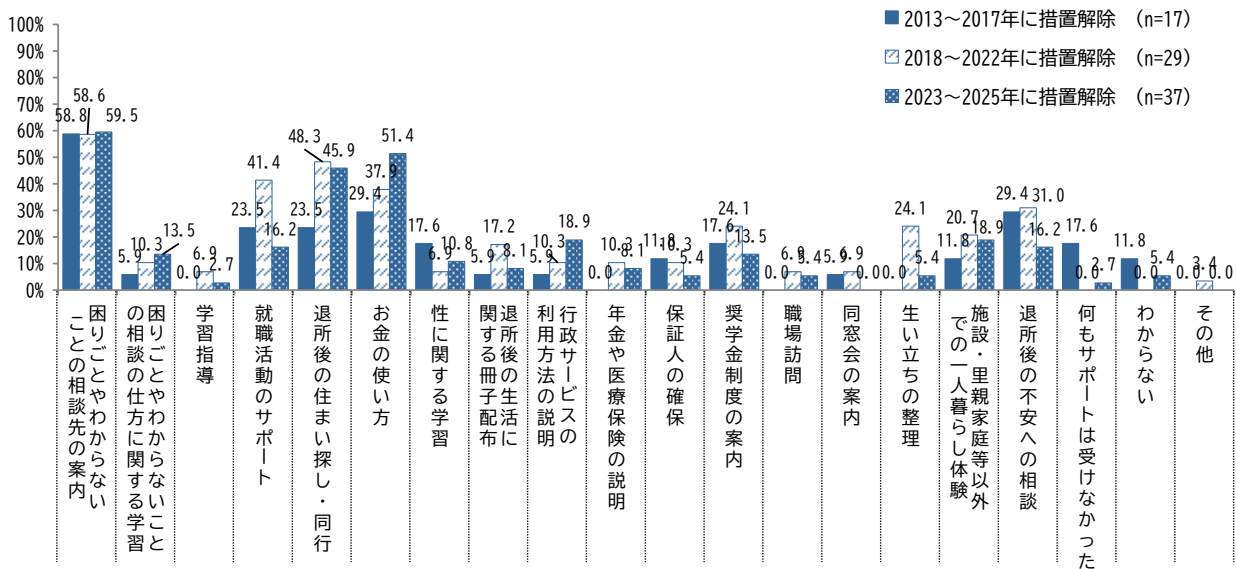
II. 本人調査

措置解除年(3段階)別 退所に向けて施設・里親家庭等から受けたサポート

【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】複数選択可

図表 1-50 措置解除年(3段階)別 退所に向けて施設・里親家庭等から受けたサポート

【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】複数選択可

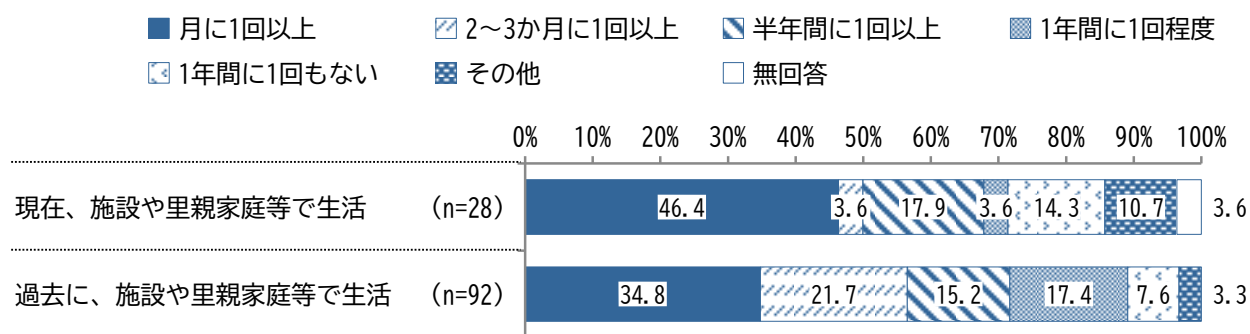


- ▶ 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人について、措置解除年(3段階)で退所に向けて施設・里親家庭等から受けたサポートをみると、2013～2017年に措置解除された人では「困りごとやわからないことの相談先の案内」が58.8%で最も多く、次いで「お金の使い方」「退所後の不安への相談」が29.4%、「就職活動のサポート」「退所後の住まい探し・同行」が23.5%となっている。
- ▶ 2018～2022年に措置解除された人では「困りごとやわからないことの相談先の案内」が58.6%で最も多く、次いで「退所後の住まい探し・同行」が48.3%、「就職活動のサポート」が41.4%となっている。
- ▶ 2023～2025年に措置解除された人では「困りごとやわからないことの相談先の案内」が59.5%で最も多く、次いで「お金の使い方」が51.4%、「退所後の住まい探し・同行」が45.9%となっている。
- ▶ 措置解除年が最近になるほど、「お金の使い方」のサポートを受けた回答者の割合が高い傾向にある。

問 23(問 21) 施設・里親家庭等との連絡頻度

この1年間で、施設・里親家庭等と連絡をとった頻度(最も連絡を取っている施設・里親家庭等)
(現在、施設や里親家庭等で生活している人:希望する連絡頻度)

図表 1-51 この1年間で、施設・里親家庭等と連絡をとった頻度(最も連絡を取っている施設・里親家庭等)(現在、施設や里親家庭等で生活している人:希望する連絡頻度)

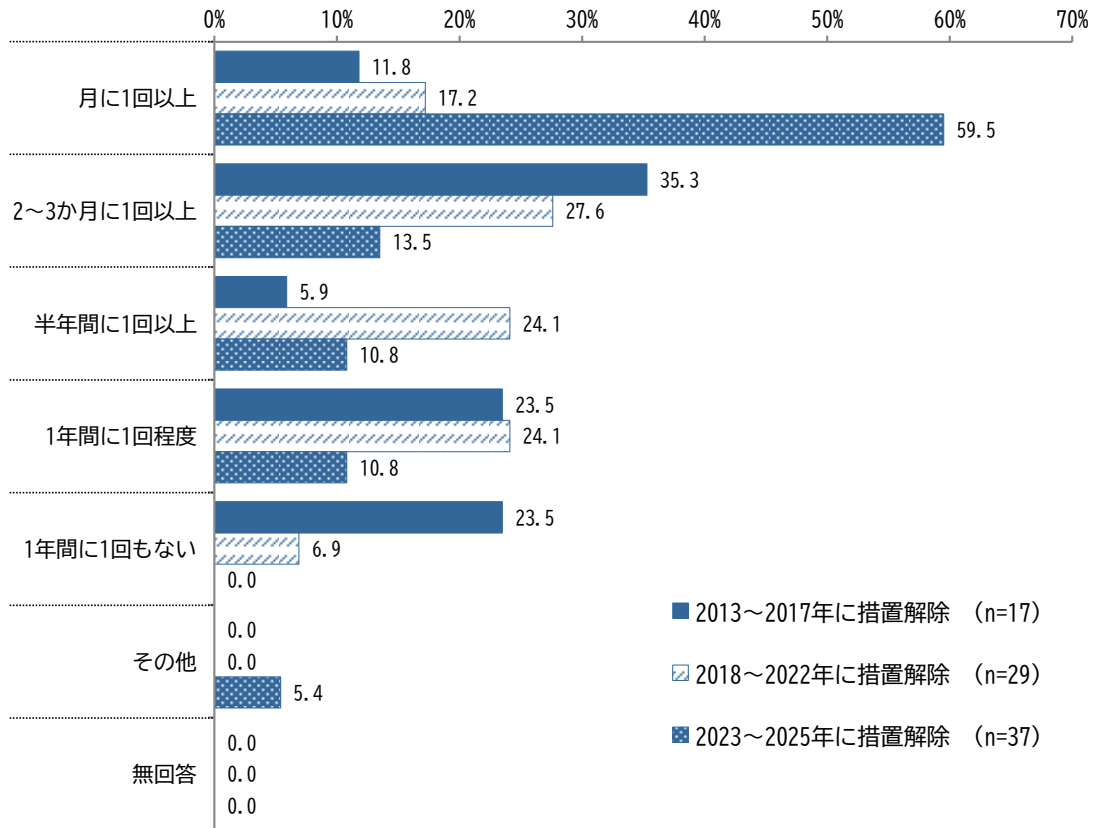


- 現在、施設や里親家庭等で生活している人の希望する連絡頻度は「月に1回以上」が46.4%で最も多く、次いで「半年間に1回以上」が17.9%、「1年間に1回もない」が14.3%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のこの1年間の連絡頻度は「月に1回以上」が34.8%で最も多く、次いで「2~3か月に1回以上」が21.7%、「1年間に1回程度」が17.4%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では、「必要に応じて連絡」「連絡はたまに受けているが返信ができていない」「縁組をした里親家庭に住んでいる」(それぞれ1件)があった。
- 「その他」の具体的な記述として、現在、施設や里親家庭等で生活している人では、「必要がある時」(2件)、「わからない」(1件)があった。

II. 本人調査

この1年間で、施設・里親家庭等と連絡をとった頻度(最も連絡を取っている施設・里親家庭等)
【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

図表 1-52 この1年間で、施設・里親家庭等と連絡をとった頻度(最も連絡を取っている施設・里親家庭等)【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

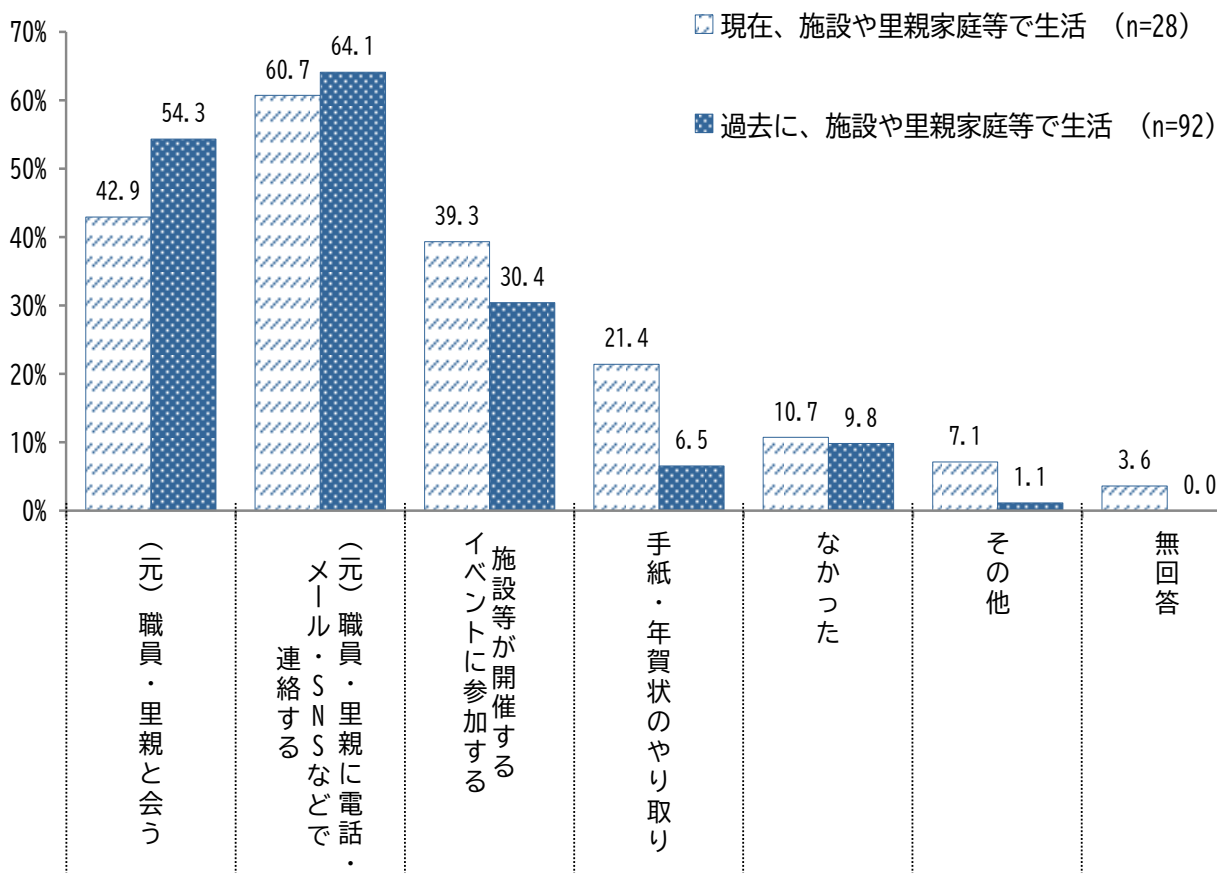


- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「2～3か月に1回以上」が35.3%で最も多く、次いで「1年間に1回程度」「1年間に1回もない」が23.5%、「月に1回以上」が11.8%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「2～3か月に1回以上」が27.6%で最も多く、次いで「半年間に1回以上」「1年間に1回程度」が24.1%、「月に1回以上」が17.2%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「月に1回以上」が59.5%、「2～3か月に1回以上」が13.5%となっている。

問 24(問 22) 施設・里親家庭等との連絡機会……………

現在の住まいの状況別 この1年間での、施設・里親家庭等との連絡機会
 (現在、施設や里親家庭等で生活している人:退所後に希望する連絡機会)複数選択可

図表 1-53 現在の住まいの状況別 この1年間での、施設・里親家庭等との連絡機会
 (現在、施設や里親家庭等で生活している人:退所後に希望する連絡機会)複数選択可



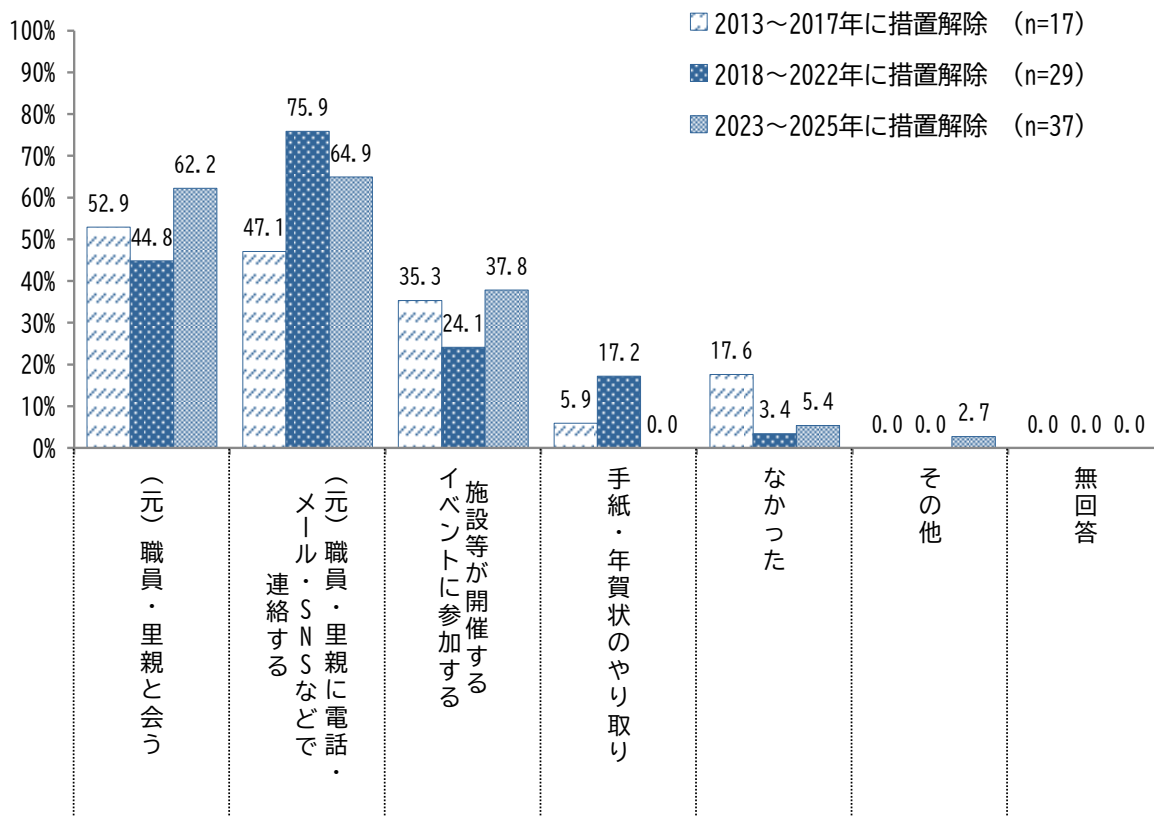
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人が退所後に希望する連絡機会は「(元)職員・里親に電話・メール・SNSなどで連絡する」が60.7%で最も多く、次いで「(元)職員・里親と会う」が42.9%、「施設等が開催するイベントに参加する」が39.3%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のこの1年間での連絡機会は「(元)職員・里親に電話・メール・SNSなどで連絡する」が64.1%で最も多く、次いで「(元)職員・里親と会う」が54.3%、「施設等が開催するイベントに参加する」が30.4%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では、「相談を兼ねたお食事会」があった。

II. 本人調査

- ▶ 「その他」の具体的な記述として、現在、施設や里親家庭等で生活している人では、「特になくて良い」「施設で暮らしていたことがコンプレックスだから職員と関わりたくない」があった。

措置解除年(3段階)別 この1年間での、施設・里親家庭等との連絡機会
【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】複数選択可

図表 1-54 措置解除年(3段階)別 この1年間での、施設・里親家庭等との連絡機会
【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】複数選択可



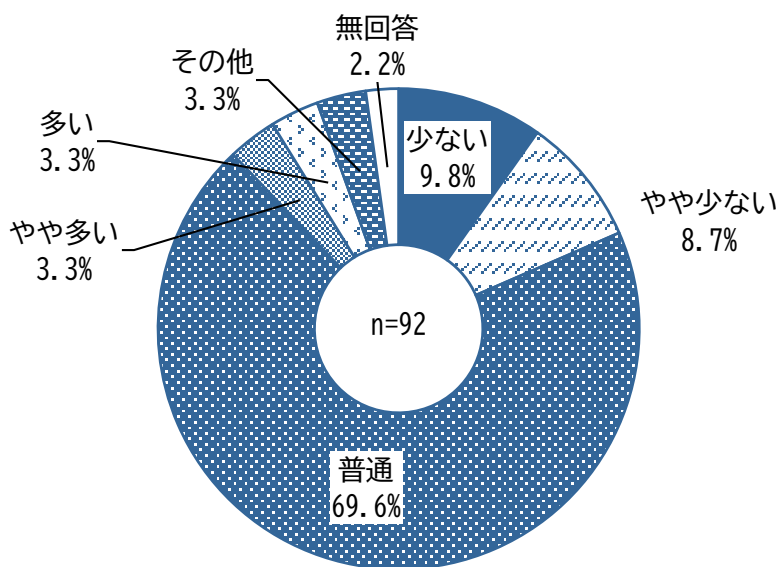
- ▶ 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「(元)職員・里親と会う」が52.9%で最も多く、次いで「(元)職員・里親に電話・メール・SNSなどで連絡する」が47.1%、「施設等が開催するイベントに参加する」が35.3%となっている。
- ▶ 2018～2022年に措置解除された人では「(元)職員・里親に電話・メール・SNSなどで連絡する」が75.9%で最も多く、次いで「(元)職員・里親と会う」が44.8%、「施設等が開催するイベントに参加する」が24.1%となっている。
- ▶ 2023～2025年に措置解除された人では「(元)職員・里親に電話・メール・SNSなどで連絡する」が64.9%、「(元)職員・里親と会う」が62.2%となっている。

問 25-1 施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方

施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

「普通」が 69.6%で最多
 「少ない」「やや少ない」を合わせると 18.5%に

図表 1-55 施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方
 【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

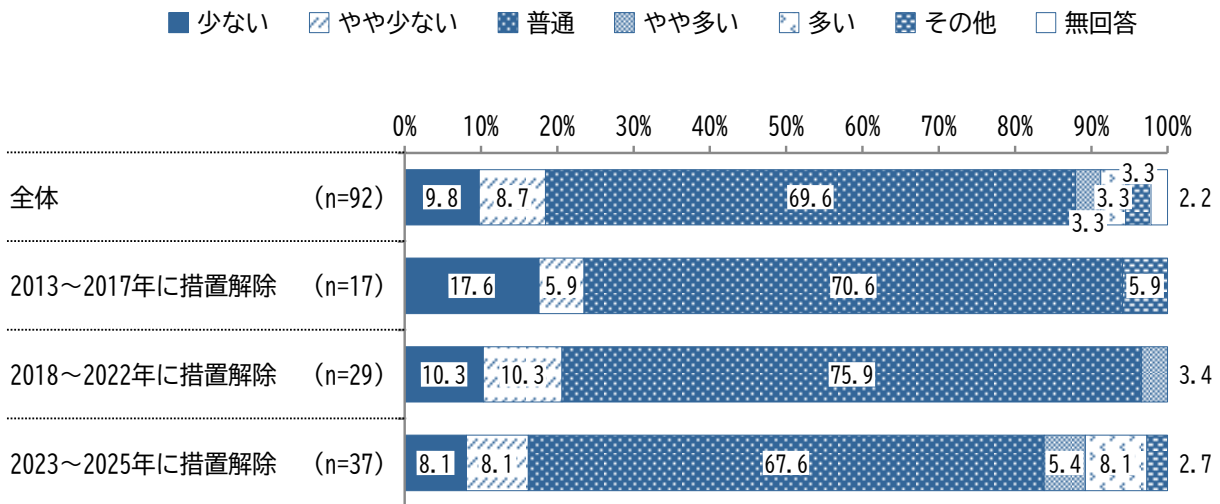


- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人全体では、「普通」が 69.6%で最も多く、次いで「少ない」が 9.8%、「やや少ない」が 8.7%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「特に何も思わない」(3 件)があった。

II. 本人調査

措置解除年(3段階)別 施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方
 【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

図表 1-56 措置解除年(3段階)別 施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方
 【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】



- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「普通」が70.6%、「少ない」が17.6%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「普通」が75.9%、「少ない」「やや少ない」が10.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「普通」が67.6%で最も多く、次いで「少ない」「やや少ない」「多い」が8.1%、「やや多い」が5.4%となっている。

問 25-2 施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方・やりとりの方法 ……………

施設・里親家庭等との連絡頻度に対する感じ方・やりとりの方法(記述式)

【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人が施設・里親家庭等との連絡頻度について感じていることや、どのようなやりとりの方法がよいと考えているかの内容は、以下のようになっている。

LINE や SMS などのコミュニケーションツールでのやりとりについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ LINE とかメールがよい。 ・ お金の管理は施設にお願いしているため、欲しいものの相談などでほぼ毎日 LINE で連絡している。 ・ やり取りする必要がないが、するのなら LINE でのやり取りが良い。 ・ 施設から退所した人に、最低でも 2～3 ヶ月に 1 回は連絡をするべき。本人が自分から連絡をしなくても、施設から連絡がきたら嬉しい。 ・ 連絡の方法としては、SMS やメール、LINE が良い。 ・ Instagram で職員と繋がっている人も多く、そういった軽い繋がりだけでもあるとよい。 ・ LINE で心配事はないかと声をかけてくれる。 ・ LINE や SMS または電話で話すのがよい。 ・ 何かあれば自分から相談できる職員に相談をするため、電話や LINE など連絡ツールがあれば相談しやすい。 ・ 自分自身、仕事・子育てで忙しいからなかなか連絡が返しづらいので、月1くらいあると「忘れていてくれていたんだー」と嬉しくなる。 ・ 簡単に会いに行ける距離ではないので、月に 1 回くらいの生存確認があれば、お互いに不安はないのではないか。 ・ 距離的な問題を考えると、電話、LINE、SMS もよい。 ・ 施設とは、電話や LINE でのやり取りが良い。 ・ 電話だと全員が出るわけではない。

電話や対面でのかわりについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 番は直接会うこと。 ・ 月1回くらいの頻度で夜ご飯を一緒に食べられたり、軽く話し合いができるイベントがあると少し気持ちも楽になったり、それまで頑張ろうと自分で自分の心を押してあげられる気がする。 ・ 年に1回など施設のイベントやお祭りなどで顔を合わせるくらいでちゃんとここにも居場所があったんだと安心できる。 ・ 辛いと相談すると電話でも対応してくれるのは本当にありがたい。 ・ 電話だと全員が出るわけではない。

II. 本人調査

現在のかかわりについての肯定的な意見
<ul style="list-style-type: none">・ 近すぎず、遠くなく連絡取れている。・ こちらを気にかけてくれて、連絡をくれるからありがたい。・ 特に干渉なくていいので、お祝い事の連絡のみで十分嬉しい。・ 退所して何年も経っているのに気にかけてくれるのはありがたい。・ 頻繁に連絡は取っていないが、繋がりを感じる程度の関わりがちょうどよい。・ これからもこの関係を継続したい。・ 保証人なども請け負ってくれて、退職後に親と折り合いがうまくいかなくなって一人になってもサポートしてくれたので、孤独感などは感じずに安心している。・ 過干渉になりすぎず定期的に連絡がくるだけでも安心する。・ 回数に関してはあまり気にしていない。・ 一般的に見ると少ないが、私は十分だと思っている。

現在のかかわりの不十分な点についての意見
<ul style="list-style-type: none">・ 施設でたくさん支えられて過ごした期間が少し当たり前になってしまっていた部分もあったので、急な1人での生活は何もかも一からで、孤独感や不安感から毎日1時間でも電話できたらと思うことが多く、今でもよく思う。

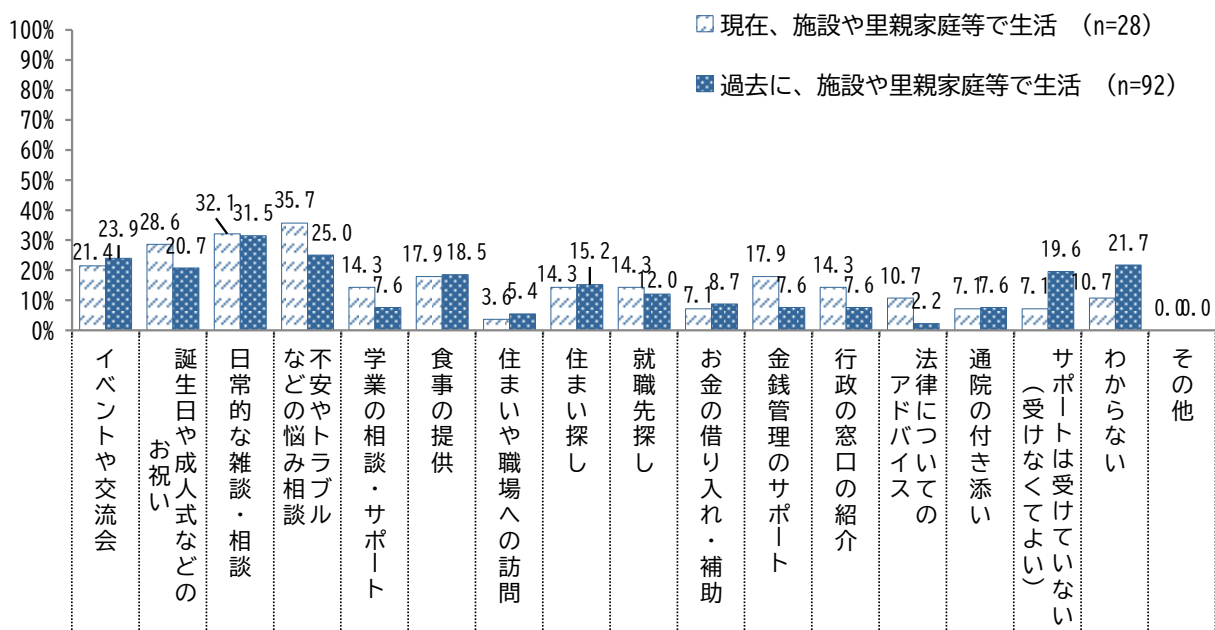
やりとりする内容
<ul style="list-style-type: none">・ 今の仕事や生活がどうかなどを話すことがある。・ 誕生日やイベントのお知らせなど、手紙などで知らせてくれる。・ LINE で他愛ない話をすることが多い。

その他
<ul style="list-style-type: none">・ 未成年か親がいるのかにもよるが、元施設職員との関係性が良くても大抵は自分から連絡はしづらい。・ 施設の人と話すことがないので、特に多いや少ないとは感じなかった。・ これまで通り、職員の負担にならないように、自分に合わせた連絡頻度、声掛けが良い。・ 自分自身が施設に訪問すること自体が迷惑だと考えているため、よく分からない。・ 特にないが、定期的に連絡をくれたら嬉しいが、こちらから連絡もできるので問題はない。

問 26(問 23) 施設・里親家庭等やあすなろ、行政からの退所後のサポート……………

退所した施設・里親家庭等やあすなろ、行政から退所後に受けたサポート
 (現在、施設や里親家庭等で生活している人:受けたサポート)複数選択可

図表 1-57 退所した施設・里親家庭等やあすなろ、行政から退所後に受けたサポート
 (現在、施設や里親家庭等で生活している人:受けたサポート)複数選択可



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人が退所後に受けたサポートは「不安やトラブルなどの悩み相談」が 35.7%で最も多く、次いで「日常的な雑談・相談」が 32.1%、「誕生日や成人式などのお祝い」が 28.6%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人が退所後に受けたサポートは「日常的な雑談・相談」が 31.5%で最も多く、次いで「不安やトラブルなどの悩み相談」が 25.0%、「イベントや交流会」が 23.9%となっている。

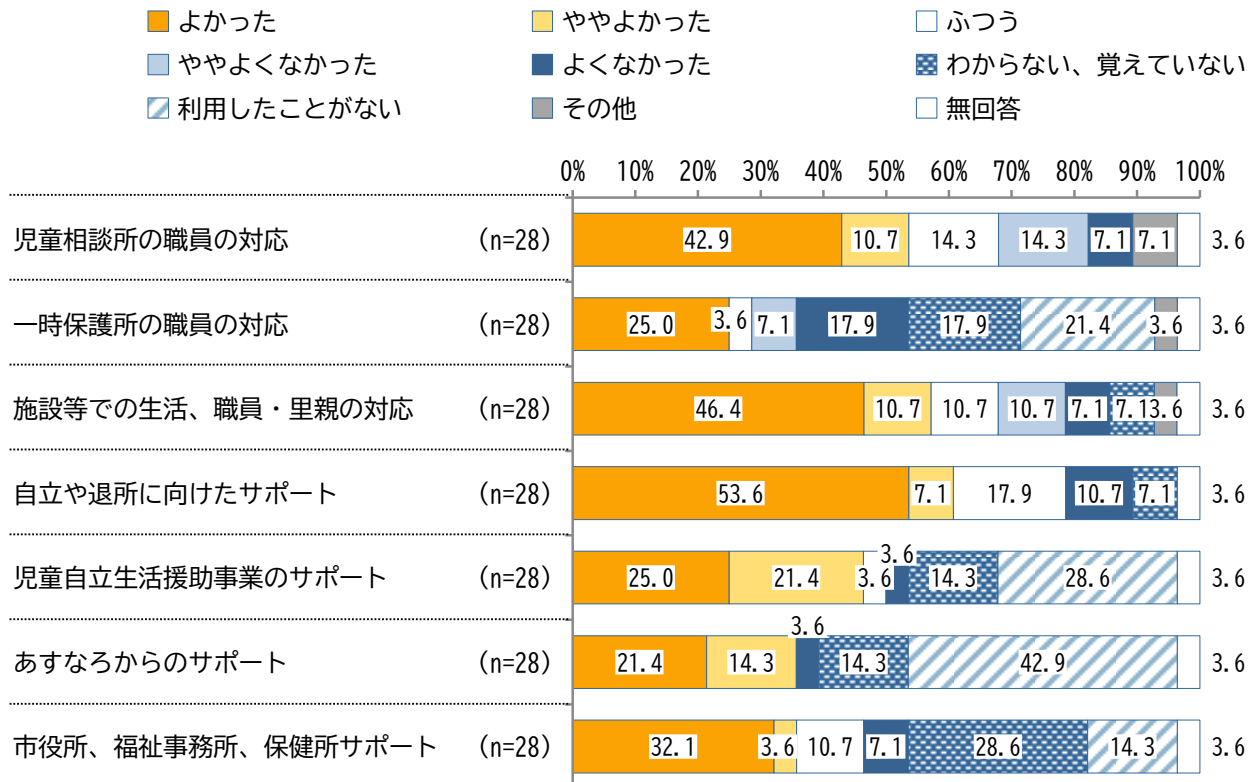
II. 本人調査

7. 施設・里親家庭等での生活から現在までの対応・サポートに対する評価

問 27-1～8(問 24-1～7) 施設・里親家庭等での生活から現在までを振り返っての評価

施設・里親家庭等で生活をはじめたときから現在までを振り返っての評価
【現在、施設や里親家庭等で生活している人のみ】

図表 1-58 施設・里親家庭等で生活をはじめたときから現在までを振り返っての評価
【現在、施設や里親家庭等で生活している人のみ】

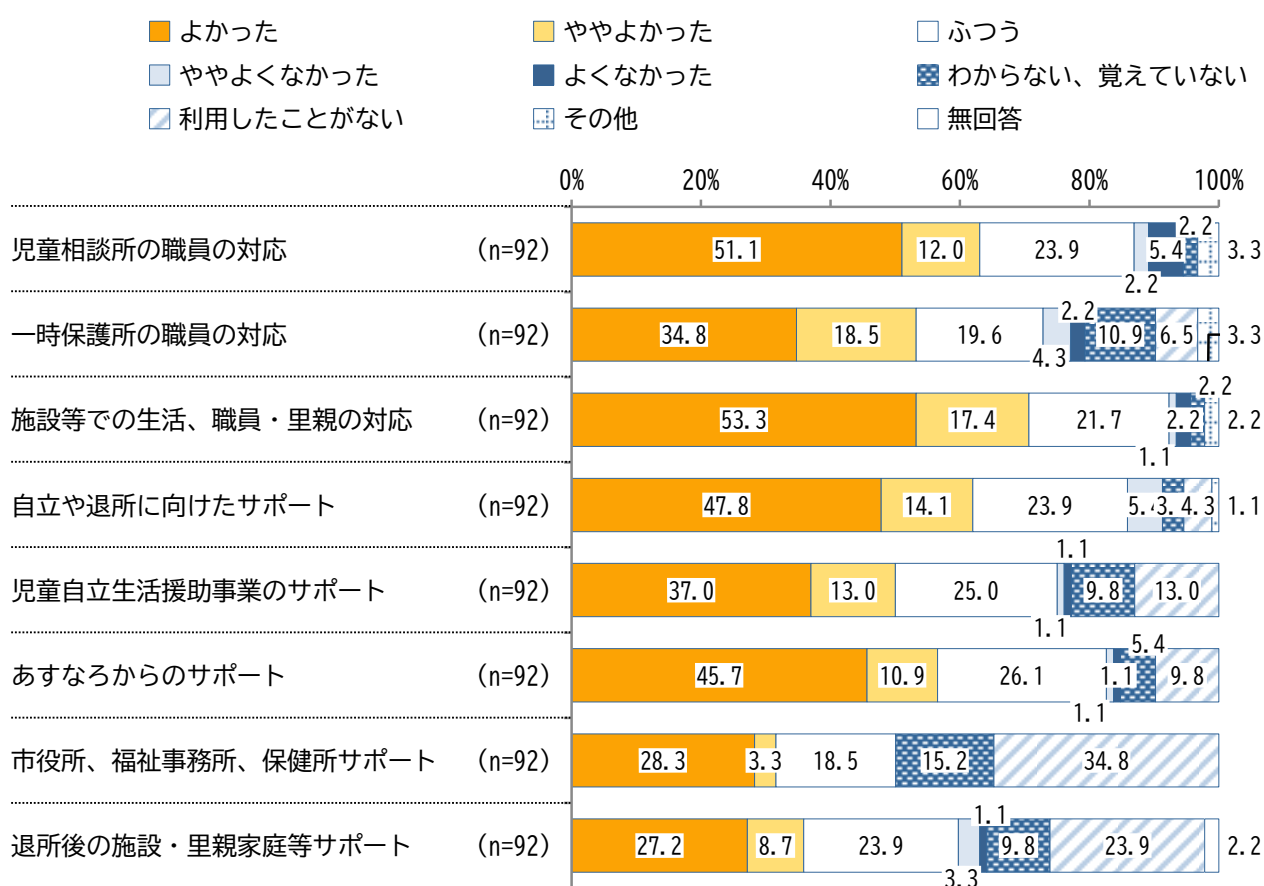


- 児童相談所の職員の対応に対する評価では、「よかった」が 42.9%で最も多く、次いで「ふつう」「ややよくなかった」が 14.3%、「ややよかった」が 10.7%となっている。
- 一時保護所の職員の対応に対する評価では、「よかった」が 25.0%で最も多く、次いで「利用したことがない」が 21.4%、「よくなかった」「わからない、覚えていない」が 17.9%となっている。
- 施設・里親家庭等での生活・施設の職員(里親)の対応に対する評価では、「よかった」が 46.4%で最も多く、次いで「ややよかった」「ふつう」「ややよくなかった」が 10.7%、「よくなかった」「わからない、覚えていない」が 7.1%となっている。
- 自立や退所に向けたサポートに対する評価では、「よかった」が 53.6%で最も多く、次いで「ふつう」が 17.9%、「よくなかった」が 10.7%となっている。
- 児童自立生活援助事業のサポートに対する評価では、「よかった」が 25.0%、「ややよかった」が 21.4%で、「利用したことがない」が 28.6%となっている。

- あすなろサポートステーションからのサポートに対する評価では、「よかった」が 21.4%、「ややよかった」「わからない、覚えていない」が 14.3%、「利用したことがない」が 42.9%となっている。
- 市役所、福祉事務所、保健所などからのサポートに対する評価では、「よかった」が 32.1%で最も多く、次いで「わからない、覚えていない」が 28.6%、「利用したことがない」が 14.3%となっている。

施設・里親家庭等で生活していたときから現在までを振り返っての評価
【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

図表 1-59 施設・里親家庭等で生活していたときから現在までを振り返っての評価
【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人】



- 児童相談所の職員の対応に対する評価では、「よかった」が 51.1%で最も多く、次いで「ふつう」が 23.9%、「ややよかった」が 12.0%となっている。
- 一時保護所の職員の対応に対する評価でみると、「よかった」が 34.8%で最も多く、次いで「ふつう」が 19.6%、「ややよかった」が 18.5%となっている。
- 施設・里親家庭等での生活・施設の職員(里親)の対応に対する評価でみると、「よかった」が 53.3%で最も多く、次いで「ふつう」が 21.7%、「ややよかった」が 17.4%となっている。

II. 本人調査

- 自立や退所に向けたサポートに対する評価でみると、「よかった」が 47.8%で最も多く、次いで「ふつう」が 23.9%、「ややよかった」が 14.1%となっている。
 - 児童自立生活援助事業のサポートに対する評価でみると、「よかった」が 37.0%で最も多く、次いで「ふつう」が 25.0%、「ややよかった」「利用したことがない」が 13.0%となっている。
 - あすなろサポートステーションからのサポートに対する評価でみると、「よかった」が 45.7%で最も多く、次いで「ふつう」が 26.1%、「ややよかった」が 10.9%となっている。
 - 市役所、福祉事務所、保健所などからのサポートに対する評価でみると、「よかった」が 28.3%、「ふつう」が 18.5%、「利用したことがない」が 34.8%、「わからない、覚えていない」が 15.2%となっている。
 - 退所後の施設・里親家庭等からのサポートに対する評価でみると、「よかった」が 27.2%で最も多く、次いで「ふつう」が 23.9%、「利用したことがない」が 23.9%、「わからない、覚えていない」が 9.8%となっている。
- 各評価で回答された「その他」の具体的な記述は、以下のようになっている。

問 27-1 児童相談所の職員の対応に対する評価
<ul style="list-style-type: none">・ 良かった人と悪かった人どちらもいた。・ 職員による。・ 児童相談所の人と話すのがあまり好きではないので、自分から積極的に話すことはなかった。優しく接してくれたが、質問責めがとても嫌だった。・ 対応がとにかく遅く、子どもより給料を重視している職員が多数いた。

問 27-2 一時保護所の職員の対応に対する評価
<ul style="list-style-type: none">・ ゴミ。暴力は見て見ぬ振り、暴力を受けている側が悪い、もしくは我慢を強いられていた。・ 利用している時は不自由に感じが、後から良かったと思った。・ 日記に家に帰りたいと書いたら書き直すように指示をされたり、嫌いな食べ物を 1 時間以上かけて食べるように強要された。・ みんなではないが、私に対しての対応が嫌だった記憶はある。

問 27-3 施設・里親家庭等での生活・施設の職員(里親)の対応に対する評価

- ・ 良かった人と悪かった人どちらもいた。
- ・ 職員さんによる。
- ・ 過去と比べると、今は良くなった方だが、過去にされてきた辛いことが積み重なり、一部ではあるが、その職員と会話することもほとんどなくなり、なるべくなら関わりたくないとも今も思っている。しかし、心から信用している職員もいるため、その人たちのおかげで今の自分がある。出会えたことにとても感謝している。

問 27-4 自立や退所に向けたサポートに対する評価

- ・ もっと色々な話を聞きたかった。例えば詐欺やアプリなどでの被害、水光熱の支払い方などなど。卒業生の話も聞けたらなお良かった。

※児童自立生活援助事業のサポートに対する評価、あすなろサポートステーションからのサポートに対する評価、市役所、福祉事務所、保健所などからのサポートに対する評価、退所後の施設・里親家庭等からのサポートに対する評価では、「その他」の回答がなかった。

II. 本人調査

問 27-9(問 24-9) 評価の理由・特に伝えたいこと……………

施設・里親家庭等で生活をはじめたときから現在までを振り返っての評価についての理由・特に伝えたいこと(記述式)【現在、施設や里親家庭等で生活している人のみ】

- 現在、施設や里親家庭等で生活している人の、施設・里親家庭等で生活をはじめたときから現在までを振り返っての評価についての理由や特に伝えたいことの内容は、以下のようになっている。

施設・里親家庭等で生活をはじめたときから現在までを振り返っての評価についての理由・特に伝えたいこと

【現在、施設や里親家庭等で生活している人のみ】

- ・ 小学校の時にいじめを受けていて、相談したのにも関わらず対応をしてくれなかった。今は高校に通っていていじめなどもなく、職員の対応も良いし、退所後のこともアドバイスを受けることができているので良い状態である。
- ・ 児童養護施設の職員という仕事上の立場で子どもと関わるのではなく、人として子どもたちと関わってほしい。子どもたちが言葉にして思いを伝えたり、表現できるように、否定的な言動は必ず避けて欲しい。もっと共感してほしい。子どもたち自身を尊重してほしい。大人が子どもたちを不安や辛い気持ちにさせてしまうと、自分に自信が無くなり、我慢の積み重ねで抱え込んでしまう。そうならないために、子どもたちの話に興味を持ち、会話を通して信頼関係を築いてほしい。ここで生活する子どもにとって、大人が頼れる存在であってほしい。安心できる居場所であってほしい。なので、職員は、寄り添う努力をしてほしい。信用できる大人が一人いるだけでも生きる価値があると思え、私はその一人に人生を救われた。そしてまた一人が私の心を変えてくれた。その二人に出会えて私は感謝しきれない。今まで生きてきた中で、一番最高の存在である。今施設で生活している子どもたちにもそうなって欲しいと願っている。
- ・ 児相の職員が、嘘の情報をもとに、私を今の環境から他の環境に移そうという劣悪な行動に出て自分の手柄を立てようとしており、とても不愉快かつ、迷惑極まりない行為であった。それなのに解雇させないのはおかしい。社会が甘やかすべきではない。対応をお願いします。

施設・里親家庭等で生活していたときから現在までを振り返っての評価についての理由・特に伝えたいこと(記述式)【過去に、施設や里親家庭等で生活していた人のみ】

- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人の、施設・里親家庭等で生活していたときから現在までを振り返っての評価についての理由や特に伝えたいことの内容は、以下のようになっている。

職員からのサポートについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時保護所の職員は一緒にいる時間が長いのもあり、すごく親しく気持ちよく対応してくれていたと今は思う。 ・ 自立援助ホームの職員もはじめをちゃんと教えてくれる人が多く、自分のためになったと今感謝している。 ・ 親身に向き合ってくれて、普通の大人と相談したりできるのは本当に良かった。 ・ 施設を出た後も職員が、自分に必要な支援が何か教えてくれていたので、市役所に行ってもこの支援を受けたいと伝えるとスムーズに支援内容の説明などを受けられて、説明が苦手な私は本当に助かっていた。

金銭面のサポートについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設向けの奨学金や生活費の奨学金があって、サポートの充実を感じた。 ・ やはりお金の援助なくして、一人でやっていくことは不可能だった。誰も助けてくれなかったら本当に死んでいたと思うと、細くとも関わり続けてくれた施設には感謝している。 ・ ただ、まだまだお金に困っている卒園生は多いと思うので、もっと支援を広げられたら、助かる人は多数いると思っている。 ・ どこからかは忘れたが、退職時に学費の支援としてお金を頂いたのは非常に助かった。

施設等に対する評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習やキャンプなど、いろいろと充実していたところが良かった。 ・ 施設で生活を送ると、毎日職員と顔を合わせるのが当たり前になっていると思う。しかし、退所をすると会える機会が減り、1年2年と連絡を取り合うことがなくなることも多々あるが、私にとっては施設で暮らした時間は、私の人生における基盤と言ってもいいほど大切な時間である。それは退所をして数年経った今でも変わらない。長期休暇や会える時は年に数回と減っているが、できるだけ顔を出すようにしている。連絡も頻度は多くはないが、取り合うようにしている。 ・ 施設、里親、あすなろサポートステーション、どれも良かった。

II. 本人調査

サポートがなかったことや残念だった経験

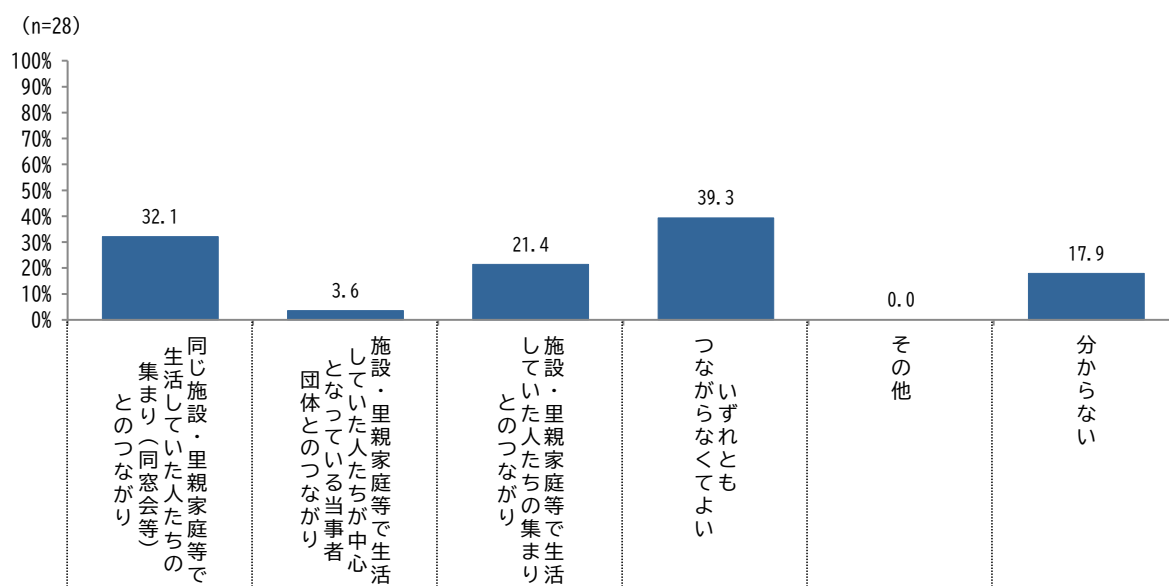
- ・ まず頼れる場所がどこなのかすら分からない状況で、そこに辿り着くまでに諦めたり時間がかかってしまった。特に書類、今まで払うことがなかったお金(税金や年金等)などどこにどうすれば良いのか全く分からなかった。
- ・ 退所後に関しては 自分1人でどうにかしないといけないものだと思っているので 施設の方からのサポート等は一切期待していなかったし 何もなかったので、良かったかどうかに関しては普通と回答した。
- ・ ただ、親に追い出された時に行く場所もなく相談もしたがどうすることもできないと言われ、当時は19歳で未成年だったので、あくまで「施設にいる子」のみの支援しかしないんだなと孤独を感じたことはあった。
- ・ サポートは利用したことがないが、退所前に家を借りる時も何もしてもらえなかった。お金は児童手当から出して借りられたが、保証人や賃貸管理会社等への手続きは、当時お付き合いしていた人のお母さんが全部やってくれて、施設の方は退所するまで高校のパンフレットを渡してくるだけだった。

問 28(問 25) 施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まり等とのつながり……………

施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まりや(当事者)団体とのつながり・関わりの希望状況
【現在、施設や里親家庭等で生活している人のみ】複数選択可

「いずれともつながらなくてよい」が 39.3%で最多、次いで「同じ施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まり(同窓会等)とのつながりを希望する」が 32.1%と続く

図表 1-60 施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まりや(当事者)団体とのつながり・関わりの希望状況【現在、施設や里親家庭等で生活している人のみ】複数選択可



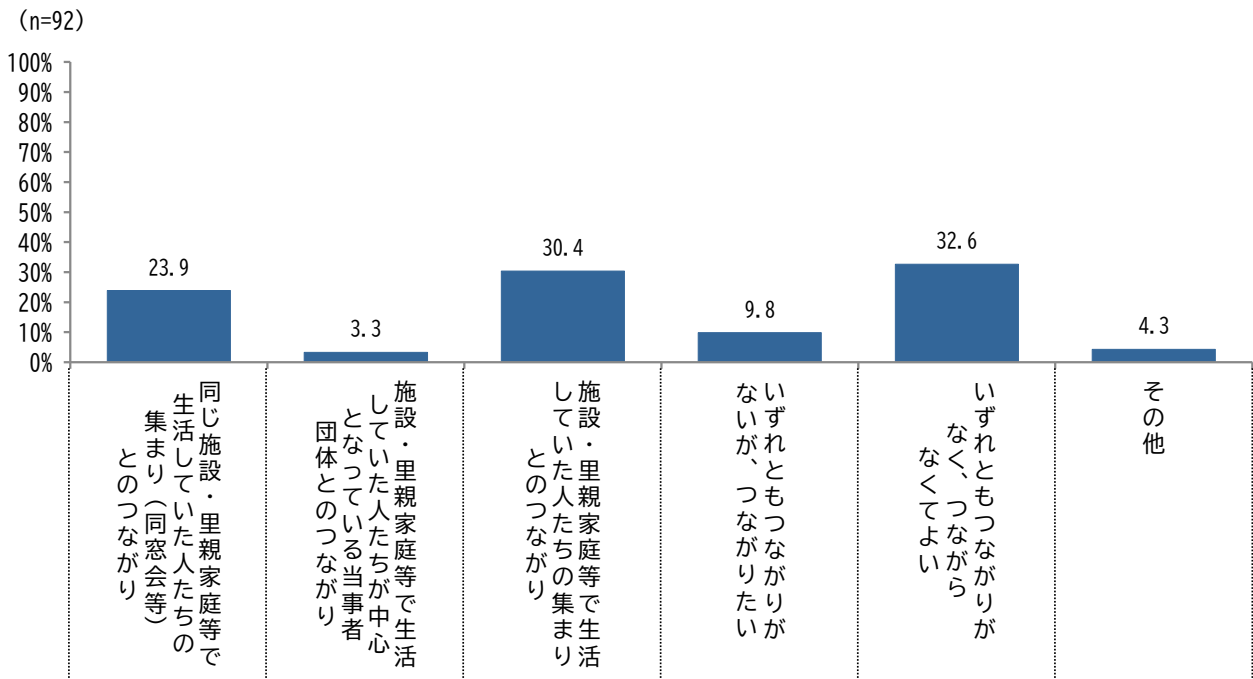
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人全体では、「いずれともつながらなくてよい」が 39.3%で最も多く、次いで「同じ施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まり(同窓会等)とのつながりを希望する」が 32.1%、「施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まりとのつながりを希望する」が 21.4%となっている。

II. 本人調査

施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まりや(当事者)団体とのつながり・関わりの状況
【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】複数選択可

「いずれともつながりがなく、つながらなくてよい」が 32.6%で最多
次いで「施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まりとつながりがある」が 30.4%と続く

図表 1-61 施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まりや(当事者)団体とのつながり・関わりの状況
【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】複数選択可



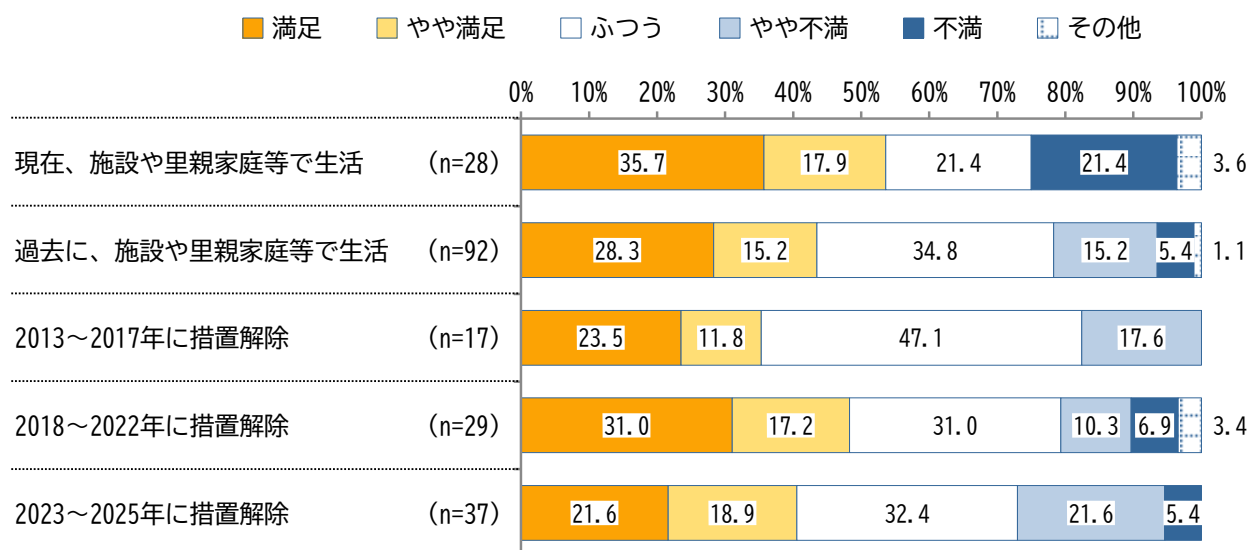
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人全体では、「いずれともつながりがなく、つながらなくてよい」が 32.6%で最も多く、次いで「施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まりとつながりがある」が 30.4%、「同じ施設・里親家庭等で生活していた人たちの集まり(同窓会等)とつながりがある」が 23.9%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「個人的に仲の良かった同じ施設の子とたまに遊びに行く」「SNS でたまに連絡をとる」「そういう機会があってもよいと思う」「特に考えていなかった」があった。

8. 回答者の現在の暮らしの満足度、困りごと・相談相手

問 29(問 26) 現在の住まいの状況別 現在の暮らしの満足度 ……………

現在の住まいの状況別 措置解除年(3段階)別 現在の暮らしの満足度

図表 1-62 現在の住まいの状況別 現在の暮らしの満足度



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「満足」が 35.7%、「ふつう」「不満」が 21.4%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「ふつう」が 34.8%で最も多く、次いで「満足」が 28.3%、「やや満足」「やや不満」が 15.2%となっている。
- 措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「ふつう」が 47.1%、「満足」が 23.5%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「満足」「ふつう」が 31.0%で最も多く、次いで「やや満足」が 17.2%、「やや不満」が 10.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「ふつう」が 32.4%で最も多く、次いで「満足」「やや不満」が 21.6%、「やや満足」が 18.9%となっている。
- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では、「その他」の具体的な記述として、「同じユニットに信頼できる人がいないので、なかなか話せない」があった。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では、「その他」の具体的な記述として、「満足しているがもう少し稼ぎたい」があった。

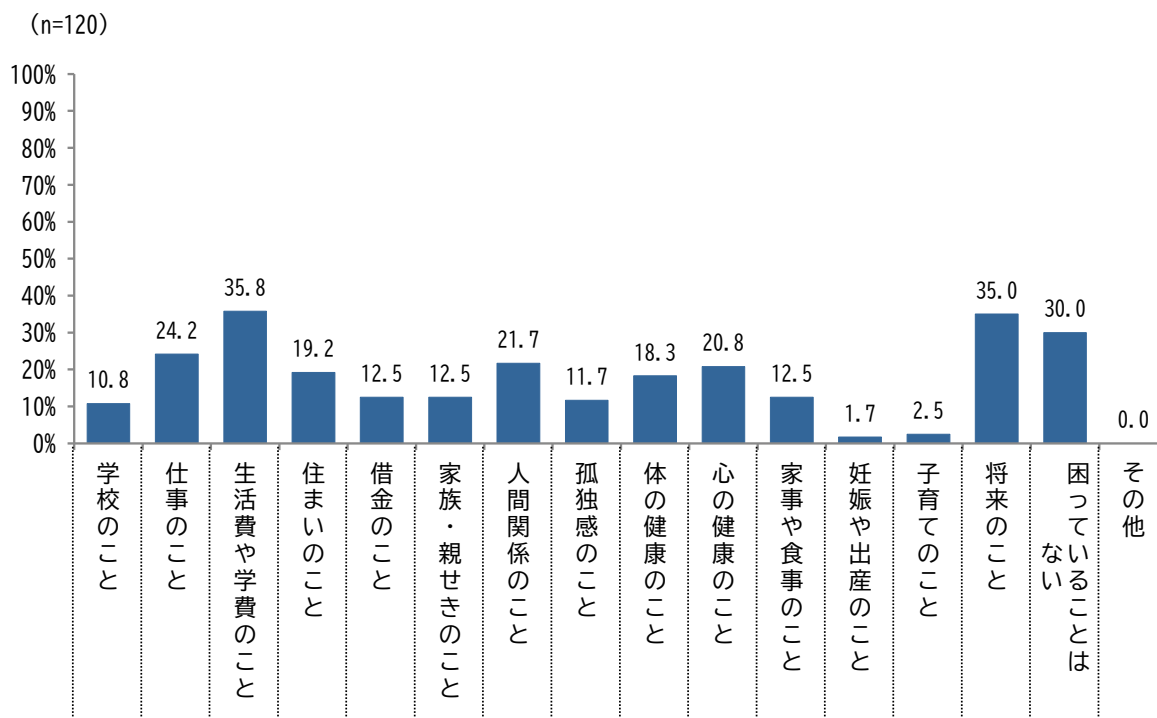
II. 本人調査

問 30-1(問 27-1) 現在の暮らしのなかで、困っていることや心配なこと……………

現在の暮らしのなかで、困っていることや心配なこと 複数回答可

「生活費や学費のこと」が 35.8%で最多、次いで「将来のこと」が 35.0%と続く

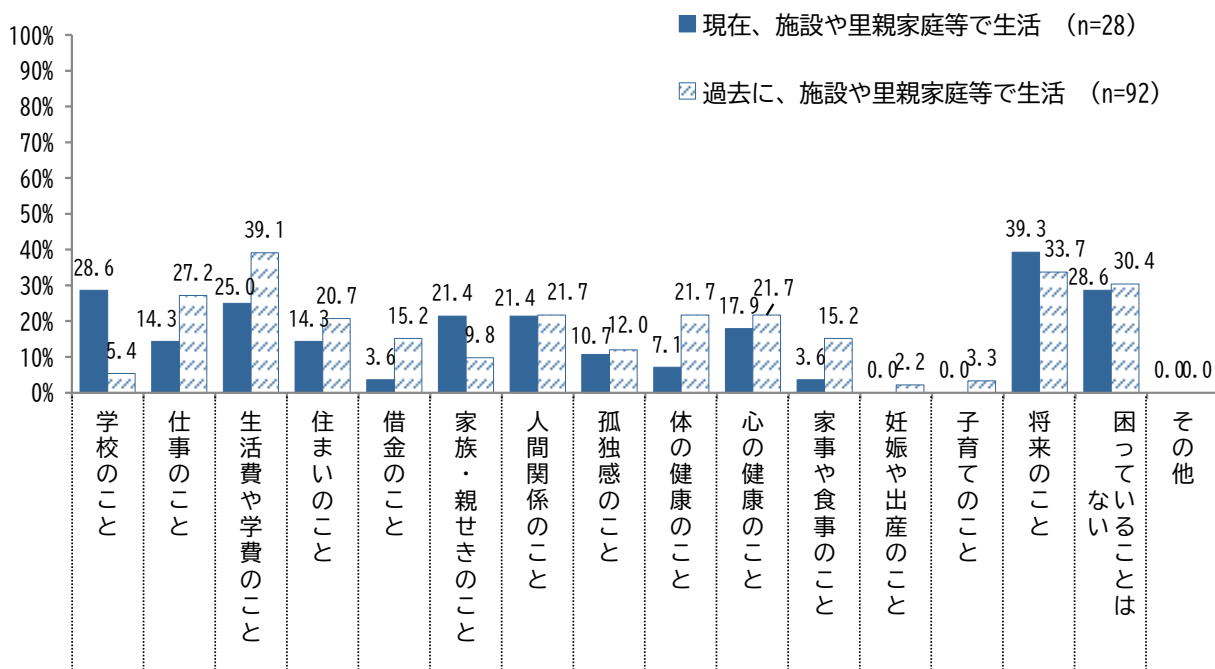
図表 1-63 現在の暮らしのなかで、困っていることや心配なこと 複数回答可



- 回答者全体では、「生活費や学費のこと」が 35.8%で最も多く、次いで「将来のこと」が 35.0%、「困っていることはない」が 30.0%となっている。

現在の住まいの状況別 現在の暮らしのなかで、困っていることや心配なこと 複数回答可

図表 1-64 現在の住まいの状況別 現在の暮らしのなかで、困っていることや心配なこと 複数回答可



➤ 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「将来のこと」が 39.3%で最も多く、次いで「学校のこと」「困っていることはない」が 28.6%、「生活費や学費のこと」が 25.0%となっている。

➤ 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「生活費や学費のこと」が 39.1%で最も多く、次いで「将来のこと」が 33.7%、「困っていることはない」が 30.4%となっている。

II. 本人調査

問 30-2(問 27-2) 困っていることや不安の内容 ……………

困っていることや不安の内容(記述式)【現在、施設・里親家庭等で生活している人】

- ▶ 現在、施設や里親家庭等で生活している人の現在困っていることや不安の内容は、以下のようになっている。

施設等での暮らしについて

- ・ 今の施設で上手くやっていけない。大人の人数も少なく相談したり、大人と話せる時間が少なく感じる。施設で過ごしていてもストレスが大きく、出ていきたいと感じることが多い。

学校・勉強について

- ・ 成績が悪い。
- ・ 勉強ができない。
- ・ 学校での人間関係で常に悩んでいる。

家族について

- ・ 親族との喧嘩が多い。

将来について

- ・ 将来自分のやりたいことができるか。
- ・ お金の管理を自分でできるか。

その他

- ・ 言いたくない。
- ・ 児相の職員が、嘘の情報をもとに、私を今の環境から他の環境に移そうという劣悪な行動に出て自分の手柄を立てようとしており、とても不愉快かつ、迷惑極まりない行為であった。それなのに解雇させないのはおかしい。社会が甘やかすべきではない。対応をお願いします。

困っていることや不安の内容(記述式)【過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のみ】

- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人の現在困っていることや不安の内容は、以下のようになっている。

生活・金銭面について

- ・ 今は孤独感が一番辛い。仕事も行けず、最近生活保護を受け始めた。
- ・ 仕事はすごくしたいし大好きなので、もう一度自立援助ホームに入って立て直す、やり直すチャンスが欲しい。
- ・ やはり退所後はなかなか施設に遊びに行きにくいのと、安心できる実家がないので孤独を感じる時はある。
- ・ 部屋の片付けができない。
- ・ 相談できる相手がいない。
- ・ 子どもがいながら稼ぐのはなかなか大変なので、もう少し効率よく稼げたらベストなのになと思う。保育料もかかるし、何かと病院や怪我也多い。
- ・ なかなか厳しく、明日どうなるのかと心配がある。
- ・ 貯金をしていきたいと思っているがなかなかうまくいかず、少しずつ上手にやりくりしていけたらなと思っている。

健康等について

- ・ 病院でヘルニアと診断されてしまい、現在の飲食業を続けていけるのかが心配。
- ・ 退所3年後に病気が見つかり手術をしたが、後遺症が残り全てが変わった。今も通院中だが、親とも絶縁しているので自分が死んだ時のことが心配。
- ・ 人から少しおかしいと言われるので精神科に通いたいと思っているが、通うお金がないのと、どういった病院に行けばいいのかもわからない。
- ・ いろいろ回答してはいるが、一番は、結婚もして子どもにも恵まれているが、何か心細さや孤独感を感じる。それが何かうまく言語化することはできないが、ずっと抱えている。

II. 本人調査

学校・働くことについて

- ・ 仕事は好きだが、人間関係が少し悪い部分があり、ストレスが溜まったり、気を使う場面が多い。
- ・ 結婚しているが、パートナーが仕事をなかなか見つけられず、親の年金と自分の単発バイトで生活している。
- ・ 正社員ではなくなったので、これからのことを考えると正社員に転職を考えている。
- ・ 保育関係の仕事に就いているが、職員体制が良くて有給も取れない上に、子どもの長期休み等の長時間労働の時と普段の労働時間とで給料が一緒で額も少ない。
- ・ 何も知識がないので、毎回若いからと下に見られていると思うこともある。
- ・ 仕事で継続力がない。嫌なことがあると辞めたくなくなってしまう。
- ・ パワハラがあるが、辞めたら仕事を探るのが大変だから辞められない。
- ・ 就活が不安。
- ・ 学業が忙しくて何もできない。

家族について

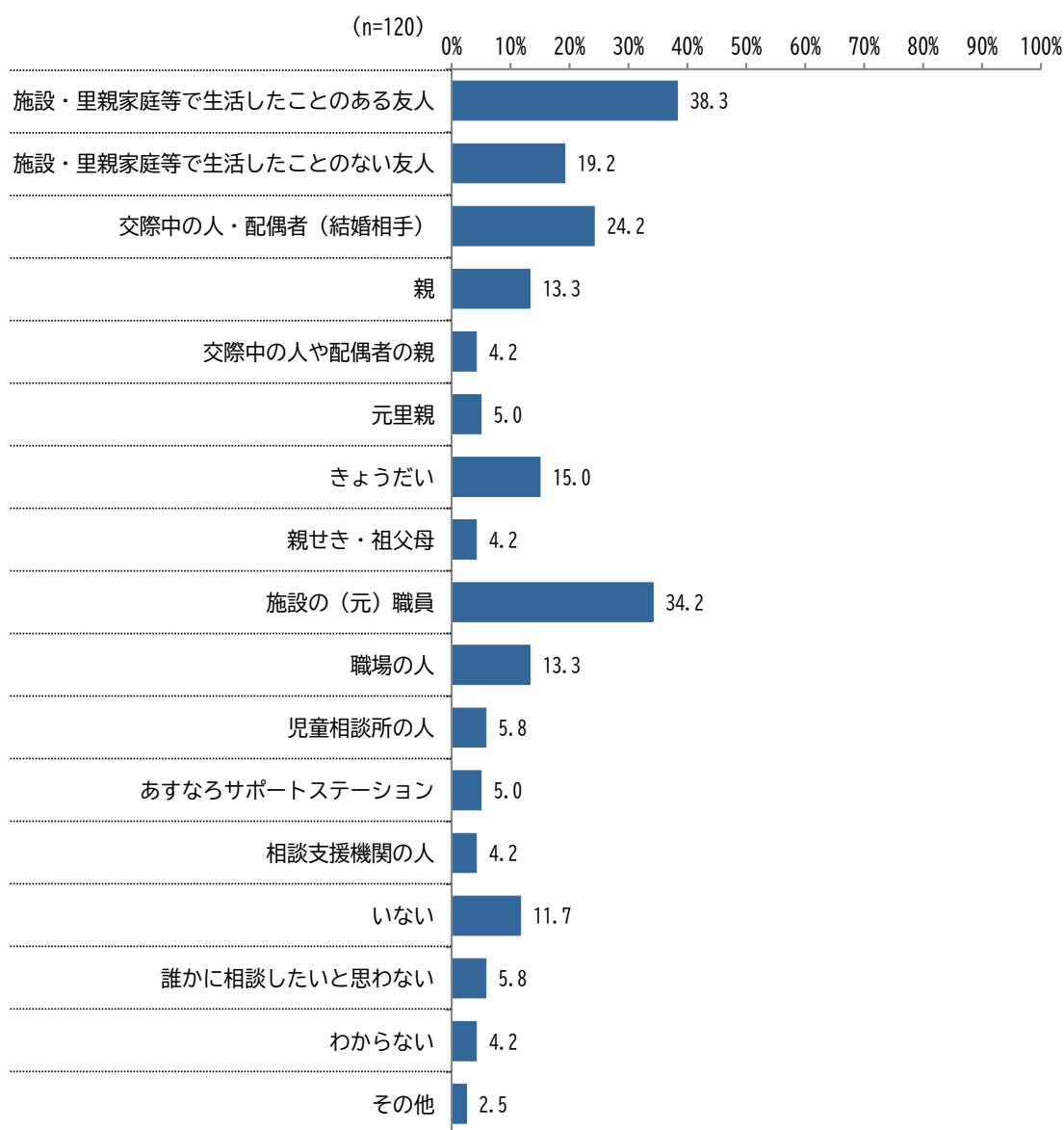
- ・ バランスよく祖父母のことや自分のことができたかなと思っている。
- ・ 祖父母の介護等があるが、親との関係性が悪いため、全て私が手続きなどを行なっている。仕事で人も少ないのでなかなか休めず、祖父母の市役所の手続き等もなかなか行けない。自分の生活に余裕がないので、祖父母のことまではうまく1人でこなせていない。
- ・ 子どもが出来た時に良い親になれるか。
- ・ 自分の不妊体質もあり子どもを授かっていないが、今のままだと子どもを産んで育てられるのか経済的な面で大きな不安がある。

問 31(問 28) 困ったことがあったときに相談できる相手……………

困ったことがあったときに相談できる相手 複数選択可

「施設・里親家庭等で生活したことがある友人」が 38.3%で最多
次いで「施設の(元)職員」が 34.2%と続く

図表 1-65 困ったことがあったときに相談できる相手 複数選択可

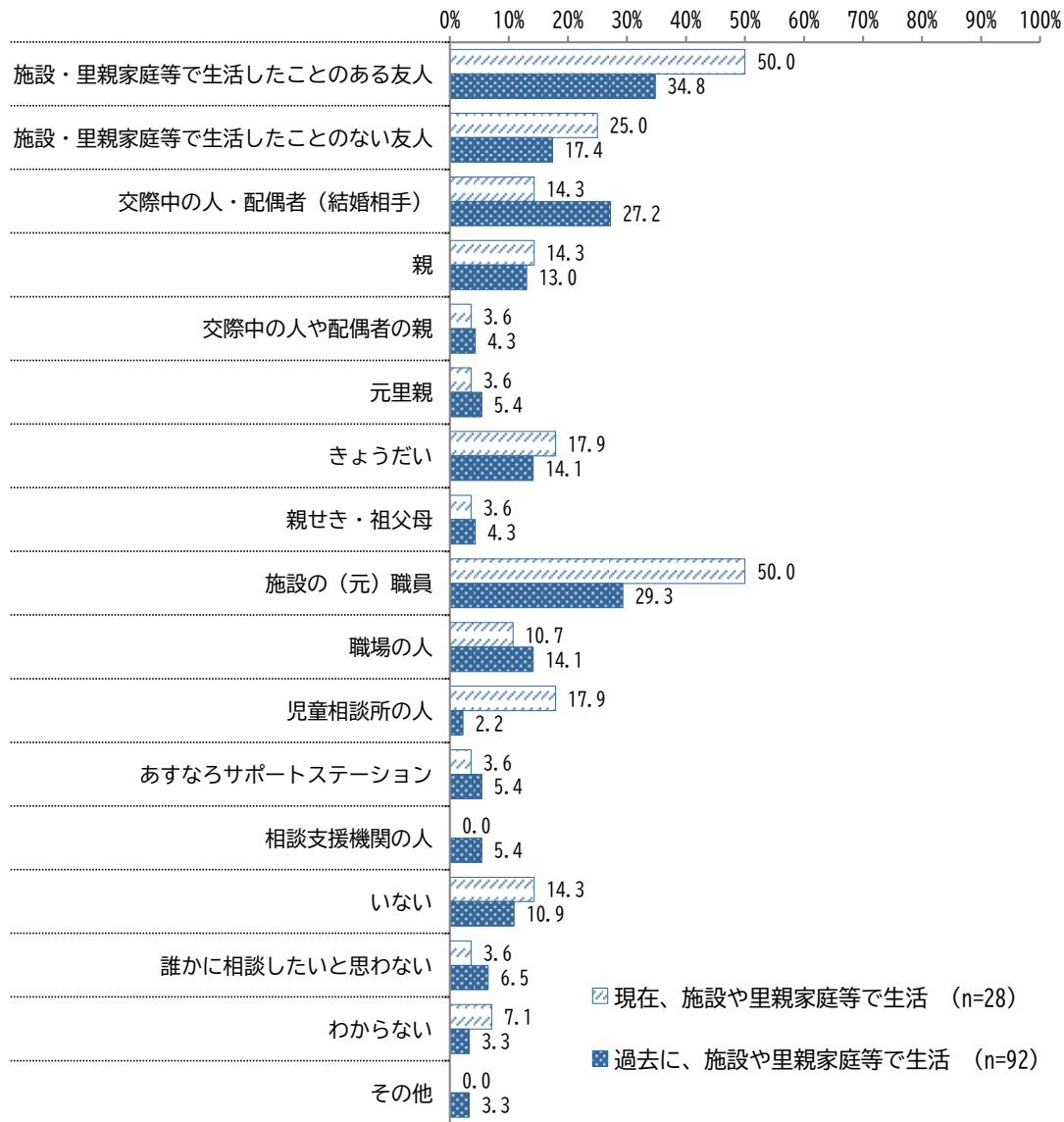


- 回答者全体では、「施設・里親家庭等で生活したことがある友人」が 38.3%で最も多く、次いで「施設の(元)職員」が 34.2%、「交際中の人・配偶者(結婚相手)」が 24.2%となっている。
- 「その他」の具体的な記述として、「友達」(2 件)、「前職の上司」(1 件)があった。

II. 本人調査

現在の住まいの状況別 困ったことがあったときに相談できる相手 複数選択可

図表 1-66 現在の住まいの状況別 困ったことがあったときに相談できる相手 複数選択可



- 現在、施設や里親家庭等で生活している人では「施設・里親家庭等で生活したことがある友人」「施設の(元)職員」が 50.0%で最も多く、次いで「施設・里親家庭等で生活したことがない友人」が 25.0%、「きょうだい」「児童相談所の人」が 17.9%となっている。
- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「施設・里親家庭等で生活したことがある友人」が 34.8%で最も多く、次いで「施設の(元)職員」が 29.3%、「交際中の人・配偶者(結婚相手)」が 27.2%となっている。

問 32(問 29) 気持ちが安らぐ場所や趣味、活動

気持ちが安らぐ場所や趣味、活動(記述式)

➤ 気持ちが安らぐ場所や趣味、活動の内容は、以下のようになっている。

気持ちが安らぐ場所
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今暮らしている家 ・ 気持ちが安らぐ場所と言ったらサウナ ・ 大学の図書館が安らぎの場所 ・ ランニング、カラオケ、居酒屋 ・ 気持ちが安らぐ場所は自宅 ・ 図書館 書店 映画館 ・ 個室で音楽を聴く。 ・ 気持ちが安らぐ場所は図書館 ・ 神社 ・ トレーニングジム

気持ちが安らぐ自然環境
<ul style="list-style-type: none"> ・ 趣味に関しては特にはないが、普段、接客業をしているので、長期休みがある際は神社や自然のある場所に行き息抜きをしたりする。 ・ 海や川を眺めること。 ・ 海 ・ 星が見える場所や、海の匂いが好きで、よく行く。

II. 本人調査

気持ちが安らぐ趣味・活動

- ・ 好きな音楽を聞いたり、写真を撮ったりしている。
- ・ 1人である。
- ・ 友人と遊ぶ。
- ・ 同じホームで仲が良かった友達と毎日電話している。それはすごく私の中で救い。
- ・ 人と会ったり、料理を作ったりが今の私の安らぎ。
- ・ ボランティア活動をしていると気持ちが前向きになる。
- ・ 友達と遊ぶ。
- ・ 散歩や、音楽を聴く。アニメやドラマを見る。漫画を読む。猫と触れ合うのが一番癒される。一緒に遊ぶ。
- ・ 散歩
- ・ 外出
- ・ 音楽を聴きながら、散歩する。
- ・ ライブ、イベント
- ・ 音楽を聴くこと、ドラマやバラエティ番組を見ること。
- ・ 筋トレ、散歩
- ・ ライブ
- ・ 寝ること。音楽を聴くこと。
- ・ 自作 PC ドライブ
- ・ バスケット
- ・ カラオケ 推し活 YouTube TikTok 卓球 バスケット
- ・ 毛糸、絵、歌
- ・ 趣味は、旅行。
- ・ 音楽鑑賞 塗り絵
- ・ グルメ、ギター
- ・ ゲーム

問 33(問 30) 最後に伝えたいこと・メッセージ……………

最後に伝えたいこと・メッセージ(記述式)

➤ 最後に伝えたいこと・メッセージの内容は、以下のようになっている。

他の施設等出身者や後輩へのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今は苦しくても、どうとでもなるということを伝えたい。 ・ 施設で生活を送った方々が、今後も明るい生活を送れるようになればと思う。私も日々仕事を全力で頑張っていきます！ ・ 施設育ちの人は就職してもすぐに辞めてしまったり、続かなかったりする人が多いと聞いた。私も退所後から 21 歳ぐらいまでは精神的に安定せず、クレジットカードや家賃を滞納して警察が来たこともある。自分の人生はこれから何も生み出せないと思い、希死念慮もあったが、自分がうまく生きられる環境を見つけて、今はまた専門学校に行き国家資格を取ろうとしている。合格もして、来年の 4 月から 3 年間通う。他の人よりもスタートラインは遅くなったが、何歳からでも挑戦できるし、人の役に立てるように生きたいと思えるようになったことを同じ施設生まれの人に伝えてもらった嬉しい。

施設等や社会的養護に関する意見・メッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設等で過ごした後、一人暮らしや親御さんの元で過ごしている人など、人間関係や金銭、仕事、将来等で悩んでいる人とかよくいるので、その人たちが 相談できる場所や辛い時に息抜きできる場所等、少しでも良くなると良いなとすごく思った。 ・ 子どもが産まれても面倒を見られない人やどうして良いか分からない人がいたので、そういうところをサポート出来るような機関が必要だと思う。 ・ これからも児童のことを大切に、快適な暮らしを願っている。 ・ あすなろサポートステーションなどの、退所後もサポートしてくれる施設があつてとても助かっている。こういうサポートがあることを、国や県からも発信してくれるととってもいろいろな人の目に届いていいと思う。 ・ 表面上は明るくてしっかりしていても、心の弱さは誰にも存在しているため、自分のような人間ができないよう、寄り添ってあげて欲しい。 ・ 子どもたちには、自分の適性を理解する力、人と協力する力、マナーリテラシーを身に付けさせてあげてほしい。

施設等での生活や現在の生活に対する思い

- ・ 親と離れて施設に入る時は不安があったが、同じ境遇の子達と一緒に過ごせた時間はとても思い出に残っている。
- ・ あのまま高校もそこから通えばよかった、親の元に帰らなければよかったと後悔している。結局、離れている時間が親との辛かった日々を薄れさせてくれただけで、一緒にいる時間が長くなるほど心がまた離れていっただけだった。
- ・ 家族のことに関しては怒りや恨みを持ち続けているが、うまく切り離して考えることが 25 歳にしてようやくできるようになった。
- ・ 人生やり直したい。もっと普通の暮らしがしたい。
- ・ 周りの人達に恵まれてよかった。
- ・ もう一度自立援助ホームに入りたい。
- ・ あすなろサポートステーションが良かった。助かった。
- ・ 今の施設が不安。施設で過ごしていて居心地が悪いし、大人が減っていくことへの不安も感じる。大人が少ない分、一人ひとりの仕事量も増えていて大人が忙しくしているのや疲れているのを感じる。そんな中でなかなか相談するタイミングがないので、もっと 1 対 1 の時間が欲しい。
- ・ 兎相の職員が、嘘の情報をもとに、私を今の環境から他の環境に移そうという劣悪な行動に出て自分の手柄を立てようとしており、とても不愉快かつ迷惑極まりない行為であった。それなのに解雇させないのはおかしい。社会が甘やかすべきではない。対応をお願いします。
- ・ 確かに親と一緒に暮らした方がいいのかもしれないけど、辛い思いをまたするよりは施設にいて過ごした方が安心だったと思う。長い時間一緒に過ごして、約束やルールは施設だから厳しかったが、心から信頼できる職員にも出会えた。その出会いにはすごく感謝をしたい。

IV. 施設調査

調査概要

実施期間

- 2025年11月17日～2025年12月25日
※なるべく多くの回答を得るため、回収期間を1月19日まで延長した。

対象者

(1) 地域的範囲 県所管域

- (政令市・中核市以外の県全域)

(2) 属性的範囲

	属性	対象者数
ア	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置中、または児童自立生活援助事業所を利用中の調査年度末に17歳になる者	48人
イ	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置中、または児童自立生活援助事業所を利用中の者のうち、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	18人
ウ	神奈川県が設置する児童相談所の長により、県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所に措置、または児童自立生活援助事業所を利用し、15歳になる年度以降に措置解除または利用を終了した者で、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	316人
エ	現在、神奈川県所管の社会的養護自立支援拠点事業所において支援を受けており、上記ア、イ、ウに該当しない者のうち、調査年度末の年齢が19歳、21歳、23歳、25歳及び27歳の者	41人
合計		423人

回答者

- ◆ 神奈川県所管の児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、里親家庭、小規模住居型児童養育事業所、または児童自立生活援助事業所(20施設・事業所)
- ◆ 社会的養護自立支援拠点事業所(1事業所)

Ⅲ. 施設調査

- ◆ 神奈川県所管の児童相談所(5 児童相談所)が管轄する里親家庭(43 家庭)
 - 措置解除者については、対象者が最後に暮らしていた神奈川県所管の施設または里親家庭が回答。
 - 措置中、措置延長中または児童自立生活援助事業利用中の対象者については当該施設が回答。
 - 神奈川県所管でない施設及び里親家庭等に措置されていた者及び措置経験がない者で、社会的養護自立支援拠点事業所に係属している者については、当該事業所が回答。

調査手法

- 対象者が最後に暮らしていた神奈川県所管の施設(神奈川県所管の施設に措置中、措置延長中または児童自立生活援助事業利用中の対象者については当該施設。措置経験のない者については現在係属している社会的養護自立支援拠点事業所)が対象者 1 名 1 名について回答する他記式調査。

回収状況

- 対象者数と回答数は、下記のようにになっている。

回答施設	対象者数 (A)	施設等によって 回答された 対象者数 (D)	回収率 (D/A)
施設	332	329	99.1%
里親家庭	50	9	18.0%
社会的養護自立支援拠点事業 (あすなろサポートステーション)	41	21	51.2%
全体	423	359	84.9%

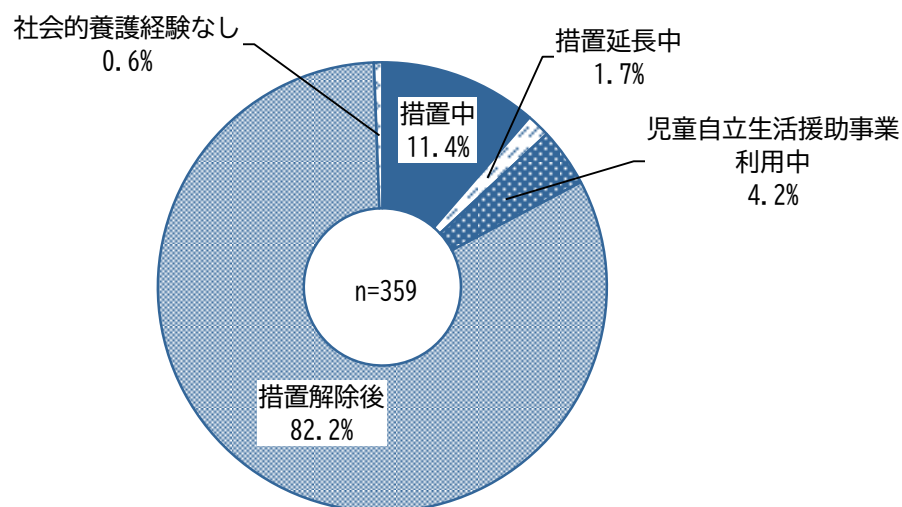
1. 対象者の措置状況

現在の状況(措置中・措置延長中・児童自立援助事業利用中・措置解除後)……………

現在の状況(措置の状況)

施設・里親等に回答された対象者のうちが82.2%が「措置解除後」、11.4%が「措置中」

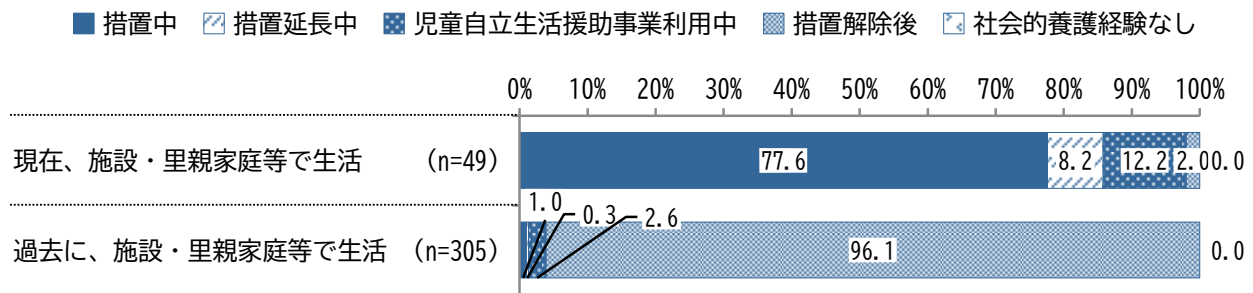
図表 2-1 現在の状況(措置の状況)



- 施設・里親家庭等によって回答された対象者の現在の状況は、「措置解除後」が82.2%で最も多く、次いで「措置中」が11.4%、「児童自立生活援助事業利用中」が4.2%となっている。

現在の住まいの状況別 現在の状況(措置の状況)

図表 2-2 現在の住まいの状況別 現在の状況(措置の状況)



- 現在の状況(措置の状況)をみると、現在、施設・里親家庭等で生活している人では「措置中」が77.6%で最も多く、次いで「児童自立生活援助事業利用中」が12.2%、「措置延長中」が8.2%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「措置解除後」が96.1%と大半を占め、次に「児童自立生活援助事業利用中」が2.6%、「措置中」が1.0%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のうち、「児童自立生活援助事業利用中」の人には、回答した施設や里親家庭を離れて神奈川県所管外の自立援助ホームで生活している人や、施設からの支援を受けながら民間賃貸住宅等で生活している人が含まれると考えられる。

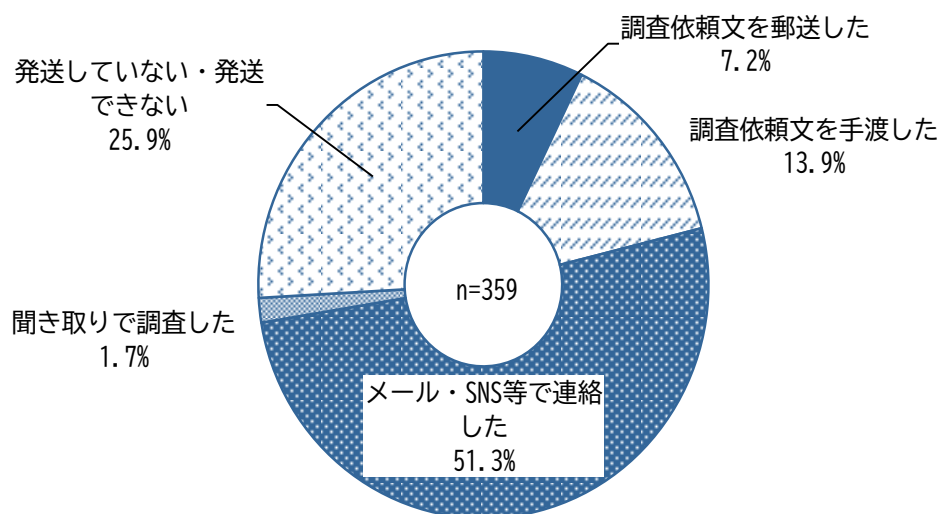
2. 対象者への調査案内の状況

問 1-1 調査依頼文の発送状況

調査依頼文の発送状況

全体の 74.1%の対象者について、施設・里親等から本人調査の調査依頼文を案内できている状況一方で、「発送していない・発送できない」は 25.9%

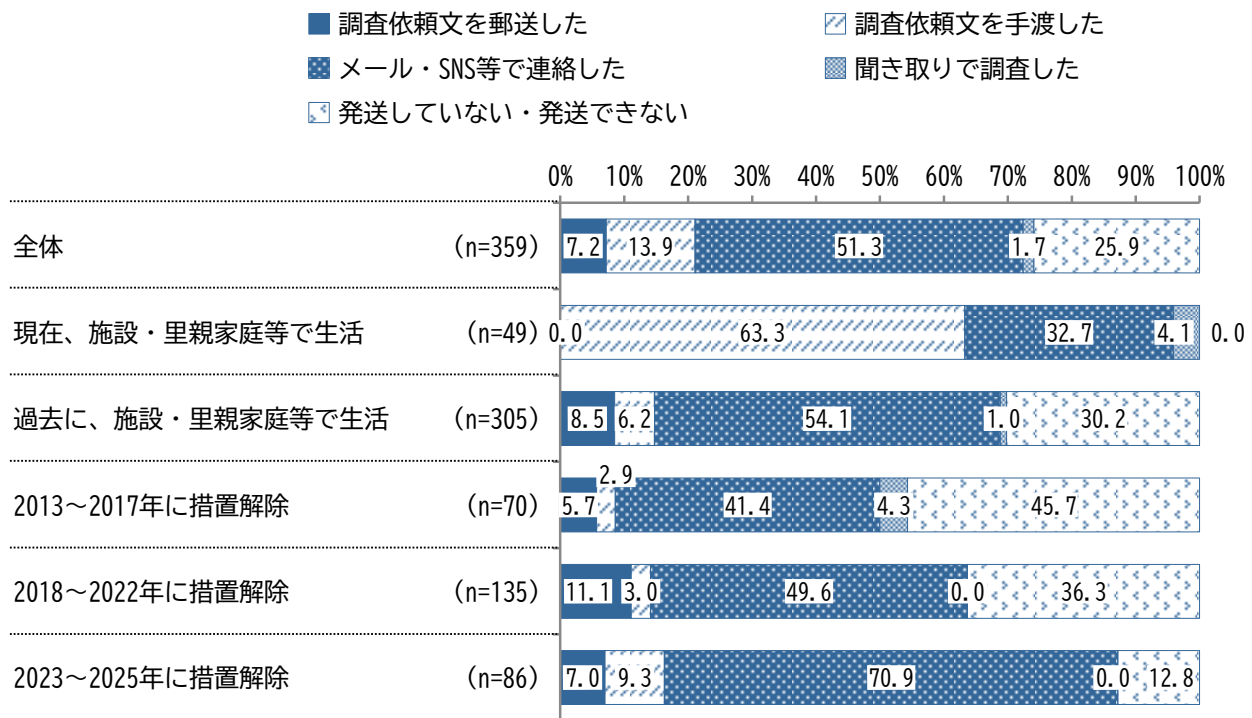
図表 2-3 調査依頼文の発送状況



- 全体では、「メール・SNS等で連絡した」が 51.3%で最も多く、次いで「発送していない・発送できない」が 25.9%、「調査依頼文を手渡した」が 13.9%となっている。

現在の住まいの状況別・措置解除年別 調査依頼文の発送状況

図表 2-4 現在の住まいの状況別・措置解除年別 調査依頼文の発送状況



- 現在、施設・里親家庭等で生活している人については「調査依頼文を手渡した」が 63.3%で最も多く、次いで「メール・SNS 等で連絡した」が 32.7%、「聞き取りで調査した」が 4.1%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人については「メール・SNS 等で連絡した」が 54.1%で最も多く、次いで「発送していない・発送できない」が 30.2%、「調査依頼文を郵送した」が 8.5%となっている。
- 措置解除者について、措置解除年(3 段階)で見ると、2013～2017 年に措置解除された人については「発送していない・発送できない」が 45.7%で最も多く、次いで「メール・SNS 等で連絡した」が 41.4%、「調査依頼文を郵送した」が 5.7%となっている。
- 2018～2022 年に措置解除された人については「メール・SNS 等で連絡した」が 49.6%で最も多く、次いで「発送していない・発送できない」が 36.3%、「調査依頼文を郵送した」が 11.1%となっている。
- 2023～2025 年に措置解除された人については「メール・SNS 等で連絡した」が 70.9%で最も多く、次いで「発送していない・発送できない」が 12.8%、「調査依頼文を手渡した」が 9.3%となっている。

- 措置解除から調査実施期間までの時間が短い人に対しては、回答した施設・里親家庭等が本人調査の調査依頼文を案内できている傾向がある。

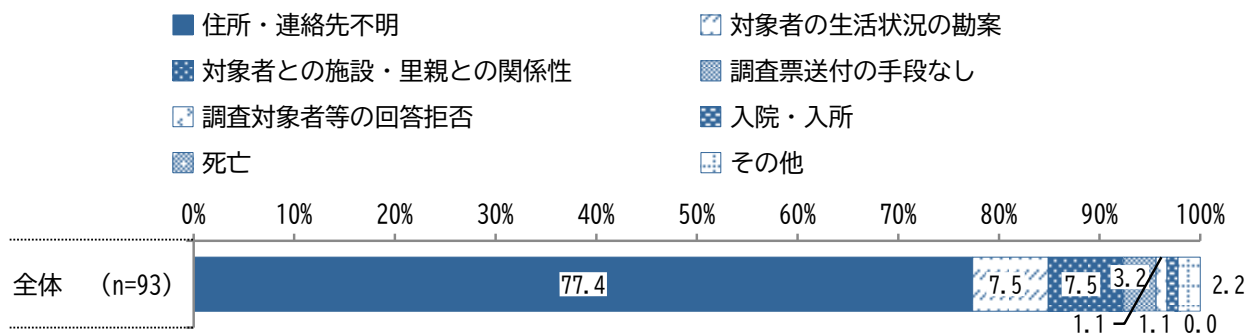
Ⅲ. 施設調査

問 1-2 調査依頼文を発送していない・発送できない理由……………

発送していない・発送できない理由【調査依頼文を発送していない・発送できていない人のみ】

「住所・連絡先不明」が 77.4%で最多、
「対象者の生活状況の勘案」「対象者との施設・里親との関係性」が 7.5%と続く

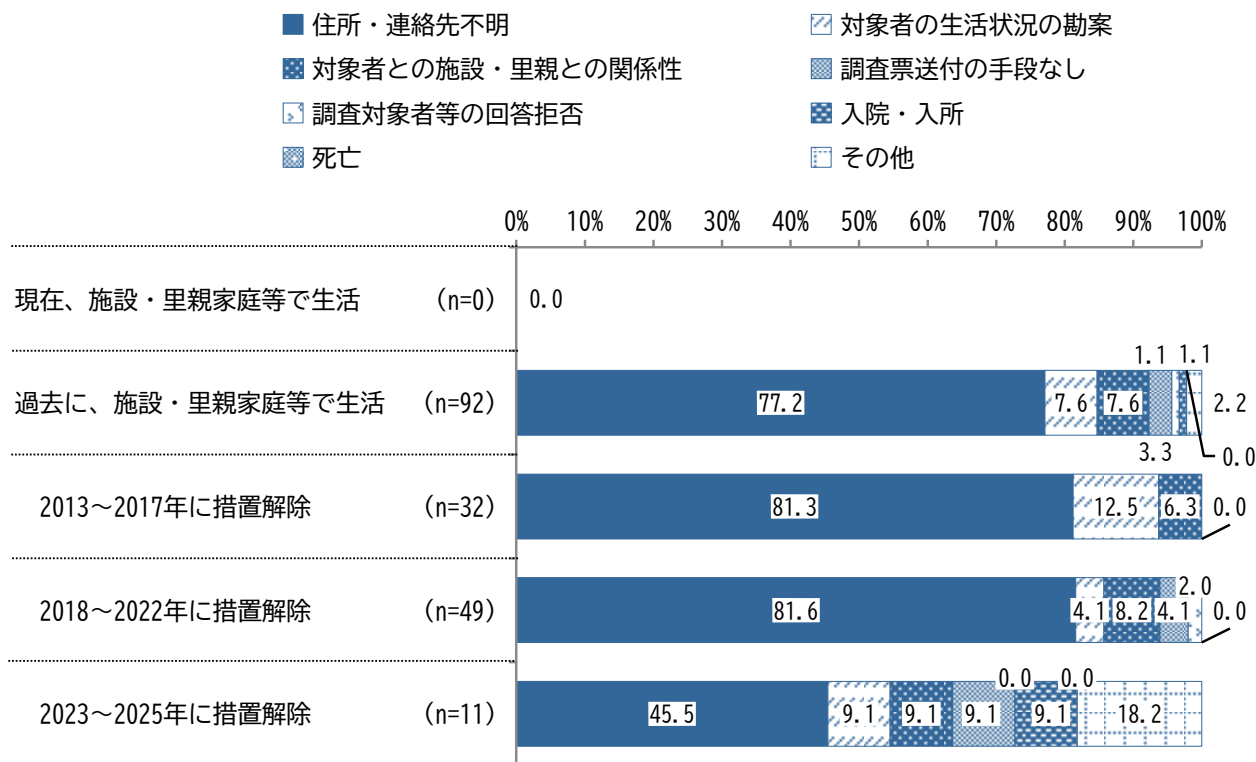
図表 2-5 発送していない・発送できない理由
【調査依頼文を発送していない・発送できていない人のみ】



- 全体では、「住所・連絡先不明」が 77.4%で最も多く、次いで「対象者の生活状況の勘案」「対象者との施設・里親との関係性」が 7.5%、「調査票送付の手段なし」が 3.2%となっている。
- 「死亡」の回答はなかった。
- 「その他」として、「無断外出し、家庭復帰したため」「一時保護所に戻ったその後の状況を把握できていない」という回答があった。

現在の住まいの状況別・措置解除年別 発送していない・発送できない理由
 【調査依頼文を発送していない・発送できていない人のみ】

図表 2-6 現在の住まいの状況別・措置解除年別 発送していない・発送できない理由
 【調査依頼文を発送していない・発送できていない人のみ】



- 現在、施設・里親家庭等で生活している人全員について、本人調査の調査依頼文が案内されている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人のうち、回答した施設・里親等が本人調査の調査依頼文を案内できなかった場合の理由として、「住所・連絡先不明」が 77.2%で最も多く、次いで「対象者の生活状況の勘案」「対象者との施設・里親との関係性」が 7.6%、「調査票送付の手段なし」が 3.3%となっている。
- 回答した施設・里親等が本人調査の調査依頼文を案内できなかった人について、措置解除年(3段階)別にみると、2013～2017年に措置解除された人では「住所・連絡先不明」が 81.3%と最も多く、次いで「対象者の生活状況の勘案」が 12.5%、「対象者との施設・里親との関係性」が 6.3%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人でも「住所・連絡先不明」が 81.6%で最も多く、次いで「対象者との施設・里親との関係性」が 8.2%、「対象者の生活状況の勘案」「調査票送付の手段なし」が 4.1%となっている。

Ⅲ. 施設調査

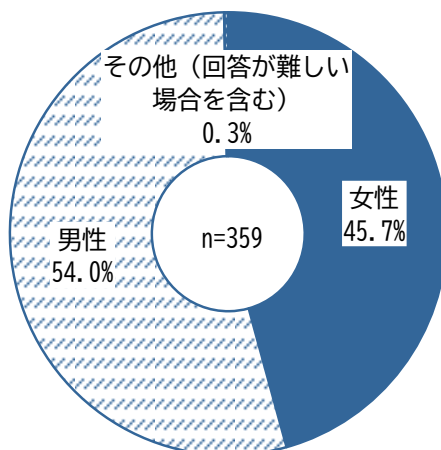
- 2023～2025 年に措置解除された人でも「住所・連絡先不明」が 45.5%で最も多く、次いで「対象者の生活状況の勘案」「対象者との施設・里親との関係性」「調査票送付の手段なし」「入院・入所」が 9.1%となっている。

3. 対象者の基本属性

問 2 対象者の性別.....

性別

図表 2-7 性別



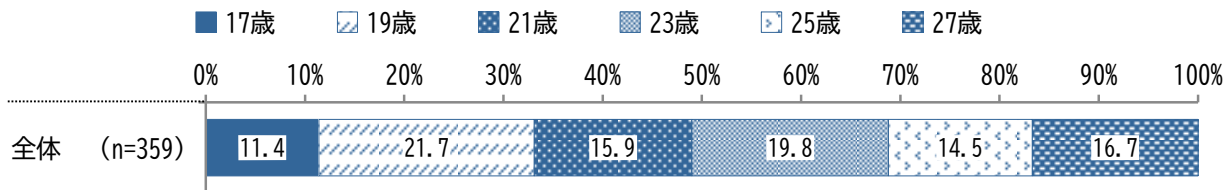
- 全体では、「男性」が 54.0%、「女性」が 45.7%、「その他(回答が難しい場合を含む)」が 0.3%となっている。

Ⅲ. 施設調査

問 3 令和 8 年 3 月 31 日時点の年齢

年齢(令和 8 年 3 月 31 日時点)

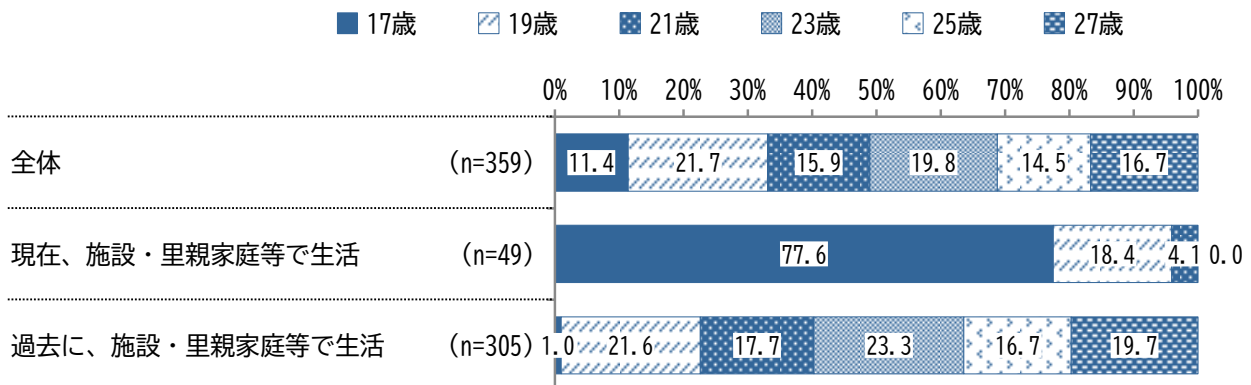
図表 2-8 年齢(令和 8 年 3 月 31 日時点)



- 対象者の令和 8 年 3 月 31 日時点の年齢は、17 歳、19 歳、21 歳、23 歳、25 歳、27 歳であった。
- 全体では「19 歳」が 21.7%(78 人)で最も多く、反対に「17 歳」が 11.4%(41 人)と最も少ない。

現在の住まいの状況別 年齢(令和 8 年 3 月 31 日時点)

図表 2-9 現在の住まいの状況別 年齢(令和 8 年 3 月 31 日時点)

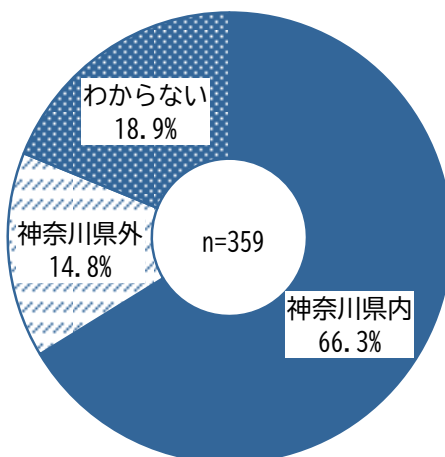


- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「17 歳」が 77.6%で最も多く、次いで「19 歳」が 18.4%、「21 歳」が 4.1%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「23 歳」が 23.3%で最も多く、次いで「19 歳」が 21.6%、「27 歳」が 19.7%となっている。
- 平均年齢(令和 8 年 3 月 31 日時点)は、現在、施設・里親家庭等で生活している人では 17.5 歳、過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では 22.8 歳となっている。

問 4 現在住んでいる場所

現在住んでいる場所

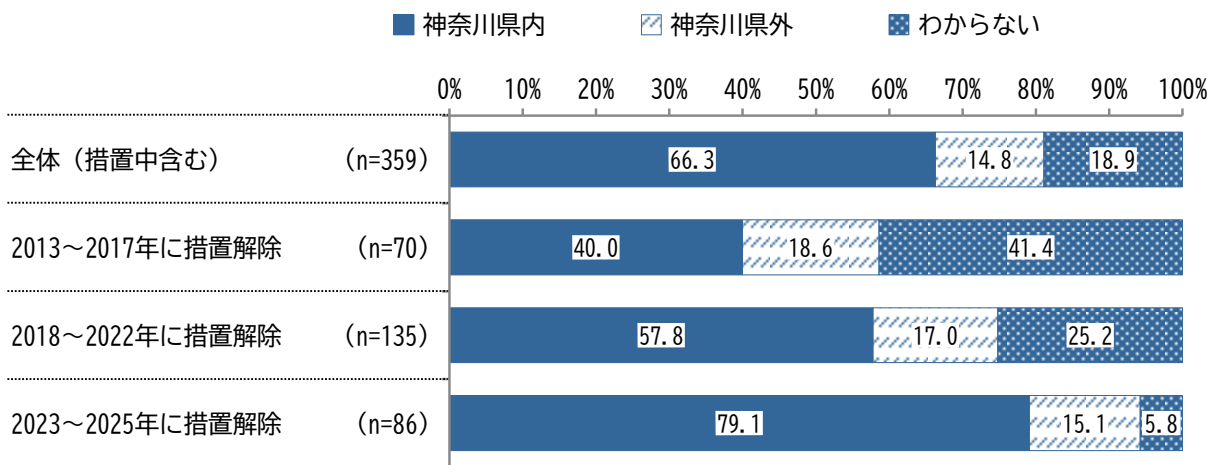
図表 2-10 現在住んでいる場所



- 措置中を含む対象者全体では、「神奈川県内」が 66.3%、「神奈川県外」が 14.8%、「わからない」が 18.9%となっている。

措置解除年(3段階)別 現在住んでいる場所

図表 2-11 措置解除年(3段階)別 現在住んでいる場所



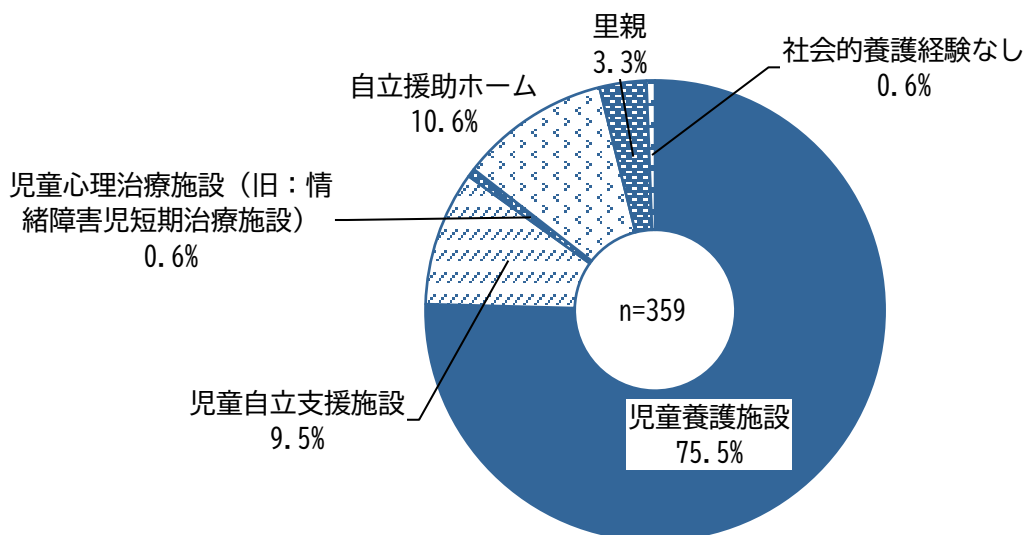
- 全体(措置中含む)では、「神奈川県内」が 66.3%、「わからない」が 18.9%となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「わからない」が 41.4%、「神奈川県内」が 40.0%となっている。
- 2018～2022年に措置解除では「神奈川県内」が 57.8%、「わからない」が 25.2%となっている。
- 2023～2025年に措置解除では「神奈川県内」が 79.1%、「神奈川県外」が 15.1%となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、県内在住と県外在住の別について施設・里親家庭等が「わからない」と回答する対象者の割合は、措置解除から時間が経過するほど高くなっている。

問 5 貴施設(里親等含む)の属性……………

対象者について回答した神奈川県所管の施設等の施設種

「児童養護施設」が 75.5%で最多、次いで「自立援助ホーム」が 10.6%と続く

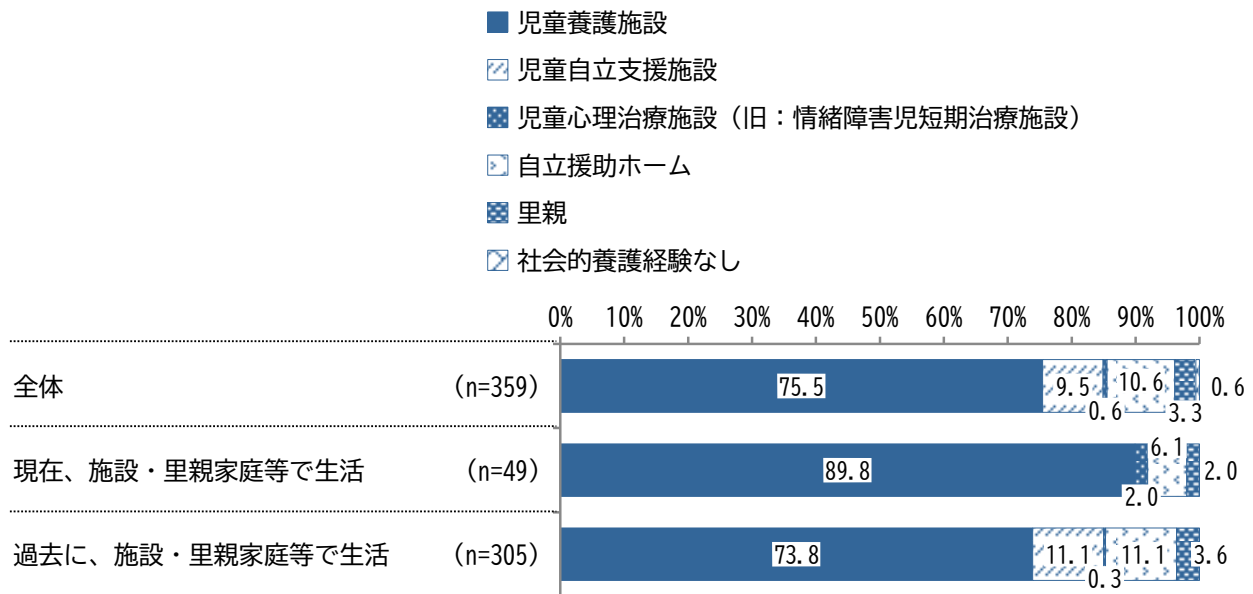
図表 2-12 対象者について回答した神奈川県所管の施設等の施設種



- 対象者について回答した神奈川県所管の施設・里親家庭等の施設種は、全体では「児童養護施設」が 75.5%で最も多く、次いで「自立援助ホーム」が 10.6%、「児童自立支援施設」が 9.5%となっている。

現在の住まいの状況別 対象者について回答した神奈川県所管の施設等の施設種

図表 2-13 現在の住まいの状況別 対象者について回答した神奈川県所管の施設等の施設種



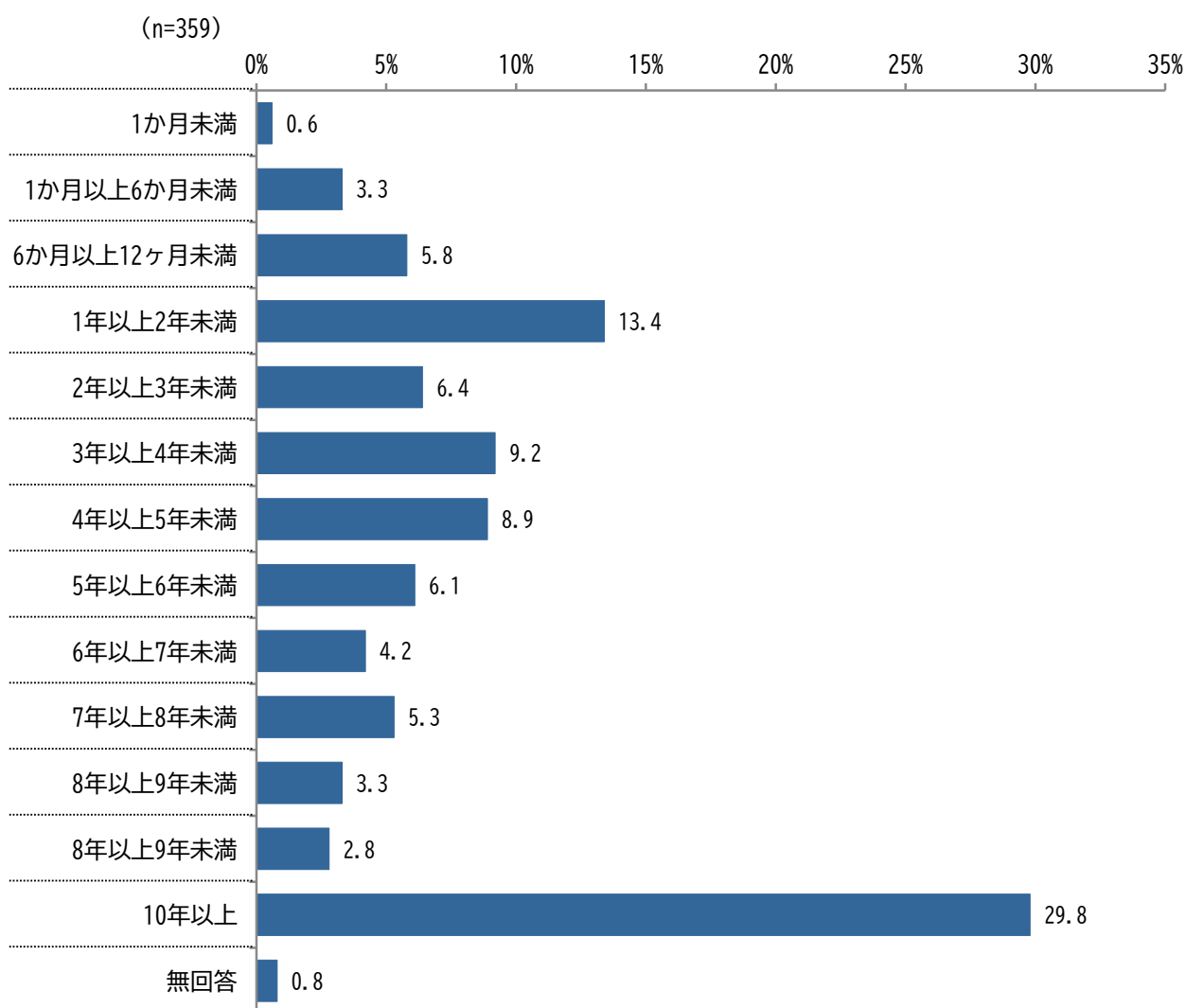
- 対象者について回答した神奈川県所管の施設・里親家庭等の施設種は、現在、施設・里親家庭等で生活している人では「児童養護施設」が 89.8%と大多数を占め、次いで「自立援助ホーム」が 6.1%、「児童心理治療施設(旧:情緒障害児短期治療施設)」「里親」が 2.0%となっている。
- 対象者について回答した神奈川県所管の施設・里親家庭等の施設種は、過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「児童養護施設」が 73.8%で最も多く、次いで「児童自立支援施設」「自立援助ホーム」が 11.1%、「里親」が 3.6%となっている。

問 6 貴施設の入所年数・里親等委託期間(措置中の場合:令和 7 年 11 月 1 日現在) ……

施設・里親家庭等での入所年数・里親委託年数

「10 年以上」と長期の入所・里親等委託期間が 29.8%で最多
 反対に「1 年以上 2 年未満」も 13.4%と少なくない

図表 2-14 施設・里親家庭等での入所年数・里親委託年数

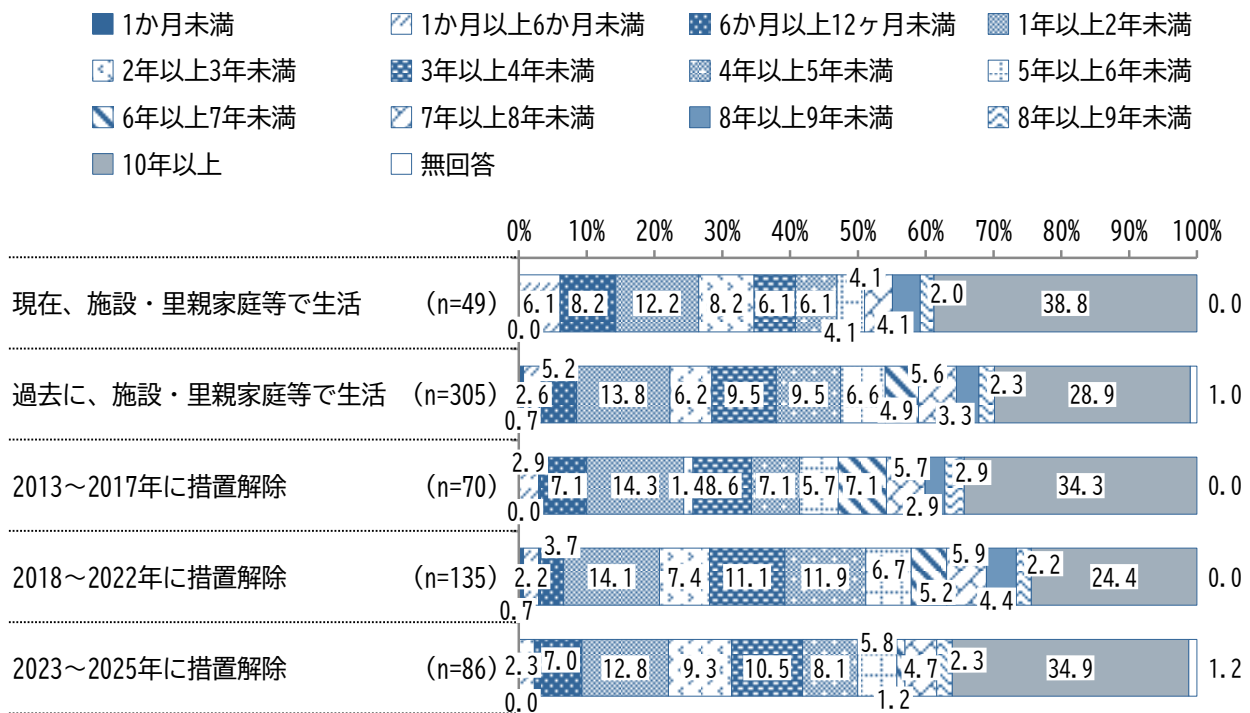


- ▶ 全体では、「10 年以上」が 29.8%で最も多く、次いで「1 年以上 2 年未満」が 13.4%、「3 年以上 4 年未満」が 9.2%となっている。
- ▶ 全体では、入所年数・里親委託年数が 1 年未満である割合が、10.4%となっている。

Ⅲ. 施設調査

現在の住まいの状況別 施設・里親家庭等での入所年数・里親委託年数

図表 2-15 現在の住まいの状況別 施設・里親家庭等での入所年数・里親委託年数

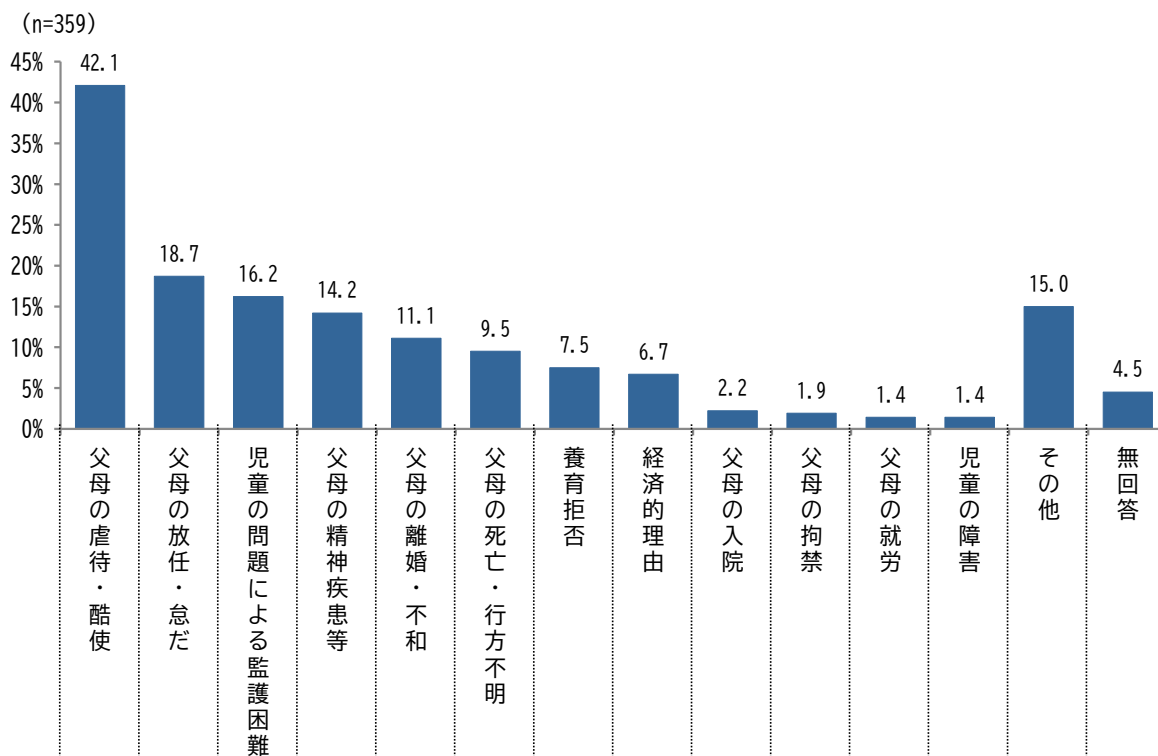


- 現在の住まいの状況や措置解除年にかかわらず、施設・里親家庭等での入所年数・里親委託年数は「10年以上」が最も多い。
- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「10年以上」が38.8%で最も多く、次いで「1年以上2年未満」が12.2%、「6か月以上12ヶ月未満」「2年以上3年未満」が8.2%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活では「10年以上」が28.9%で最も多く、次いで「1年以上2年未満」が13.8%、「3年以上4年未満」「4年以上5年未満」が9.5%となっている。
- 措置解除者について、措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「10年以上」が34.3%で最も多く、次いで「1年以上2年未満」が14.3%、「3年以上4年未満」が8.6%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「10年以上」が24.4%で最も多く、次いで「1年以上2年未満」が14.1%、「4年以上5年未満」が11.9%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「10年以上」が34.9%で最も多く、次いで「1年以上2年未満」が12.8%、「3年以上4年未満」が10.5%となっている。

問 7 措置の理由

措置の理由 複数回答可

図表 2-16 措置の理由 複数回答可

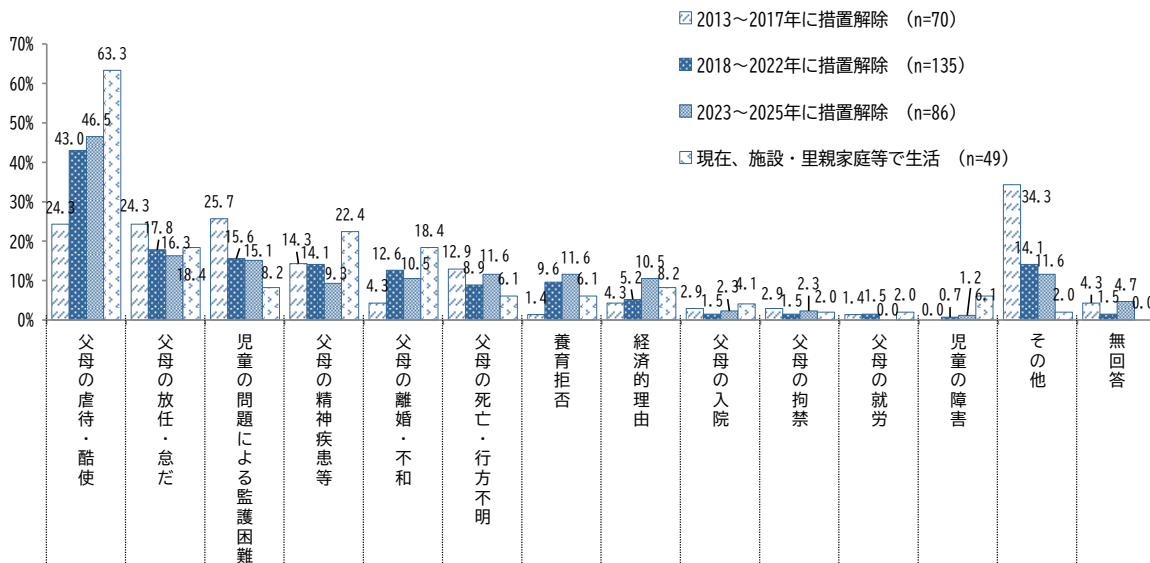


- 措置の理由は、対象者全体では、「父母の虐待・酷使」が 42.1%と最も多く、次いで「父母の放任・怠だ」が 18.7%、「児童の問題による監護困難」が 16.2%となっている。

Ⅲ. 施設調査

措置解除年(3段階)・現在の住まいの状況別 措置の理由 複数回答可

図表 2-17 措置解除年(3段階)・現在の住まいの状況別 措置の理由 複数回答可

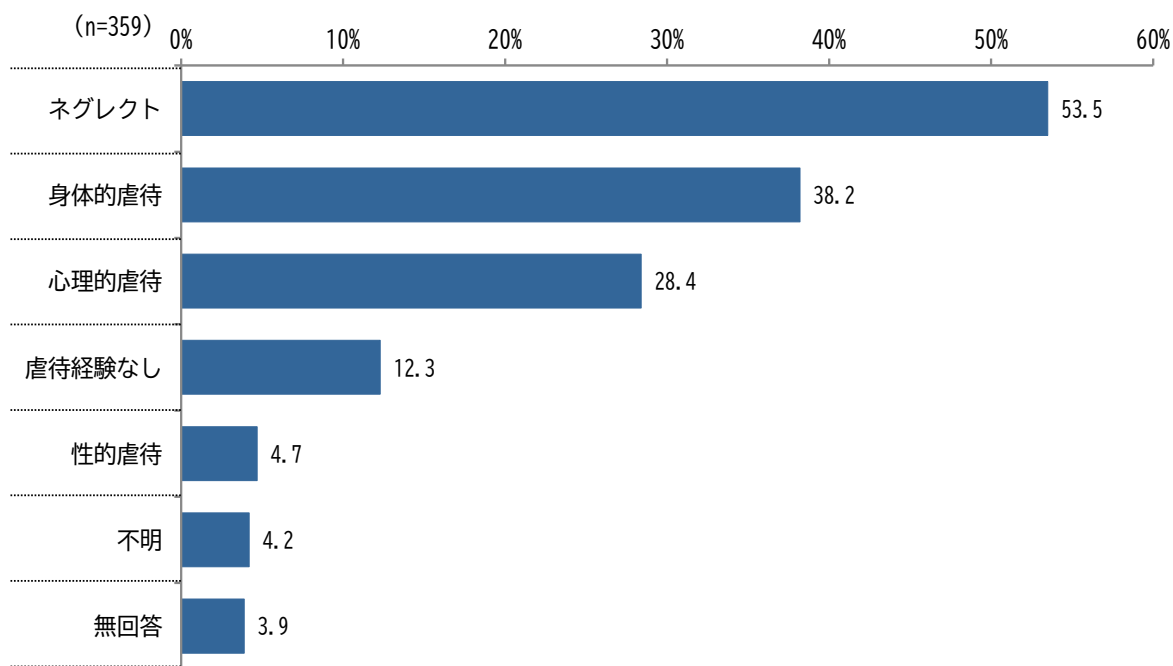


- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「児童の問題による監護困難」が25.7%で最も多く、次いで「父母の虐待・酷使」「父母の放任・怠だ」が24.3%、「父母の精神疾患等」が14.3%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「父母の虐待・酷使」が43.0%で最も多く、次いで「父母の放任・怠だ」が17.8%、「児童の問題による監護困難」が15.6%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「父母の虐待・酷使」が46.5%で最も多く、次いで「父母の放任・怠だ」が16.3%、「児童の問題による監護困難」が15.1%となっている。
- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「父母の虐待・酷使」が63.3%で最も多く、次いで「父母の精神疾患等」が22.4%、「父母の放任・怠だ」「父母の離婚・不和」が18.4%となっている。
- 措置解除年が最近であるほど、「父母の虐待・酷使」の選択率が高い傾向にある。

問 8 被虐待経験

被虐待経験 複数回答可

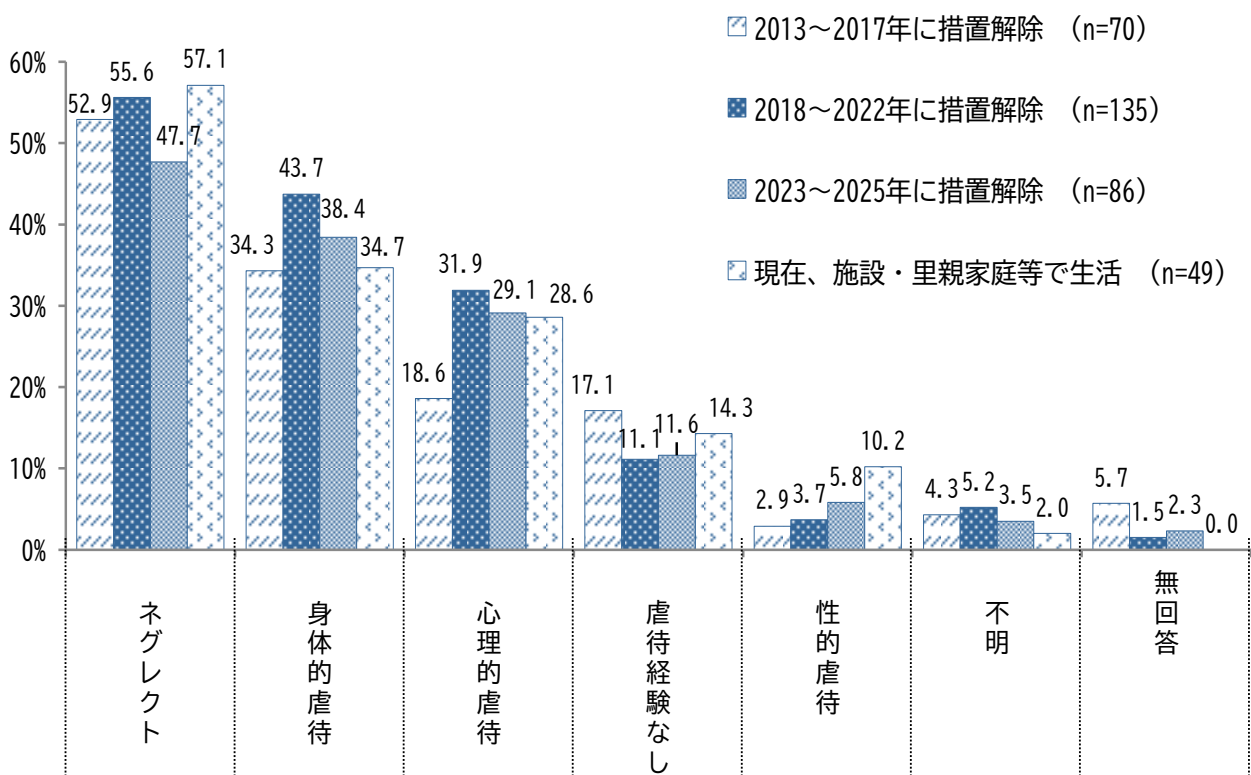
図表 2-18 被虐待経験 複数回答可



- 被虐待経験は、対象者全体では、「ネグレクト」が 53.5%で最も多く、次いで「身体的虐待」が 38.2%、「心理的虐待」が 28.4%となっている。

措置解除年(3段階)・現在の住まいの状況別 被虐待経験 複数回答可

図表 2-19 措置解除年(3段階)・現在の住まいの状況別 被虐待経験 複数回答可



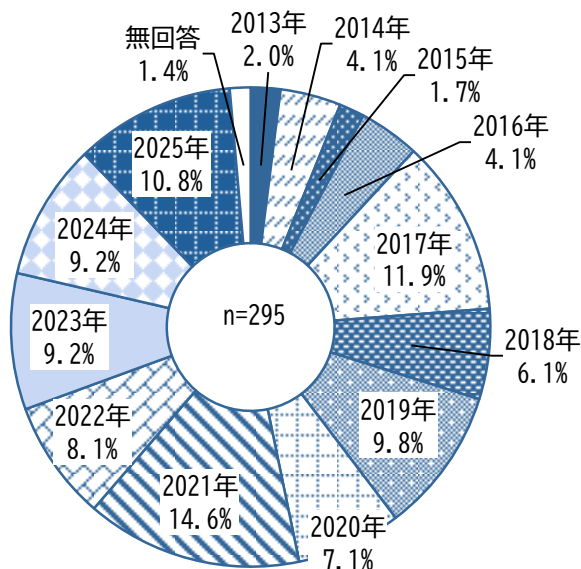
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「ネグレクト」が52.9%で最も多く、次いで「身体的虐待」が34.3%、「心理的虐待」が18.6%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「ネグレクト」が55.6%で最も多く、次いで「身体的虐待」が43.7%、「心理的虐待」が31.9%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「ネグレクト」が47.7%で最も多く、次いで「身体的虐待」が38.4%、「心理的虐待」が29.1%となっている。
- 社会的養護の経験で見ると、現在、施設・里親家庭等で生活している人では「ネグレクト」が57.1%で最も多く、次いで「身体的虐待」が34.7%、「心理的虐待」が28.6%となっている。

4. 措置解除時の状況

問 9 措置解除年 問 10 措置解除月

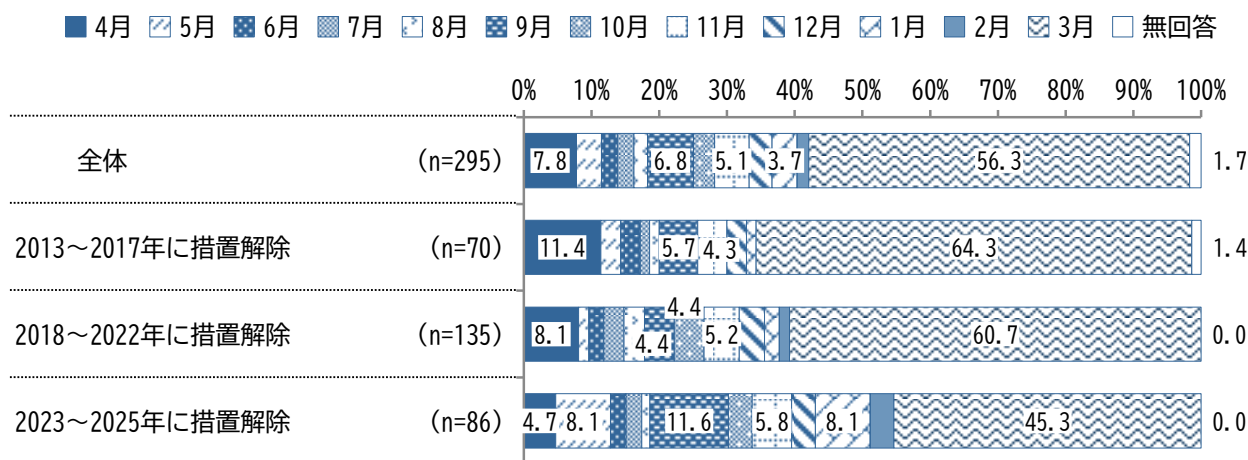
措置解除年・月【措置解除者のみ】

図表 2-20 措置解除年【措置解除者のみ】



➤ 全体では、「2021年」が14.6%で最も多く、次いで「2017年」が11.9%、「2025年」が10.8%となっている。

図表 2-21 措置解除年(3段階)別 措置解除月【措置解除者のみ】



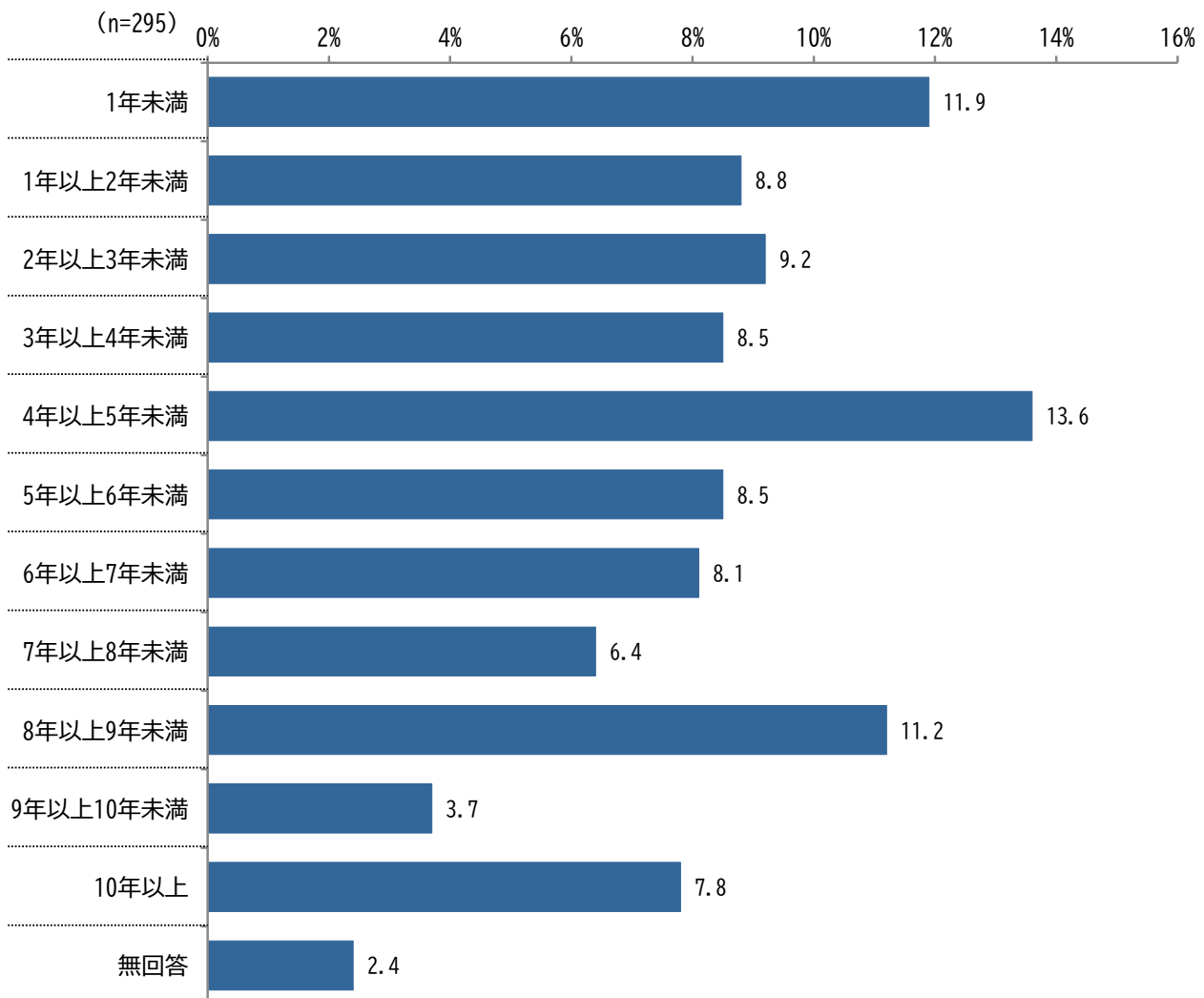
➤ 全体では、「3月」が56.3%で最も多く、次いで「4月」が7.8%、「9月」が6.8%となっている。

Ⅲ. 施設調査

- 措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「3月」が64.3%で最も多く、次いで「4月」が11.4%、「9月」が5.7%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「3月」が60.7%で最も多く、次いで「4月」が8.1%、「11月」が5.2%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「3月」が45.3%で最も多く、次いで「9月」が11.6%、「5月」「1月」が8.1%となっている。

措置解除後の年数【措置解除者のみ】

図表 2-22 措置解除後の年数



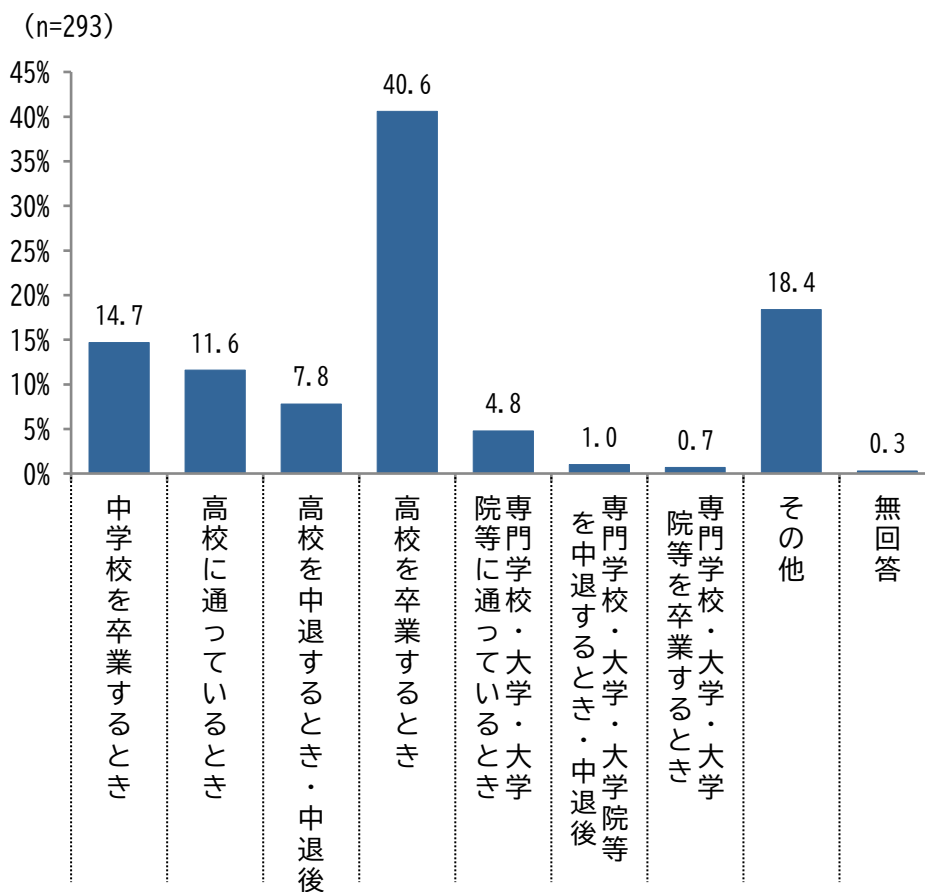
- 対象者の措置解除後の年数は、全体では、「4年以上5年未満」が13.6%で最も多く、次いで「1年未満」が11.9%、「8年以上9年未満」が11.2%となっている。

問 11 措置解除時期

措置解除時期【措置解除者のみ】

「高校を卒業するとき」が 40.6%で最多

図表 2-23 措置解除時期【措置解除者のみ】

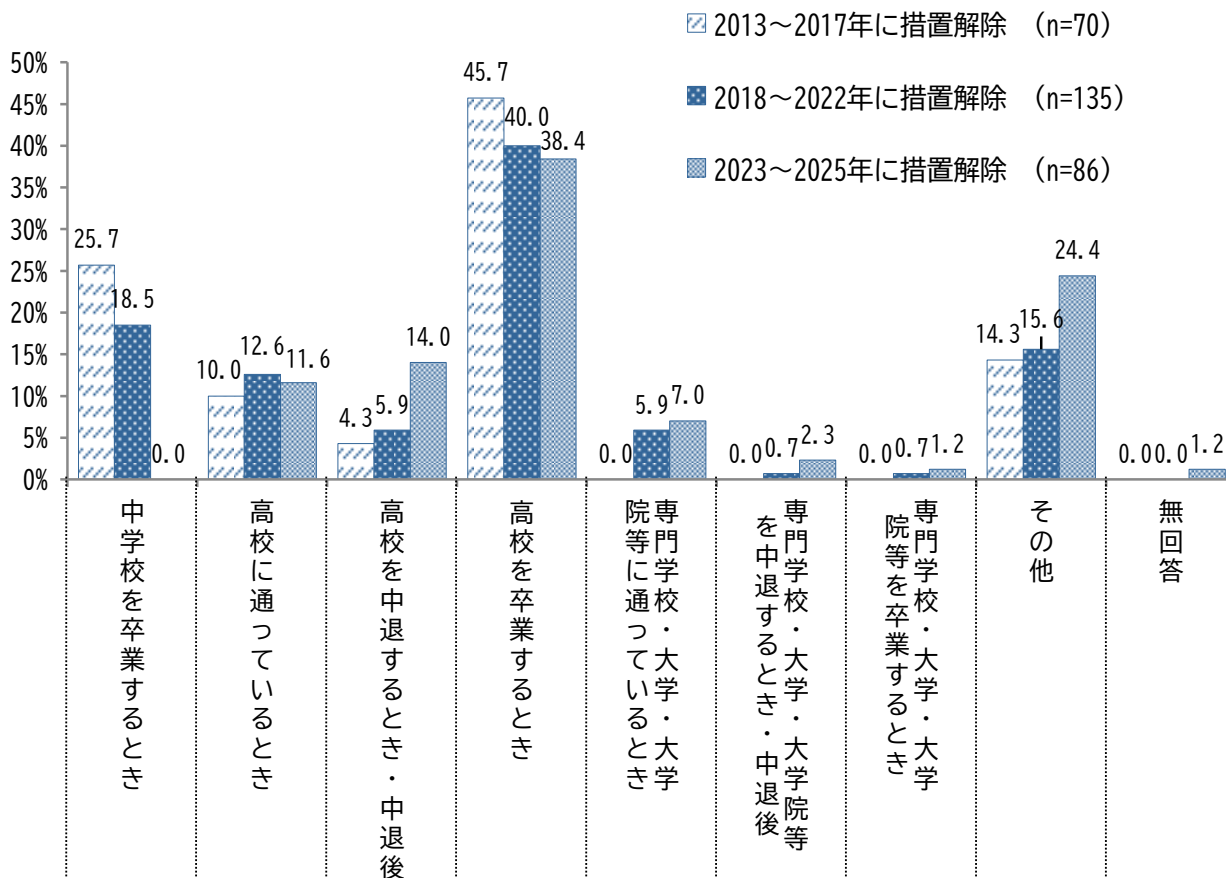


- 全体では、「高校を卒業するとき」が 40.6%で最も多く、次いで「中学校を卒業するとき」が 14.7%、「高校に通っているとき」が 11.6%となっている。

措置解除年(3段階)別 措置解除時期【措置解除者のみ】

「高校を卒業するとき」が最多、「中学校を卒業するとき」は大きく減少

図表 2-24 措置解除年(3段階)別 措置解除時期【措置解除者のみ】

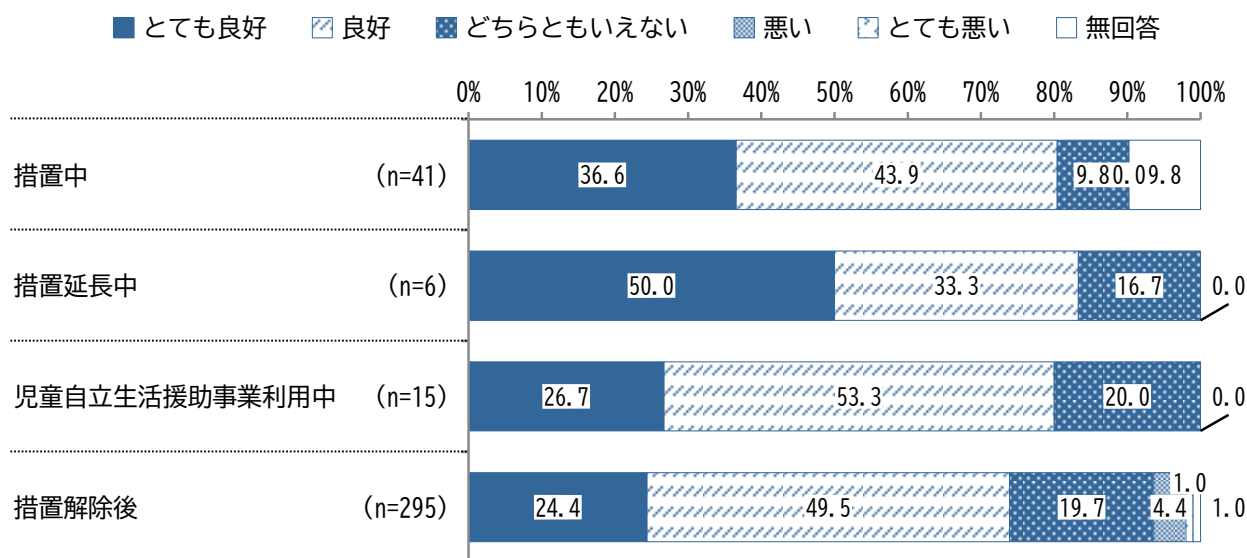


- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「高校を卒業するとき」が45.7%で最も多く、次いで「中学校を卒業するとき」が25.7%、「高校に通っているとき」が10.0%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「高校を卒業するとき」が40.0%で最も多く、次いで「中学校を卒業するとき」が18.5%、「高校に通っているとき」が12.6%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「高校を卒業するとき」が38.4%で最も多く、次いで「高校を中退するとき・中退後」が14.0%、「高校に通っているとき」が11.6%となっている。
- 措置解除年が最近になるにつれて、「中学校を卒業するとき」は大きく減少している一方で、「高校を中退するとき・中退後」の割合は上昇している。

問 12 措置解除時の施設・里親家庭との関係性

措置解除時の施設・里親家庭等との関係性(措置中:現在の施設・里親家庭等との関係性)

図表 2-25 措置解除時の施設・里親家庭等との関係性(措置中:現在の施設・里親家庭等との関係性)

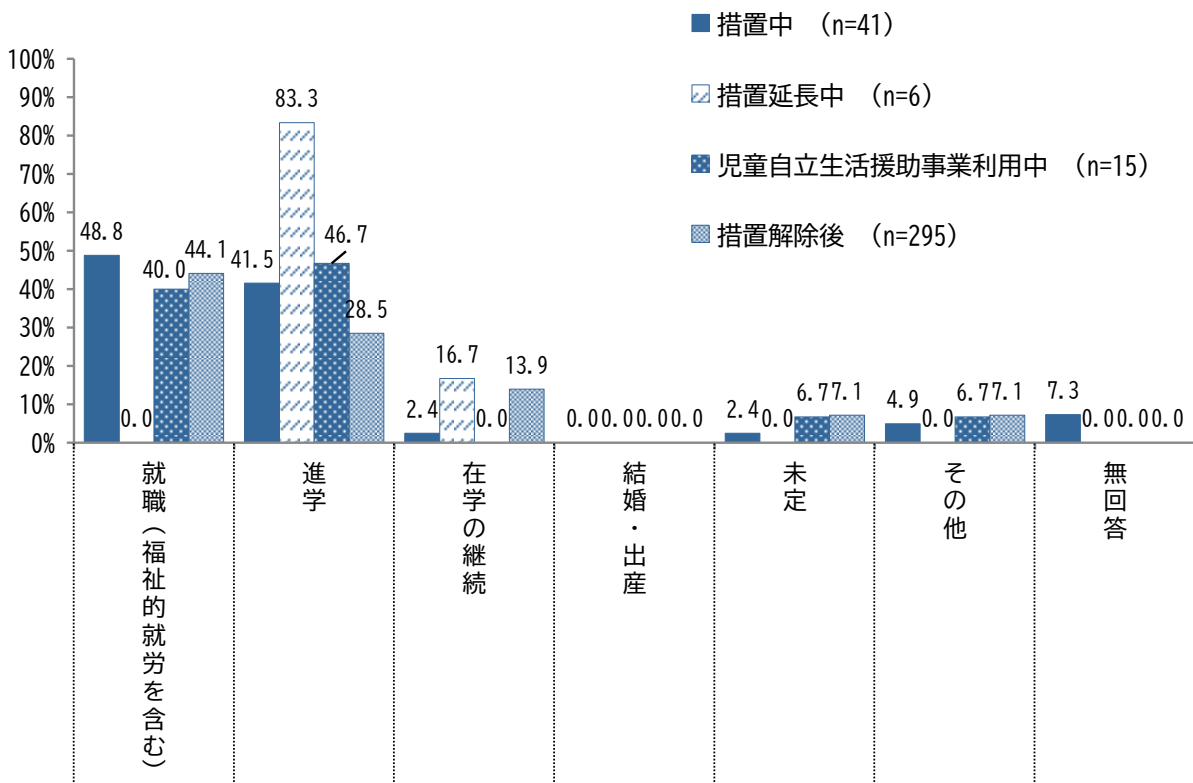


- 施設・里親家庭等から見た措置中の対象者との関係性では、「良好」な対象者が 43.9%で最も多く、次いで「とても良好」が 36.6%、「どちらともいえない」が 9.8%となっている。
- 措置延長中の対象者との関係性では、「とても良好」な対象者が 50.0%で最も多く、次いで「良好」が 33.3%、「どちらともいえない」が 16.7%となっている。
- 児童自立生活援助事業利用中の対象者との関係性では、「良好」な対象者が 53.3%で最も多く、次いで「とても良好」が 26.7%、「どちらともいえない」が 20.0%となっている。
- 施設・里親家庭等から見た措置解除後の対象者との措置解除時の関係性では、「良好」な対象者が 49.5%で最も多く、次いで「とても良好」が 24.4%、「どちらともいえない」が 19.7%となっている。

問 13 措置解除直後の進路

措置解除直後の進路(措置中:措置解除後の進路希望・予定) 複数回答可

図表 2-26 措置解除直後の進路(措置中:措置解除後の進路希望・予定) 複数回答可

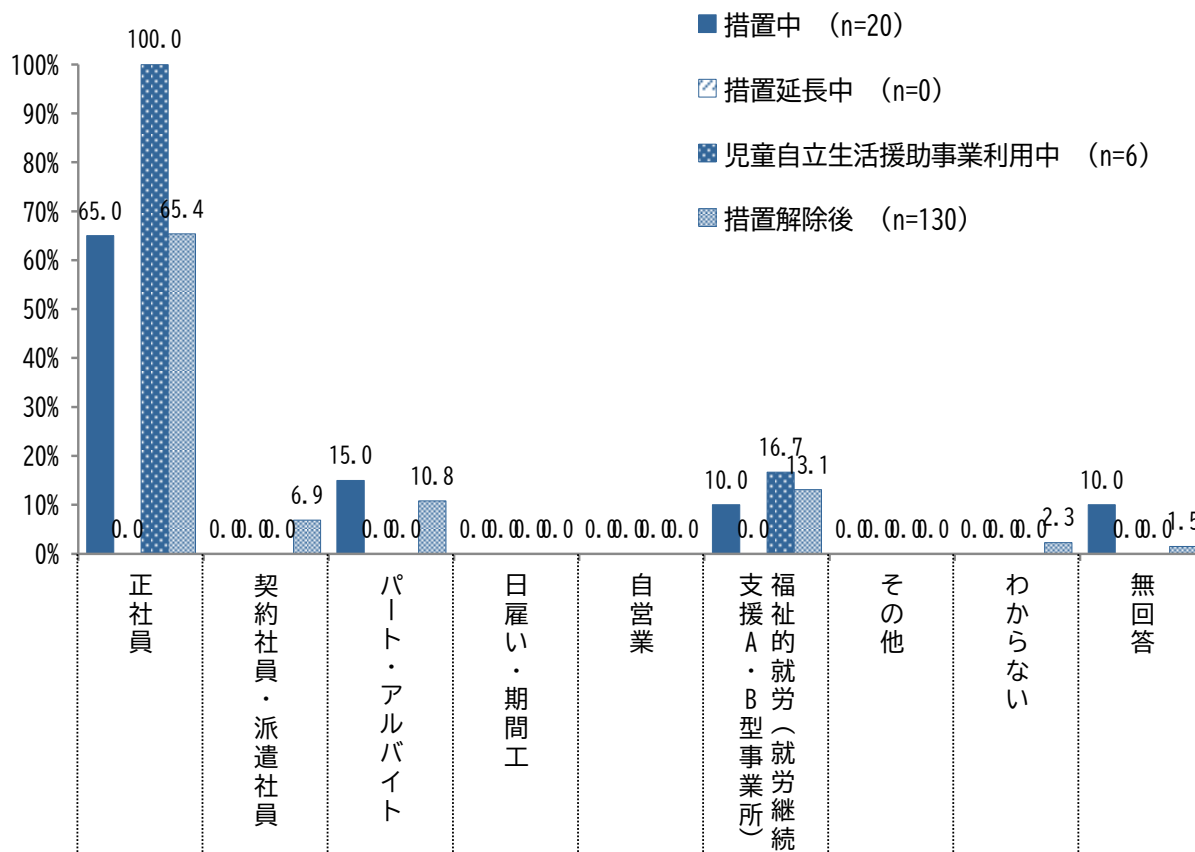


- 措置中の人々の措置解除後の進路希望・予定は、「就職(福祉的就労を含む)」が 48.8%で最も多く、次いで「進学」が 41.5%、「在学の継続」「未定」が 2.4%となっている。
- 措置延長中の人々の措置解除後の進路希望・予定は、「進学」が 83.3%で最も多く、次いで「在学の継続」が 16.7%となっている。
- 児童自立生活援助事業利用中の人々の今後の進路希望・予定では、「進学」が 46.7%で最も多く、次いで「就職(福祉的就労を含む)」が 40.0%、「未定」が 6.7%となっている。
- 措置解除後の人々の措置解除直後の進路では、「就職(福祉的就労を含む)」が 44.1%で最も多く、次いで「進学」が 28.5%、「在学の継続」が 13.9%となっている。
- 「その他」の回答として、「勤労の継続」(10 人)、「就労移行支援事業所」(1 人)、「アルバイト」(1 人)、「無職」(1 人)、「家庭復帰」(2 人)、「交際相手と同居」(2 人)、「障害者施設入所」(2 人)、「入院」(2 人)、「少年院」(1 人)があった。

問 14 措置解除直後の進路(就労・進学)

措置解除直後の進路<就労>(措置中:措置解除後の希望/予定) 複数回答可

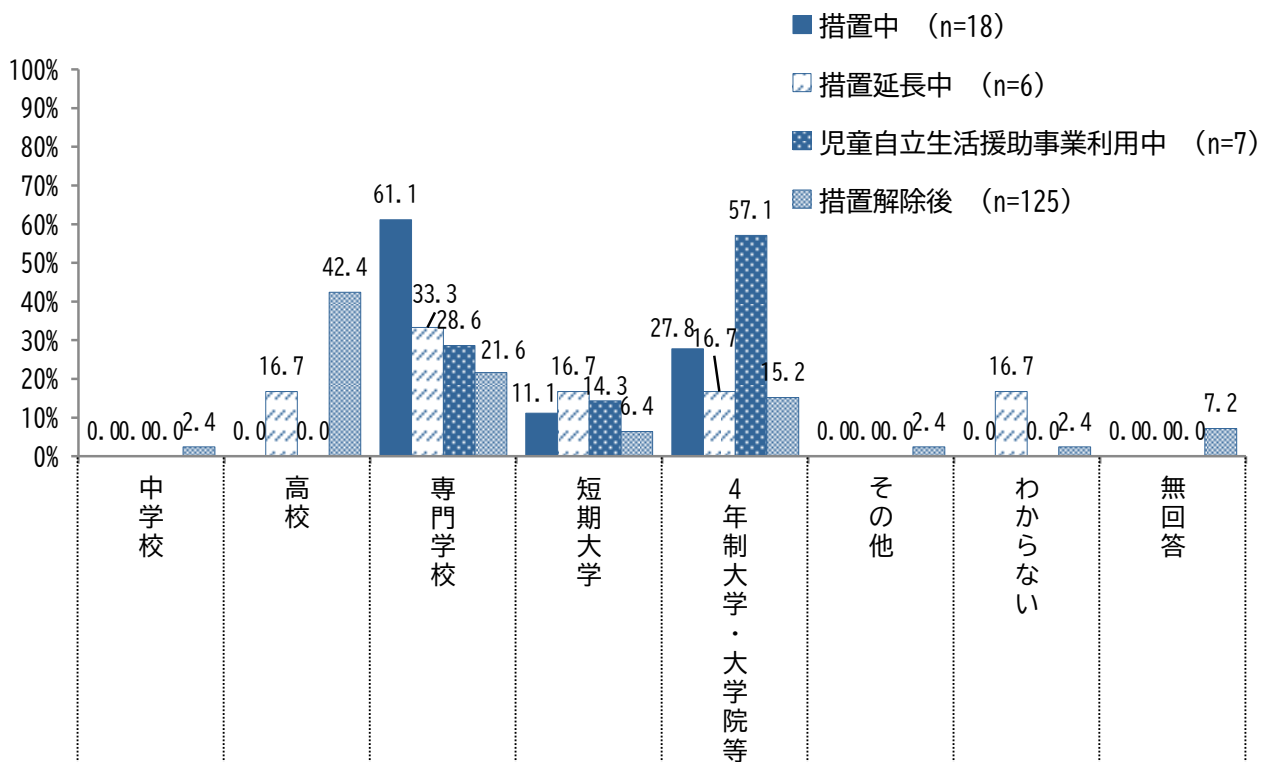
図表 2-27 措置解除直後の進路<就労>(措置中:措置解除後の希望/予定) 複数回答可



- 措置中の人のうち、措置解除後に就労を希望・予定している人の雇用形態(希望・予定)は、「正社員」が 65.0%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 15.0%、「福祉的就労(就労継続支援 A・B 型事業所)」が 10.0%となっている。
- 児童自立生活援助事業利用中の人のうち、措置解除後に就労を希望・予定している人の雇用形態(希望・予定)では「正社員」が 100.0%で最も多く、次いで「福祉的就労(就労継続支援 A・B 型事業所)」が 16.7%となっている。
- 措置解除後の人のうち、措置解除直後に就労した人の雇用形態(当時)は、「正社員」が 65.4%で最も多く、次いで「福祉的就労(就労継続支援 A・B 型事業所)」が 13.1%、「パート・アルバイト」が 10.8%となっている。

措置解除直後の進路(進学)(措置中:措置解除後の希望/予定)

図表 2-28 措置解除直後の進路(進学)(措置中:措置解除後の希望/予定)

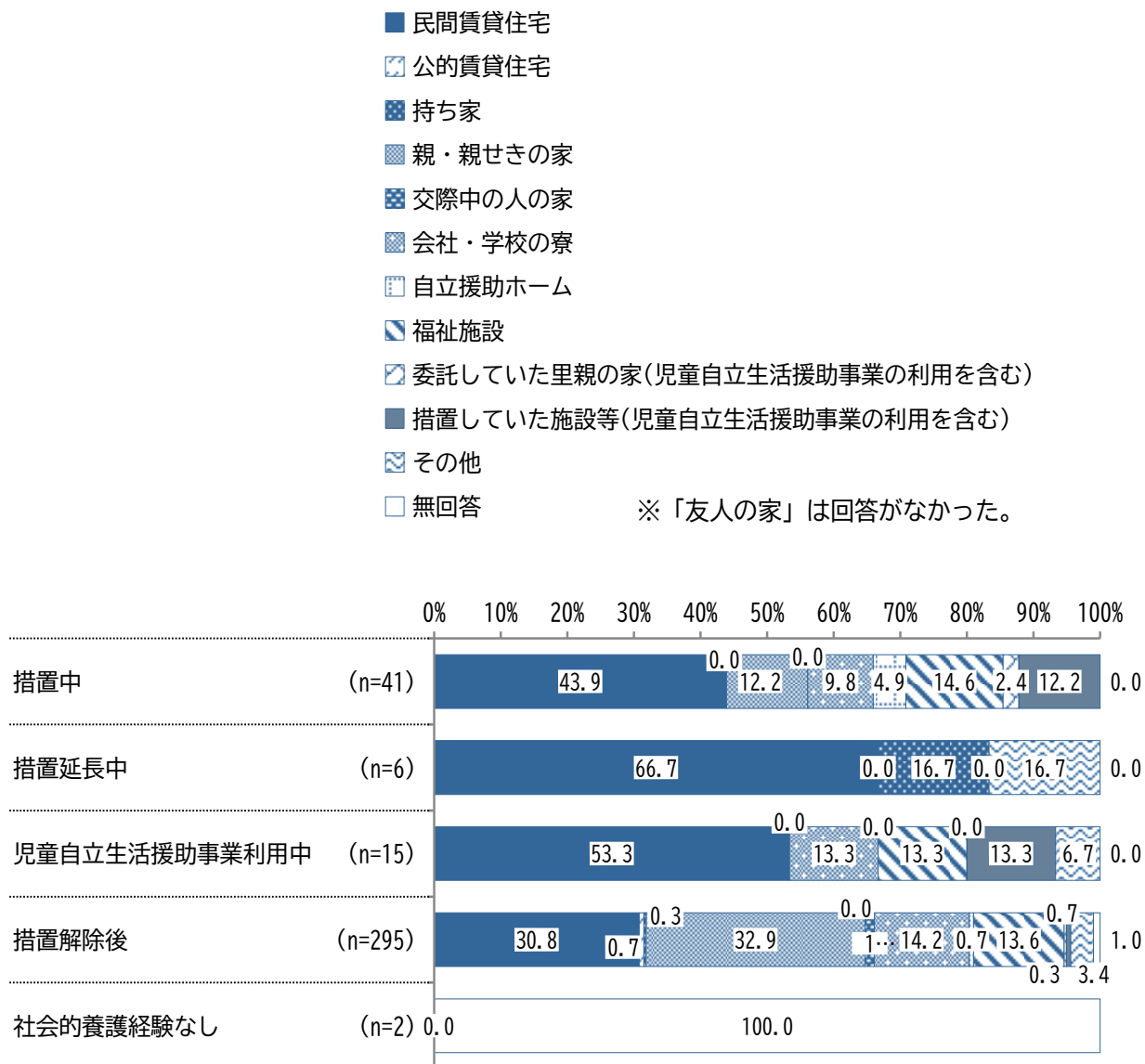


- 措置中の人のうち、措置解除後に進学を希望・予定している人の学校種(希望・予定)は、措置中では「専門学校」が 61.1%で最も多く、次いで「4 年制大学・大学院等」が 27.8%、「短期大学」が 11.1%となっている。
- 措置延長中の人のうち、措置解除後に進学を希望・予定している人の学校種(希望・予定)は、「専門学校」が 33.3%で最も多く、次いで「高校」「短期大学」「4 年制大学・大学院等」「わからない」が 16.7%となっている。
- 児童自立生活援助事業利用中の人のうち、措置解除後に進学を希望・予定している人の学校種(希望・予定)では「4 年制大学・大学院等」が 57.1%で最も多く、次いで「専門学校」が 28.6%、「短期大学」が 14.3%となっている。
- 措置解除後の人のうち、措置解除直後に進学した人の学校種(当時)は、「高校」が 42.4%で最も多く、次いで「専門学校」が 21.6%、「4 年制大学・大学院等」が 15.2%となっている。

問 15 措置解除直後の住まい

措置解除直後の住まい(措置中:措置解除後の住まいの希望/予定)

図表 2-29 措置解除直後の住まい(措置中:措置解除後の住まいの希望/予定)



- 措置中の人措置解除後の住まいの希望・予定は、「民間賃貸住宅」が 43.9%で最も多く、次いで「福祉施設」が 14.6%、「親・親せきの家」「措置していた施設等(児童自立生活援助事業の利用を含む)」が 12.2%となっている。
- 措置延長中の人措置解除後の住まいの希望・予定は、「民間賃貸住宅」が 66.7%で最も多く、次いで「持ち家」が 16.7%となっている。
- 児童自立生活援助事業利用中の人措置解除後の住まいの希望・予定は、「民間賃貸住宅」が 53.3%で最も多く、次いで「会社・学校の寮」「福祉施設」「措置していた施設等(児童自立生活援助事業の利用を含む)」が 13.3%となっている。

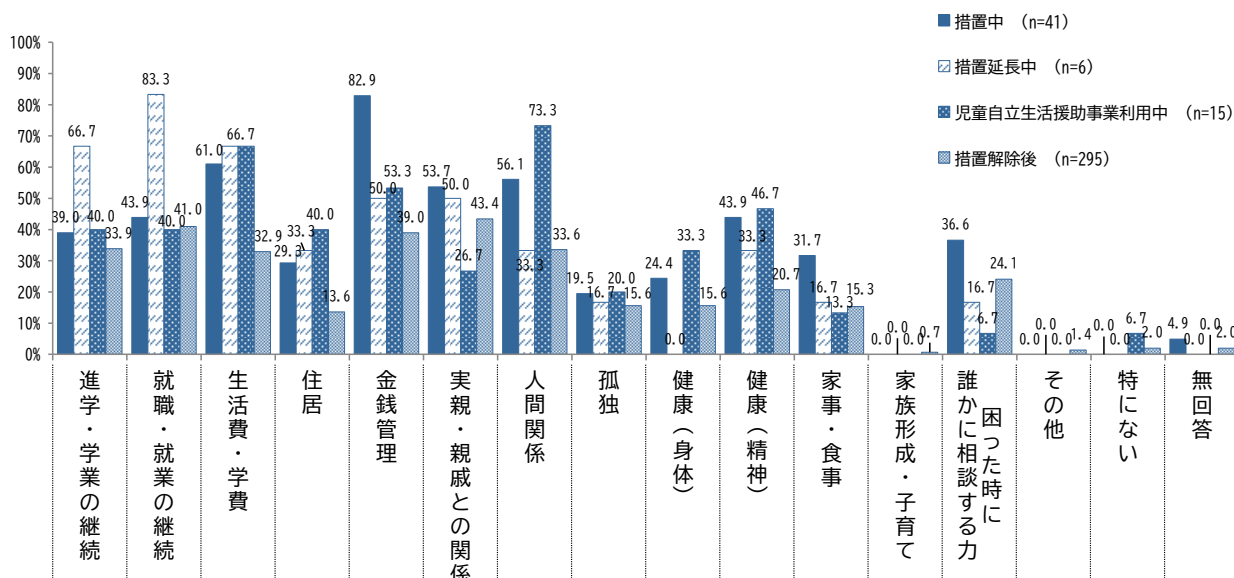
Ⅲ. 施設調査

- 措置解除後の人の措置解除直後の住まい(当時)は、「親・親せきの家」が 32.9%で最も多く、次いで「民間賃貸住宅」が 30.8%、「会社・学校の寮」が 14.2%となっている。

問 16 施設等が措置解除時に心配していた困難……………

施設等が措置解除時に心配していた困難(措置中:措置解除時に心配される困難)複数回答可

図表 2-30 施設等が措置解除時に心配していた困難(措置中:措置解除時に心配される困難)複数回答可



- 措置中の対象者について、施設等が措置解除時に心配している困難は、「金銭管理」が 82.9%で最も多く、次いで「生活費・学費」が 61.0%、「人間関係」が 56.1%となっている。
- 措置延長中の対象者について、施設等が措置解除時に心配している困難は、「就職・就業の継続」が 83.3%で最も多く、次いで「進学・学業の継続」「生活費・学費」が 66.7%、「金銭管理」「実親・親戚との関係」が 50.0%となっている。
- 児童自立生活援助事業利用中の対象者について、施設等が措置解除時に心配している困難は、「人間関係」が 73.3%で最も多く、次いで「生活費・学費」が 66.7%、「金銭管理」が 53.3%となっている。
- 措置解除後の対象者について、施設等が措置解除時に心配していた困難では、「実親・親戚との関係」が 43.4%で最も多く、次いで「就職・就業の継続」が 41.0%、「金銭管理」が 39.0%となっている。
- 「その他」の回答として、「非行」「触法行為」「盗癖」「ヒザ関係」(それぞれ 1 件ずつ)があった。

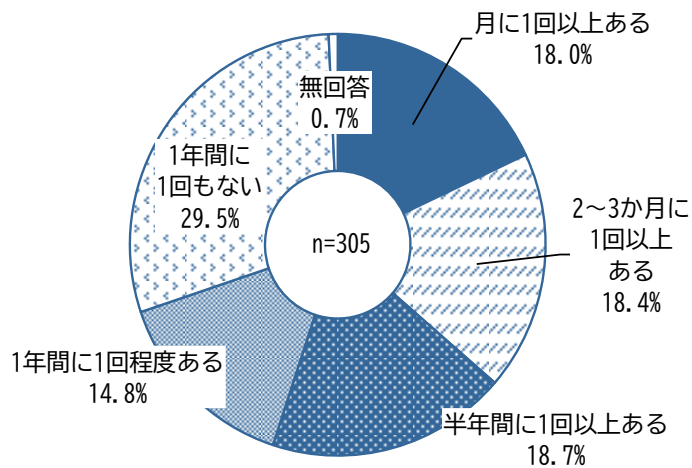
Ⅲ. 施設調査

5. 措置解除者との交流状況

問 17 施設等との直接の交流・間接的な状況確認

この1年間での施設等(回答した施設等)との直接の交流頻度

図表 2-31 この1年間での施設等(回答した施設等)との直接の交流頻度

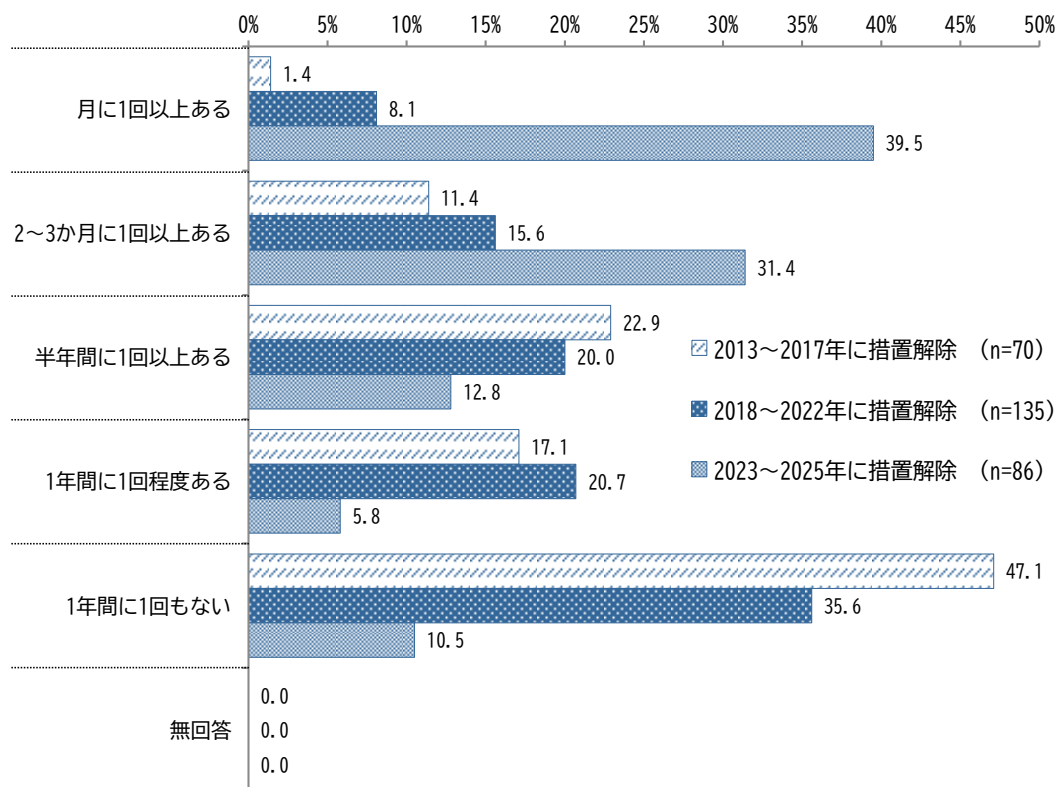


- 過去に、施設や里親家庭等で生活していた人全体では、1年間に1回以上直接の交流がある人が7割弱となっている一方で、直接の交流が「1年間に1回もない」人が29.5%となっている。

措置解除年(3段階)別

この1年間での施設等(回答した施設等)との直接の交流頻度

図表 2-32 措置解除年(3段階)別 この1年間での施設等(回答した施設等)との直接の交流頻度



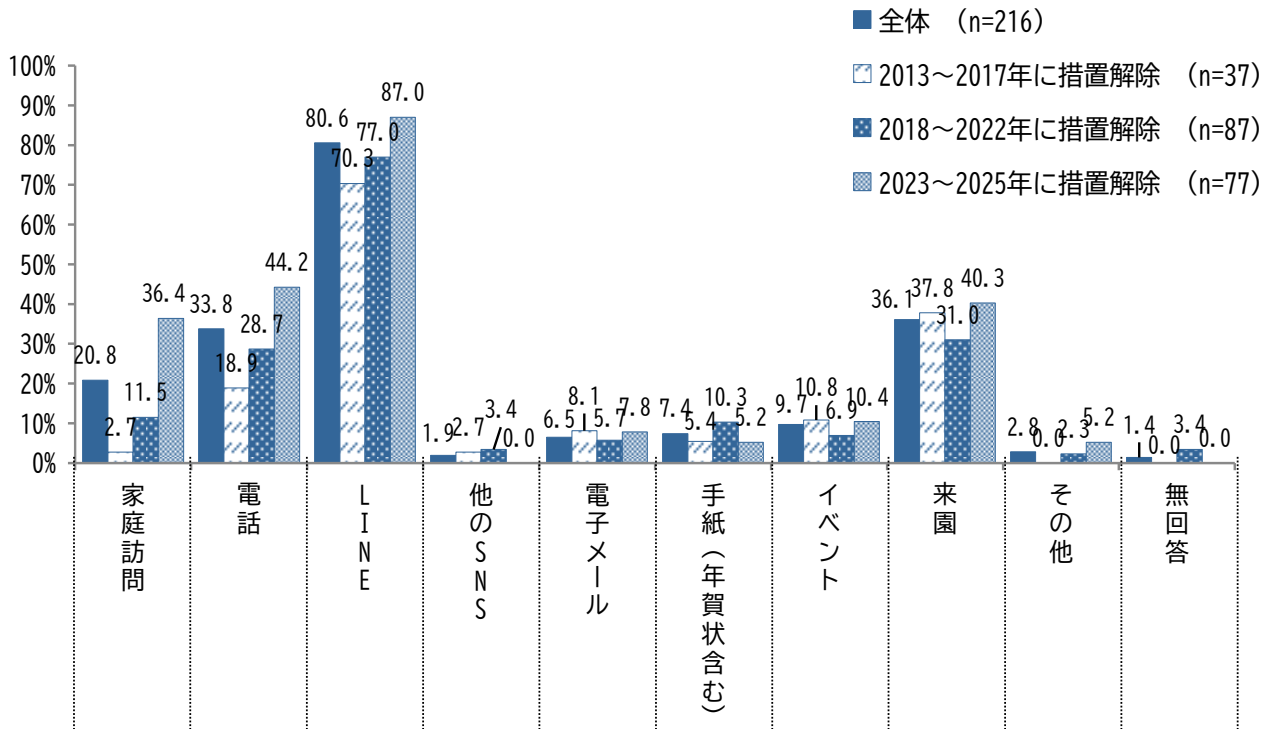
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「1年間に1回もない」が47.1%で最も多く、次いで「半年間に1回以上ある」が22.9%、「1年間に1回程度ある」が17.1%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「1年間に1回もない」が35.6%で最も多く、次いで「1年間に1回程度ある」が20.7%、「半年間に1回以上ある」が20.0%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「月に1回以上ある」が39.5%で最も多く、次いで「2～3か月に1回以上ある」が31.4%、「半年間に1回以上ある」が12.8%となっている。

Ⅲ. 施設調査

措置解除年(3段階)別 連絡手段(複数回答可)

「LINE」が 80.6%で最多、次いで「来園」が 36.1%

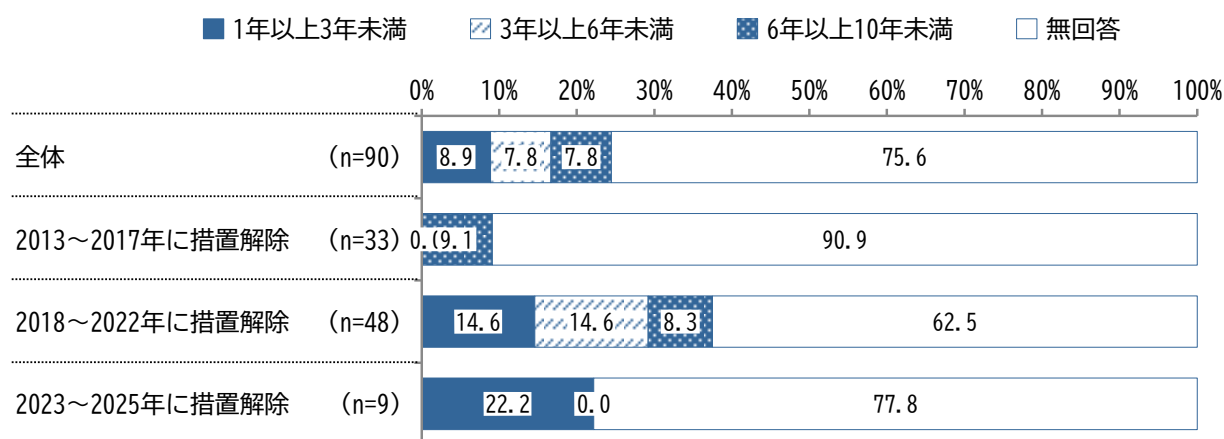
図表 2-33 措置解除年(3段階)別 連絡手段(複数回答可)



- 1年に1回程度以上施設・里親家庭等と直接の交流をしている人全体では、連絡手段として「LINE」が80.6%で最も多く、次いで「来園」が36.1%、「電話」が33.8%となっている。
- 措置解除年にかかわらず、「LINE」が最も選択率が高い。
- 措置解除年(3段階)でみると、2013~2017年に措置解除された人では「LINE」が70.3%で最も多く、次いで「来園」が37.8%、「電話」が18.9%となっている。
- 2018~2022年に措置解除された人では「LINE」が77.0%で最も多く、次いで「来園」が31.0%、「電話」が28.7%となっている。
- 2023~2025年に措置解除された人では「LINE」が87.0%で最も多く、次いで「電話」が44.2%、「来園」が40.3%となっている。
- 措置解除年が比較的最近である2023~2025年に措置解除された人との連絡手段では、それ以前に措置解除された人と比べて、より「電話」や「家庭訪問」が使われている。

直近で連絡が取れた時期から調査時点までの期間(直接の交流が1年に1回もない場合)

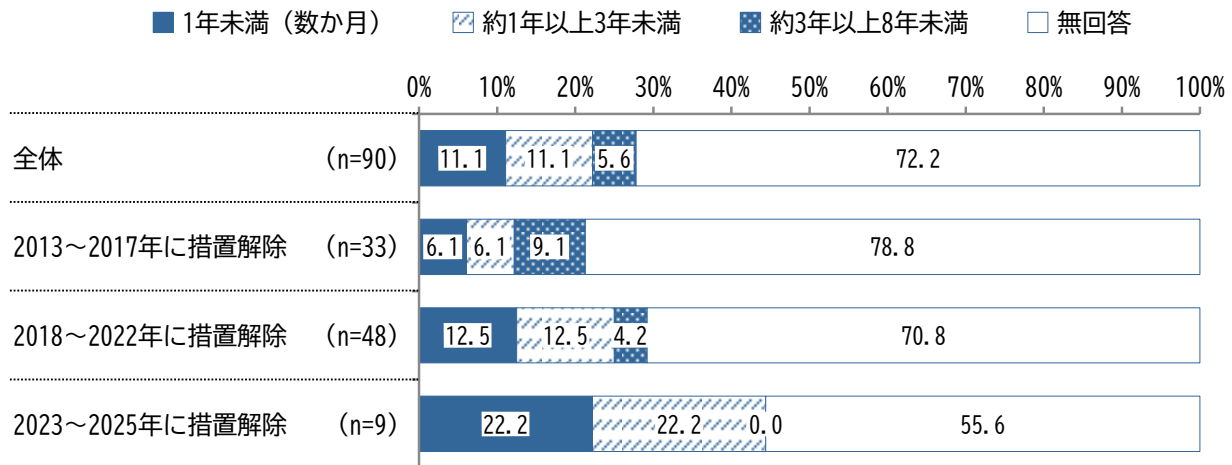
図表 2-34 直近で連絡が取れた時期から調査時点までの期間(直接の交流が1年に1回もない場合)



- 1年に1回も施設・里親家庭等と直接の交流がない人全体では、直近で連絡が取れた時期から調査時点までの期間が「1年以上3年未満」が8.9%、「3年以上6年未満」「6年以上10年未満」が7.8%となっている。
- 措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「6年以上10年未満」が9.1%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「1年以上3年未満」「3年以上6年未満」が14.6%、「6年以上10年未満」が8.3%となっている。
- 全体に、直接連絡が取れた時期について無回答が多かった。

間接的な状況確認ができた時期から調査時点までの期間(直接の交流が1年に1回もない場合)

図表 2-35 間接的な状況確認ができた時期から調査時点までの期間
(直接の交流が1年に1回もない場合)

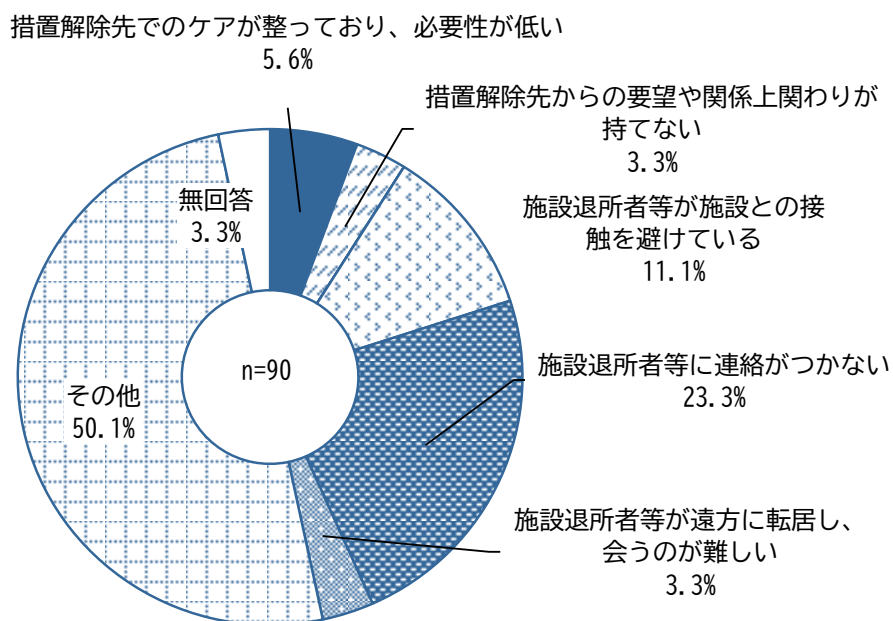


- 1年に1回も施設・里親家庭等と直接の交流がない人全体では、間接的な状況確認ができた時期から調査時点までの期間が「1年未満(数か月)」「約1年以上3年未満」が11.1%、「約3年以上8年未満」が5.6%となっている。
- 措置解除年(3段階)で見ると、2013~2017年に措置解除された人では「約3年以上8年未満」が9.1%、「1年未満(数か月)」「約1年以上3年未満」が6.1%となっている。
- 2018~2022年に措置解除された人では「1年未満(数か月)」「約1年以上3年未満」が12.5%、「約3年以上8年未満」が4.2%となっている。
- 2023~2025年に措置解除された人では「1年未満(数か月)」「約1年以上3年未満」が22.2%となっている。
- 全体に、間接的な状況確認ができた時期について無回答が多かった。

交流のない主な理由(直接の交流が1年に1回もない場合)

「施設退所者等に連絡がつかない」が23.3%で最多
 次いで「施設退所者等が施設との接触を避けている」が11.1%と続く

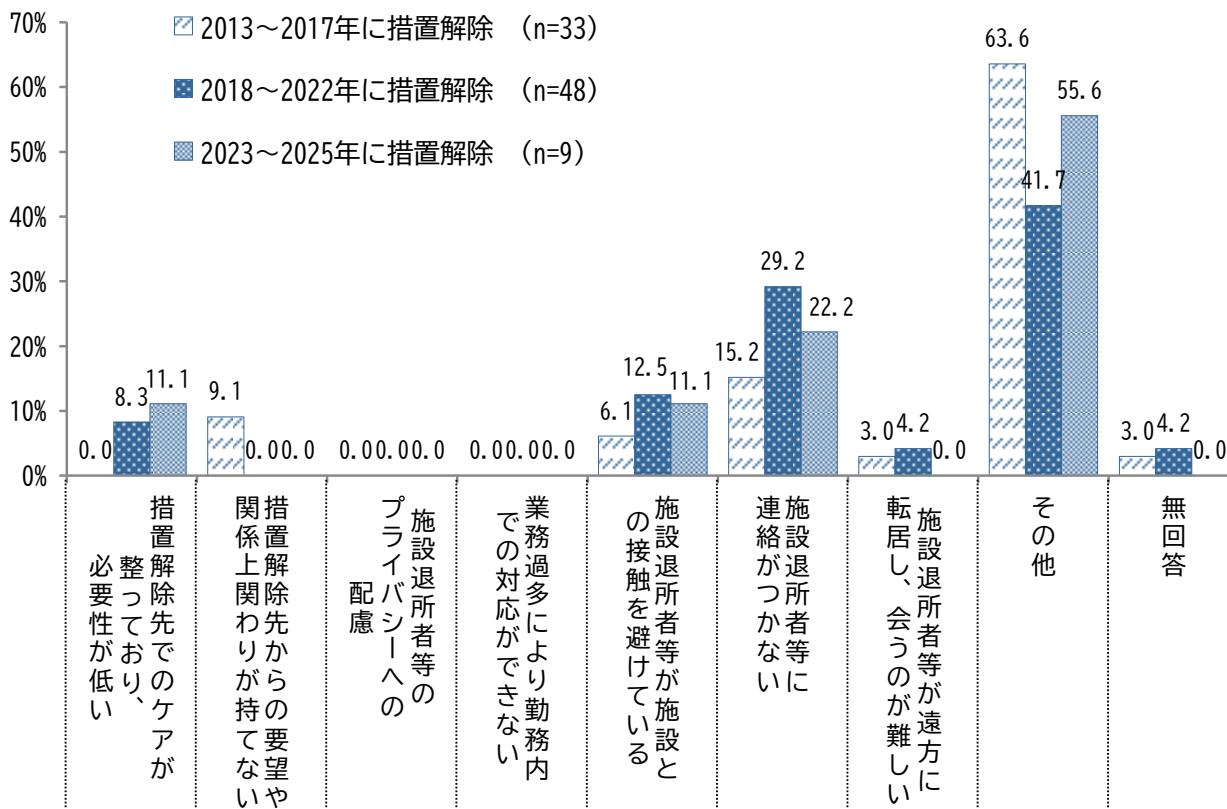
図表 2-36 交流のない主な理由(直接の交流が1年に1回もない場合)



- 1年に1回も施設・里親家庭等と直接の交流がない人全体では、「施設退所者等に連絡がつかない」が23.3%で最も多く、次いで「施設退所者等が施設との接触を避けている」が11.1%、「措置解除先でのケアが整っており、必要性が低い」が5.6%となっている。
- 「その他」については、「きょうだいが入園しており、交流の際会っていた」「連絡する用がなかった」「一時保護所に戻ったため」があった。
- 「その他」について、施設によっては「本人の意向を尊重」や「アフターケアとして一定期間関わり、状況を確認していくが、その後については本人の自主性に任せており、施設から連絡先を積極的に収集していない」と一貫した回答があった。

措置解除年(3段階)別 交流のない主な理由(直接の交流が1年に1回もない場合)

図表 2-37 措置解除年(3段階)別 交流のない主な理由(直接の交流が1年に1回もない場合)



- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「施設退所者等に連絡がつかない」が15.2%で最も多く、次いで「措置解除先からの要望や関係上関わりが持てない」が9.1%、「施設退所者等が施設との接触を避けている」が6.1%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「施設退所者等に連絡がつかない」が29.2%で最も多く、次いで「施設退所者等が施設との接触を避けている」が12.5%、「措置解除先でのケアが整っており、必要性が低い」が8.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「施設退所者等に連絡がつかない」が22.2%で最も多く、次いで「措置解除先でのケアが整っており、必要性が低い」「施設退所者等が施設との接触を避けている」が11.1%となっている。

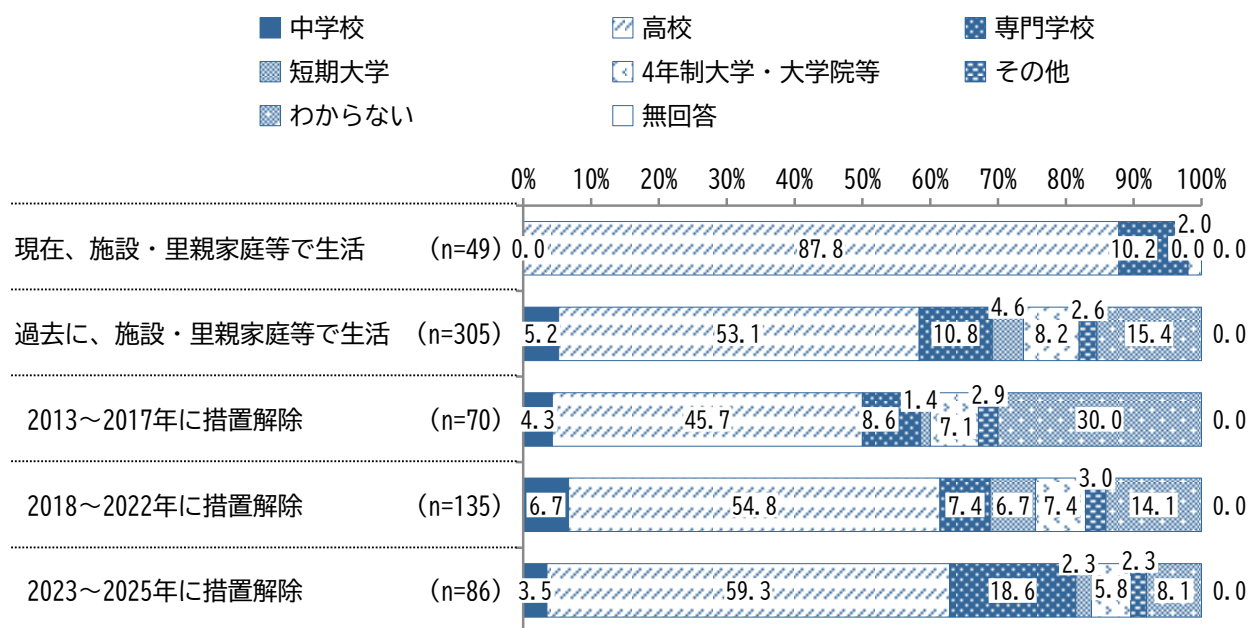
6. 対象者の就学・就労状況

問 18 最終学歴(学校の種類・卒業等の有無)

現在の住まいの状況・措置解除年(3段階)にかかわらず、「高校」が最多

最終学歴(学校種)(卒業の有無を問わない)

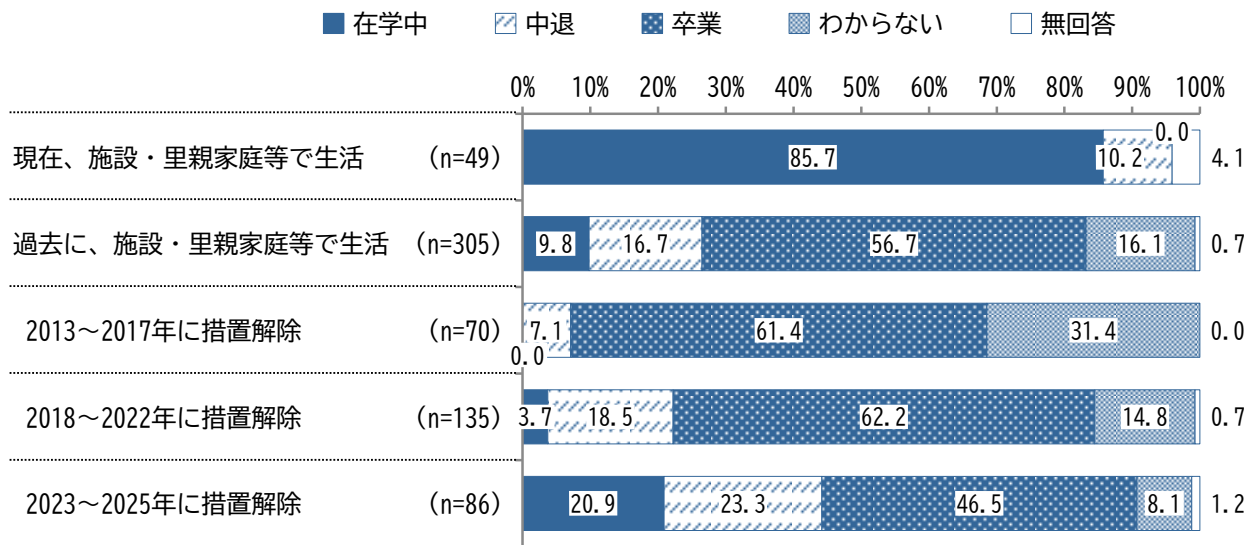
図表 2-38 最終学歴(学校種)(卒業の有無を問わない)



- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「高校」が 87.8%で最も多く、次いで「専門学校」が 10.2%、「4年制大学・大学院等」が 2.0%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「高校」が 53.1%で最も多く、次いで「わからない」が 15.4%、「専門学校」が 10.8%となっている。
- 措置解除者について、措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「高校」が 45.7%で最も多く、次いで「専門学校」が 8.6%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「高校」が 54.8%で最も多く、次いで「専門学校」「4年制大学・大学院等」が 7.4%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「高校」が 59.3%で最も多く、次いで「専門学校」が 18.6%、「わからない」が 8.1%となっている。

最終学歴<卒業等の有無>

図表 2-39 最終学歴<卒業等の有無>

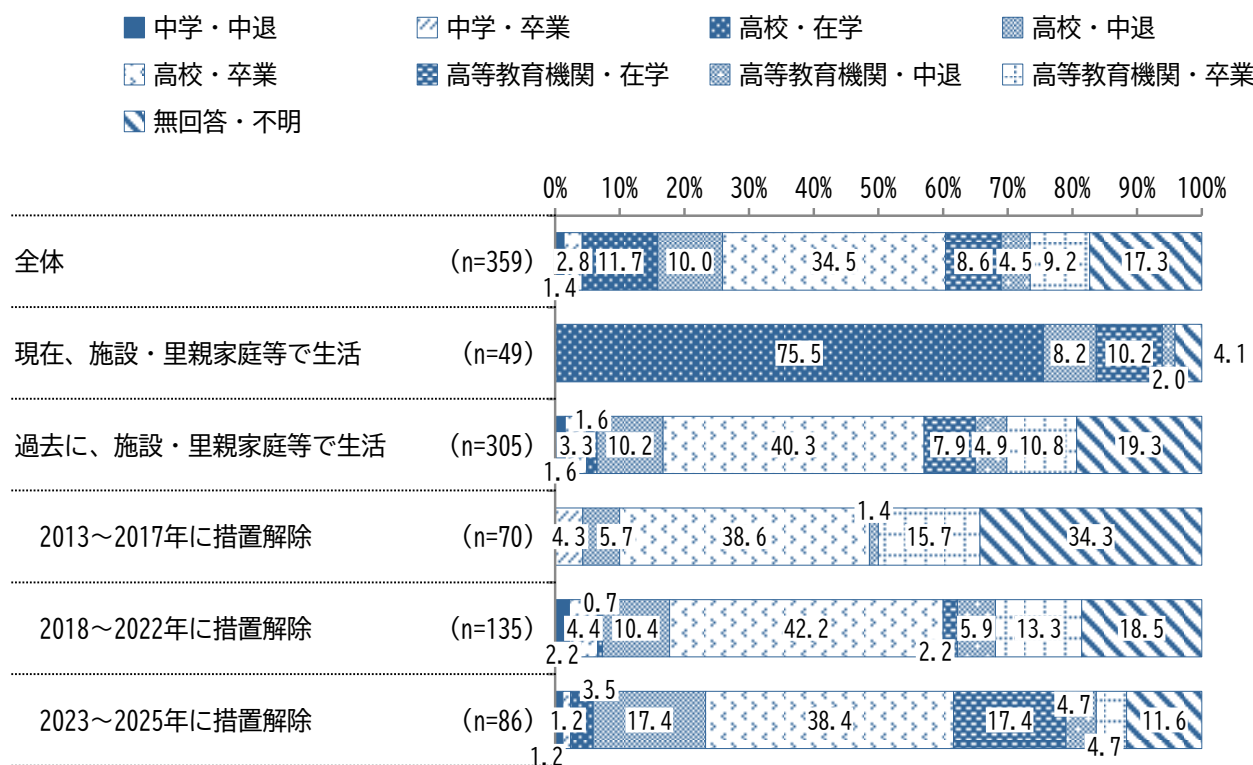


- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「在学中」が85.7%、「中退」が10.2%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「卒業」が56.7%、「中退」が16.7%となっている。
- 措置解除年(3段階)でみると、2013～2017年に措置解除された人では「卒業」が61.4%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「卒業」が62.2%、「中退」が18.5%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「卒業」が46.5%、「中退」が23.3%となっている。
- 措置解除年から時間が経過しているほど、施設・里親家庭等が措置解除者の最終学歴(学校種・卒業等の有無)を把握していない傾向がある。

最終学歴<学歴・卒業有無>

過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「高校・卒業」が最多

図表 2-40 最終学歴<学歴・卒業有無>



※高等教育機関:「専門学校」「短期大学」「四年制大学・大学院等」の回答を合算

- 全体では、「高校・卒業」が 34.5%で最も多く、次いで「高校・在学」が 11.7%となっている。
- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「高校・在学」が 75.5%で最も多く、次いで「高等教育機関・在学」が 10.2%、「高校・中退」が 8.2%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「高校・卒業」が 40.3%で最も多く、次いで「高等教育機関・卒業」が 10.8%、「高校・中退」が 10.2%となっている。
- 措置解除者について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「高校・卒業」が 38.6%で最も多く、次いで「高等教育機関・卒業」が 15.7%、「高校・中退」が 5.7%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「高校・卒業」が 42.2%で最も多く、次いで「高等教育機関・卒業」が 13.3%、「高校・中退」が 10.4%となっている。

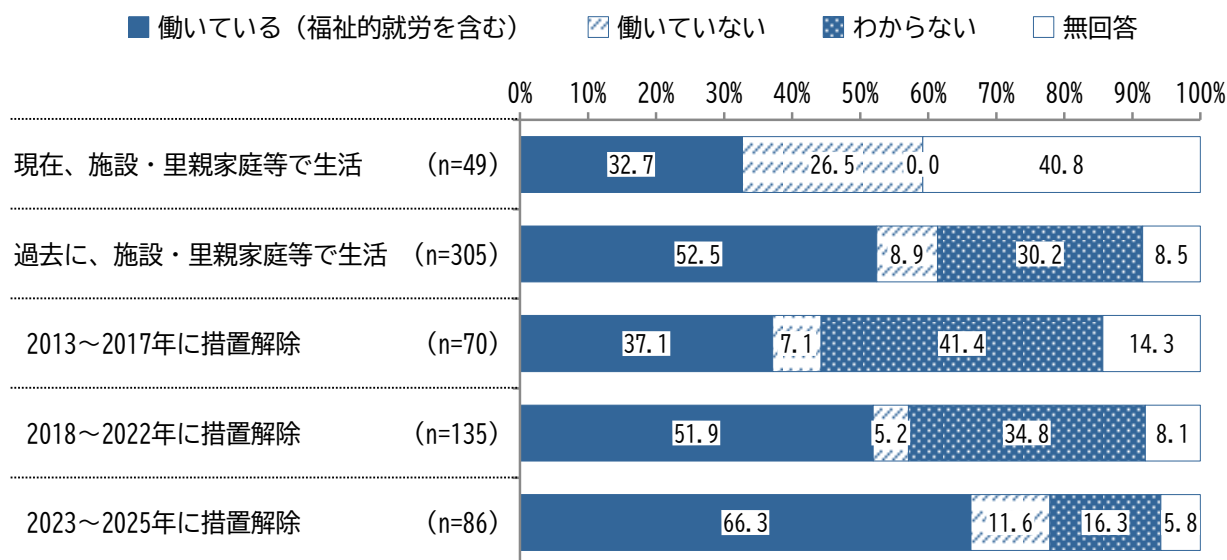
Ⅲ. 施設調査

- 2023～2025 年に措置解除された人では「高校・卒業」が 38.4%で最も多く、次いで「高校・中退」「高等教育機関・在学」が 17.4%、「高等教育機関・中退」「高等教育機関・卒業」が 4.7%となっている。

問 19 就労状況(就労の有無・雇用形態・求職活動).....

就労状況<就労の有無>

図表 2-41 就労状況<就労の有無>



- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「働いている(福祉的就労を含む)」が 32.7%、「働いていない」が 26.5%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「働いている(福祉的就労を含む)」が 52.5%、「わからない」が 30.2%となっている。
- 措置解除者について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「わからない」が 41.4%、「働いている(福祉的就労を含む)」が 37.1%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「働いている(福祉的就労を含む)」が 51.9%、「わからない」が 34.8%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「働いている(福祉的就労を含む)」が 66.3%、「わからない」が 16.3%となっている。

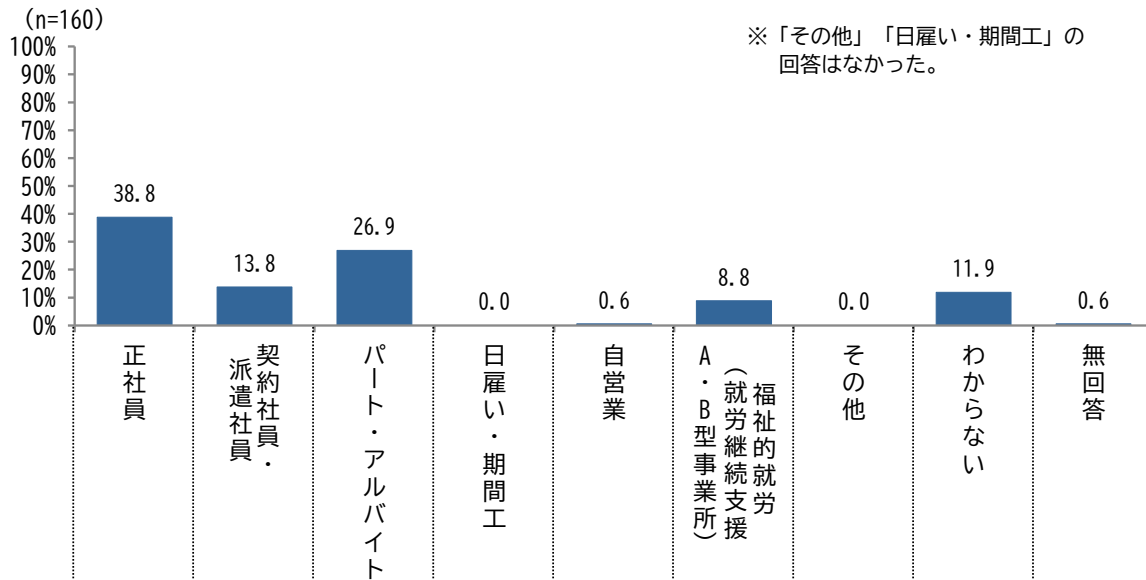
Ⅲ. 施設調査

就労状況<雇用形態>

【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のうち、働いている人全体】複数回答可

図表 2-42 就労状況<雇用形態>

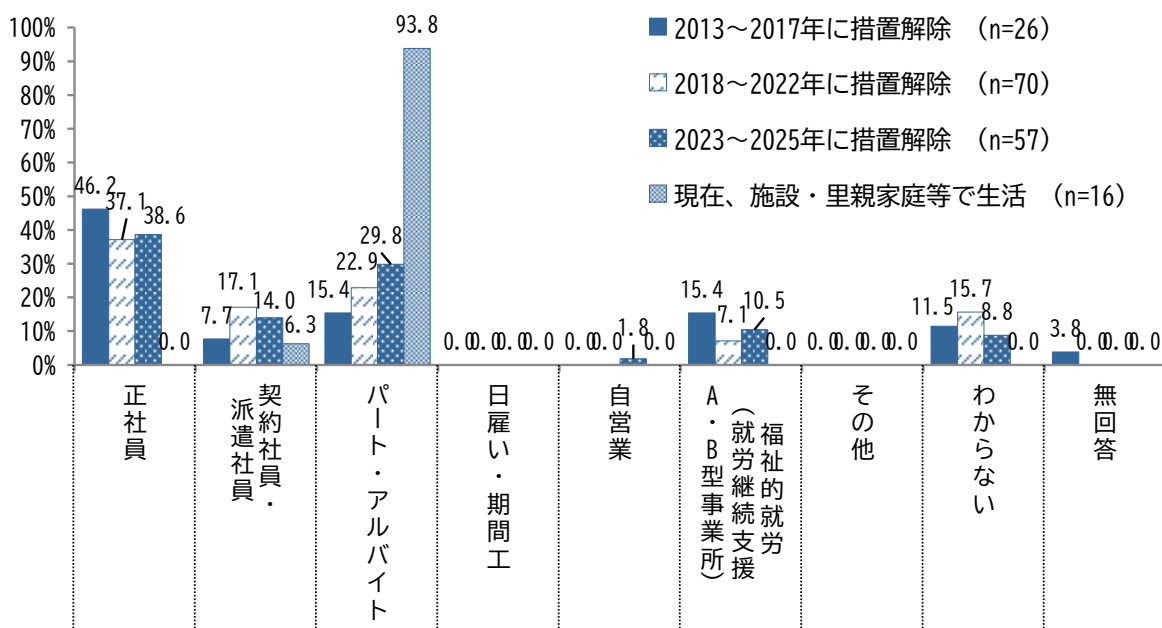
【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のうち、働いている人全体】複数回答可



- 過去に、施設や里親家庭で生活していた人のうち、働いている人では「正社員」が 38.8%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 26.9%、「契約社員・派遣社員」が 13.8%となっている。
- 「日雇い・期間工」の回答はなかった。

就労状況(雇用形態)【働いている人のみ】複数回答可

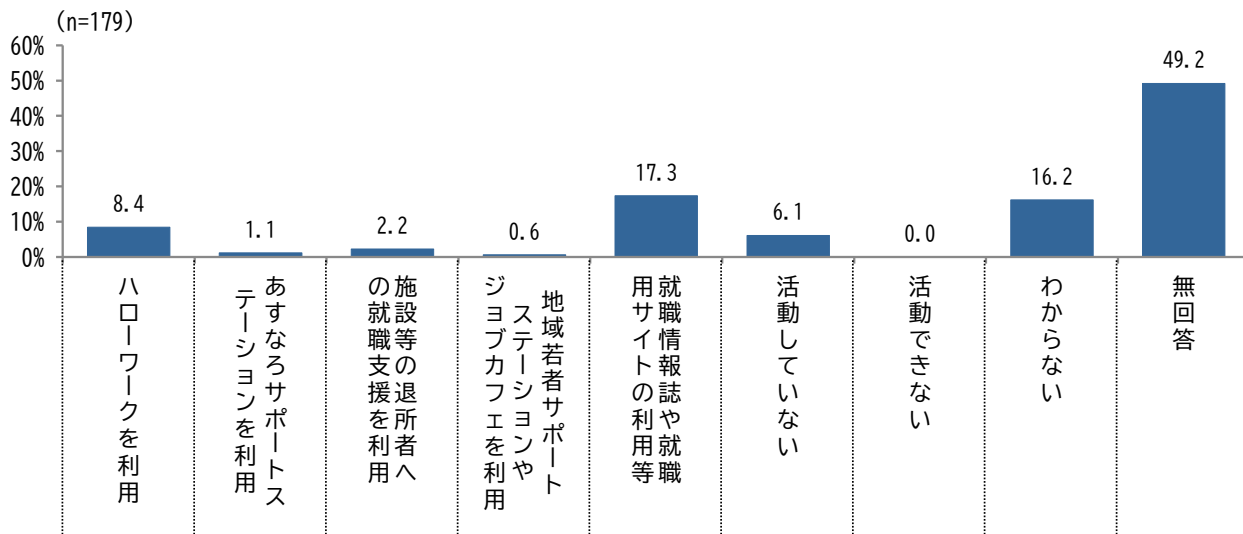
図表 2-43 就労状況(雇用形態)【働いている人のみ】複数回答可



- 現在、施設・里親家庭等で生活している人のうち働いている人の雇用形態は「パート・アルバイト」が 93.8%で最も多く、次いで「契約社員・派遣社員」が 6.3%となっている。
- 措置解除者について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人のうち働いている人の雇用形態は「正社員」が 46.2%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」「福祉的就労(就労継続支援 A・B 型事業所)」が 15.4%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人のうち働いている人の雇用形態は「正社員」が 37.1%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 22.9%、「契約社員・派遣社員」が 17.1%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人のうち働いている人の雇用形態は「正社員」が 38.6%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 29.8%、「契約社員・派遣社員」が 14.0%となっている。

就労状況<求職活動の状況>【働いている人のみ】複数回答可

図表 2-44 就労状況<求職活動の状況>【働いている人のみ】複数回答可



➤ 働いている人の求職活動の状況は、「就職情報誌や就職用サイトの利用等」が17.3%で最も多く、次いで「わからない」が16.2%、「ハローワークを利用」が8.4%となっている。

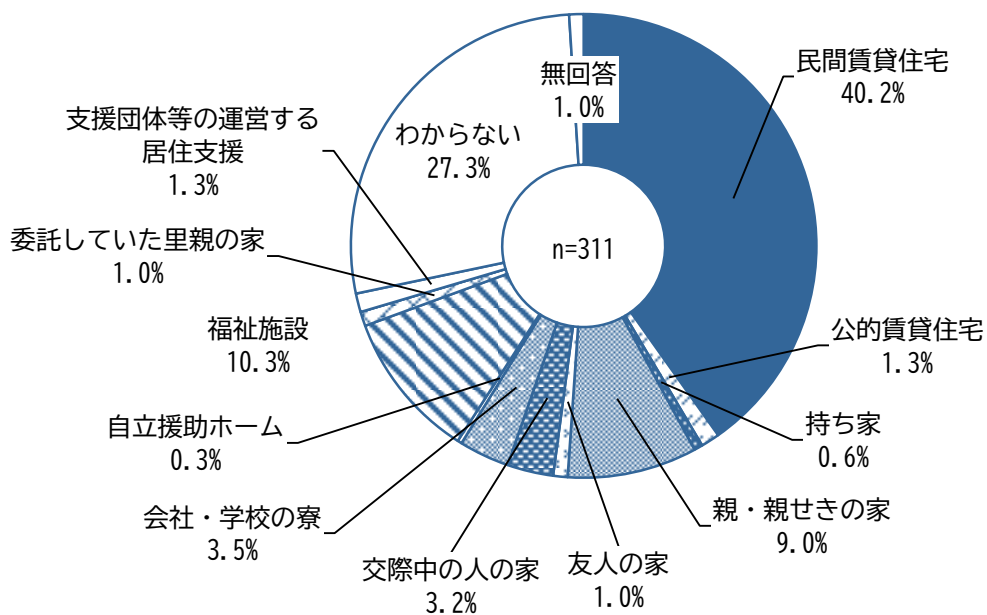
7. 対象者の生活の状況

問 20 現在の住まい(現在の住まい・同居者・子どもの年齢).....

現在の住まい【回答した施設・里親家庭等で暮らしている人を除く】

「民間賃貸住宅」が 40.2%で最多、次いで「福祉施設」が 10.3%

図表 2-45 現在の住まい【回答した施設・里親家庭等で暮らしている人を除く】



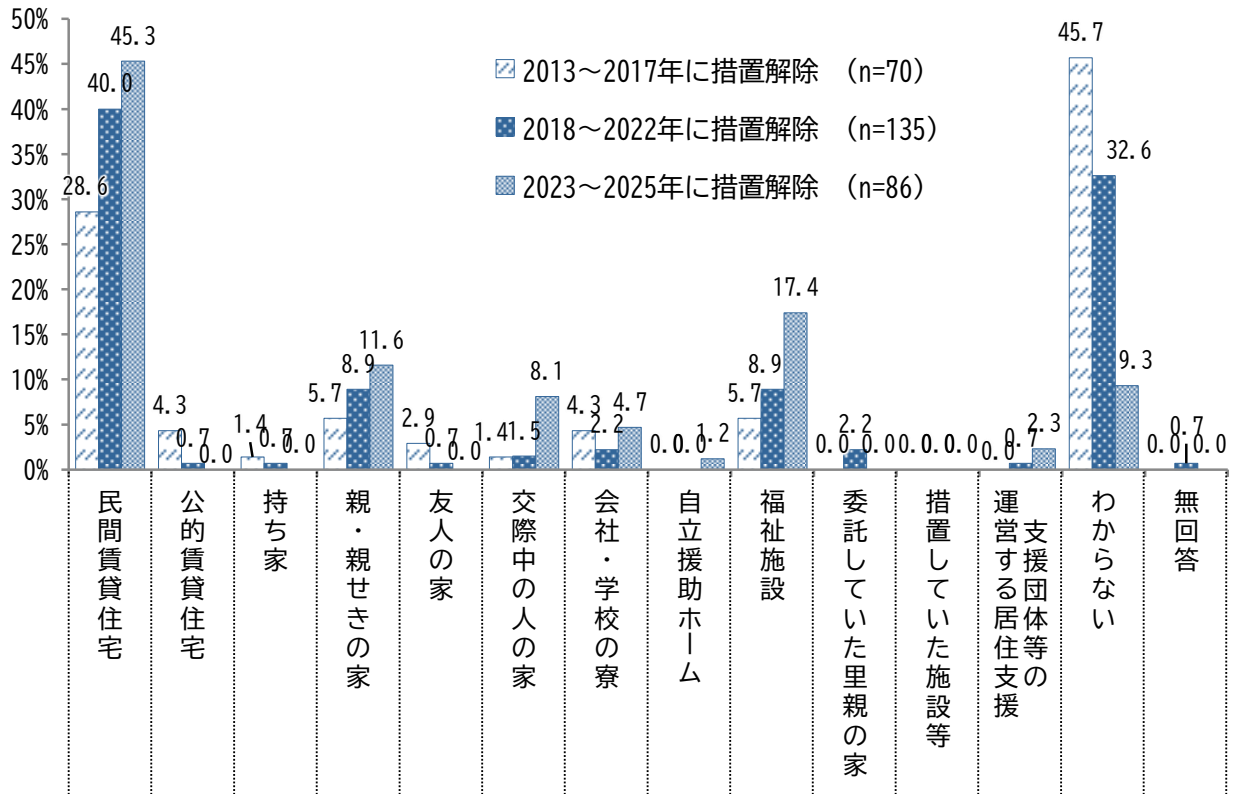
- 回答した施設・里親家庭等で暮らしている人を除いた全体では、「民間賃貸住宅」が 40.2%で最も多く、次いで「福祉施設」が 10.3%、「親・親せきの家」が 9.0%となっている。

Ⅲ. 施設調査

措置解除年(3段階)別 現在の住まい

【回答した施設・里親家庭等及び福祉施設で暮らしている人を除く】複数選択可

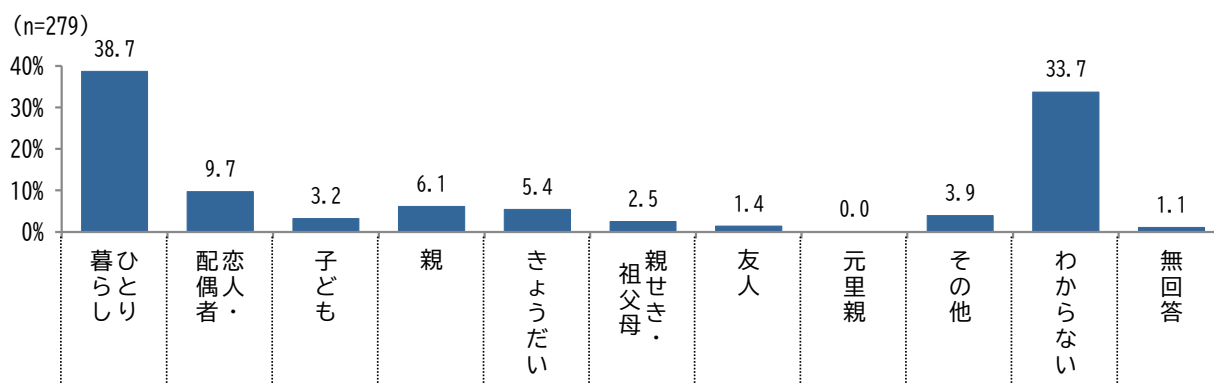
図表 2-46 措置解除年(3段階)別 現在の住まい【回答した施設・里親家庭等で暮らしている人を除く】



- 措置解除者について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「民間賃貸住宅」が28.6%で最も多く、次いで「親・親せきの家」「福祉施設」が5.7%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「民間賃貸住宅」が40.0%で最も多く、次いで「親・親せきの家」「福祉施設」が8.9%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「民間賃貸住宅」が45.3%で最も多く、次いで「福祉施設」が17.4%、「親・親せきの家」が11.6%となっている。
- 措置解除年から時間が経過しているほど、施設・里親家庭等が措置解除者の現在の住まいの形態を把握していない傾向がある。

同居者【回答した施設・里親家庭等及び福祉施設で暮らしている人を除く】複数選択可

図表 2-47 現在の住まい【回答した施設・里親家庭等及び福祉施設で暮らしている人を除く】



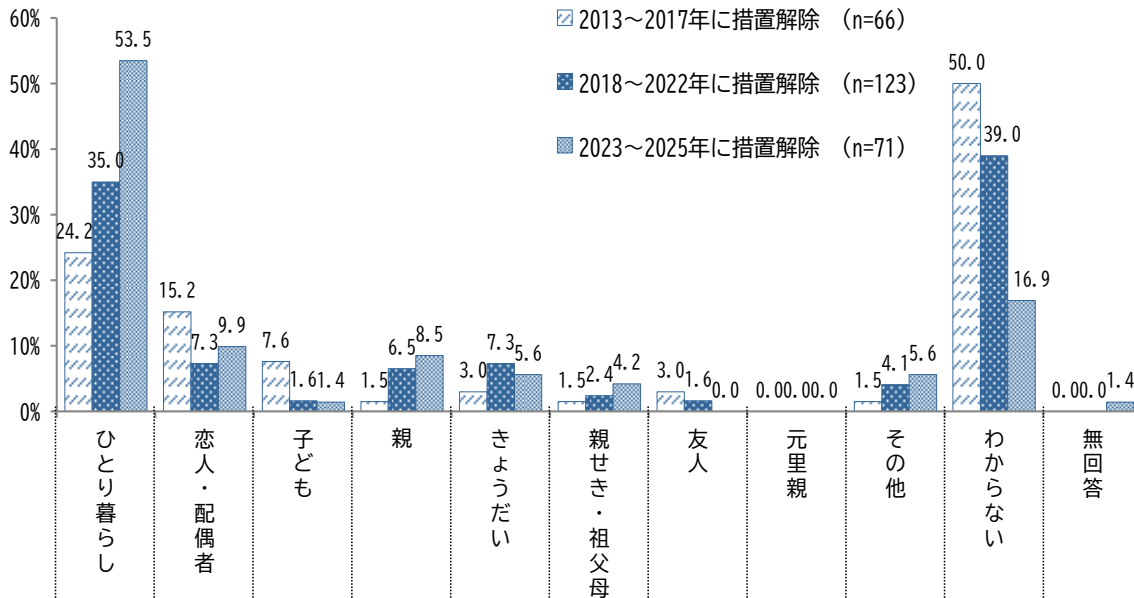
- 回答した施設・里親家庭等及び福祉施設で暮らしている人を除いた全体では、「ひとり暮らし」が38.7%で最も多く、次いで「恋人・配偶者」が9.7%、「親」が6.1%となっている。

Ⅲ. 施設調査

措置解除年(3段階)別 同居者

【回答した施設・里親家庭等及び福祉施設等で暮らしている人を除く】

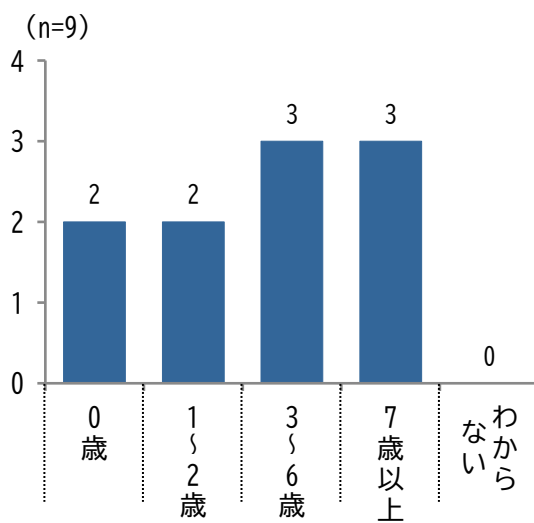
図表 2-48 現在の同居者の有無【回答した施設・里親家庭等及び福祉施設等で暮らしている人を除く】



- 措置解除年(3段階)で見ると、2013~2017年に措置解除された人では「ひとり暮らし」が24.2%で最も多く、次いで「恋人・配偶者」が15.2%となっている。
- 2018~2022年に措置解除された人では「ひとり暮らし」が35.0%で最も多く、次いで「恋人・配偶者」「きょうだい」が7.3%となっている。
- 2023~2025年に措置解除された人では「ひとり暮らし」が53.5%で最も多く、次いで「恋人・配偶者」が9.9%となっている。

子どもの年齢【子どもと同居している人のみ】複数回答可

図表 2-49 子どもの年齢【子どもと同居している人のみ】複数回答可



- 同居者に「子ども」がいる人は9人で、同居している子どもの年齢は「0歳」が2人、「1～2歳」が2人、「3～6歳」が3人、「7歳以上」が3人となっている。

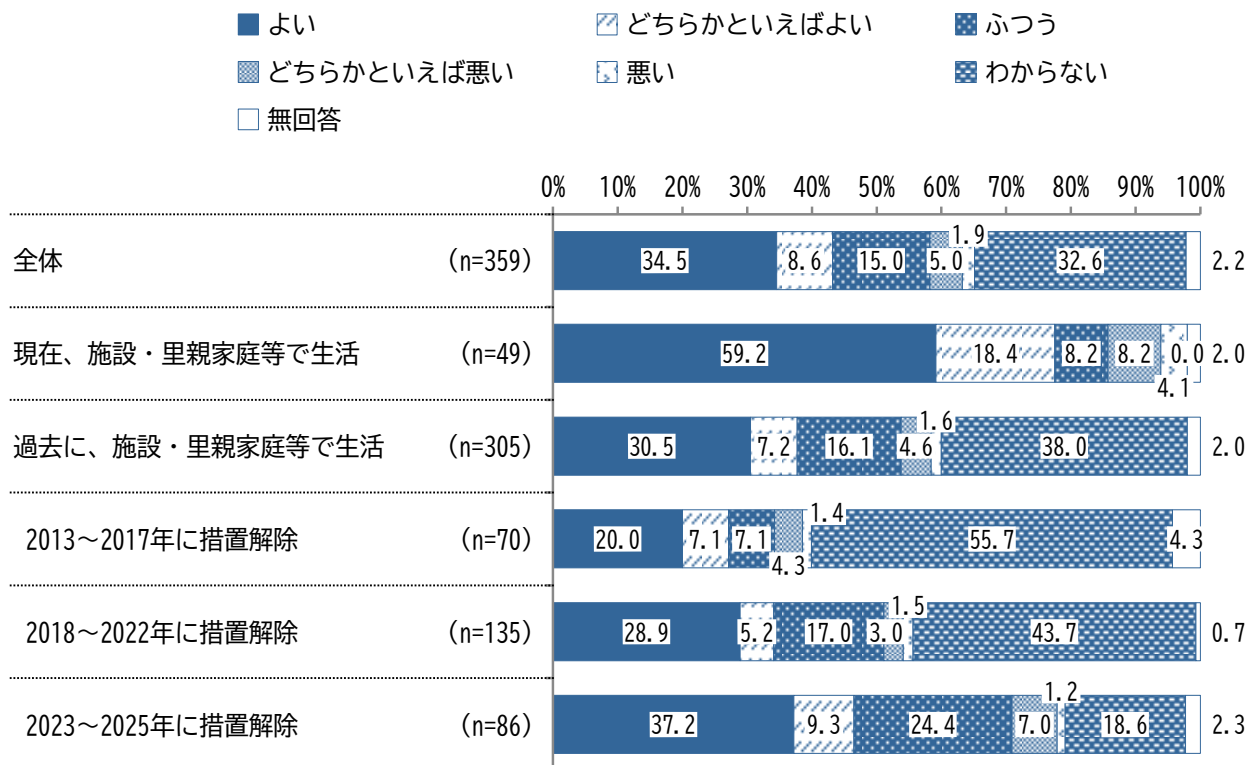
8. 対象者の健康、健康保険や年金の状況

問 21 健康状態

現在の住まいの状況・措置解除年(3段階)別 健康状態

全体では「よい」「どちらかといえばよい」で 43.1%に

図表 2-50 現在の住まいの状況・措置解除年(3段階)別 健康状態



- ▶ 全体では、「よい」が 34.5%で最も多く、次いで「ふつう」が 15.0%となっている。
- ▶ 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「よい」が 59.2%で最も多く、次いで「どちらかといえばよい」が 18.4%、「ふつう」「どちらかといえば悪い」が 8.2%となっている。
- ▶ 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「よい」が 30.5%で最も多く、次いで「ふつう」が 16.1%となっている。
- ▶ 措置解除者について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「よい」が 20.0%で最も多く、次いで「どちらかといえばよい」「ふつう」が 7.1%となっている。
- ▶ 2018～2022年に措置解除された人では「よい」が 28.9%で最も多く、次いで「ふつう」が 17.0%となっている。

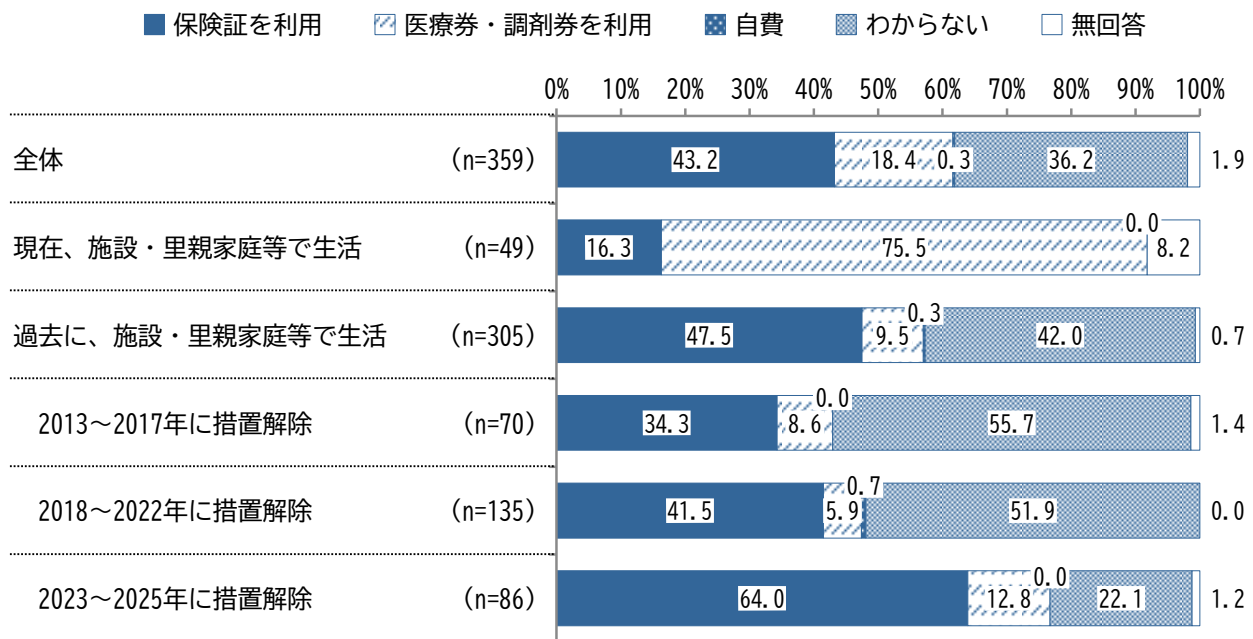
- 2023～2025年に措置解除された人では「よい」が37.2%で最も多く、次いで「ふつう」が24.4%、「わからない」が18.6%となっている。
- 措置解除年から時間が経過した対象者ほど、施設・里親家庭等が健康状態を把握していない傾向があり、特に2018～2022年に措置解除された人では「わからない」が43.7%、2013～2017年に措置解除された人では55.7%であった。

問 22 保険証の所持状況

現在の住まいの状況・措置解除年(3段階)別 保険証の所持状況

現在、施設や里親家庭等で生活している人では 75.5%が「医療券・調剤券を利用」
過去に、施設や里親家庭等で生活していた人では「保険証を利用」が 47.5%で最多

図表 2-51 現在の住まいの状況・措置解除年(3段階)別 保険証の所持状況



- 全体では、「保険証を利用」が 43.2%、「医療券・調剤券を利用」18.4%、「自費」が 0.3%となっている。
- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「医療券・調剤券を利用」が 75.5%、「保険証を利用」が 16.3%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「保険証を利用」が 47.5%、「医療券・調剤券を利用」が 9.5%となっている。
- 措置解除者について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「保険証を利用」が 34.3%、「医療券・調剤券を利用」が 8.6%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「保険証を利用」が 41.5%、「医療券・調剤券を利用」が 5.9%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「保険証を利用」が 64.0%、「医療券・調剤券を利用」が 12.8%となっている。

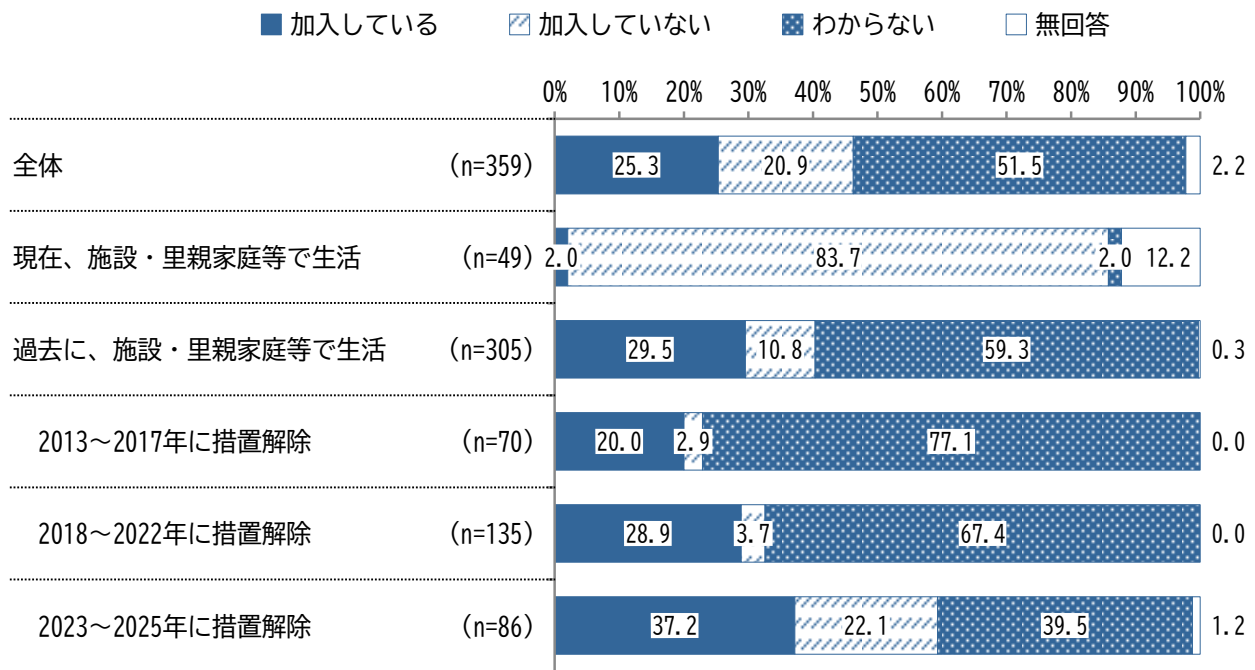
- 措置解除年から時間が経過した対象者ほど、施設・里親家庭等が保険証の所持状況を把握していない傾向があり、特に 2018～2022 年に措置解除された人では「わからない」が 51.9%、2013～2017 年に措置解除された人では 55.7%であった。

問 23 年金加入状況

現在の住まいの状況・措置解除年(3段階)別 年金加入状況

「わからない」が 51.5%で最多、次いで「加入している」が 25.3%と続く

図表 2-52 現在の住まいの状況・措置解除年(3段階)別 年金加入状況



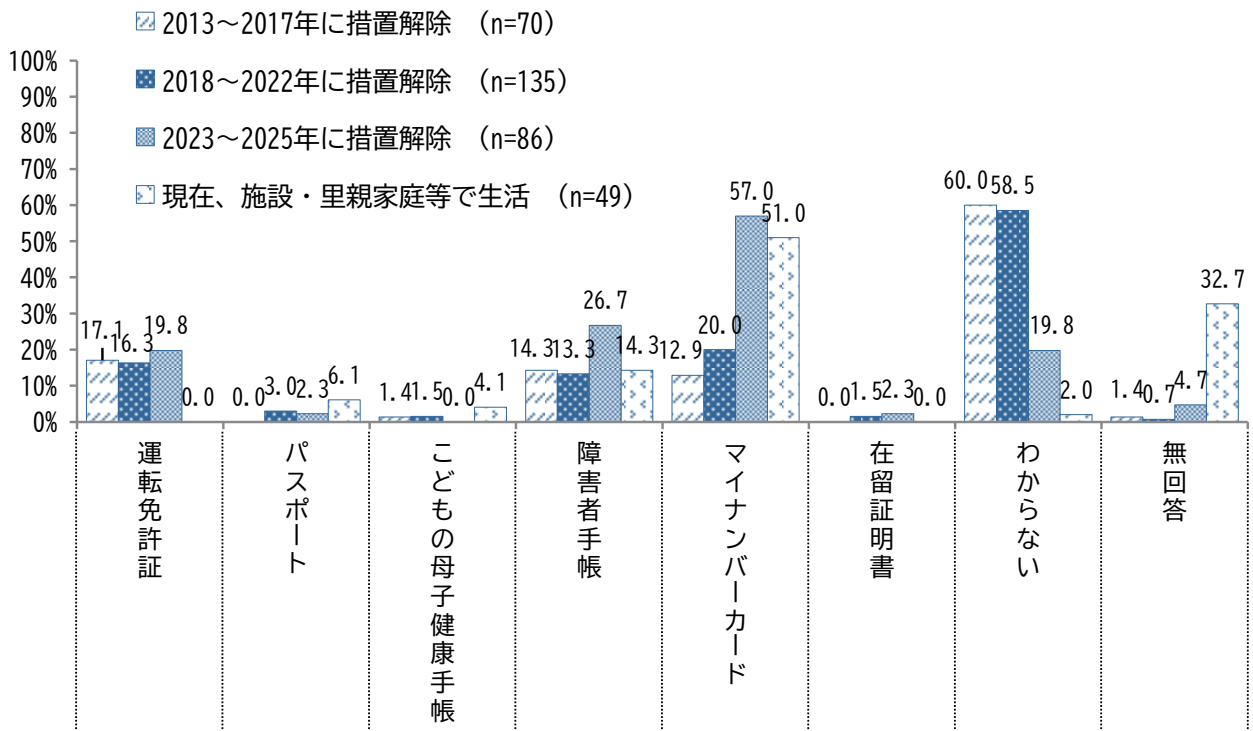
- 全体では、「わからない」が 51.5%、「加入している」が 25.3%となっている。
- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「加入していない」が 83.7%、「加入している」が 2.0%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「加入している」が 29.5%、「加入していない」が 10.8%となっている。
- 現在、施設・里親家庭等で生活している人は17歳・19歳(令和8年3月31日時点の年齢)が96.0%を占め、国民年金の加入者の年齢には達していないことに留意が必要である。
- 措置解除者について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「加入している」が 20.0%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「加入している」が 28.9%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「加入している」が 37.2%、「加入していない」が 22.1%となっている。

- 措置解除年から時間が経過した対象者ほど、施設・里親家庭等が年金の加入状況を把握していない傾向があり、特に 2018～2022 年に措置解除された人では「わからない」が 67.4%、2013～2017 年に措置解除された人では 55.7%であった。

問 24 免許証等所持状況

現在の住まいの状況・措置解除年別 免許証等所持状況 複数回答可

図表 2-53 現在の住まいの状況・措置解除年別 免許証等所持状況 複数回答可



- 措置解除者について、措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「運転免許証」が17.1%で最も多く、次いで「障害者手帳」が14.3%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「マイナンバーカード」が20.0%で最も多く、次いで「運転免許証」が16.3%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「マイナンバーカード」が57.0%で最も多く、次いで「障害者手帳」が26.7%、「運転免許証」が19.8%となっている。
- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「マイナンバーカード」が51.0%で最も多く、次いで「障害者手帳」が14.3%、「パスポート」が6.1%となっている。

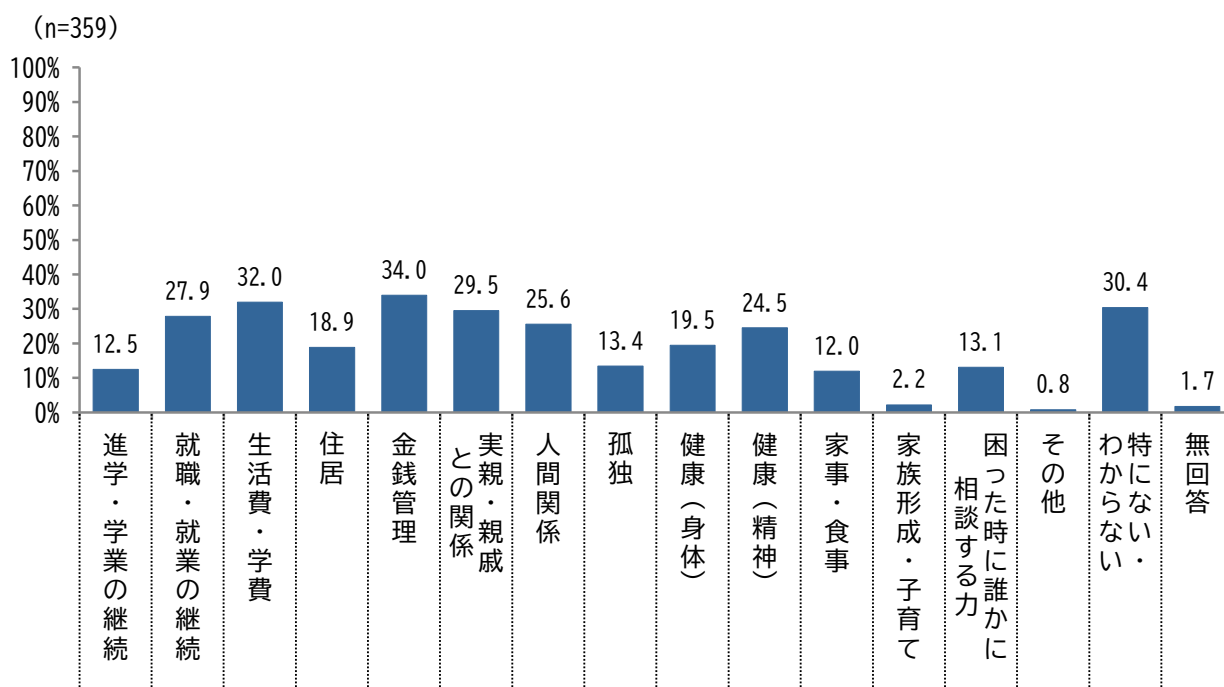
9. 現在心配される困難とアフターケア・サービスの状況

問 25 現在心配される困難

現在心配される困難 複数回答可

「金銭管理」が 34.0%で最多、次いで「生活費・学費」が 32.0%と続く

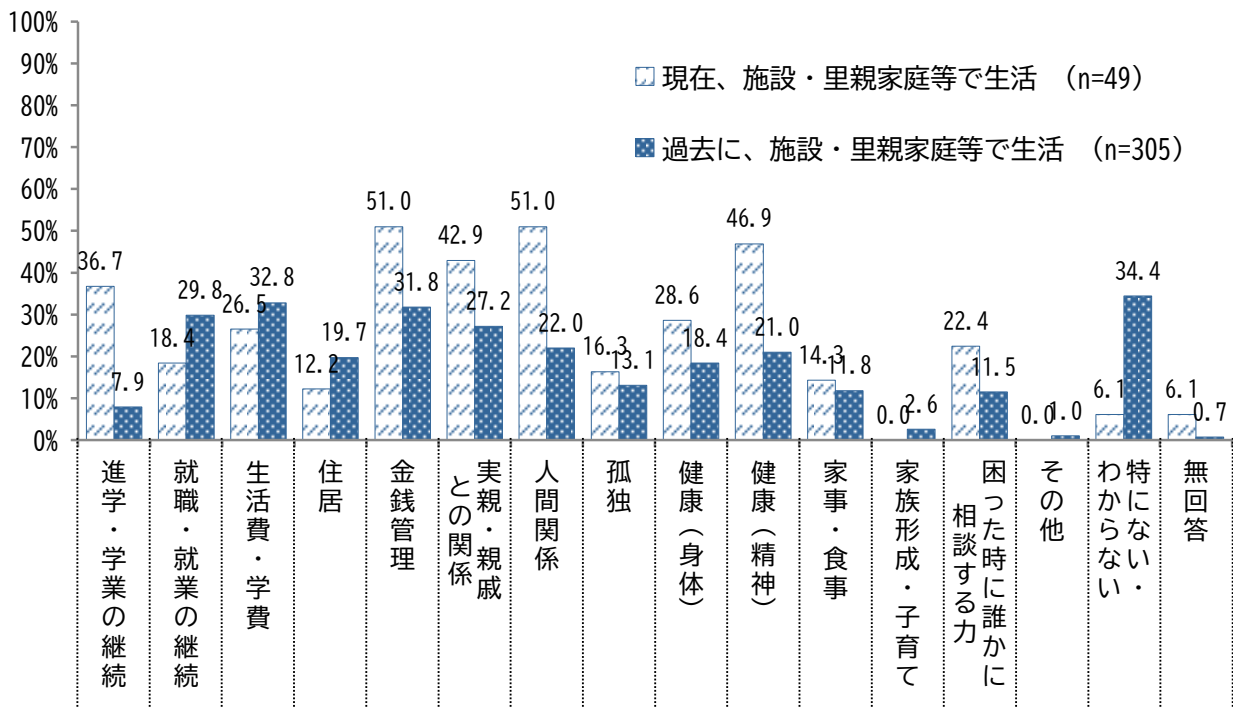
図表 2-54 現在心配される困難 複数回答可



- 全体では、「金銭管理」が 34.0%で最も多く、次いで「生活費・学費」が 32.0%、「実親・親戚との関係」が 29.5%となっている。

現在の住まいの状況別 現在心配される困難 複数回答可

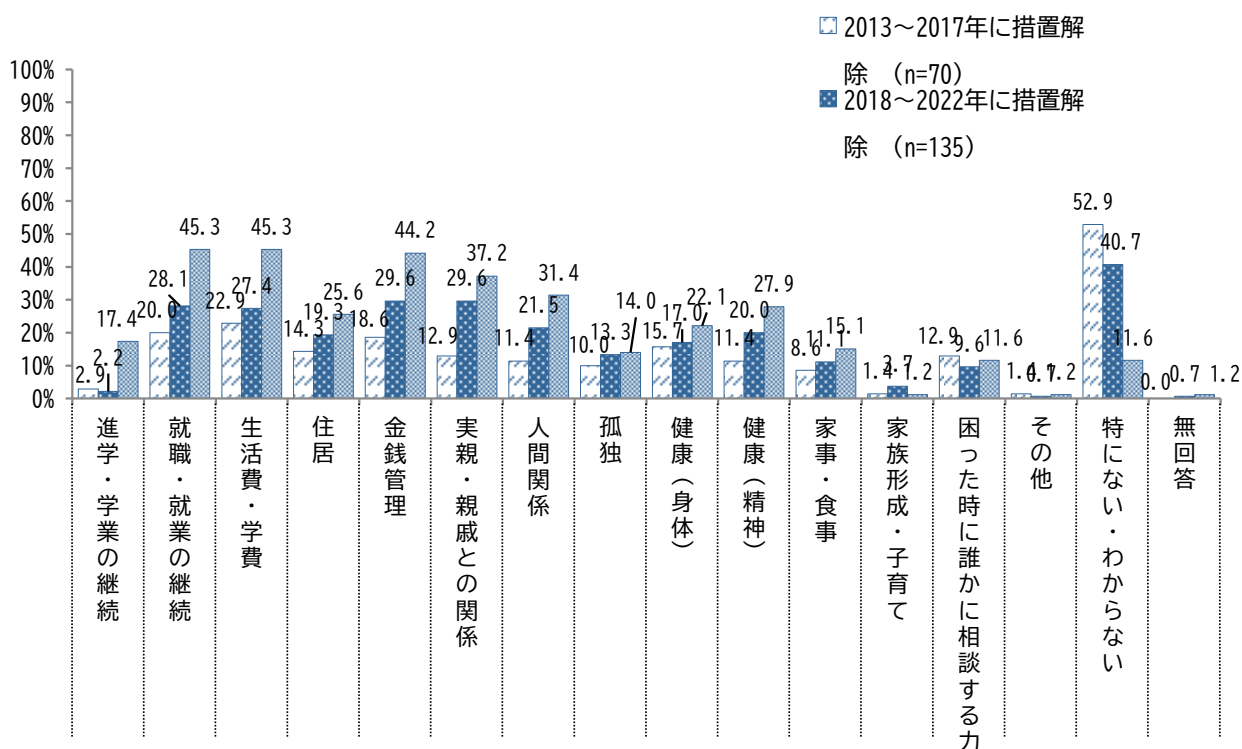
図表 2-55 現在の住まいの状況別 現在心配される困難 複数回答可



- 現在、施設・里親家庭等で生活している人では「金銭管理」「人間関係」が 51.0%で最も多く、次いで「健康(精神)」が 46.9%、「実親・親戚との関係」が 42.9%、「進学・学業の継続」が 36.7%となっている。
- 過去に、施設・里親家庭等で生活していた人では「生活費・学費」が 32.8%で最も多く、次いで「金銭管理」が 31.8%、「就職・就業の継続」が 29.8%となっている。

措置解除年(3段階)別 現在心配される困難【措置解除者のみ】複数回答可

図表 2-56 措置解除年(3段階)別 現在心配される困難【措置解除者のみ】複数回答可



- 措置解除者について、措置解除年(3段階)別にみると、2013～2017年に措置解除された人では「生活費・学費」が22.9%で最も多く、次いで「就職・就業の継続」が20.0%、「金銭管理」が18.6%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「金銭管理」「実親・親戚との関係」が29.6%で最も多く、次いで「就職・就業の継続」が28.1%、「生活費・学費」が27.4%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「就職・就業の継続」「生活費・学費」が45.3%で最も高く、次いで「金銭管理」が44.2%、「実親・親戚との関係」が37.2%となっている。
- 措置解除年から時間が経過した対象者ほど、施設・里親家庭等が現在心配する困難は少なくなる傾向にあるが、「特にない・わからない」には、施設・里親家庭等が心配する困難が特にない対象者と生活状況が不明であるため心配される困難がわからない対象者が含まれていることに留意が必要である。

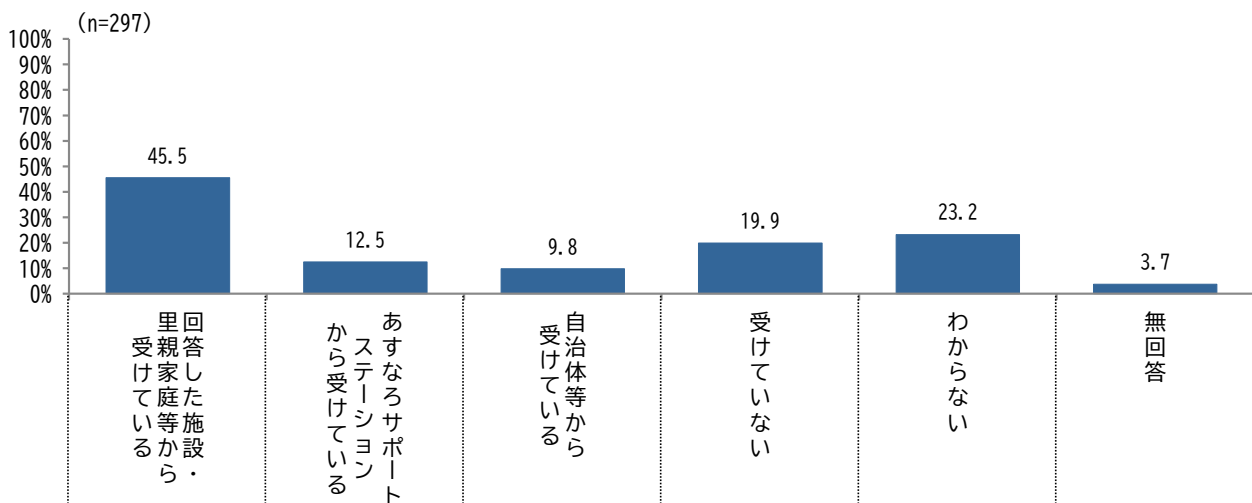
Ⅲ. 施設調査

問 26 アフターケア・サービスの状況……………

アフターケア・サービスの状況(対面・電話・SNS 等による相談支援等も含む) 複数回答可
【措置中・措置延長中・児童自立生活援助事業利用中である人、現在施設や里親家庭等で生活している人を除く】

「回答した施設・里親家庭等から受けている」が 45.5%で最多

図表 2-57 アフターケア・サービスの状況(対面・電話・SNS 等による相談支援等も含む) 複数回答可
【措置中・措置延長中・児童自立生活援助事業利用中である人、現在施設や里親家庭等で生活している人を除く】



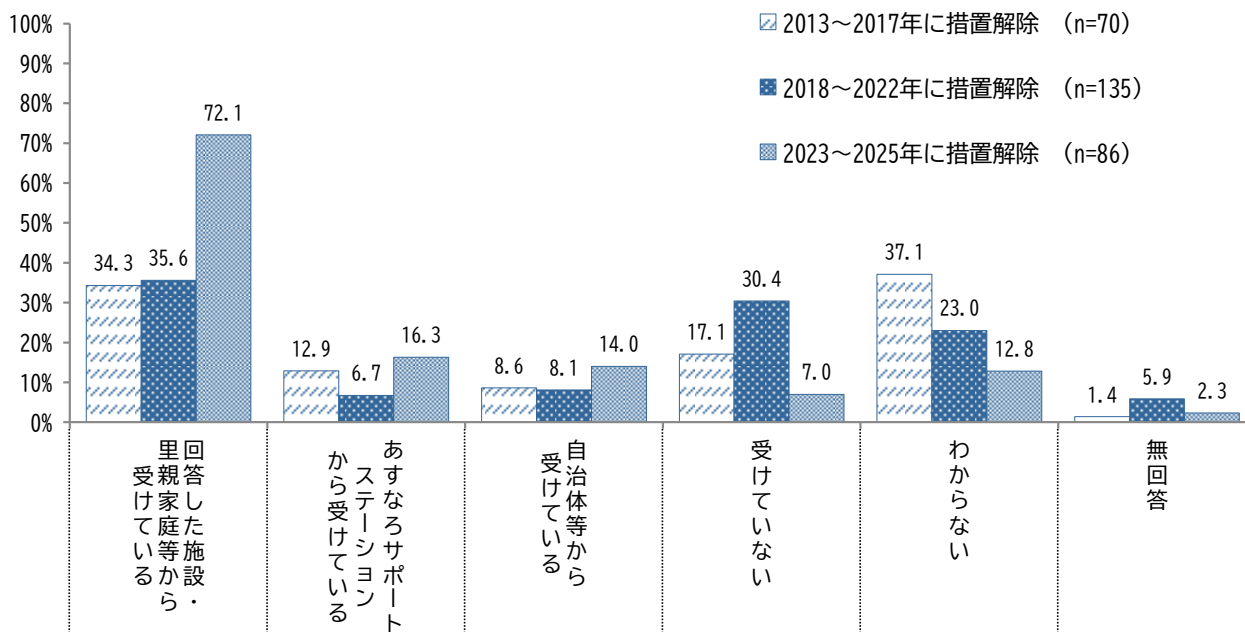
※あすなるサポートステーションについては、「回答した施設・里親家庭等」を「最後に生活していた施設」とした回答を得ている。

- 措置中・措置延長中・児童自立生活援助事業利用中である人、現在施設や里親家庭等で生活している人を除く全体では、「回答した施設・里親家庭等から受けている」が45.5%で最も多く、次いで「受けていない」が19.9%、「あすなるサポートステーションから受けている」が12.5%となっている。
- アフターケア・サービスを受けているかどうかを施設・里親家庭等が把握しておらず、「わからない」と回答された対象者は23.2%となっている。

措置解除年(3段階)別 アフターケア・サービスの状況(対面・電話・SNS等による相談支援等も含む)
【措置解除者のみ】複数回答可

図表 2-58 措置解除年(3段階)別

アフターケア・サービスの状況(対面・電話・SNS等による相談支援等も含む)【措置解除者のみ】複数回答可



※あすなろサポートステーションについては、「回答した施設・里親家庭等」を「最後に生活していた施設」とした回答を得ている。

- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「回答した施設・里親家庭等から受けている」が34.3%で最も多く、次いで「受けていない」が17.1%、「あすなろサポートステーションから受けている」が12.9%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「回答した施設・里親家庭等から受けている」が35.6%で最も多く、次いで「受けていない」が30.4%、「自治体等から受けている」が8.1%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「回答した施設・里親家庭等から受けている」が72.1%で最も多く、次いで「あすなろサポートステーションから受けている」が16.3%、「自治体等から受けている」が14.0%となっている。

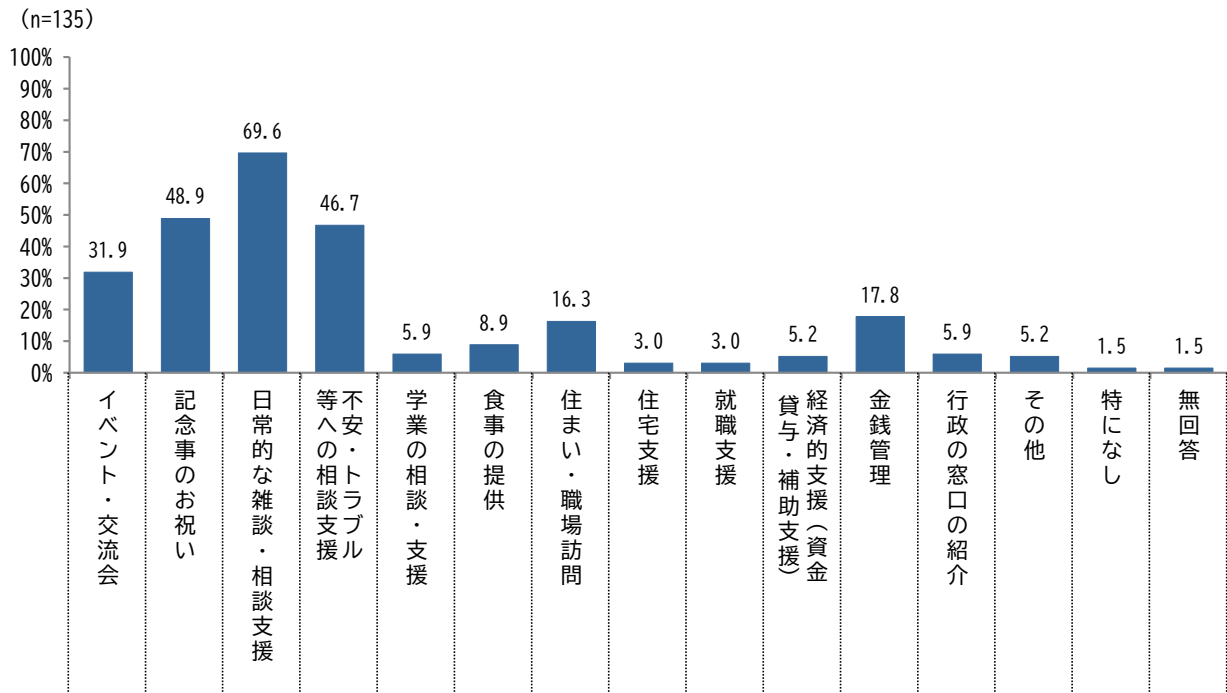
Ⅲ. 施設調査

回答した施設・里親家庭等が提供しているケア・サービス

【回答した施設・里親家庭等から受けている人のみ】複数回答可

「日常的な雑談・相談支援」が 69.6%で最多、次いで「記念事のお祝い」が 48.9%と続く

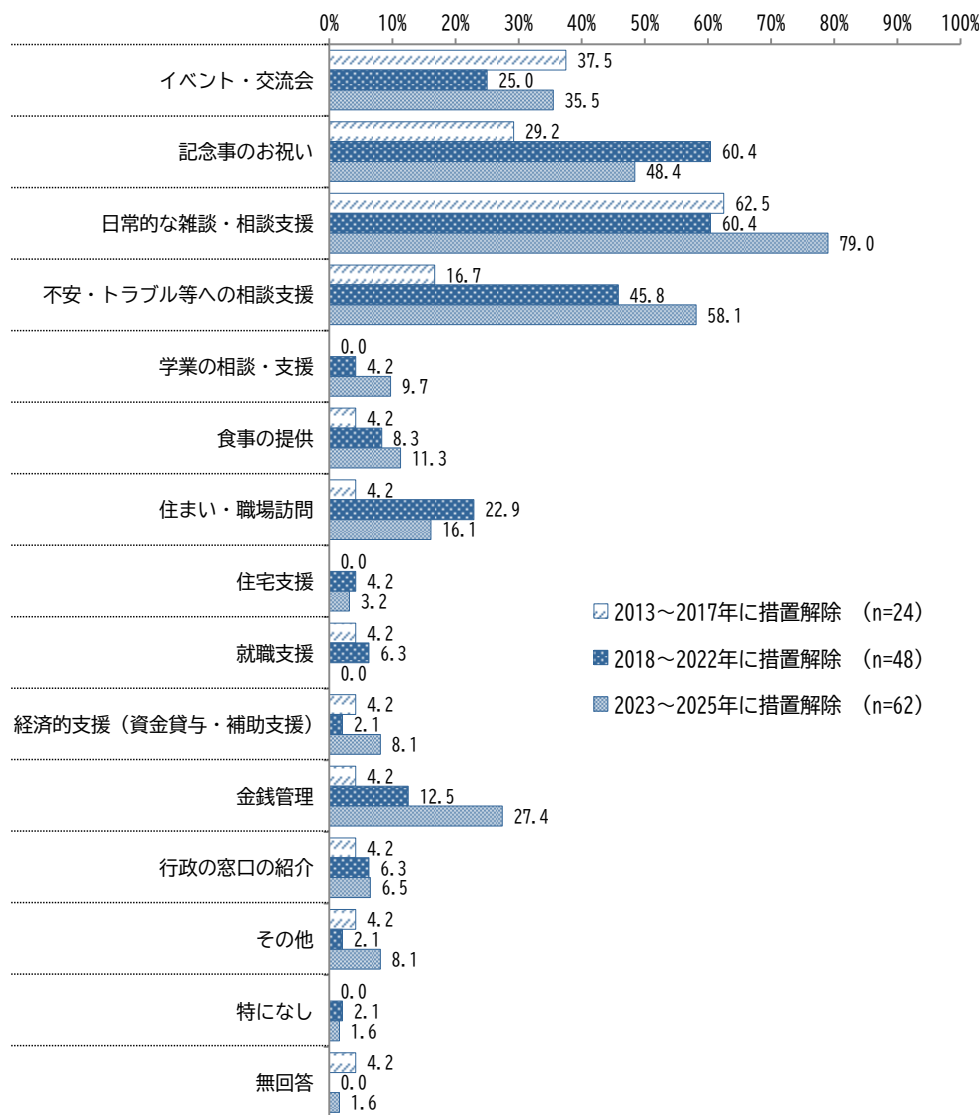
図表 2-59 回答した施設・里親家庭等が提供しているケア・サービス
【回答した施設・里親家庭等から受けている人のみ】複数回答可



- 回答した施設・里親家庭等がアフターケア・サービスを提供している対象者全体では、「日常的な雑談・相談支援」が 69.6%で最も多く、次いで「記念事のお祝い」が 48.9%、「不安・トラブル等への相談支援」が 46.7%となっている。

措置解除年(3段階)別 回答した施設・里親家庭等が提供しているケア・サービス
 【回答した施設・里親家庭等から受けている人のみ】複数回答可

図表 2-60 措置解除年(3段階)別 回答した施設・里親家庭等が提供しているケア・サービス
 【回答した施設・里親家庭等から受けている人のみ】複数回答可



- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「日常的な雑談・相談支援」が62.5%で最も多く、次いで「イベント・交流会」が37.5%、「記念事のお祝い」が29.2%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「記念事のお祝い」「日常的な雑談・相談支援」が60.4%で最も多く、次いで「不安・トラブル等への相談支援」が45.8%、「イベント・交流会」が25.0%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「日常的な雑談・相談支援」が79.0%で最も多く、次いで「不安・トラブル等への相談支援」が58.1%、「記念事のお祝い」が48.4%となっている。

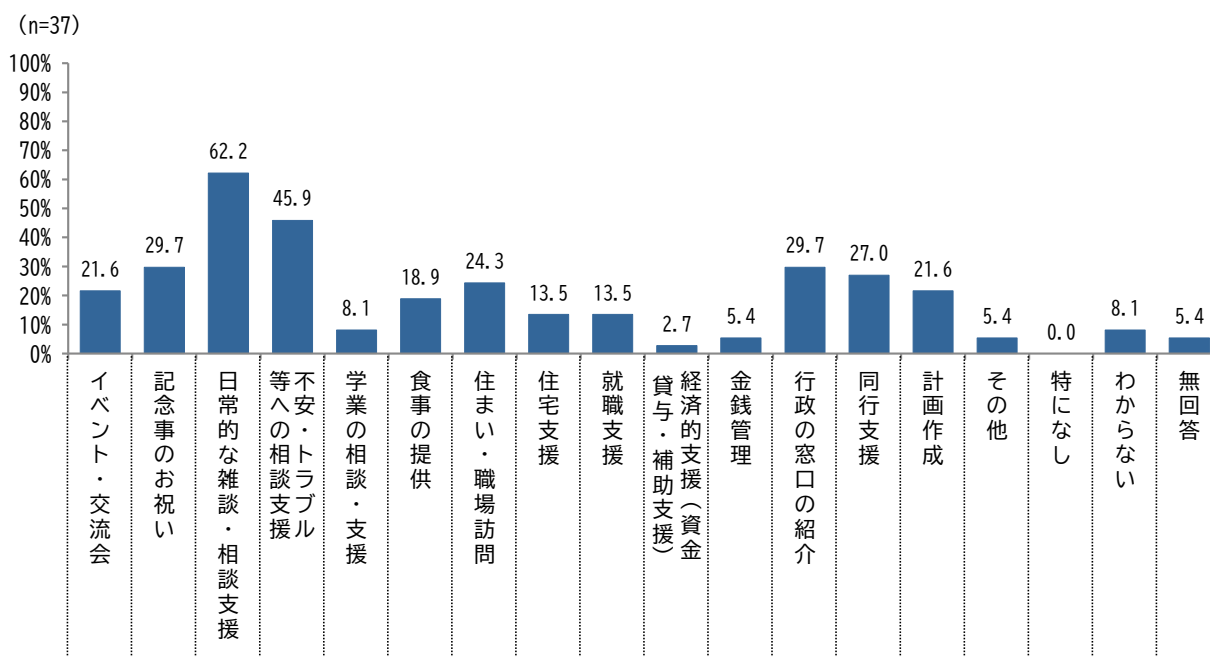
Ⅲ. 施設調査

- 2013～2017年に措置解除された人に、施設・里親家庭等が提供しているケア・サービス提供状況は、「日常的な雑談・相談支援」「イベント・交流会」「記念事のお祝い」「不安・トラブル等への相談支援」以外のケア・サービスで低調である一方、2018～2022年に措置解除された人では「住まい・職場見学」が、2023～2025年に措置解除された人では「金銭管理」を提供されている人が比較的多くなっている。

あすなろサポートステーションが提供しているケア・サービス
 【あすなろサポートステーションから受けている人のみ】複数回答可

「日常的な雑談・相談支援」が 62.2%で最多、
 次いで「不安・トラブル等への相談支援」が 45.9%と続く

図表 2-61 あすなろサポートステーションが提供しているケア・サービス
 【あすなろサポートステーションから受けている人のみ】複数回答可

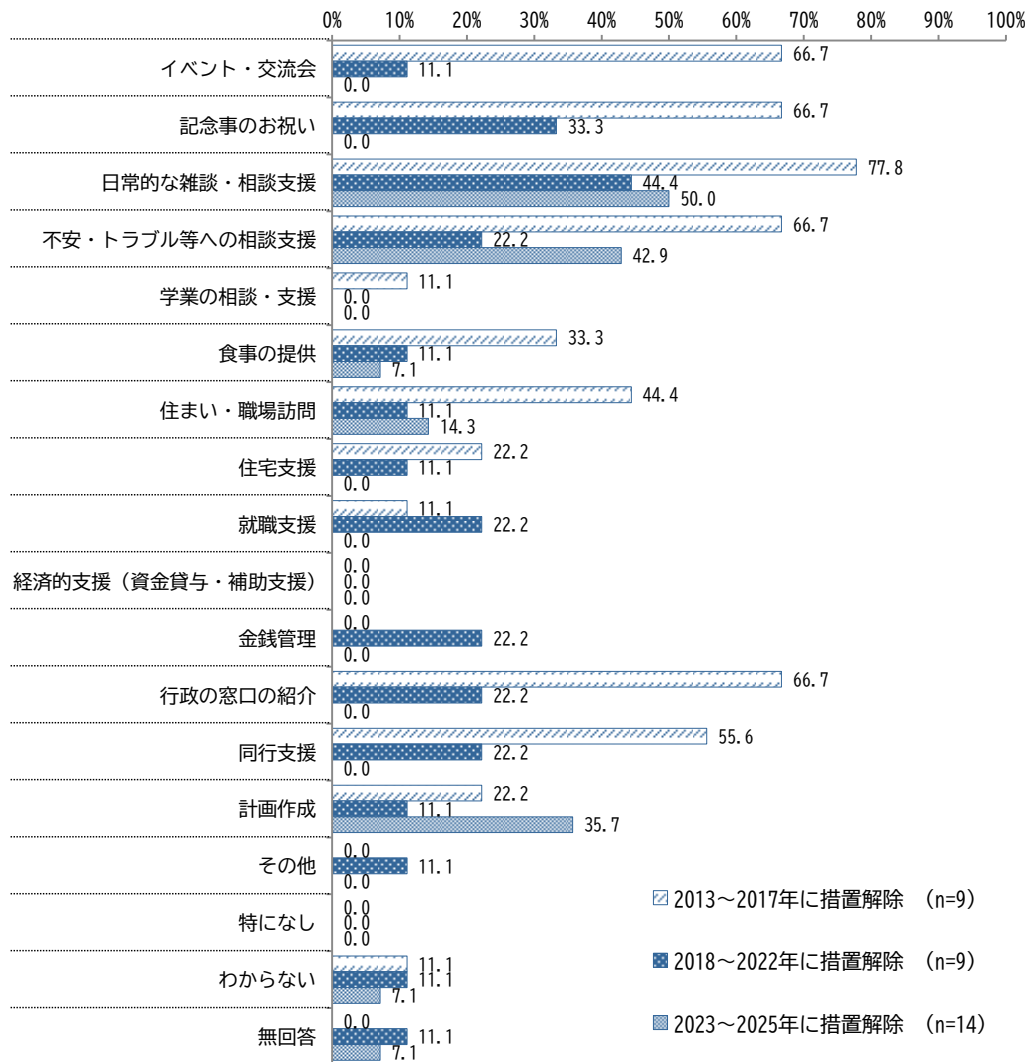


- あすなろサポートステーションがアフターケア・サービスを提供している対象者全体では、「日常的な雑談・相談支援」が 62.2%で最も多く、次いで「不安・トラブル等への相談支援」が 45.9%、「記念事のお祝い」「行政の窓口の紹介」が 29.7%となっている。

Ⅲ. 施設調査

措置解除年(3段階)別 あすなろサポートステーションが提供しているケア・サービス
 【あすなろサポートステーションから受けている人のみ】複数回答可

図表 2-62 あすなろサポートステーションが提供しているケア・サービス
 【あすなろサポートステーションから受けている人のみ】複数回答可

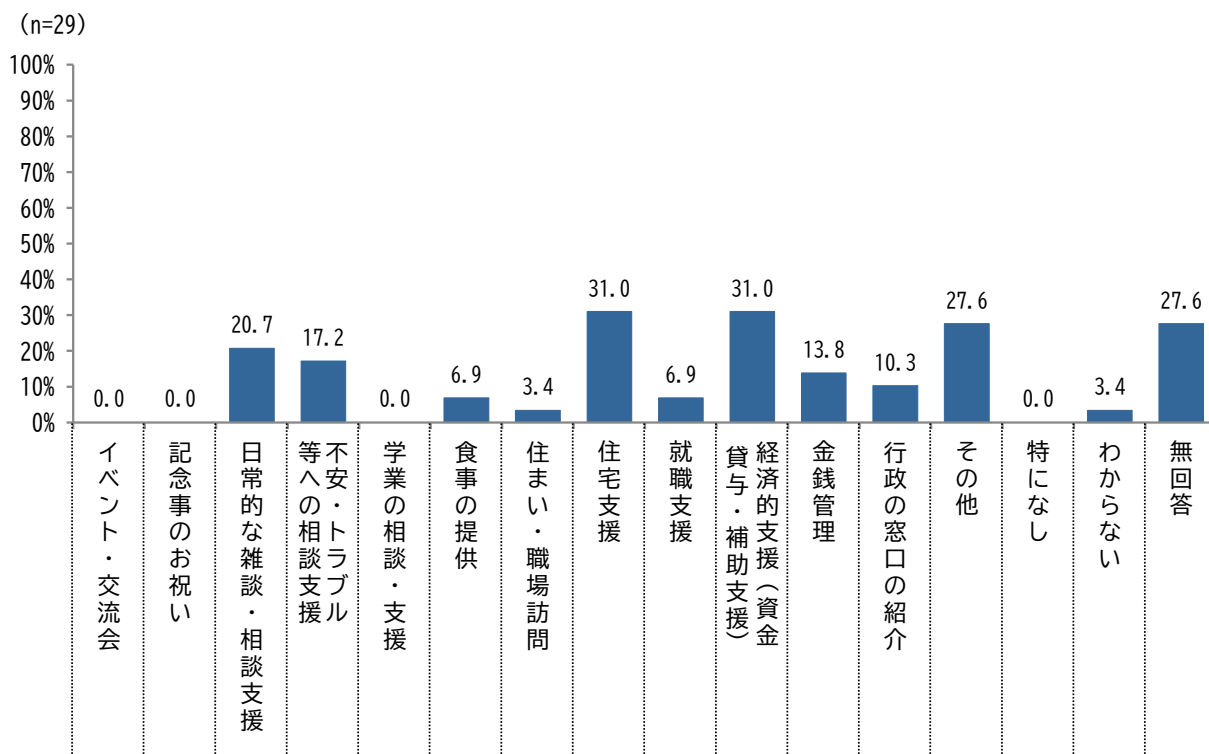


- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「日常的な雑談・相談支援」が77.8%で最も多く、次いで「イベント・交流会」「記念事のお祝い」「不安・トラブル等への相談支援」「行政の窓口の紹介」が66.7%、「同行支援」が55.6%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「日常的な雑談・相談支援」が44.4%で最も多く、次いで「記念事のお祝い」が33.3%、「不安・トラブル等への相談支援」「就職支援」「金銭管理」「行政の窓口の紹介」「同行支援」が22.2%となっている。
- 2023～2025年に措置解除された人では「日常的な雑談・相談支援」が50.0%で最も多く、次いで「不安・トラブル等への相談支援」が42.9%、「計画作成」が35.7%となっている。

自治体等が提供しているケア・サービス【自治体等から受けている人のみ】（複数回答可）

「住宅支援」「経済的支援(資金貸与・補助支援)」が 31.0%で最多、
次いで「日常的な雑談・相談支援」が 20.7%と続く

図表 2-63 自治体等が提供しているケア・サービス
【自治体等から受けている人のみ】 複数回答可

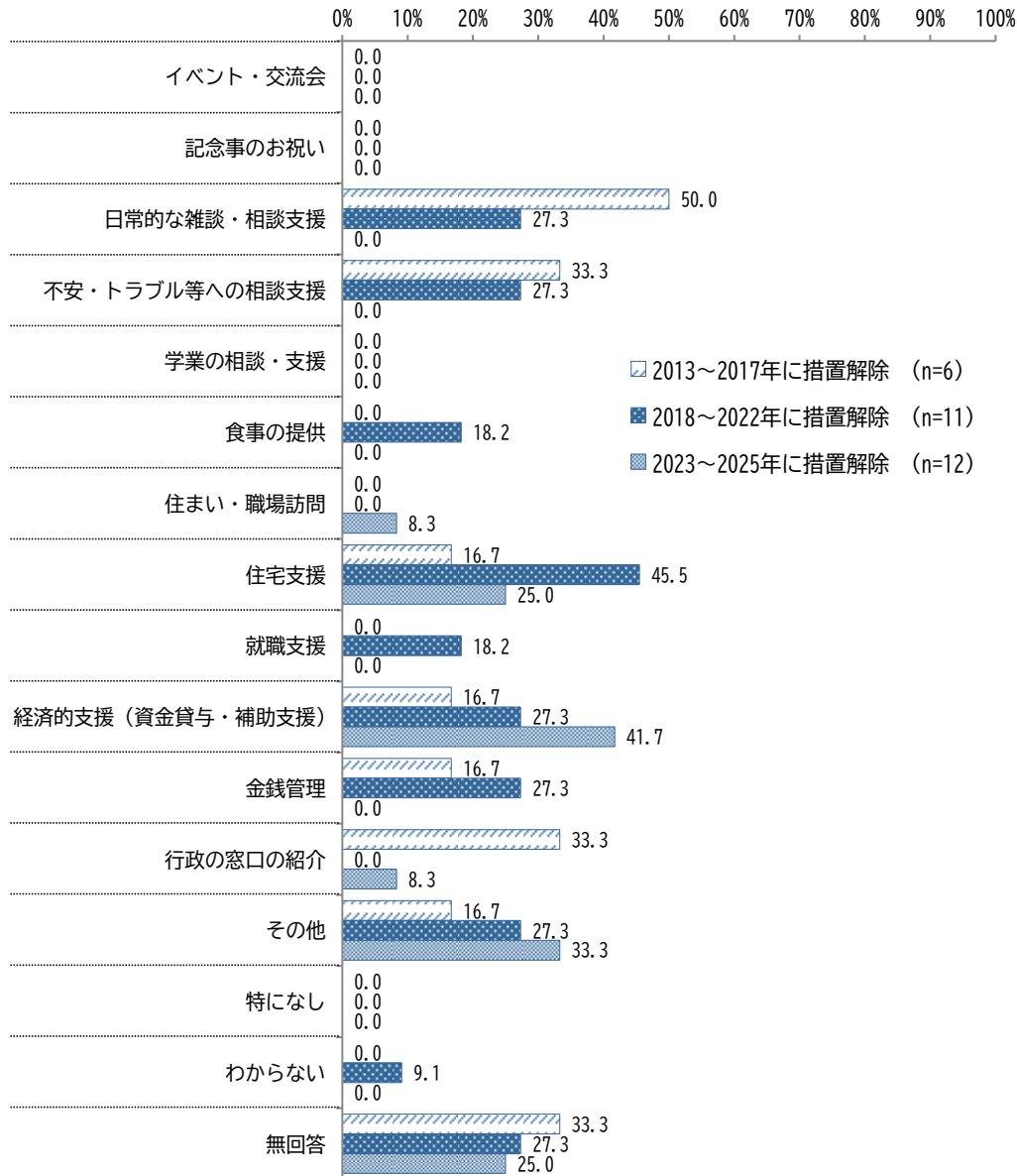


- 自治体等がアフターケア・サービスを提供している対象者全体では、「住宅支援」「経済的支援(資金貸与・補助支援)」が 31.0%で最も多く、次いで「日常的な雑談・相談支援」が 20.7%、「不安・トラブル等への相談支援」が 17.2%となっている。

Ⅲ. 施設調査

措置解除年(3段階)別 自治体等が提供しているケア・サービス
 【自治体等から受けている人のみ】複数回答可

図表 2-64 措置解除年(3段階)別 自治体等が提供しているケア・サービス
 【自治体等から受けている人のみ】複数回答可



- 措置解除年(3段階)で見ると、2013～2017年に措置解除された人では「日常的な雑談・相談支援」が50.0%で最も多く、次いで「不安・トラブル等への相談支援」「行政の窓口の紹介」が33.3%、「住宅支援」「経済的支援(資金貸与・補助支援)」「金銭管理」が16.7%となっている。
- 2018～2022年に措置解除された人では「住宅支援」が45.5%で最も多く、次いで「日常的な雑談・相談支援」「不安・トラブル等への相談支援」「経済的支援(資金貸与・補助支援)」「金銭管理」が27.3%、「食事の提供」「就職支援」が18.2%となっている。

- 2023～2025 年に措置解除された人では「経済的支援(資金貸与・補助支援)」が 41.7%で最も多く、次いで「住宅支援」が 25.0%、「住まい・職場訪問」「行政の窓口の紹介」が 8.3%となっている。

V. インタビュー調査

調査概要

実施期間

- 2026年1月21日～2026年2月3日

調査項目

A. 現在の生活について

- ①住まい
- ②家計
- ③就労・就学
- ④健康状態
- ⑤里親・施設とのつながり
- ⑥困っていること
- ⑦受けているサポート
- ⑧サポートしてほしいこと

B. 社会的養護経験の振り返り

- ①今の自分・生活に役立っていると思うこと
- ②今の自分・生活から、もっと経験しておきたかったと思うこと

C. 関係機関へのメッセージ

対象者

- 本人調査のアンケートの回答において、インタビュー調査への協力が可能と回答した者。

回答者の属性

- インタビュー調査回答者の年齢と人数は以下の通りとなっている。

	全体	19歳	21歳	23歳	25歳	27歳
人数	7	1	1	2	1	2

調査手法

- オンライン面接にて実施した。時間は最大 1 時間 30 分とした。

調査倫理

- インタビュー依頼のメールで、調査項目を事前に案内した。
- インタビュー開始前には、調査目的、調査項目、データの利用範囲について説明した。説明後口頭で同意を得てから、オンラインフォームにて記録が残る形で同意を確認した。
- インタビュー中、カメラはオフでよいこととした。また、答えにくい、答えたくないことは話す必要がないこととした。
- 同意の撤回期間を 2026 年 2 月 6 日(金)までと設定した。同意の撤回については、インタビューの前後で計 2 回案内した。
- インタビューの最後に、相談窓口を案内した。

1. 分析結果【現在の生活について】

現在の生活について、7名への語りを通して見えた共通の経験や、反対に個別の意見を、調査項目別に分析した。

①住まい

インタビューに回答した7人のうち、現在民間賃貸住宅に住んでいる人が6人となった。しかし、退所後の住まいの様子は一様ではなく、進学・就職・家族関係などの状況に応じて多様な生活形態が形成されていることが分かった。

まず、7人全員が退所をきっかけに一人暮らしを始めていた。例えば、「大学が遠かったので大学の近くで一人暮らしをしています」という発言や、「大学に通うために引っ越して一人暮らしをしています」という発言があった。進学をきっかけに、退所に合わせて、施設から離れた大学・短大の近隣に転居している様子がわかる。

一方で、家族と同居して生活しているケースも見られた。高校卒業後すぐ就職し、会社の寮で暮らしていたものの、「仕事を辞めてから実家に戻って、家族と一緒に住んでいます」という語りもあり、就労状況の変化が住まいの形態に影響を与えていることが読み取れる。また、7人の中でも年長の人では、「パートナーと一緒に暮らしています」、「夫と子どもと生活しています」と語る人もおり、結婚やパートナー関係を通して新しい家庭を形成しているケースも確認された。

7人のインタビューからは、退所後の住まいは、親の家に帰る人もいるものの基本的に一人暮らしで、その後ライフステージの変化とともに、家族との同居、パートナーとの生活など家庭形成に向かっていくことがわかった。特に進学や就職といった移行期において住居の変化が起こりやすい。

退所後の住まいは一定の自立を支える基盤である一方で、制度や条件、経済状況、住宅設備、通学距離など多くの要因に左右されている。住まいは単に生活する場所というだけでなく、通学、家計、健康、生活リズムなど日常生活のさまざまな側面に影響を及ぼす重要な要素であることがうかがえる。施設生活との違いも大きく、施設では生活空間や食事、入浴などが共同で提供されていたが、退所後はそれらをすべて個人で管理する必要がある。例えば、「洗濯機を回す時間がちょっと気を使う」という語りがあった。しかし、退所後慣れない生活の中であるため、金銭的にも余裕がなく、より良い住環境へと転居できる人は少ないと考えられる。

②家計の収支

インタビューに回答した7人の家計状況についての語りを見ると、収入源や生活費の構成は個人によって大きく異なるものの、特に進学者においては生活費と学業の両立が大きな課題となっている。

まず学生時代は、アルバイト収入と奨学金等の支援制度を組み合わせながら生活しているケースが多い。児童自立生活援助事業を利用している人では、生活費の管理について「口座を2つに分けているんですけど、自分が自由に使える方と施設管理の方があって」という事情があり、支援制度の中で資金管理が行わ

れている状況を説明している。その中でも生活費の変化について「大学の授業が終わるにつれて、だんだんとバイトに入れるようになった」と述べ、修学にかけられる時間とアルバイト時間・生活費がトレードオフの関係になっていることが分かる。

退所直後の生活は必ずしも安定しているわけではない。生活開始当初を振り返り、「最初半年間ぐらいは生活がやっぱり苦しくて、大学に行くことだけで結構精一杯」と語る。また「夜までバイトしちゃうと、次の日の一限に間に合わない」と述べる人がいるように、全般として、学業とアルバイトの両立が難しい状況がある。進学した回答者のうち多くが、同時に2か所以上でアルバイトをしていた。

一方で、就労後については、生活費の安定度は比較的高い傾向が見られる。就職して3年目の人は、退所後家族と同居する中で学費等を負担してもらえたこともあり、現在の生活について「収入も全然問題ないです」と語り、「家のことで何か困ってたりとかいうことはない」と述べている。この語りからは、安定した収入がある場合には生活基盤が比較的安定していることがうかがえる。

また、就労環境によって住居費が抑えられているケースもある。「去年までは東京の方の寮に住んでました」と語っており、企業の寮制度などが生活費の負担を軽減している可能性がある。

このように、対象者の家計状況は主に以下の3つのパターンに整理できる。第一に、進学者でありアルバイトと支援制度で生活費を賄うタイプ、第二に就労によって生活費を自立的に賄うタイプ、第三に家族やパートナーとの同居などによって生活費の負担が分散されるタイプである。

特に学生の場合、退所直後の生活ではアルバイト収入が安定しないことから生活が不安定になりやすく、支援制度の役割が大きいことが確認された。現在修学中の人では、施設出身者向けの奨学金や、学生支援機構の奨学金などを複数活用している様子が見受けられる。「企業の奨学金をもらっています」、「給付型の奨学金を受けています」といった発言があるように、奨学金が進学と生活を維持する上で大きな役割を果たしていることが分かる。一方で、支援制度の存在や対象範囲は十分に周知されていない部分もあり、困っていた人もいた。

いろいろな制度を利用しても、経済的な余裕があるとは限らない。「残高が1万円を切ったことがあります」という発言は、学生生活の中で経済的に厳しい状況を経験していることを示している。また、「友達は旅行のためにお金を貯めているけれど、自分は学費のために貯めていると思うとモヤモヤしました」という語りからは、周囲の学生との経済状況の違いを意識する場面があることもうかがえる。

これらの発言から、退所後の経済状況は進学か就職かによって大きく異なることが分かる。特に進学期においては、奨学金制度が重要な役割を果たす一方で、生活費や将来の返済への不安などが存在する可能性も考えられる。

③仕事・学校

仕事や学校については、施設での経験が進路選択に影響している可能性が見られた。

IV. インタビュー調査

ある参加者は現在の仕事について「児童養護施設で働いています」と語っており、施設での経験を背景に同じ分野の職業を選択している。また「自分の経験を活かして働けていると思います」という発言からは、過去の経験が現在の仕事の意味づけに影響していることがうかがえる。

一方で、大学院に進学し、専門的な分野で働く人もおり、「研究開発の仕事で実験をしています」という発言も見られる。また、「大学に通いながらアルバイトを掛け持ちしています」という語りからは、学業と労働を両立しながら生活を維持している様子が見て取れる。

進学している対象者の多くは、資格取得や将来の職業を見据えて学校に通っている。現在短大で教育分野を学んでおり、将来の目標について「小学校の先生になりたい」と述べる人は、「三年制で資格が取れる」と具体的な理由で進学を決めていた。

しかし、進学とアルバイトの両立には困難もある。「最初は保育園みたいなところでアルバイトしたかった」と述べるが、「時間が授業とかぶってしまう」ため、時間を選ばず働けるアルバイト先を最終的に選んだ人もいる。さらに、留学希望がありながらしなかった人からは「就活に活かせるバイトをみんなが始めてたりとか、留学行って学生時代に頑張ったことづくりをみんなやって」いたため、「自分もなんかやらないといけないなと思って」「インターンを半年間ぐらいやりました」という語りもあった。これらの語りからは、学業や就職など将来と関連する経験としてアルバイト先を選びたいという希望があっても、実際には生活費の確保が優先される状況があることが分かる。

一方で、就労している対象者の場合、職場環境や雇用形態が生活の安定に影響している。就労経験について「去年までは東京の方の寮に住んでいました」と語られるように、企業の寮制度を利用する人がいることが分かる。しかし、退職に伴って寮を出ることになり、「今はもう実家の方にいます」と述べられるように、職業環境の変化に伴って生活形態も変化していた。

対象者の就学・就労状況には大きな個人差が見られるが、進学者の場合は学業と生活費の確保の両立が重要な課題となっている。一方で就労者の場合は職場環境や雇用形態が生活の安定度を左右する要因となっている。

④健康.....

健康状態については、多くの参加者が大きな問題はないと語っていた。

しかし、感染症などで体調を崩したときに困ったという語りが見受けられた。健康状態について「体調は普通」な人でも、「インフルエンザにかかってしまった時は結構大変だった」と語っている。体調不良時の対応について「同じ施設の子に来てもらったり」した人もいたが、「年末年始にインフルエンザにかかったんです。その時に、頼る人がいないくてすごいつらかったな」という語りもあり、時期によっては、体調が悪い中施設に頼れないだけでなく、友人にも頼れない状況が発生することが分かる。また、この語りからは、一人暮らしの場合、体調不良時に頼れる人の存在が生活の安心感に大きく影響することが示唆される。

一方で、急に大きな病気にかかる、生活が一転する様子も浮かがる。「入院費がすごく高くて、保険に入っておけばよかったと思いました」という発言からは、医療費の負担や制度理解の不足が生活に影響を与える可能性が示唆される。健康問題そのものだけでなく、医療制度や保険制度に関する知識が自立生活において重要であることが分かる。

また、健康問題として、具体的な病気ではなくとも、生活の中での疲労やストレスについては別の文脈で語られることもあった。

⑤施設とのつながり

インタビュー回答者は全員、退所後も施設との関係が続いていた。施設を訪問したり、職員と会っている人では、「LINE は何かある度に割としていて、会っている頻度は月一は絶対に行ったり来たりはしてますね。」「3ヶ月に1回ぐらいはご飯に連れてってもらってるかなって思います」や、さらに「長期休みとかで施設に戻ることがあって、美味しいご飯もいただいたりできるんで助かってますね。帰れたりとか泊まったりできて、安心できる場所があって、自分は良かったなと思ってます」などの施設を頼りにする語りがあ

一方で、施設から離れたところに住んでいたり、退所後時間が経過している場合でも、メールやLINE等でやりとりをしている例がよく見受けられた。「誕生日にメッセージを送ってくれます」「分からないことがあったら聞けば教えてくれると思えるのは安心感があります」という語りからは、施設職員との関係が心理的な支えとなっていることがうかがえる。

退所後の施設とのつながりは、連絡の頻度や意味づけにおいて大きな個人差が見られる。施設職員との連絡を継続し生活の相談先として利用している場合もあれば、心理的なつながりとして緩やかに関係を保っている場合、またはほとんど支援を必要としないと語る場合もある。「正直、僕はサポートいらな

⑥困っていること

生活上の困難として、制度面や心理的な課題が挙げられた。「保証人がいないと引っ越しの時に大変です」「付き合っている人と同居するので、その人の親がなってくれたから大丈夫なんですけど」という発言からは、施設出身者にとって保証人制度が住居確保の障壁となる実情が示されている。

また、「一人暮らしだと一人を感じる場合があります」という語りからは、集団生活をしてきた施設から一人暮らしの自立生活に移る中で孤独感を感じる場面があることがうかがえる。

さらに、日常の具体的な困りごととして、食事や家事、趣味など個別的な語りも見られた。

一方で、現在の生活において大きな困難を感じていないとする語りも見られた。「困ることはないですね」「この世代の人間だったら起こることが起きている感じ」という語りからは、施設経験による特別な困難というよりも、一般的な若年成人と同様の生活課題として現在の生活を捉えている様子がうかがえる。

IV. インタビュー調査

⑦受けているサポート

現在受けているサポートとしては、施設職員との継続的な関係による支援、制度的支援、心理的支援など、いくつかの形態が語られていた。特に、退所後も施設との関係が継続していることが、生活の相談や精神的な支えとして機能している様子が見られた。

まず、施設職員との継続的な関係による支援として、連絡や面会を通じた関わりが語られている。例えば、「2週間に1回か、1ヶ月に1回のペースで」が見られた。また、連絡手段について「主にラインか電話ですわね」という語りがあった。退所後も定期的に施設職員と連絡を取り、アフターケアとしての関係を続けていることがうかがえる。

制度的支援については、「2型は大きくて、お金的に支援されている部分はすごくある」と語られた。この語りは、児童自立生活援助事業Ⅱ型などの制度的支援が生活の基盤として機能していることを示している。

就労移行支援を利用していた語りも見られた。仕事を退職した後に就労移行支援を利用して、再度長く働ける職場を探している人から、「前に使ったことがあって、家族が知ってて」支援につながる事ができたという経験が見受けられた。

一方で、現在の生活において特に支援を必要とせず、受けたこともないという語りも見られた。「サポートはいらないですね」「収入も全然問題ないですわ」のように、生活基盤が比較的安定している場合には、施設や支援機関からのサポートが必ずしも必要とされない場合もあることが示されている。

⑧サポートしてほしいこと

退所後に求めているサポートとしては、金銭的支援だけでなく、生活相談や精神的支援など、多様な支援ニーズが語られていた。退所後に必要とされるサポートについては、必ずしも一様ではなく、生活状況やライフステージによって大きく異なることが語られる。

制度的支援よりも将来の進路に関する機会を求める語りも見られた。「施設向けの奨学金があんまり豊富でなかった」という語りがあり、特に留学などの機会において、施設出身者向けの支援が少ないと感じていることが示されていた。また、「留学の奨学金が増えてほしい」という語りからは、教育機会の拡大に関する期待がうかがえる。

また、現在受けているわけではないが、学生時代に「お金がなくて、その時に大学の先生にいろいろ案内してもらって、市役所で無料で野菜を配っているのをもらったり」など、公的な支援を受けた経験が語られた。「逆に自分の施設だと弱いところを見せられないというか、助けを求めづらい」部分があるため、施設出身者に限らない支援が届く必要性も示唆された。

また、子育てをしながら週5日働いている回答者からは、「もう少し子どもが預けられるようなところが欲しい」という語りが見られた。また、「子どもの習い事とかいろいろやらせてあげたい」「子どもの娯楽に

使うお金がもっとあればいい」といった語りからは、生活の最低限は維持できているものの、子どもの経験や余暇活動に使える金銭的な余裕はない状況が語られていた。

自身のことではなく、施設出身者全体に対する支援の必要性として、「施設の子って基本的に後ろ盾がない」「お金で自分を守る方法っていうのは知っとかなきゃいけない」とも語られており、現在施設で暮らしている人への支援として、退所後の生活を支える金銭的な知識や準備の重要性を指摘する声もあった。

2. 分析結果【社会的養護の経験の振り返り】

①今の自分の役に立っていること・ポジティブな経験……………

施設での生活経験が現在の生活にどのように役立っているかについては、生活スキルや人間関係の捉え方など、多様な側面から語られていた。

まず、生活力や自立の力に関して、「自分で考える力っていうのは助けられた」という語りがあり、施設生活の中で身につけた生活力が現在の生活にも活かされていることが示されていた。「料理とかもそうだし」という語りからも、日常生活の学びが退所後の生活に役立っていることがうかがえる。

また、人との関わり方に関する経験も挙げられていた。「集団生活が長かった分、妥協できる部分が多くなった」という語りがあり、多様な人と生活する経験が、現在の人間関係の形成に影響していることが示されている。「いい距離感で関われるようになった」という語りからも、対人関係の調整能力が身についたと認識されている様子が見える。

進学や将来の目標に影響した経験についても語られていた。「小学校の先生を目指したいって思ったところも関係してる」という語りがあり、施設での経験が将来の進路選択に影響した可能性が示されている。

また、施設生活を通じて社会の現実を早く理解したという語りも見られた。「施設の子って基本的に後ろ盾がない」という語りがあり、「16、17 からちゃんと勉強していかなきゃいけない」と語られていた。この語りからは、早い段階で自立を意識する経験が、現在の生活態度に影響している可能性がうかがえる。

ポジティブな経験としては、施設生活の中で支えられた経験についても語られていた。「親身に真夜中まで話したりとか」という語りがあり、施設職員との関係が心理的支えとなっていたことが示されている。「クリスマスプレゼントを、靴下とかもらえて。それが嬉しくて」という語りからは、職員との日常的なかかわりが、今を支える経験として生きていることがわかる。

このように、施設生活での経験は、生活力、人間関係、社会理解など多様な側面で現在の生活に影響を与えていることが語られていた。特に、役に立ったこととしては、集団生活や生活訓練の経験が、自立した生活を送るうえでの基盤となっていることがうかがえる。

②今の自分から見てもっと経験しておきたかったこと・ネガティブな経験……………

施設生活を振り返る中では、役立った経験が語られる一方で、退所後の生活を見据えた準備が十分ではなかったと感じる語りも見られた。

まず、社会生活に関する知識の不足について語られていた。「もうちょっと社会のルールを教えてほしかった」「市役所何往復したかな」という語りがあり、退所後に直面する生活の具体的な手続きや制度について十分に学ぶ機会がなかったと感じている様子が見える。また、「お金の使い方を施設職員もしらないから、自分がいたときに破産した人もいて」など、退所前の知識不足が重大化した例も語られた。

また、施設外との関わりに関する経験の不足についても語られていた。「他の施設との関わりがもうちょっと欲しかった」という語りが見られ、施設内の生活だけでなく、他施設や外部との交流の機会が限られていたと感じている様子が示されている。さらに、「他の施設の方がもっと厳しいよって言われてて、それを見てみたかった」とも語られており、他の環境と比較する機会が少なかったことが語られていた。施設の生活について、宗教系の施設の出身者からは、「礼拝があったんですけど、行かなくちゃいけない」「そういうのは、全員行かなきゃっていうのは違うと思う」という疑問も呈された。

教育や経験の機会に関する語りも見られた。例えば、進学や将来に関する経験について、「施設向けの奨学金があんまり豊富でなかった」「子どもたちって、そういう制度を知らない」という語りがあり、教育機会において支援の選択肢と情報が少ないと感じていたことが示されていた。同様に、進路選択に関する支援についての提言もあった。「中3ぐらいには進路を全部決めてないといけない」「中3の時点で適性に合わせて決められるような支援ができるといい」とも語られており、進路選択の段階での支援や情報提供の必要性が指摘されていた。

一方で、現在の生活において特に不足している経験を感じていないという語りも見られた。「特にはないですね」という語りがあり、施設生活の経験に対して大きな不満は感じていない様子がうかがえる。また、「困ることはないですね」という語りも見られ、現在の生活において施設経験が大きな不利として感じられていない場合もあることが示されていた。

このように語りから、施設生活の中での生活訓練は一定程度行われていたものの、退所後に必要となる社会制度や生活手続きに関する具体的な知識については、十分ではなかったと感じる場合があることが示唆される。インタビューに回答した人は総じて、自身がつまづきに直面した経験から、これらのあったらよかった知識や経験を語っていた。

3. 分析結果【関係機関へのメッセージ】

関係機関へのメッセージとしては、施設職員や行政に対する期待や要望が語られていた。特に、退所後の生活を見据えた支援や理解の必要性が指摘されている。

まず、施設職員の姿勢に関する語りとして、「子どもに言うからには自分も頑張っしてほしい」「施設を出たからもう支援しなくていいっていうのは違う」という語りが見られ、退所後も継続的な支援が必要であるという認識が示されていた。

さらに、支援機関に対する期待として、「頑張ってるんだなって思ってくれてるだけでもいい」という語りも見られ、支援者からの理解や共感が重要であることが語られていた。施設との関係の継続については、退所者から返信がなくても「気にかけてくれるっていうのは伝わっている」「連絡を取り続けることが一番大切なんだろうなって思う」とも語られていた。

また、制度や情報提供の重要性を指摘する語りも見られた。「奨学金制度や進学就職に関する情報をより積極的に発信してほしい」という語りがあり、支援制度の存在を知らないまま機会を逃す可能性への懸念が語られていた。また、「子どもたちはそういう制度を知らない」という語りからは、情報格差の問題も示唆されている。提案として、「親からの援助が見込めない場合、頼れるのは最後は自分だけ」「お金で自分を守る方法っていうのは知っとかなきゃいけない」という語りが見られ、施設在籍中から金融教育や生活知識を学ぶ機会の必要性が指摘されていた。

このように、関係機関へのメッセージとしては、退所後も続く支援の重要性、子どもの立場への理解、そして生活や進路に関する具体的な準備支援の必要性が語られていた。施設生活の経験は個々によって異なるが、退所後の生活を見据えた支援の充実が重要であることが、語りの中から示されている。

また、これまで支援してきた関係機関への感謝の語りもあった。「これまで支えて下さった神奈川県の関係機関の方、施設の方とか支えて下さった方には本当に感謝しています」「家庭環境に恵まれなかった自分が、今なんとか大学に通えて、一人暮らしもしながら生活できているのは支援があったっていうのが一番大きい」とも語られており、進学や生活の継続が支援によって支えられていたことが振り返られている。

4. 全体考察

本研究では、社会的養護経験者 7 名へのインタビューを通して、退所後の生活状況、施設経験の振り返り、関係機関へのメッセージについて分析を行った。その結果、退所後の生活の実態として、生活基盤の形成、支援制度との関係、施設経験の影響など、いくつかの特徴が明らかとなった。

まず、現在の生活については、多くの対象者が住まいや収入を確保しながら生活を送っているものの、生活の安定度には主にライフコースの段階によって個人差が見られた。大学進学をしている対象者では、学業とアルバイトを両立しながら生活費を確保している場合がある一方で、学費や生活費の負担によって経済的に厳しい状況を経験することも語られていた。また、高等教育機関の卒業後、就労によって生活基盤が比較的安定しており、退所後の生活状況は一様ではないことが示された。

また、退所後の生活においては、施設や関係機関とのつながりが重要な役割を果たしていることが明らかとなった。施設職員や支援機関との継続的な関係は心理的な支えとなっている一方で、支援制度の内容がわかりにくい場合や、金銭面に偏った支援への違和感も見られた。これらの語りから、退所後の生活においては金銭的支援だけでなく、相談関係や精神的支援の重要性が示唆されている。

施設生活の経験については、集団生活を通して身につけた対人関係の調整力や生活スキルが、現在の生活に役立っていると認識されていた。一方で、退所後の生活を振り返る中では、社会生活に関する具体的な知識や制度理解が十分ではなかったと感じる語りも見られ、行政手続きや生活インフラに関する知識の不足が指摘されていた。また、施設外との交流機会の不足など、施設生活の経験に関する課題も語られていた。

さらに、関係機関へのメッセージでは、これまでの支援への感謝とともに、今後の支援のあり方についての提案が示されていた。特に、奨学金制度や進学・就労に関する情報提供の重要性、退所後も継続して関係を持てる支援体制の必要性が指摘されていた。

以上の結果から、社会的養護経験者の退所後の生活は個人差が大きいものの、経済的支援に加えて、相談関係の継続や制度情報の提供、社会生活に関する実践的な知識の習得など、多面的な支援が重要であることが示唆された。また、施設生活で培われた生活力が現在の生活に活かされている一方で、退所後の生活を見据えた社会生活教育の充実も重要な課題であると考えられる。

付録 本人調査・施設調査の比較

1. 退所時の不安・心配ごとの比較

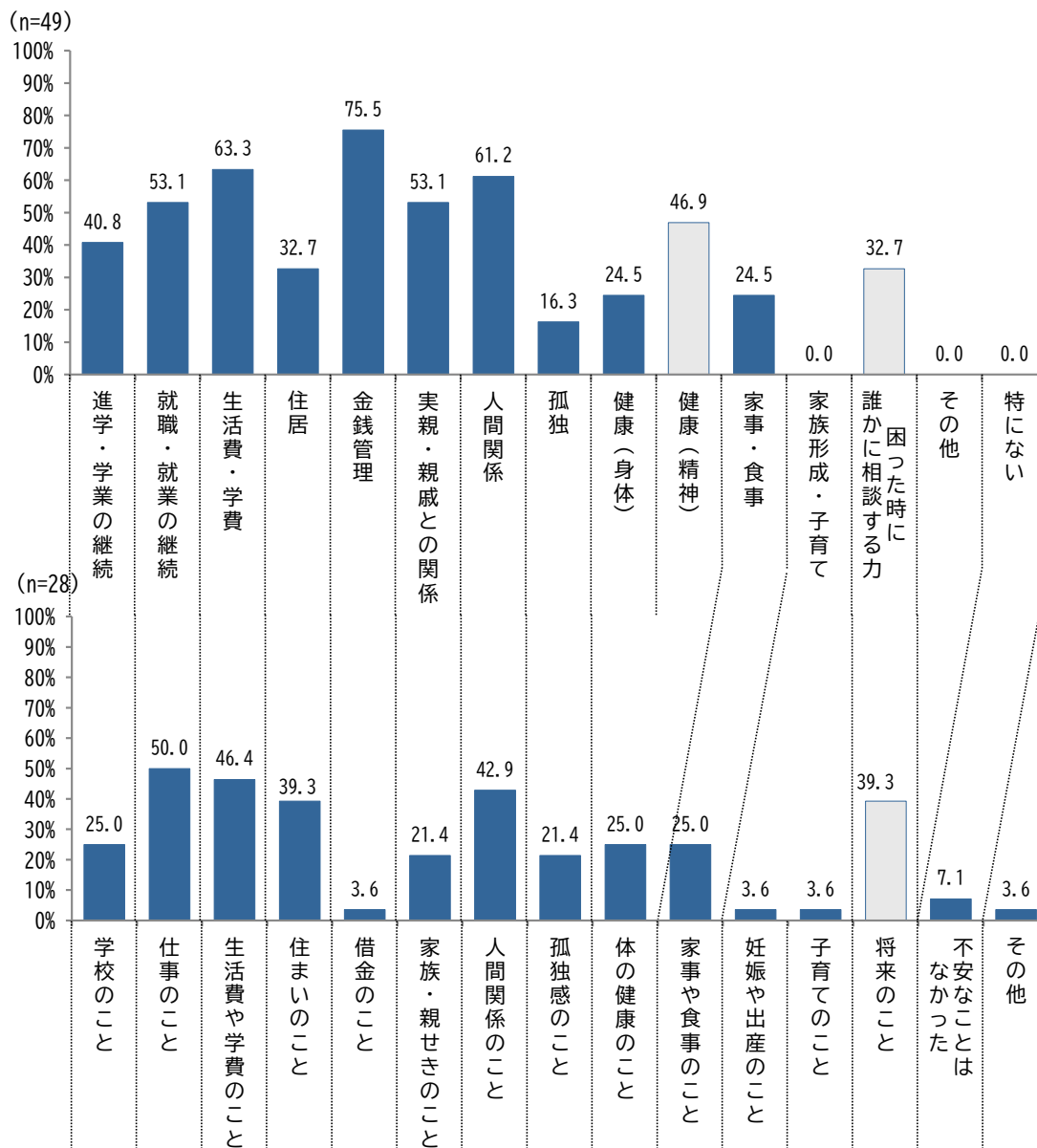
退所時の不安・心配ごと〈施設調査:問 16-1〉×〈本人調査:問 21-1(問 19-1)〉……………

退所時の不安・心配ごと【現在、施設や里親家庭で生活している人のみ】

上段:〈施設調査〉措置解除時に心配される困難 複数回答可

下段:〈本人調査〉退所にあたり不安なこと 複数回答可

図表 3-1 退所時の不安・心配ごと【現在、施設や里親家庭で生活している人のみ】



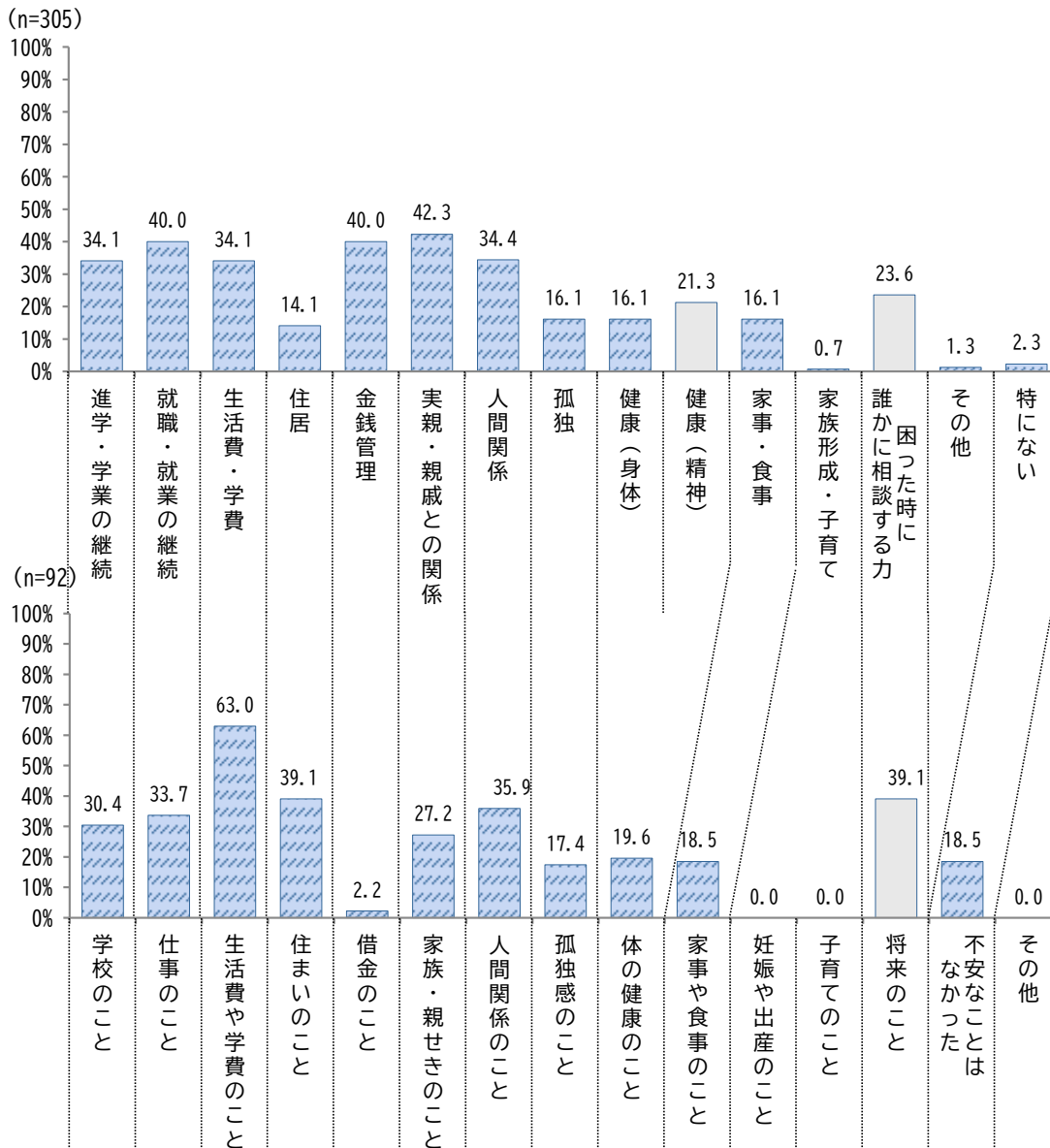
- 上段のグラフは施設調査で施設職員等が回答した、現在、施設や里親家庭で生活している人の退所時に心配している困難を、下段のグラフは本人調査で現在、施設や里親家庭で生活している対象者本人が回答した、退所にあたり不安なことの回答を表している。
- 現在、施設や里親家庭で生活している人について、施設の回答では「金銭管理」の選択率が 75.5%と最も高く、次に「生活費・学費」が 63.3%、「人間関係」が 61.2%、「就職・就業の継続」「実親・親戚との関係」が 53.1%と続く。
- 現在、施設や里親家庭で生活している対象者本人の回答では、「仕事のこと」の選択率が 50.0%と最も高く、次に「生活費や学費のこと」が 46.4%、「人間関係のこと」が 42.9%、「住まいのこと」「将来のこと」が 39.3%と続く。
- 施設調査の「金銭管理」については、直接に本人調査の「借金のこと」と同義ではないが、施設調査「生活費・学費」本人調査「生活費や学費のこと」と併せて見ると、金銭的なことに関して、施設職員等が心配している対象者が多いが、現在、施設や里親家庭で生活している回答者では、心配していない人も少なくない。

退所時の不安・心配ごと【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】

上段：〈施設調査〉措置解除時に心配された困難 複数回答可

下段：〈本人調査〉退所前後で不安だったこと 複数回答可

図表 3-2 退所時の不安・心配ごと【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】



- 上段のグラフは施設調査で施設職員が回答した、過去に、施設や里親家庭で生活していた人について措置解除時に心配された困難を、下段のグラフは本人調査で、過去に、施設や里親家庭で生活していた対象者本人が回答した、退所前後で不安だったことの回答を表している。
- 過去に、施設や里親家庭で生活していた人について、施設の回答では「実親・親戚との関係」が42.3%と最も多く、「就職・就業の継続」「金銭管理」が40.0%、「人間関係」が34.4%、「進学・学業の継続」「生活費・学費」が34.1%と続く。

- 過去に、施設や里親家庭で生活していた対象者本人の回答では、「生活費や学費のこと」が 63.0%と最も多く、「将来のこと」「住まいのこと」が 39.1%、「人間関係のこと」が 35.9%、「仕事のこと」が 33.7%と続く。
- 施設調査で選択率が 40%と比較的高い「金銭管理」は、直接に本人調査「借金のこと」と同義ではないが、本人調査では「生活費や学費のこと」が 63.0%と不安なこととして最も選択されているように、施設職員等・対象者本人共に、退所前後で金銭面の不安が大きかったことがわかる。
- 施設調査で選択率が 42.3%と最も高い「実親・親戚との関係」に対して、本人調査「実親・親せきとの関係」は 27.2%であり、対象者本人の不安ごととしては上位に挙がっていない。

2. 現在の心配ごととの比較

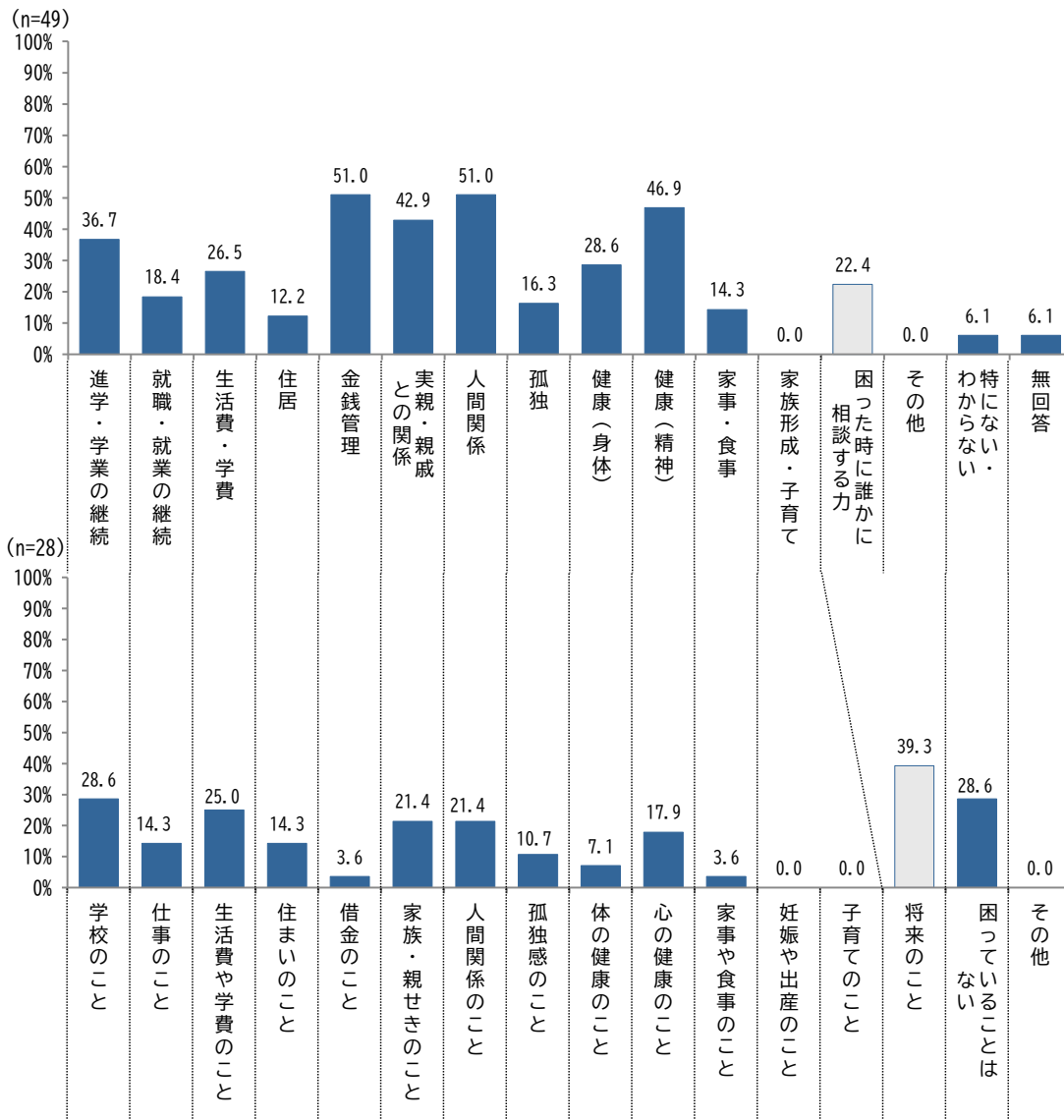
現在の心配ごと〈施設調査:問 25-1〉×〈本人調査:問 30-1(問 27-1)〉……………

現在の心配ごと【現在、施設や里親家庭で生活している人のみ】

上段:〈施設調査〉現在心配される困難 複数回答可

下段:〈本人調査〉現在の暮らしの中で困っていることや心配なこと 複数回答可

図表 3-3 現在の心配ごと【現在、施設や里親家庭で生活している人のみ】



- 上段のグラフは施設調査で施設職員等が回答した、現在、施設や里親家庭で生活している人について心配している困難を、下段のグラフは本人調査で現在、施設や里親家庭で生活している対象者本人が回答した、現在の暮らしの中で困っていることや心配なことの回答を表している。

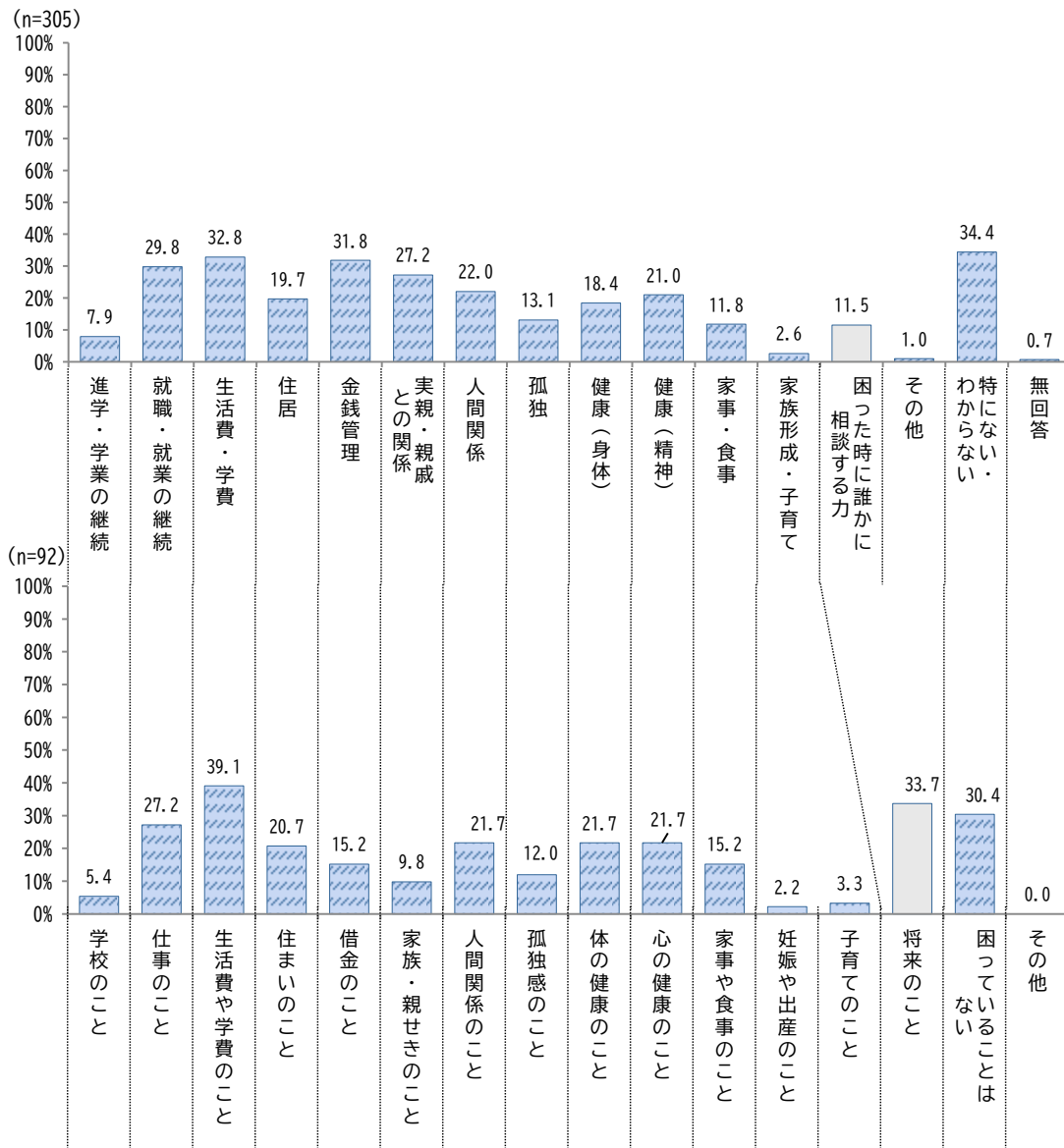
- 現在、施設や里親家庭で生活している人について、施設の回答では「金銭管理」「人間関係」が半数以上の対象者について選択されており、次に「健康(精神)」が 46.9%、「実親・親戚との関係」が 42.9%、「進学・学業の継続」が 36.7%と続く。
- 現在、施設や里親家庭で生活している対象者本人の回答では、「将来のこと」が 39.8%が最も多く、「学校のこと」が 28.6%、「生活費や学費のこと」が 25.0%と続く。
- 現在、施設や里親家庭で生活している対象者本人の回答では、施設調査と比較してそれぞれの困りごと・心配事を選択率が低く、「困っていることはない」は 28.6%に及ぶ。施設調査で対応する「特にない・わからない」の選択肢は、6.1%(1 人)の対象者についてのみ選択されていることから、施設職員等はほとんどの対象者について、現在心配ごとがあることが分かる。
- 現在、施設や里親家庭で生活している対象者本人の回答では、具体的な困りごと・心配ごとの選択肢よりも、施設調査の選択肢と対応のない「将来のこと」が 39.3%で選択率が高くなっている。

現在の心配ごと【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】

上段：〈施設調査〉現在心配される困難 複数回答可

下段：〈本人調査〉現在の暮らしの中で困っていることや心配なこと 複数回答可

図表 3-4 〈施設調査〉現在心配される困難【過去に、施設や里親家庭で生活していた人のみ】



➤ 上段のグラフは施設調査で施設職員が回答した、過去に、施設や里親家庭で生活していた人について現在心配している困難を、下段のグラフは本人調査で過去に、施設や里親家庭で生活していた対象者本人が回答した、現在の暮らしの中で困っていることや心配なことの回答を表している。

➤ 過去に、施設や里親家庭で生活していた人について、施設の回答では「特にならない・わからない」が34.4%と最も多く、「生活費・学費」が32.8%、「金銭管理」が31.8%、「就職・就業の継続」が29.8%と続く。

- 過去に、施設や里親家庭で生活していた対象者本人の回答では、「生活費や学費のこと」が 39.1%と最も多く、「将来のこと」が 33.7%、「困っていることはない」が 30.4%と続く。
- 施設等と対象者本人の回答に大きな乖離はないが、「実親・親戚との関係」は施設等が 27.2%の対象者について選択している一方、対象者本人の回答では 9.8%に留まっている。